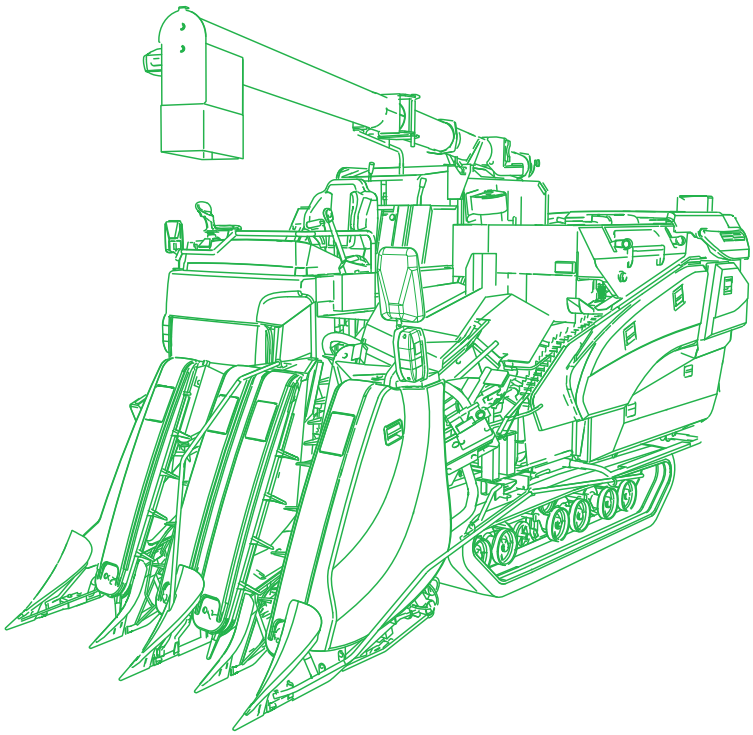
コンバイン

取扱説明書

V450A



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

このたびはコンバインをお買いあげいただき誠にありがとうございます。

●はじめに

この取扱説明書は，機械の正しい取扱いかたと簡単なお手入れのしかた，また，守っていただきたい安全に関する事項について説明しています。

ご使用まえにこの取扱説明書をよくお読みいただき安全で快適な作業をしてください。

・お読みになった後も身近な所に保管し，いつでも読めるようにしてください。（保管場所は６ページ参照）
・また，この機械を貸与または譲渡される場合は，この取扱説明書を機械といっしょにお渡しください。

・本書では，安全上重要な事項を⚠で示し，次のように表示しています。必ず守ってください。

⚠危険	その警告に従わなかった場合は，死亡または重傷を負うことになるものを示します。
⚠警告	その警告に従わなかった場合は，死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠注意	その警告に従わなかった場合は，ケガを負うおそれのあるものを示します。

・なお，この機械の品質・性能向上あるいは安全のために，使用部品を変更することがあります。その際には本書の内容およびイラストなどの一部が，機械と一致しない場合がありますのであらかじめご了承ねがいます。

●機械の使用目的について

・機械は稲・麦の収穫作業に使用してください。
・上記作業以外には使用しないでください。
・機械を使用目的以外の作業に使用したり，改造した場合は保証の対象になりません。（詳細は保証書をご覧ください。）

こんなとき，こんなことが知りたいとき，ここを見てください！

この取扱説明書は，次のように構成されています。まず，**安全作業のために** からお読みいただき，基本事項から操作，点検まで機械の正しい取扱い方を理解してください。

安全作業のために 安全な作業をするための注意事項は？

安全な作業をしていただくために，安全に関する基本事項，表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）について説明しています。よく読んで必ず守ってください。

ご使用まえに 使用前に知っておかなければならないことは？

機械の概要「**仕様（装備）**」などについて説明しています。

各部のはたらき 各部のはたらきを知るには？

各部の主な名称，操作レバー，装置の取扱いを説明しています。

運転のしかた コンバインを動かすには？

運転前の点検：作業前の点検項目と内容について説明しています。必ず実施してください。
運転操作のしかた：エンジンの始動，走行のしかた，自動車への積込み・積降ろしのしかたなどを説明しています。

作業のしかた 収穫作業を行うには？

コンバイン作業の基本操作を説明しています。作物の条件やほ場条件にあった機械の調整をして，上手な収穫作業をしてください。

自動装置について 自動装置を使用して作業するには？

各自動装置の取扱いについて説明しています。

手入れのしかた 機械を長もちさせるには？

機械をいつも正常な状態に保つために，手入れのしかたについて説明しています。
「**定期点検整備表**」に従って保守，点検してください。

長期格納のしかた 機械を３ケ月以上格納するときは？

機械を長期に格納するときの手入れのしかたについて説明しています。

不調時の処置 故障かなと思ったら？

作業中のトラブルや不調，異常を感じたときはすぐ原因を調べ処置してください。

付　　表 諸元・関連部品は？

機械に係る諸元表・消耗部品などを一覧表で説明しています。

もくじ

安全作業のために ……(安-1)～(安-24)

(安全作業説明編)

ご使用まえに ……1

1．保証とサービスについて…… 1

2．仕様（装備）について…… 2

3．用語について…… 4

4．小型特殊自動車について…… 5

1．小型特殊自動車の届出…… 5

2．公道走行するために…… 5

各部のはたらき ……6

1．各部の名称…… 6

2．運転装置の取扱い…… 7

1．スイッチ・計器関係…… 7

2．ペダル・レバー・ステップ関係……21

運転のしかた ……29

1．運転まえの点検……29

2．エンジンの始動と停止……31

1．エンジン始動のしかた……31

2．エンジン停止のしかた……31

3．DPF（ディーゼル・パティキュレート・フィルタ）装置のはたらきと取扱い……32

3．走行・停車のしかた……34

1．走行のしかた……34

2．停車のしかた……37

4．自動車への積込み・積降ろし……37

1．自動車・アユミについて……39

2．機械の積込み要領……39

5．ほ場への出入り……40

1．ほ場への出入りのしかた……40

作業のしかた ……41

1．作業まえの準備……41

1．作物の条件について……41

2．ほ場の条件について……41

3．ほ場の準備……42

4．機械の準備……42

2．刈取り作業のしかた……48

1．刈取り操作の手順……48

2．作業速度の選びかた……50

3．刈取り手順……51

4．こく粒の排出操作方法……54

5．グレンタンク補助樋口の取扱い……58

6．ニューツインハーモニー……58

7．リフトシャットの取扱い……59

8．夜間作業 ……60

9．トルクリミッタの取扱い……61

10．エンジン自動停止の取扱い……62

11．手こぎ作業……63

12．手こぎ緊急停止スイッチの取扱い……64

13．刈取り作業終了後の取扱い……65

14．警報装置について……66

3．ワラ処理部の取扱い……67

1．カッタ作業……67

2．排ワラ作業……68

4．麦刈り作業時の調整のしかた……68

1．選別ダイヤルの調節……68

5．刈刃の高さ調節のしかた……69

自動装置について ……70

1．エンジン回転自動制御……70

1．運転装置……70

2．こぎ深さ自動制御……71

1．運転装置……71

2．こぎ深さセンサの調整……72

3．こぎ深さ自動制御が使えない条件……72

3．方向自動制御［ディーラーオプション］…72

1．運転装置……72

2．作業のしかた……73

3．方向自動制御の使えない条件……73

4．刈高さポジションコントロール……74

1．運転装置……74

2．自動での作業のしかた……74

3．手動での作業のしかた……75

5．水平自動制御（ジャストマチック）……76

1．運転装置……76

2．作業のしかた……77

6．選別自動制御……77
1．運転装置……77
7．排出オーガ自動制御……79
1．運転装置……79
8．送じん量自動調節……80
9．マイコン（マイクロコンピュータ）……81

手入れのしかた……**83**
1．定期点検整備……83
「定期点検整備表」……83
2．給油・注油・給水のしかた……85
「給油・注油・給水表」……86
1．燃料の補給……87
2．エンジンオイル・オイルフィルタの点検・交換…88
3．ラジエータ冷却水の点検・交換……89
4．トランスミッションケースのオイル点検・交換…91
5．油圧作動油の点検・交換および油圧オイル
フィルタ・HST（走行・搬送）オイルフィルタの交換…91
6．こぎ深さギヤケースのオイル点検……93
7．刈取駆動ギヤケースのオイル点検・交換…94
8．トルクリミッタケース右・左（スターホイル駆動ケース）…94
9．脱こくギヤケースのオイル点検・交換…95
10．こぎ胴ギヤケース……95
11．吸引ファンギヤケース……96
12．搬送HSTギヤケース……96
13．グレン入力ギヤケースのオイル点検・補給…97
14．集中注油タンク……97
15．給脂箇所……97
16．各部の注油……99
17．集中注油装置の使い方…… 100
3．各部の点検と掃除のしかた…… 101
1．ラジエータ吸気部の掃除…… 101
2．エアクリーナの掃除…… 102
3．排気装置（DPF・排気管）の掃除…… 102
4．燃料フィルタ・セジメンタの
掃除・交換・エア抜き…… 103
5．ヒューズの交換…… 106
6．電気配線の点検と掃除…… 109
7．バッテリの点検と充電…… 109
8．刈取部サイドカバー右・左の外しかた… 115
9．引起しカバーの外しかた…… 115
10．グレンタンクの回動のしかた…… 116
11．こぎ胴部の開閉のしかた…… 117
12．カッタの開閉のしかた …… 118
13．切替板の開閉のしかた…… 119
14．脱こく部の掃除のしかた…… 120
15．脱こく内部の掃除…… 120
16．揺動流板の掃除…… 124
17．グレンタンク部の掃除…… 129
4．各部の点検と部品交換のしかた…… 130
1．カッタ刃組品の取外しと分解…… 130
2．爪の交換のしかた…… 137
3．ホース類の点検と交換…… 137
4．ワラ切カマの手入れ…… 138
5．こぎ歯の点検と交換…… 140
5．各部の点検と調整のしかた…… 141
「レバー・ペダルの点検・調整」
1．走行クラッチペダル・駐車ブレーキ… 141
2．脱こくクラッチ…… 142
3．刈取クラッチ…… 142
4．カッタ排ワラ切替レバー…… 143
5．横ラセン駆動レバー…… 144
6．横ラセン駆動ベルト（オーガフラップ）
［ディーラーオプション］…… 144
「ベルトの点検・調整」
7．エンジンファンベルト…… 145
8．走行ベルト…… 145
9．かき込みベルト（刈取部）…… 146
10．脱こく入力ベルト…… 147
11．こぎ胴伝動ベルト…… 147
12．こぎ胴ベルト…… 148
13．選別ベルト…… 148
14．１番ラセン駆動ベルト…… 149
15．排ワラ駆動ベルト…… 149
16．カッタベルト…… 150
17．グレン入力ベルト…… 150
「チェンの点検・調整」
18．株元搬送チェン（左）…… 151
19．株元搬送チェン（右）…… 151

20. こぎ深さ搬送チェン…… 152
21. 穂先搬送チェン…… 152
22. かき込み搬送チェン…… 153
23. 脱こくフィードチェン…… 154
24. 穂先排ワラチェン…… 154
25. 排ワラチェン…… 155
26. カキコミ軸駆動チェン…… 155
「クローラの点検・調整」
27. クローラ…… 156
「刈刃の調整」
28. 刈刃…… 157

長期格納のしかた ……159
1．機械の掃除と洗浄…… 159
2．錆止めと注油…… 159
3．エンジンの手入れ…… 159
4．点検・整備…… 159
5．格納…… 160
6．再使用にあたって…… 161

不調時の処置 ……162
1．エンジン部…… 162
2．走行・運転操作部…… 164
3．電気・自動制御部…… 166
4．刈取部…… 167
5．脱こく部…… 168
6．ワラ処理部…… 171
7．グレンタンク部…… 172

付　　表 ……173
1．主要諸元…… 173
2．ベルト一覧表…… 174
3．主な消耗部品…… 175
1．爪関係…… 175
2．カッタ関係…… 176
3．ヒューズ…… 176
4．ランプバルブ…… 177
5．刈刃・カマ関係…… 178
4．付属品一覧表…… 179
5．アタッチメント（別売り）…… 179
6．潤滑油について…… 180
1．エンジンオイル…… 180
2．油圧作動油…… 180
3．ギヤオイル…… 180
7．コンバイン関連商品…… 181

（安全作業説明編）

安全作業のために

ページ
1．安全作業のしかた……（安-1）
⚠作業前に次のことを守りましょう！……（安-1）
⚠安全作業のポイント……（安-2）
⚠作業前の一般的な注意事項……（安-4）
⚠点検・整備および掃除をするときは……（安-5）
⚠エンジンを始動するときは……（安-9）
⚠路上走行をするときは……（安-10）
⚠自動車への積込み・積降ろしをするときは……（安-12）
⚠ほ場で作業をするときは……（安-14）
⚠１日の作業が終わったら……（安-17）
⚠長期格納するときは……（安-18）
2．表示ラベルについて……（安-19）
（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）

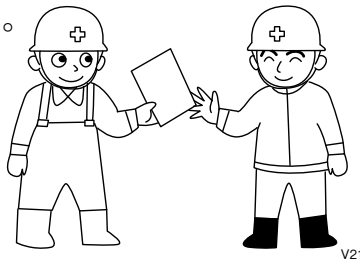
安全作業のために

1．安全作業のしかた

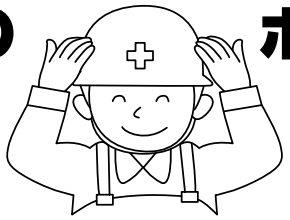
・安全上の重要な事項を **⚠危険** ⚠警告 ⚠注意 の３段階に分類して説明していますので，よく読んで理解し安全作業に努めてください。

・なお，この項の安全作業の説明は**コンバイン全般**についてのものです。これ以外にも本文の中でも同様に説明していますので，よく読んで必ず守ってください。

⚠作業前に次のことを守りましょう！

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆このような人は運転しないでください。 ●酒気をおびた人 ●妊娠している人 ●16才未満の人 ●指導者のいない運転未熟練者 ●過労・病気・薬物の影響，その他の理由により，正常な運転操作ができない人 ●運転する人は健康に気をつけて適当な睡眠と休けいをとってください。	誤操作しやすく思わぬ事故を起こすことがあります。  V207
⚠警告 ◆作業に合ったキチンとしたものを着用してください。  V208	このような服装は衣服が回転部に巻込まれたり，足をスベらせたりして思わぬ事故を起こすことがあります。  V209
⚠警告 ◆機械を他人に貸す場合は取扱説明書も合わせて貸して，安全な作業ができるよう説明してください。  V210	借りた人が不慣れなため，思わぬ事故を引起こすことがあります。

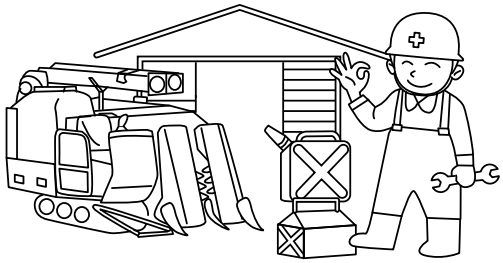
⚠安全作業のポイント

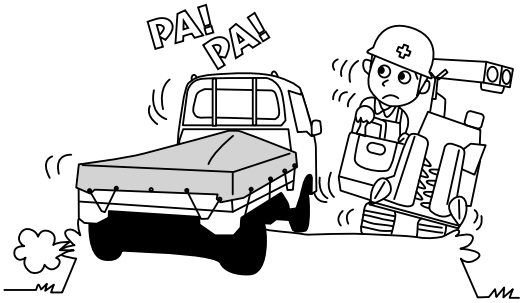

V211

●取扱説明書，機械のラベルをよく読んでから運転をする。

始業・点検　準備点検

●平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止する。
●機械に貼ってあるラベルがなくなったり，汚れたりして読めなくなったら新しいラベルに貼り替える。
●エンジン，マフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲を掃除する。
●バッテリコードや電気配線，燃料ホースを点検する。
●集中注油作業時は，運転者以外の人を機械に近づけない。
●給油，冷却水の点検はエンジンが冷えているときに行う。
●燃料補給時はエンジンを停止し，火気を近づけない。
●方向指示器などの保安部品の作動を確認する。
●刈取部を上げて掃除や点検をするときは，油圧を固定して刈取部の下に固定脚を置く。
●機械は改造しない。
●機械の制御系に影響を与える可能性があるので，業務用無線やアマチュア無線などの無線機器を設置しない。


V277



V278

エンジン始動

●始動前にすべてのカバーを取付ける。
●駐車ブレーキをかけ，各操作レバーを《中立》または《切》にする。
●屋内で始動するときは窓や戸を開けて換気をする。
●機械の周囲から人を遠ざける。
●エンジンの始動はシートに座って行う。
●始動のときは周囲の人に「合図」をする。

走行・運転

●刈取部先端部にバンパを取付ける。
●ナローガイド，排出オーガを収納する。
●機械に子供など，人や物をのせない。
●走行する前にグレンタンク内のこく粒をすべて排出する。
●発進時は，周囲をたしかめる。
●走行時の旋回は，低速で行う。
●後進時は，後方を確認する。
●急発進，急ブレーキ，急旋回はしない。
●わき見運転や手放し運転をしない。
●脱こく・刈取クラッチレバーを《切》にする。
●運転中は子供など，人を機械に近づけない。
●排出オーガは折りたたむ。

道路（公道）走行

●ナンバープレートの交付を受ける。
●運転免許証を携帯し，交通法規を守る。
●取扱説明書で指定された作業機以外は取外す。
●前後左右を確認し，低速車線を走る。
●夜間走行は，前照灯をつける。（作業灯は消す）
●走行中に飛び乗り，飛び降りはしない。

狭い農道・凸凹道・坂道の走行

●速度を落として走行する。
●対向車を避けるとき，端に寄りすぎない。
●軟弱な路肩や草が生い茂っている所は走行しない。
●急な坂道でのギヤ変速操作はしない。
●下り坂では，速度を下げて走行する。
●急傾斜地は，走行しない。
●坂道での旋回は，低速で行う。

停車・駐車

●平坦な場所で刈取部を下げて駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止する。
●傾斜地では駐車しない。
（やむを得ず駐車するときは車止めをする）
●機械を離れるときはスタータスイッチよりキーを抜取る。
●副変速レバーを《標準》に入れる。

自動車への積込み・積降ろし

- アユミはじゅうぶんな強度，長さ（荷台高さの４倍以上），幅（クローラが外れない幅）すべり止め，フック付きを使用する。
- アユミは自動車の荷台に平行にかけ，フックが外れないことを確認する。
- 周囲を確認し，機械の周囲には人を近づけない。
- 脱こく・刈取クラッチレバーは《切》にする。
- 積込みは前進，積降ろしは，後進で低速で行う。
- アユミの上では進路変更や変速操作をしない。
- アユミの上ではジャストディレクタを操作しない

ほ場作業　ほ場の出入り

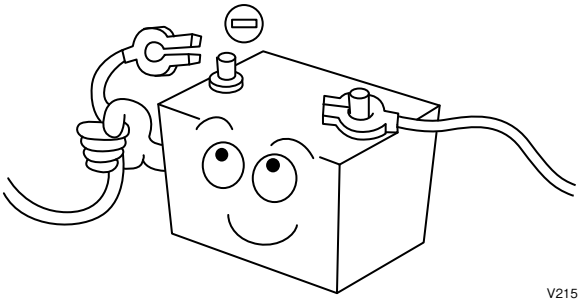
- グレンタンク内のこく粒を排出して行う。
- 副変速は，《標準》であぜに対して直角に行う。
- あぜ，溝，急傾斜を越すときはアユミを使用して行う。
- あぜがくずれないことを確認しゆっくり行う。

ほ場での作業

- エンジン始動，クラッチ《入》の前には周囲を確認する。
- 刈取り作業は，機械の周囲に子供など，人を近づけない。
- 旋回時は，周囲の状況を確認し，低速で行う。
- 排出オーガの排出口内に手を入れない。
- 排出オーガの操作は，運転席から周囲の安全をよく確認してから行う。
- 運転走行中の乗り降りはしない。
- 過労にならぬようゆとりをもって，作業の間に休憩を入れる。
- あぜ際での旋回時は周囲を確認する。
- ノッタの結束ひもを交換するときはエンジンを停止する。［ノッタ仕様］
- ノッタのそばに手や身体を近づけない。［ノッタ仕様］

手こぎ作業

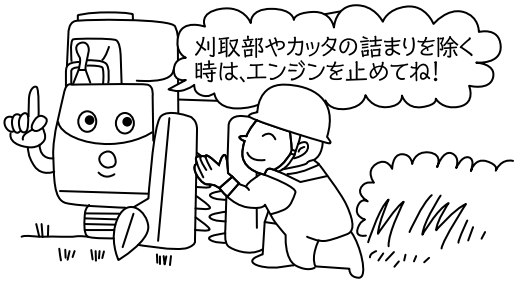
- 脱こく・刈取クラッチレバーを《脱こく 入》にして，走行を停止して行う。
- 手袋は使用しない。
- 手や衣服を供給口に入れたり，脱こくフィードチェンに触れない。
- カッタの切ワラが溜まったら，手こぎを中断して移動する。
- ワラクズの近くに機械を停止しない。



V215



V279



V214

作業途中の点検

- 平坦な場所で刈取部を下げ，駐車ブレーキをかけてエンジンを停止する。
- 詰まりなどの異常時には，エンジンを停止して行う。
- カッタやグレンタンクを回動したときはストッパをかける。
- 取外したカバー類は，すべて取付けて作業を始める。

終業・格納　１日の作業が終わったら

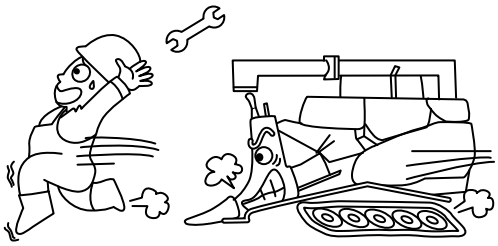
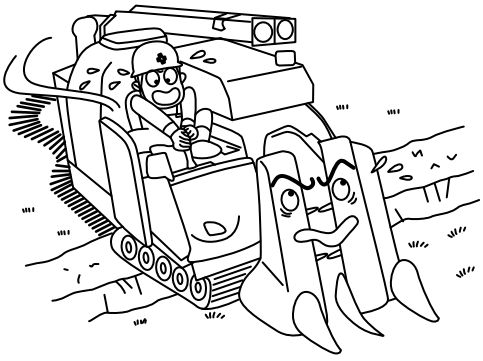
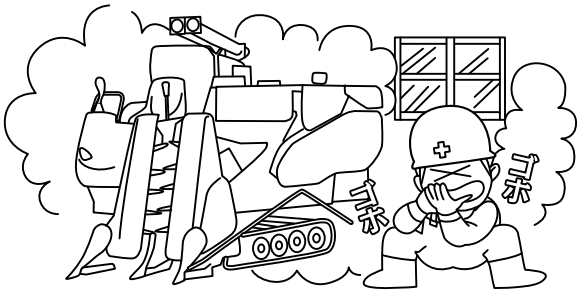
- 平坦な場所に置き，刈取部を下げ，駐車ブレーキをかけて車止めをする。
- スタータスイッチよりキーを抜取る。
- エンジン，マフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲を掃除する。
- マフラやラジエータなどは冷えるまで直接触れない。
- シートカバーはエンジンが冷えてからかける。

長期格納

- １シーズンごとに定期点検をする。
- 新しい燃料を入れ，タンクの燃料を満量にしておく。
- 燃料コックを閉じる。
- バッテリコードの「㊀側」を外すか，バッテリを取外す。
- 平坦な場所で刈取部先端にバンパを取付け，駐車ブレーキをかけて，クローラに車止めをする。

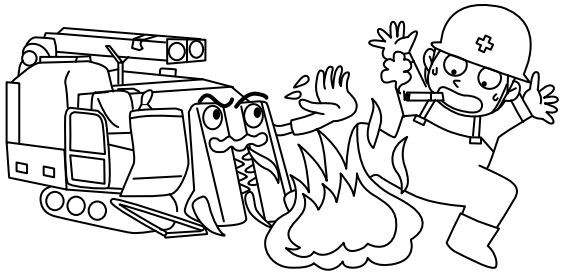
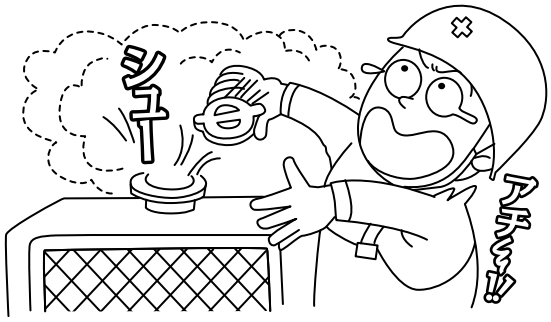
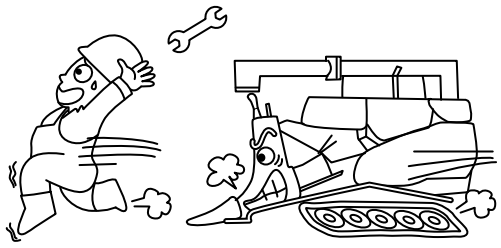
⚠作業前の一般的な注意事項

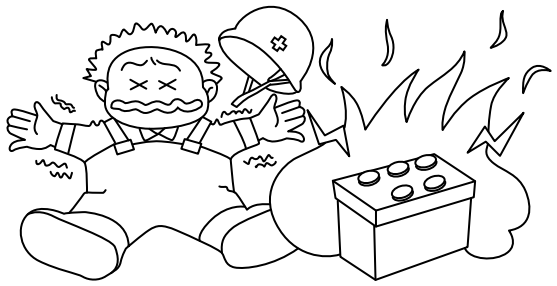
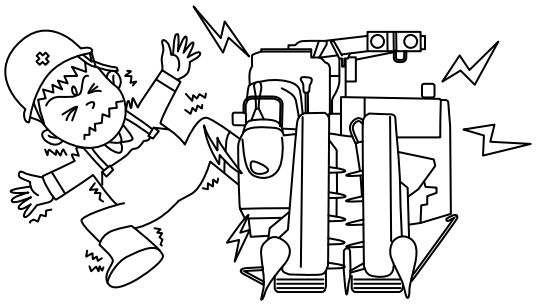
必 ず 守 っ て く だ さ い	→	守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆機械を稲や麦の収穫作業以外には使用しないでください。	思わぬ傷害事故を引起こす原因になります。  V216
⚠警告 ◆機械は改造しないでください。	人身事故の原因となることがあります。  V280
⚠警告 ◆毎日の運転まえには,「運転まえの点検表」の項目を点検し，異常があれば整備してから運転してください。 ◆1年ごとに定期点検整備を行い，各部の保守を行なってください。	整備不良のまま使用すると，思わぬ事故を引起こす原因となります。  V281
⚠警告 ◆屋内での始動は窓や戸を開けて換気してください。	排気ガス中毒で気分が悪くなったり，酸欠状態になって脳障害になったり死亡することがあります。  V282

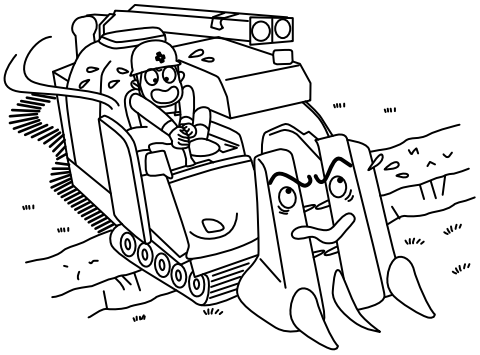
⚠点検・整備および掃除をするときは……

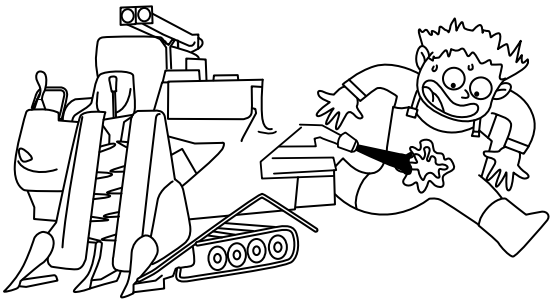
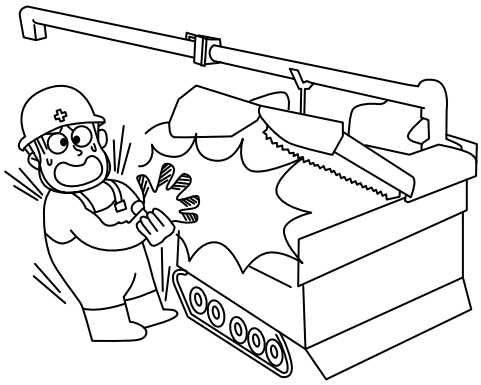
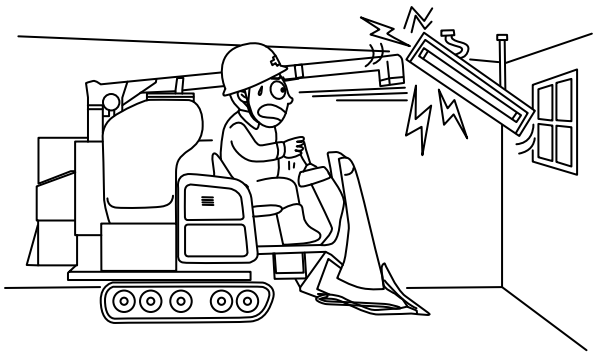
必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆燃料補給時は，くわえタバコなど火気を近づけないでください。 ◆燃料を補給したときは，燃料キャップを確実に締め，こぼれた燃料はきれいにふきとる。 ◆エンジン回転中や，エンジンが熱い間は給油，注油をしない。 ●燃料ホースの破損や燃料漏れがないか，点検してください。 ●燃料ホースは２年ごとに交換する。	燃料などに引火し，火傷や火災の原因となることがあります。  V283
⚠警告 ◆ラジエータが熱いときは，ラジエータキャップを開けないでください。 ●ラジエータキャップを開ける場合は，エンジンを停止しエンジンが冷えてからラジエータキャップを開ける。 ●冷却水の点検は，補助タンクで行う。	熱湯が吹きだし，火傷することがあります。  V221
⚠注意 ◆平坦な場所で駐車ブレーキをかけて，エンジンを停止し各部の回転が止まってから行なってください。	機械が動き出し，思わぬ事故を起こすことがあります。  V280

必 ず 守 っ て く だ さ い	守らないとこんな事故が！
⚠危険 ◆バッテリの点検時，火気（タバコ・ライターなど）を近づけないでください。	バッテリから水素ガスが出ますので，引火により爆発して死亡する恐れがあります。  V222
⚠危険 ◆バッテリ液を身体や服に付けないようにしてください。 ◆バッテリ液が，目，皮ふ，衣服，物についたときは，すぐに多量の水で洗い，飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲んでください。目に入ったときや飲み込んだときは医師の診断を受けてください 。	バッテリ液（希硫酸）で服が破れたり，死亡する恐れがあります。  V223
⚠警告 ◆バッテリ端子からコードを取外すときは，⊖側を先に取外してください。取付けは⊕側を先に取付けてください 。 ●バッテリは指定されたバッテリを使用してください。 ●⊕，⊖を逆に接続しないでください。	ショートして，火傷や火災の原因となります。  V284

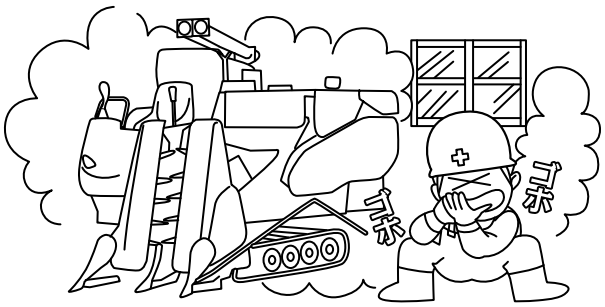
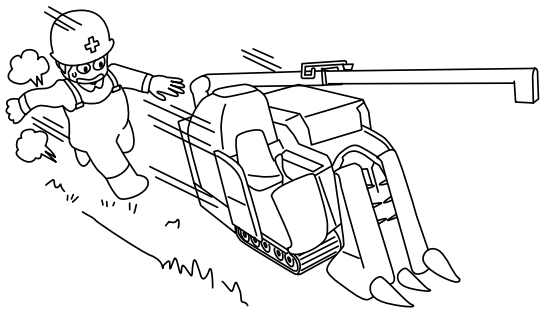
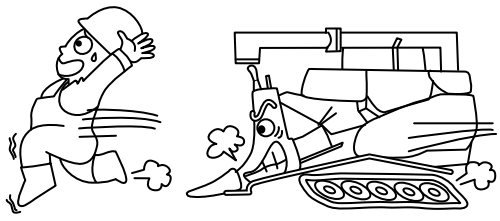
必ず守ってください → 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆電気配線が他の部品に接触していないか，剥れや接合部のゆるみやガタがないかを点検してください。 ●クランプや固定金具のゆるみがないか点検してください。	火災事故を引起こすことがあります。  V285
⚠警告 ◆エンジン，マフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲にワラクズやゴミなどが付着していないか，作業前に点検して付着していれば取除いてください。 ●ベルトカバー内のワラクズを取除いてください。	火災の原因となることがあります。  V286
⚠警告 ◆方向指示器などの保安部品の作動確認は機械を動かす前に行なってください。	交通事故を引起こす原因となります。  V216
⚠警告 ◆マルチステアリングレバーの効き具合や，片効きなどがないか点検し，異常であれば「お買いあげ先」で整備を受けてください。	正常な走行ができず事故を引起こす原因となります。  V281

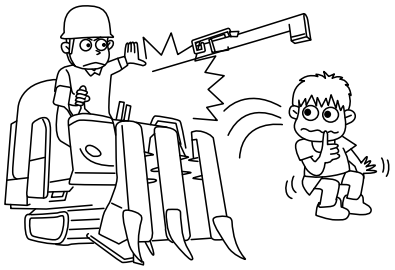
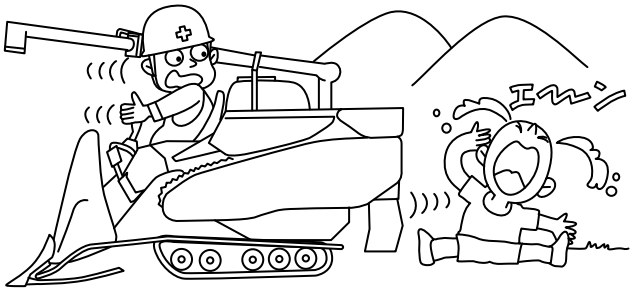
必 ず 守 っ て く だ さ い	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆油圧関係の部品を点検したり取外す前に，エンジンを停止し，油圧リフト部をもっとも下げた状態にして，残圧を抜いてから作業をしてください。 ●もし，高圧噴油に触れたら，直ちに医師の診断を受けてください。	圧力がかかって噴出した油は，皮ふに浸透し傷害の原因になります。 油が皮ふに浸入した場合，取除かないと壊疽（えそ）になる恐れがあります。  V287
⚠注意 ◆点検・整備などで外したカバーなどは，すべて取付けてください。	機械に巻込まれたりして，傷害事故を起こすことがあります。  V288
⚠注意 ◆排出オーガの作動確認は周囲にゆとりのある広い場所で行なってください。 ●屋外では電線などに引っ掛けないでください。	屋内などの狭い場所で旋回すると，排出オーガの先端で電灯などを引っ掛けて損害事故を起こすことがあります。  V229

⚠エンジンを始動するときは……

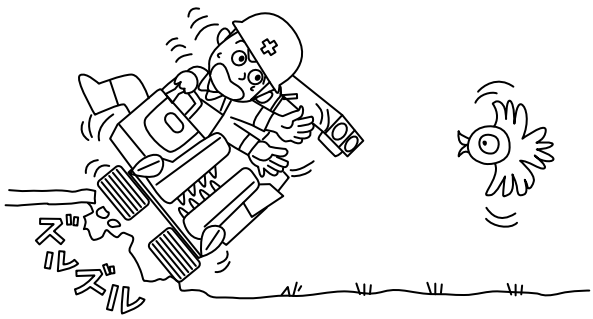
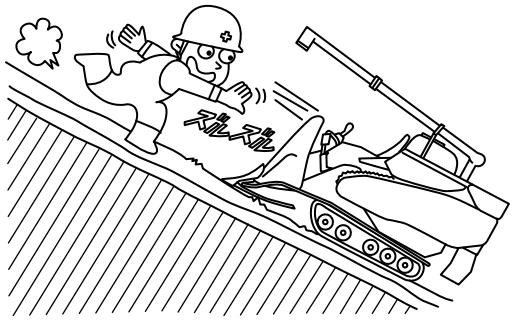
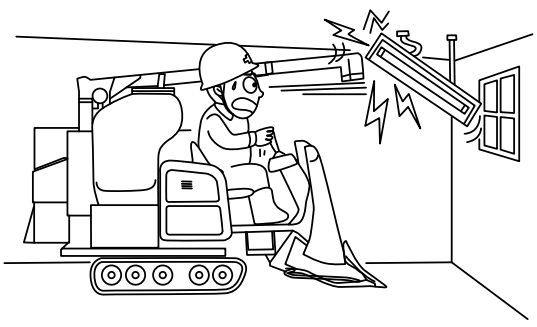
必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆屋内での始動は窓や戸を開けて換気をよくしてください。	排気ガス中毒で気分が悪くなったり，酸欠状態になって脳障害になったり死亡することがあります。  V282
⚠警告 ◆駐車ブレーキをかけてください。 ◆主変速を《中立》にしてください。 ◆脱こく・刈取クラッチレバーを《切》にしてください。 ●主変速が《中立》になっているか手で動かして確認する。 ●周囲を確認し，合図してから始動する。	変速やクラッチが入っていると機械が急に動き出し，人身事故や傷害事故の原因となることがあります。  V230
⚠警告 ◆始動は，運転席のシートに座って行なってください。	機械が急に動き出し，人身事故や傷害事故の原因となることがあります。  V289
⚠警告 ◆暖機運転は，駐車ブレーキをかけ，主変速レバーを《中立》，脱こく・刈取クラッチレバーを《切》にして行なってください。	急に発進したりして思わぬ事故の原因となります。  V290

⚠路上走行をするときは……

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆路上走行時は，交通法規を守り，ヘルメットを着用してください。 ●夜間の走行は，前照灯をつけ，作業灯は消してください。	思わぬ傷害事故の原因となります。  V233
⚠警告 ◆子供など，人や物を機械に乗せないでください。 ●荷物は，別の自動車（運搬車）などで運んでください。	思わぬ事故を引起こす原因となります。  V291
⚠警告 ◆発進するときは，機械の周囲から人を遠ざけて，低速で発進してください。 ●前後，左右の確認をし，わき見運転はしないでください。	傷害事故を引起こす原因となります。  V292
⚠注意 ◆走行時は，ナローガイド，排出オーガを収納してください。 ◆路上走行するときは，刈取部の先に指定されたバンパを取付けてください。 ◆脱こく・刈取クラッチレバーが《切》になっていることを確認してください。 ●急発進，急ブレーキ，急旋回しないでください。 ◆取扱説明書で指定された作業機以外は，取外してください。 ●刈取部先端を40㎝程度上げてください。 ◆グレンタンク内のこく粒をすべて排出してください。	思わぬ事故を引起こす原因となります。  V293

必ず守ってください → 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆道路の端には寄りすぎないようにしてください。 ◆対向車を避けるとき，端に寄りすぎないでください。 ◆軟弱な路肩や草が生い茂っている所は，走行しないでください。 ◆雨天，雨あがりのときは，低速で慎重に走行してください。 ◆凸凹道路，下り坂は速度を落とし，慎重に走行してください。	路肩がくずれ，横転事故を引起こすことがあります。  V294
⚠警告 ◆坂道の途中で走行クラッチを切ったり変速レバーを操作しないでください。 ●坂の手前で一旦停止して，副変速を《標準》に入れ変えてから，登り降りしてください。 ●坂道での斜め走行や旋回はしないでください。 ●急傾斜地を走行しないでください。	エンジンブレーキがきかず思わぬ事故を引起こすことがあります。  V238
⚠警告 ◆坂道では駐車しない。やむを得ず坂道の途中で駐車するときは駐車ブレーキをかけて，エンジンを停止し，木片などで車止めをしてください。 ●刈取部は下げておいてください。 ●機械から離れるときは，スタータスイッチからキーを抜取ってください。	機械が動き出し，事故の原因となることがあります。  V239
⚠警告 ◆業務用無線やアマチュア無線などの無線機器は機械の制御系に影響を与える可能性がありますので機械に設置しないでください。	思わぬ事故を引起こすことがあります。  V229

⚠自動車への積込み・積降ろしをするときは……

必 ず 守 っ て く だ さ い ⟶ **守らないとこんな事故が！**

⚠警告

◆積載重量が自動車の最大積載量を超えない車で，かつ荷台から機械がはみ出さない車を使用してください。

●自動車は駐車ブレーキをかけエンジンを停止し変速を１速か後進に入れ，タイヤに車止めをしてください。

◆アユミはじゅうぶんな強度，長さ，幅のある基準に合ったすべり止め，フック付きを使用してください。

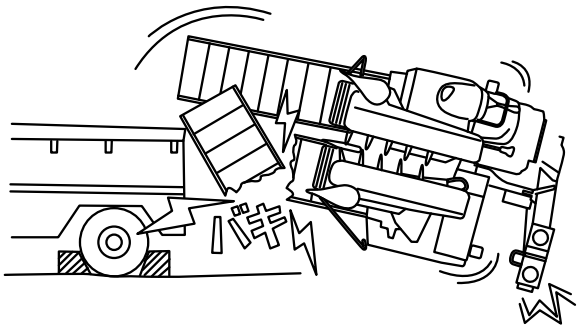
●アユミの幅は，クローラ幅に合ったものを使用してください。

⚠警告

◆アユミを機械のクローラ間隔に合わせ，自動車の荷台に平行に真直ぐにかけてください。

●荷台にアユミのフックをかけ，外れないことを確認してください。

アユミが折れたりして，転倒事故を起こすことがあります。



V295

⚠注意

◆グレンタンク内のこく粒をすべて排出してください。

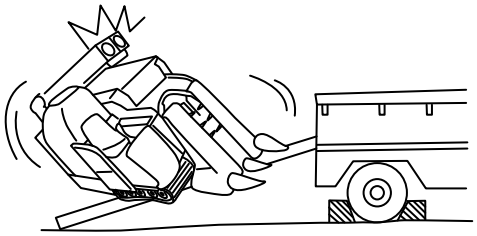
◆積込みは前進，積降ろしは後進で副変速は《標準》で行なってください。

◆水平自動スイッチを《切》にして，機体を一番下げた状態で行なってください。

◆［方向自動付き（ディーラーオプション）］は自動スイッチを《切》にしてください。

●こぎ深さ自動スイッチも《切》にしてください。

転倒の恐れが増し，傷害事故の原因となります。



V296

⚠警告

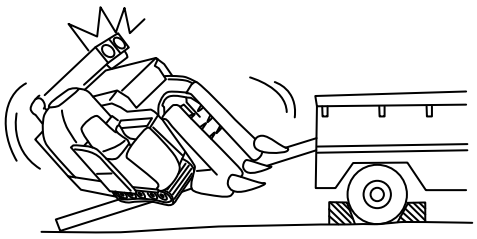
◆アユミの上では，進路変更や変速操作をしないでください。

●機械をアユミに対して真直ぐに止め，左右のクローラがアユミの中央にあることを確認し，アユミの途中で機械を止める必要がないようにしてください。

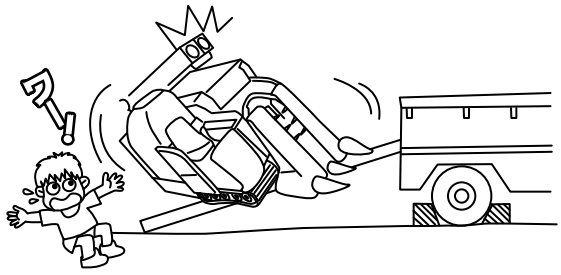
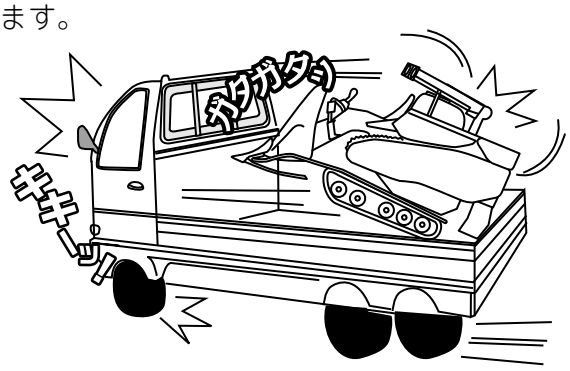
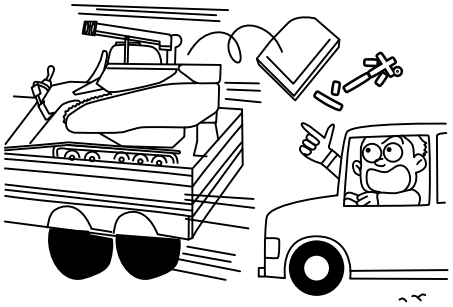
●アユミの上では，急なマルチステアリングレバーの操作や主変速レバー，副変速レバー，走行クラッチペダル，左右水平，ブレーキロックレバー，ジャストディレクタの操作はしないでください。

◆自動車などへの積込み・積降ろしのときは，アユミの上でジャストディレクタを操作しないでください。

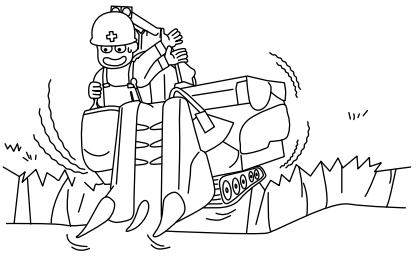
急旋回したり，急降下したりして転倒事故を起こすことがあります。



V296

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆補助者立合誘導のもとに行なってください。機械の周囲に子供など，人を近づけないでください。	転倒事故に巻き込まれる恐れがあります。  V297
⚠警告 ◆自動車の荷台の上では，刈取部を床に当たるまで降ろして駐車ブレーキを掛けてください。 ●副変速レバーを《標準》位置にしてください。 ◆所定の［ロープ掛けフック（４箇所)］にロープを掛けてしっかり固定してください。 ●車止めをしてください。	輸送中に機械が動き，思わぬ事故の原因となることがあります。  V300
⚠警告 ◆自動車での輸送時には機械の各カバーを固定してください。 ●カバー類などは風圧で破損，脱落の恐れがありますので，確実に固定するか，外して荷台に置いてください。	輸送中にカバー類が脱落し，思わぬ事故の原因となることがあります。  V299
⚠警告 ◆輸送中の急発進，急ブレーキ，急旋回はしないでください。	輸送中に機械が動き，思わぬ事故の原因となることがあります。  V300

⚠ほ場で作業をするときは……

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆10㎝以上のあぜ，溝，10度以上の急傾斜のあるほ場への出入りはアユミを使ってください。 ●アユミ上では進路変更しない。 ●グレンタンク内のこく粒を排出して行ってください。	バランスを崩したりして，転倒事故を引起こすことがあります。  V301
⚠警告 ◆あぜ越えは，副変速を《標準》にして，あぜに直角に横切るようにしてください。 ●あぜが崩れないことを確認して行ってください。	転倒事故を引起こすことがあります。  V302
⚠警告 ◆補助者との共同作業が多いので，作業前によく打合わせをしてください。 ●エンジン始動や発進するとき，脱こく・刈取クラッチレバーを入れるときは，ホーンで合図してください。 ◆作業時の旋回は，低速で行なってください。 ●旋回するときは，周囲を確認し，低速で行ってください。 ●機械の周囲に人を近づけない。	傷害事故の原因となります。  V248
⚠警告 ◆手こぎ作業のときは，手や衣服を供給口に入れたり，脱こくフィードチェンに触れないでください。 ◆手こぎ作業をするときは，そで口はきっちり止めて，巻きタオル，腰タオルは着用しないでください。 ●手袋は使用しない。 ●供給口が見えなくなるほど，多量の作物を供給しない。 ●カッタ切ワラが溜まったら，手こぎ作業を中断して移動する。 ●手こぎ作業は走行を停止して脱こく・刈取クラッチレバーを《脱こく 入》位置にして行ってください。	機械に巻込まれたりして，傷害事故を起こします。  V249

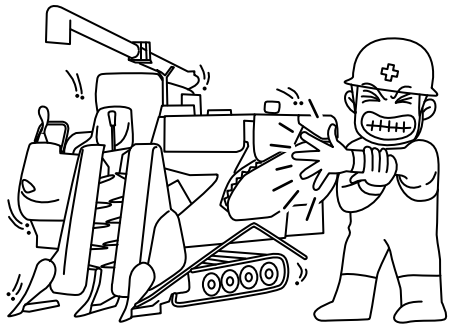
必ず守ってください → 守らないとこんな事故が！

⚠警告

◆詰まりなどの除去や，ノッタのひも交換（ノッタ仕様）をするときは，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。

●脱こく部やカッタの詰まり，チェンやベルトのワラの巻付き，垂れ穂などに気付いても，作動中は手を出さない。

傷害事故を引起こすことがあります。



V303

⚠警告

◆補助者は作業中はワラの巻付き，詰まりを取除かないでください。

◆補助者は，機械に近づくとき運転者に合図をして，確認を取ってください。

◆人が機械の近くにいないことを確認してからエンジン始動，脱こく・刈取クラッチレバー操作をしてください。

◆カッタでの事故がいちばん多く発生していることを，作業者は認識しておいてください。

◆エンジンが作動中は，カッタのそばに手・足・衣服を近づけないでください。

◆補助者に，機械の機構，運転や操作のしかたをよく知らせておいてください。

◆作業中は機械に人を近づけないでください。

◆運転者は，常に補助者の状態を確認しながら作業をしてください。

●特に，カッタや搬送部・脱こく部・刈取部付近には作業中は近づかない。

◆ワラなどの巻付き・詰まりなどが発生しても，作動中は手を出さないでください。

◆運転者と補助者は常に「合図」し合いながら作業をしてください。

傷害事故を引起こすことがあります。



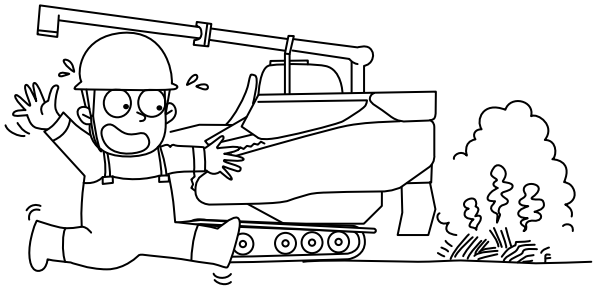
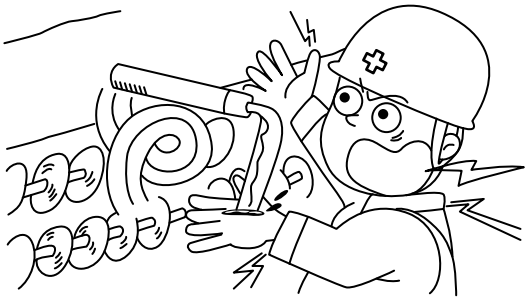
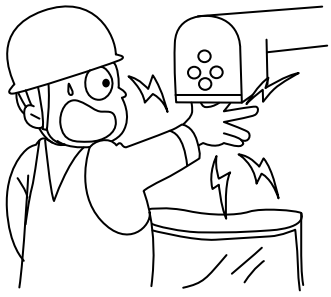
V251



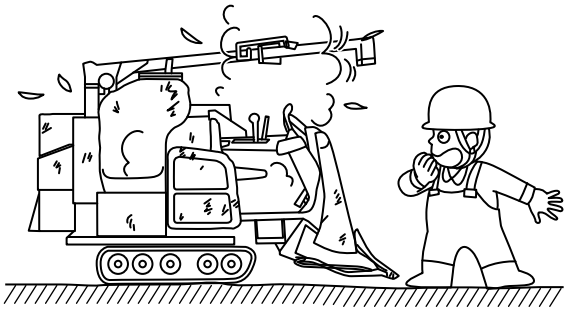
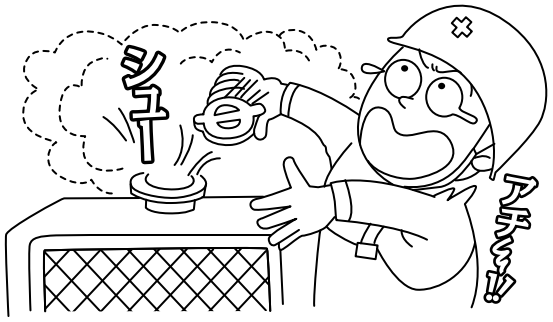
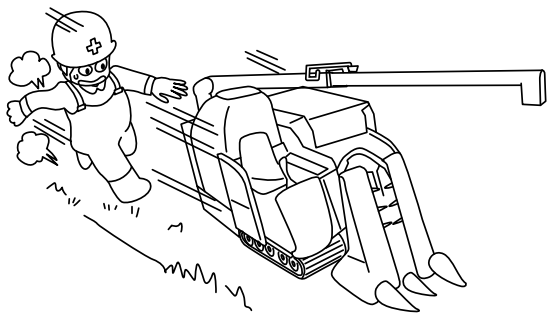
V252



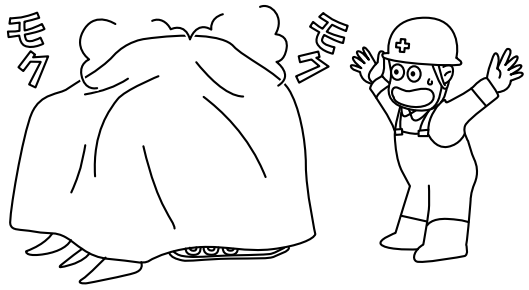
V253

必 ず 守 っ て く だ さ い	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆ワラクズの近くには機械を止めないでください。 ●エンジン排気による火災を防ぐため，ワラのないところに機械を止めてください。 ●手こぎ作業時，ワラの上に機械を止めて作業をしないでください。	マフラの排気で火災になることがあります。  V304
⚠警告 ◆エンジンやマフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲，ベルトカバーにワラクズが溜まった場合は，エンジンを停止して掃除をしてください。	火災の原因となることがあります。  V286
⚠注意 ◆作業中にカマなどを使って，脱こく部やカッタの掃除をしないでください。 ●カッタにワラが巻付いても，回転中は掃除をしないでください。カッタのカバーを開閉するときはエンジンを停止してください。 ●カッタを開いたときは，ストッパをかける。	カマなどがはね飛ばされて，傷害事故の原因となります。  V254
⚠注意 ◆排出オーガの排出口内には手を入れないでください。 ◆排出オーガの操作は運転席から周囲の安全を確認してから行なってください。 ●走行の前に，排出オーガがオーガ受けに収納され，固定されているか確認してください。	ラセンに巻込まれたり，シャッタに手をはさまれたりして負傷することがあります。 排出オーガが周囲の人に当たり，負傷したりすることがあります。  V256  V257

⚠1日の作業が終わったら……

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆作業が終了したら，平坦な場所でエンジンを停止して点検を行い，掃除をしてゴミなどを取除いてください。 ●高温部が冷えてから，エンジン・マフラ・バッテリ・燃料タンクの周囲のワラクズを除去・掃除してください。	火災の原因となることがあります。  V305
⚠警告 ◆ラジエータが熱いときは，ラジエータキャップを開けないでください。 ●ラジエータキャップを開ける場合は，エンジンを停止し，エンジンが冷えてからラジエータキャップを開けてください。 ●冷却水の点検は補助タンクで行ってください。	熱湯が吹きだし，火傷することがあります。  V221
⚠警告 ◆保管は，平坦な場所に置き，刈取部を下げて，駐車ブレーキをかけて車止めをしてください。 ●副変速レバーを《標準》に入れ，駐車ブレーキをかけてください。 ●スタータスイッチからキーを抜取っておいてください。	機械が動き出し，思わぬ事故の原因となります。  V289
⚠警告 ◆エンジンが熱いときは，シートカバーをかけないでください。	火災の原因となることがあります。  V259

⚠長期格納するときは……

必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆バッテリコードの「⊖側」を外すか，バッテリを取外してください。 ●１ケ月に１回程度補充電をしてください。 ◆燃料コックを閉じてください。		思わぬ火災事故を起こす場合があります。  V260
⚠警告 ◆平坦な場所に置き，刈取部先端にバンパを取付け，駐車ブレーキをかけて車止めをしてください。 ●副変速を《標準》に入れ，クローラに車止めをしてください。 ●スタータスイッチよりキーを抜取っておいてください。		機械が動き出し，思わぬ傷害事故を起こすことがあります。  V261
⚠警告 ◆シーズン終了後には，定期点検を受けてください。 ●１年ごとに定期点検・整備を「お買いあげ先」で純正部品を使用して行なって，各部の保安を確保してください。  V262		整備不良のまま使用すると，思わぬ事故を引起こす原因となります。

2. 表示ラベルについて

この機械には各運転装置の近くやカバーに各々の安全な取扱い方について説明している表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）が貼付けてあります。各々のラベルの説明をよくお読みいただき守ってください。

また，機械に貼ってあるラベルが破損したりして読めなくなった場合やラベルの貼ってある部品を交換する場合は新しいラベルを**「お買いあげ先」**に注文して購入し貼り替えてください。

①

⚠ 警 告

傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください。

DPF再生中はDPF及び排気管周辺、排気ガスが高温になります。
■DPF再生処理を行う際は、以下のことを守ってください。
● 納屋や倉庫など囲まれた場所で再生処理を行わないでください。
● 排気管周辺から人や動植物が離れている事を確認してください。
● DPF及び排気管周辺にワラなどの燃えやすいものがないことを確認してください。

36668538100

②

⚠ 注 意

09603100032

■ 路上走行する時は
● デバイダ先端にバンパを取付けてください。
● ナローガイド，サイドステップを収納してください。
● カッタ下部カバーを収納してください。
● カッタ右側の穂先開閉カバーを閉じてください。
● 脱こく・刈取クラッチ，自動スイッチを《切》にしてください。
● マルチステアリングレバーで刈取部先端を40cm程度上げてください。
● 油圧固定スイッチを《油圧固定》にして、フックをかけてください。
● 急発進，急ブレーキ，急旋回はしないでください。
● デコボコ道，下り坂では速度を落して走行してください。
● 公道では作業機など突起物となるものは装着しないでください。

③

⚠ 警 告

35868531700

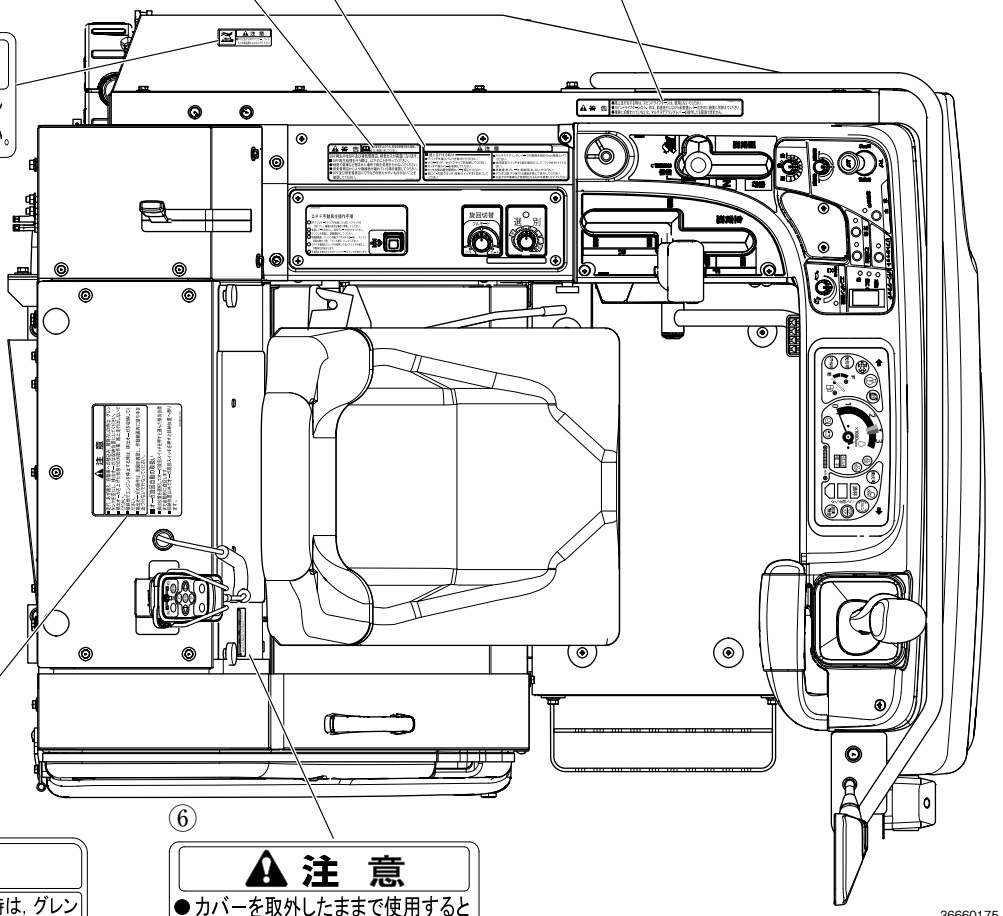
● 路上走行をする時は、スピンドライブターンは、使用しないでください。
● スピンドライブターンの入，切は、前進走行しながら副変速レバーを左右に確実に切替えてください。
● 確実に切替わっていないと、マルチステアリングレバーを操作しても旋回できません。

④

⚠ 注 意

09603100027

● やけどをするのでマフラー、フィンなどの高温部にふれないでください。



36660175

⑤

⚠ 注 意

■ 走行，あぜ越え，自動車への積込み，積降ろしの時は，グレンタンクを空にし，排出オーガは収納位置にしてください。
■ 排出オーガを上げた状態での刈取作業，路上走行はしないでください。
■ 傾斜地でエンジンを停止する時は，排出オーガを収納してください。
■ 排出オーガの操作は、周囲を確認し、作動範囲内に頭や手を近づけないで行なってください。

■ オーガ旋回自動の取扱い

■ 排出位置を選択してオーガ旋回スイッチを押すと選んだ排出位置まで自動的に旋回します。
■ 収納位置以外でオーガ旋回スイッチを押すと収納位置へ戻ります。

36598555100

⑥

⚠ 注 意

● カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

09603100017

⑦

⚠ 警　告

ケガや死亡事故を起さないために

■ エンジンを始動する前に
- 機械の周囲から人を遠ざけてください.
- 各部のカバーをすべて取付けてください.
- 座席に座り, 駐車ブレーキをかけてください.
- 変速レバーを《中立》, 脱こく・刈取クラッチは《切》にしてください.
- 屋内での始動は, 窓や戸を開けて換気してください.

■ 正しい操作方法で
- 機械に運転者以外の人や物をのせないでください.
- エンジン回転中は, カバーの中へ手を入れたり, 回転物に手・足・衣服を近づけたりしないでください.
- 発進及び旋回する時は, 機械から人を遠ざけてください.
- 緊急停止が必要なときは, ブレーキペダルをすみやかに, いっぱい踏み込んでください.
- 刈取作業時以外(特に、あぜ越え時・移動走行時・運搬時・格納時)は『こく粒』はすべて排出、あるいは降ろしてください.
- 詰まりを取除く時は, 各クラッチを《切》にし, エンジンを停止し, 各部の動きが止まってから行なってください.

■ 転倒防止
- 発進, 旋回操作, 荒地での運転は低速で行なってください.
- 傾斜地及び急な坂道では旋回しないでください.

傷害事故防止のため, 取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください.
- 軟弱な路肩, 草の生い茂っている所は転倒・転落の恐れがあるので走行しないでください.
- あぜを横切る時は, 低速であぜに対して直角に走行してください.

■ 停止する時は
- 平坦な場所で駐車ブレーキをロックし, 刈取部を下げ, 変速レバーを《中立》, 脱こく・刈取クラッチは《切》にした後, エンジンを停止してください.
- 機械から離れるときは『始動キー』を抜いてください. また、止むを得ず坂道で駐車するときは車止めをして暴走を防いでください.

■ 清掃・点検・整備・燃料補給
- エンジン停止後, 各部の動きが止まってから行なってください.
- 火災防止のためエンジン, マフラ, 燃料タンク, バッテリ周囲のワラクズ等を掃除してください.
- 刈取部が不意に下降してはさまれる危険があるので、刈取部を上げて点検・調整するときは油圧固定スイッチを《油圧固定》位置にしフックを掛けてください.
- 火災の危険があるので燃料補給時は必ずエンジンを停止してください.
- 燃料補給時はタバコなど一切の火気は厳禁です.
- こぼれたディーゼル軽油は必ずふき取ってください.

35868525102

⚠ 警　告

■ 自動車への積込み・積降ろしをする時は
- 平坦な場所を選んで, 補助者の立会誘導のもとに行なってください. また, 機械の周囲に人を近づけないでください.
- 積込む前にグレンタンク内のこく粒をすべて排出してください.
- アユミは機械の重量に耐えられる強度で、長さは自動車荷台高さの4倍以上のものを使用してください.
- アユミの上では進路変更, 変速操作を行なわないでください. 旋回(左右)操作をすると転倒する危険があります. 左右のクローラをアユミの中央にまっすぐにセットしてください.
- 車への積込みやあぜ越えは前進で、車から降ろすときは後進で、低速で移動してください.
- 自動車への積込み・積降ろしは、主変速《低速》、副変速を《車両積降ろし》の位置で操作します.
- 自動車への積込みは, マルチステアリングレバーを《上げ》に操作し,
- 刈取部を上げます.
- 積込みが終ったらマルチステアリングレバーを《下げ》にして刈取部を一杯下げます.



⑧

⚠ 警　告

●中立《N》位置でも動く場合がありますので、**機械から離れる時**は、平坦な場所で駐車ブレーキをかけ**エンジンを停止**してください。

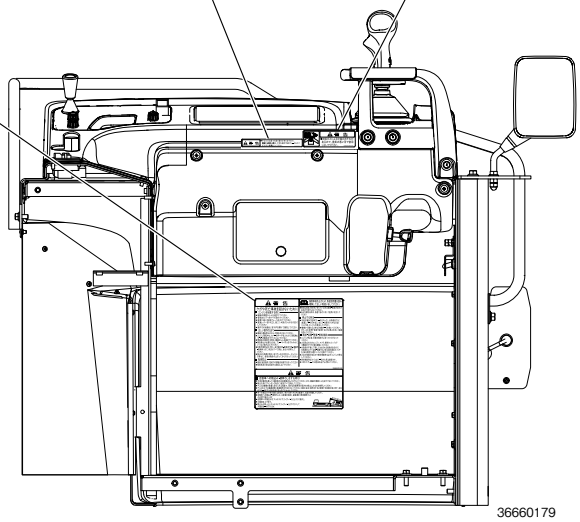
09603200052

⑨

⚠ 警　告

●排気ガスによる中毒のおそれがあるので、換気の悪い所で使用しないでください。

09603200029



36660179

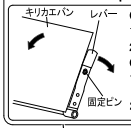
A矢視

⑩

⚠ 危　険

- カッター部の点検・調整、わら・雑草などの巻付きや詰りを取除く際は, 各クラッチを切り, エンジンを停止し, 各部の作動が停止してから行なってください.
- 回転中は, カバーの中に手を入れないでください.
- 点検・調整などが終わったら、危険ですのでカバーを必ず元通りに戻してください.

キリカエバンの開閉



- キリカエバンを開くときは
  1. レバーを手前に引き固定ピンから外します.
  2. キリカエバンを後方に開きます.
- キリカエバンを閉めるときは
  1. キリカエバンを持ち上げながらレバーを手前に引きます.
  2. キリカエバン側の固定ピンにレバーを差し込みます.

35928557000

⑪

⚠ 注　意　路上走行時および**カッター**作業時は閉じてください。

35448656000

⑬

⚠ 注　意

●巻込まれてケガをするおそれがあります。
折りたたみ時、開口部に手を近づけないでください。

取扱のポイント　折りたたむ時は、排出オーガ内のこく粒をすべて排出してください。

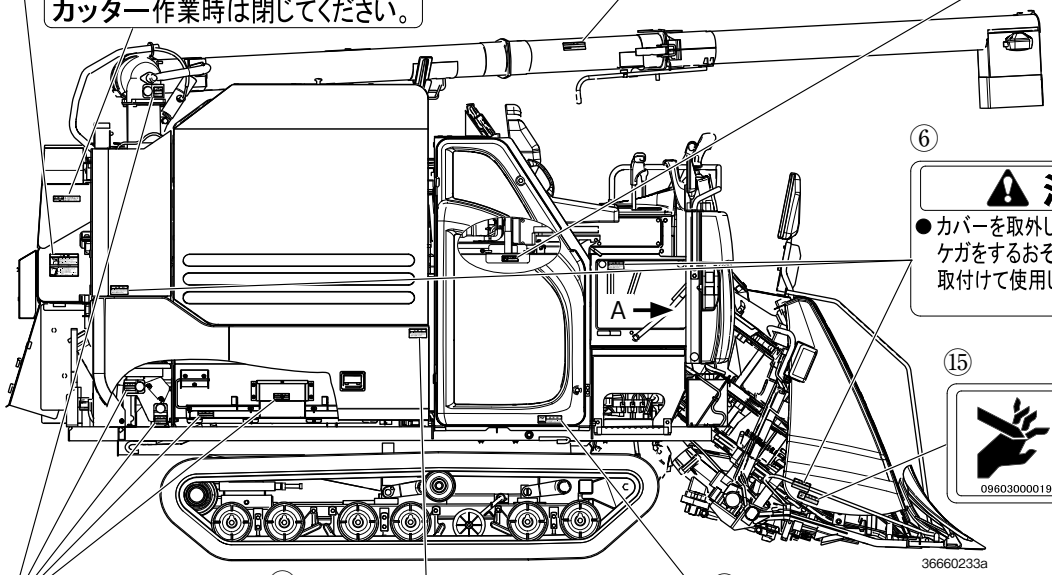
35538556200

⑫

⚠ 警　告

●エンジンが熱い時はキャップを開けないでください。

09603200013



36660233a

⑥

⚠ 注　意

●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

09603100017

⑮

⚠ 危　険

●刃部に手をかけないでください。
●着脱作業時は手袋をしてください。

09603000019

⑭

⚠ 注　意

●開閉する時はエンジンを停止してください。

掃除口

35868537500

⑥

⚠ 注　意

●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

09603100017

④

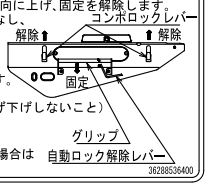
⚠ 注　意

●やけどをするのでマフラー、フィンなどの高温部にふれないでください。

09603100027

⑭
注 意
●開閉する時はエンジンを停止してください。
掃除口
35868537500

⑯
注 意
● 開閉する時はエンジンを停止してください。
● カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。
ワラ切鎌交換カ所

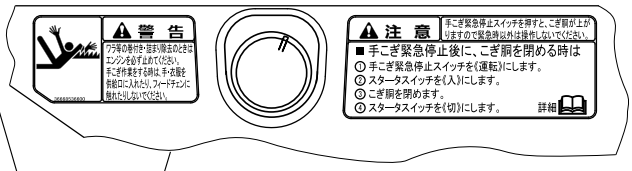
こぎ胴の開閉
⊙ こぎ胴部を開く時は
1. コンボロックレバーを**左右同時に**《開く》の方向に上げ、固定を解除します。
2. グリップでこぎ胴を持ち上げゆっくり手をはなし、ロックが掛かったことを確認します。
⊙ こぎ胴部を閉める時は
1. グリップでこぎ胴を一杯持ち上げ、自動ロック解除レバーを押し上げたままこぎ胴を下げます。
2. グリップでこぎ胴をおろすと自動固定します。（コンボロックレバーを持って、こぎ胴を上げ下げしないこと）
3. **コンボロックレバー(2ヶ所)を必ず下にさげてコンボロック位置にあることを確認してください。**
4. コンボロックレバーがコンボロック位置にない場合は開く・閉めるの動作を繰り返してください。


36288536400

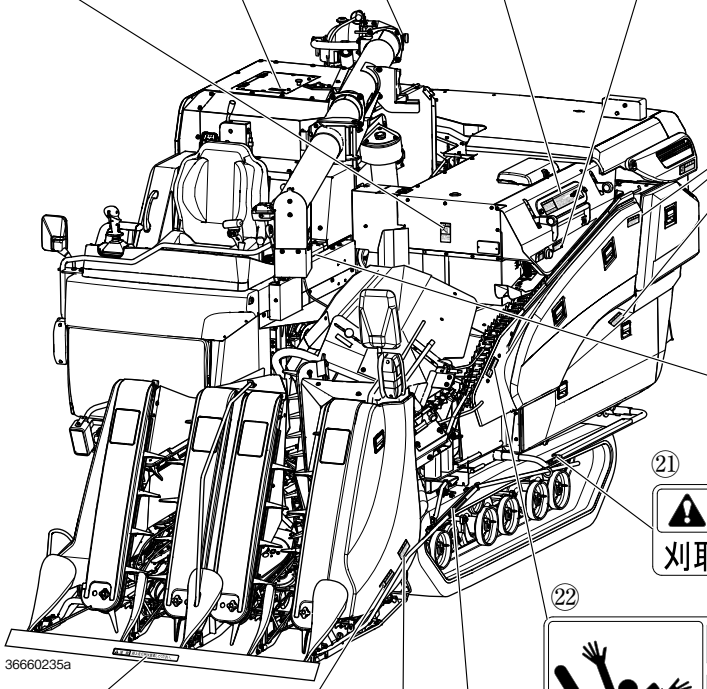
⑰
注 意
●開閉する時はエンジンを停止してください。
09603100015

⑱
警 告

●こぎ胴が回転しているときは、手・衣服等を近づけないでください。
09603200034

⑲


⑥
注 意
●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。
09603100017


36660235a

⑳
注 意
●排出オーガは手押し厳禁
●排出オーガの旋回は周囲を確認
●排出中は手を排出口に近づけない
35448538300

㉑
35448528100
注 意 路上走行時は収納
刈取作業時は乗らないでください。

㉒

35878524000
警 告
● ワラ等の巻付き・詰まり除去のときは、エンジンを必ず止めてください。
● 手こぎ作業をする時は、手・衣服を供給口に入れたり、フィードチェンに触れたりしないでください。

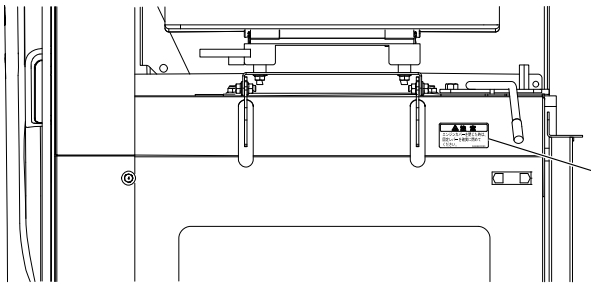
㉔
注 意 路上走行時は装着してください。
09603100023

⑮

09603000019
危 険
●刃部に手をかけないでください。
●着脱作業時は手袋をしてください。

㉓
注 意 路上走行時は収納してください。
09603100024

⑥
注 意
●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。
09603100017

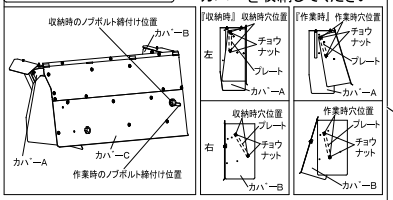

36661010
シート下

㉞
注 意
エンジンカバーを閉じた時は、固定レバーを確実に閉めてください。
36988502000

㉕

注 意

● 路上走行の時は
カバーを収納してください

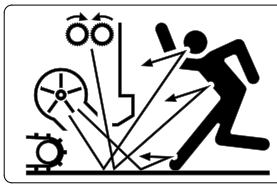


● 収納時には、1. カバーA、Bのチョウナットを外し、プレートを取り外します。
2. カバーA・Bを内側に折り込みます。
3. プレートを収納時の位置にセットし、チョウナットで止めます。
● 作業時には、逆の手順でカバーを開いてください。

35928626000

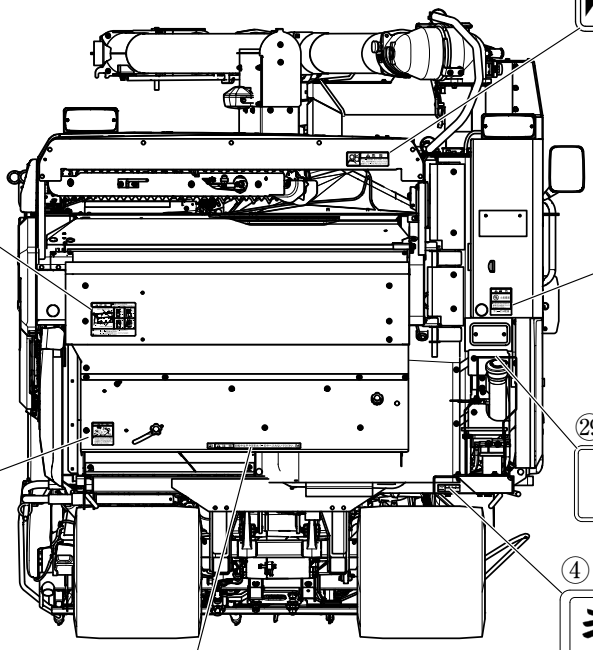
㉖

注 意



● 排じんファンやカッタにより飛散する排出物（作物屑や小石等の異物）でケガをするおそれがあります。
脱穀運転中は、排出物が飛散する付近に近づかないでください。

35328557000



36660181

㉗

危 険

● カッター部点検の際は、各クラッチを切り、エンジンを停止し、各部の作動が停止してから行なってください。
●回転中は、カバーの中に手を入れないでください。

35518658000

㉘

警 告

火気厳禁

●火災のおそれがあるので給油するときはエンジンを止めてください。

ディーゼル軽油

35878542000

㉙

35598523500

注 意 乗らないでください

④

注 意

●やけどをするのでマフラー、フィンなどの高温部にふれないでください。

09603100027

㉚

注 意 回転中は手や足をカバーの中へ入れないでください。

09603100020

㉗

危 険

● カッター部点検の際は、各クラッチを切り、エンジンを停止し、各部の作動が停止してから行なってください。
●回転中は、カバーの中に手を入れないでください。

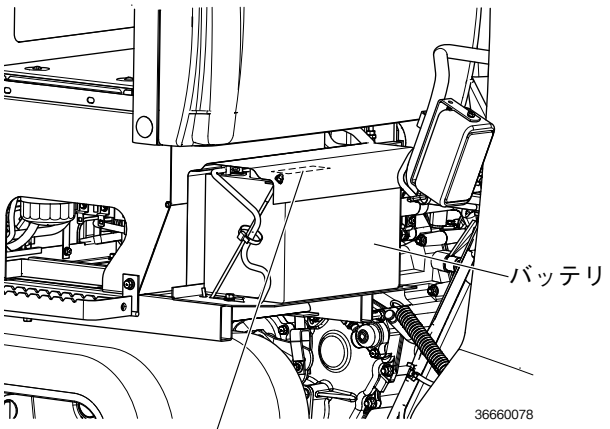
35518658000

㉛

注 意

1．カッタをオープンした時は、カッタを固定させるためロッドで確実にロックしてください。
2．カッタの刃に触れると手、指を切る恐れがあるので、刃に触れないでください。

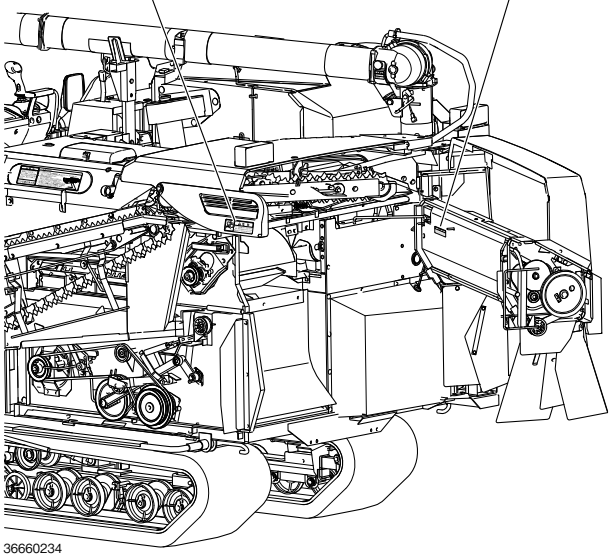
35728592000



36660078

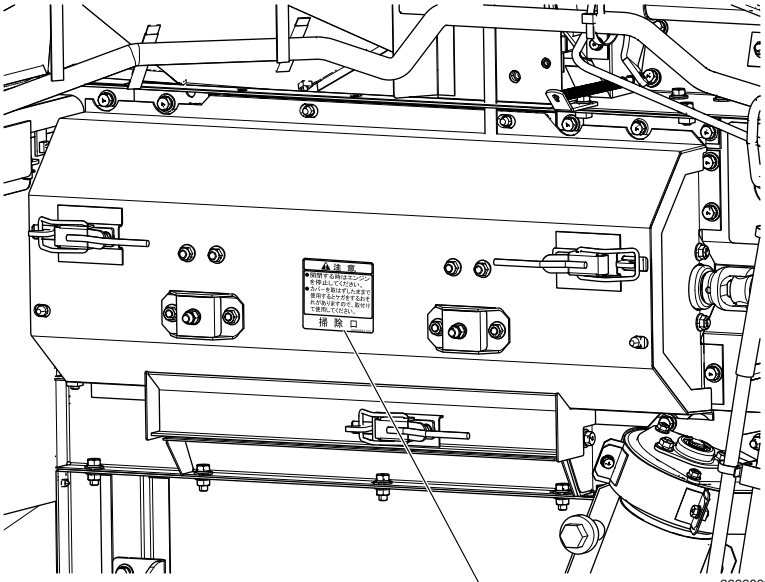
㉝





36660234

［カッタを開いた状態］



36660099

㉜

⚠ 注 意

●開閉する時はエンジンを停止してください。
●カバーを取はずしたままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

掃 除 口

35868527100

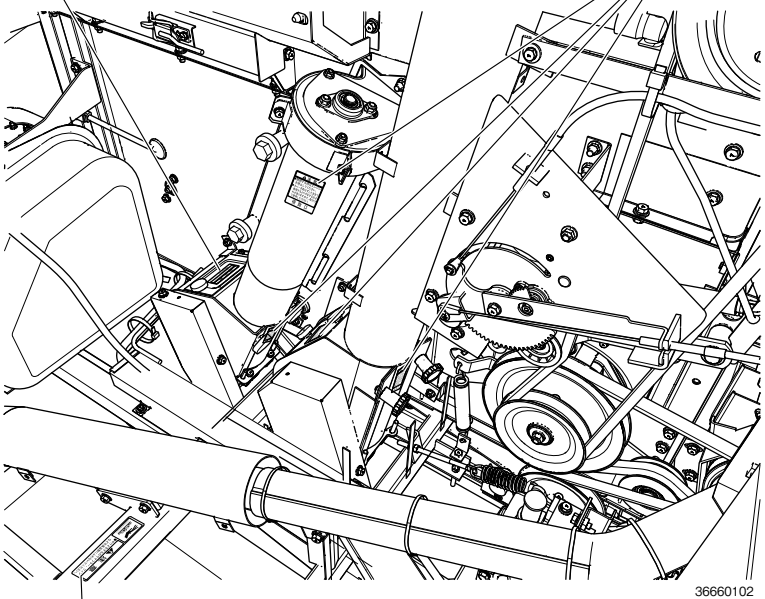
⑭

⚠ 注 意

●開閉する時はエンジンを停止してください。

掃除口

35868537500



36660102

④



⚠ 注 意

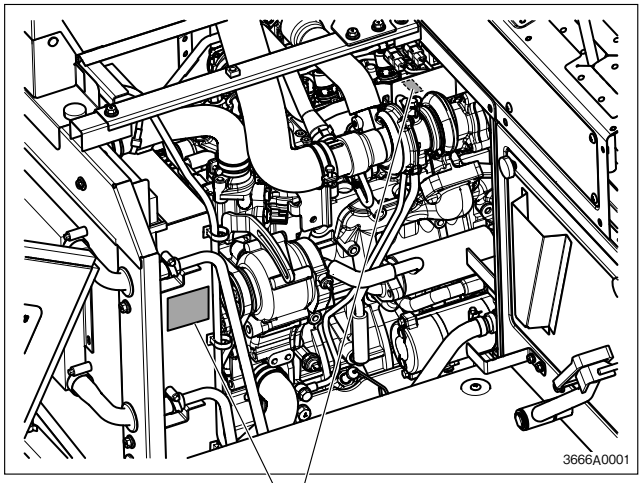
●やけどをするのでマフラー、フィンなどの高温部にふれないでください。

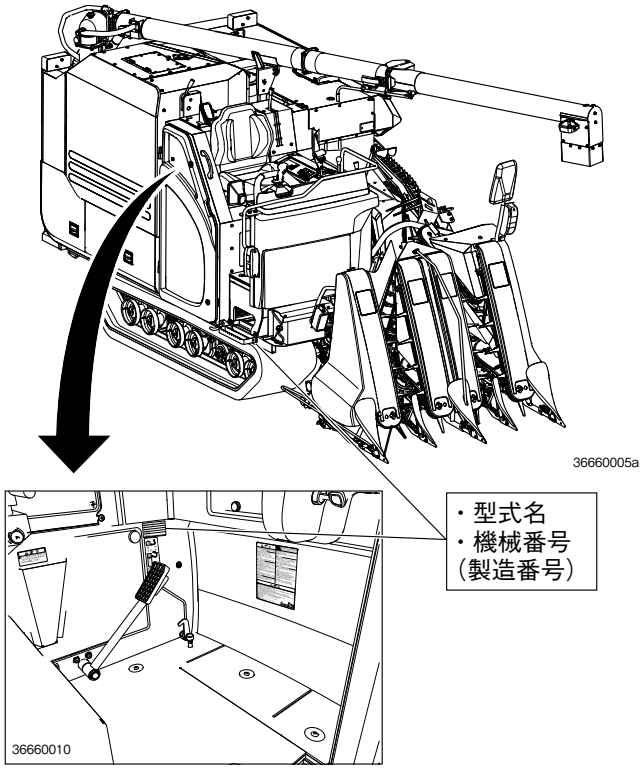
No.	部 品 名 称	部 品 番 号	備 考
①	LABEL, CAUTION DPF	3666 8538 100	
②	LABEL C, ROAD	0960 3100 032	
③	ケイコクマーク	3586 8531 700	
④	LABEL C, MUFFLER	0960 3100 027	
⑤	LABEL, CAUTION	3659 8555 100	
⑥	チュウイラベル・カバー	0960 3100 017	
⑦	ケイコクラベル・トリアツカイ	3586 8525 102	
⑧	ケイコクラベル・ストップ	0960 3200 052	
⑨	ケイコクラベル・ハイキ	0960 3200 029	
⑩	キケンラベル・カッター	3592 8557 000	
⑪	チュウイマーク	3544 8656 000	
⑫	ケイコクラベル・ラジエータ	0960 3200 013	
⑬	チュウイラベル	3553 8556 200	
⑭	チュウイラベル	3586 8537 500	
⑮	キケンラベル・カリハ	0960 3000 019	
⑯	LABEL, CAUTION	3628 8536 400	
⑰	チュウイラベル・カイヘイ	0960 3100 015	
⑱	ケイコクラベル・コギドウ	0960 3200 034	
⑲	LABEL, LINE LB	3666 8536 600	
⑳	チュウイマーク	3544 8538 300	
㉑	チュウイマーク	3544 8528 100	
㉒	ケイコクラベル・チェン	3587 8524 000	
㉓	チュウイラベル・シュウノウ	0960 3100 024	
㉔	チュウイラベル・バンパ	0960 3100 023	
㉕	チュウイマーク	3592 8626 000	
㉖	チュウイラベル・ハイジン	3532 8557 000	
㉗	キケンラベル・カッター	3551 8658 000	
㉘	ケイコクラベル・ケイユ	3587 8542 000	
㉙	チュウイラベル	3559 8523 500	
㉚	チュウイラベル・カッタカバー	0960 3100 020	
㉛	チュウイマーク	3572 8592 000	
㉜	チュウイラベル	3586 8527 100	
㉝	キケンラベル・バッテリ	0960 3000 017	
㉞	LABEL, caution	3698 8502 000	

ご使用まえに

1．保証とサービスについて

・この機械には，保証書が添付されていますので，ご使用前によくお読みください。
・この機械のサービスについてのお問い合わせや，部品などのご用命のときは，「**お買いあげ先**」にご相談ください。その際「**型式名**」・「**機械番号（製造番号）**」と「**エンジン番号**」をお知らせください。





・補修用部品の供給年限について

・この製品（機械）の補修用部品の供給年限（期間）は，製造打ち切り後11年といたします。
但し，エンジン部品については，製造打ち切り後９年といたします。
※供給年限内でも特別な事情により供給できない部品も一部ございます。詳しくは三菱農業機械取扱店までお問い合わせください。
・補修用部品の供給は，原則的には，上記の供給年限で終了いたしますが，供給年限経過後であっても，部品供給のご要請があった場合には，納期および価格についてご相談させていただきます。

・機械の使用目的について

・この機械は，**稲・麦の収穫作業**以外には使用しないでください。
・この機械を使用目的以外の作業に使用したり，改造した場合は，保証の対象となりませんのでご注意ください。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆機械を使用目的以外の作業に，使用しないでください。
◆機械を改造しないでください。
◆使用目的以外の作業や改造すると，本来の機能を発揮できないばかりか，人身事故の原因になることがあります。

2. 仕様（装備）について

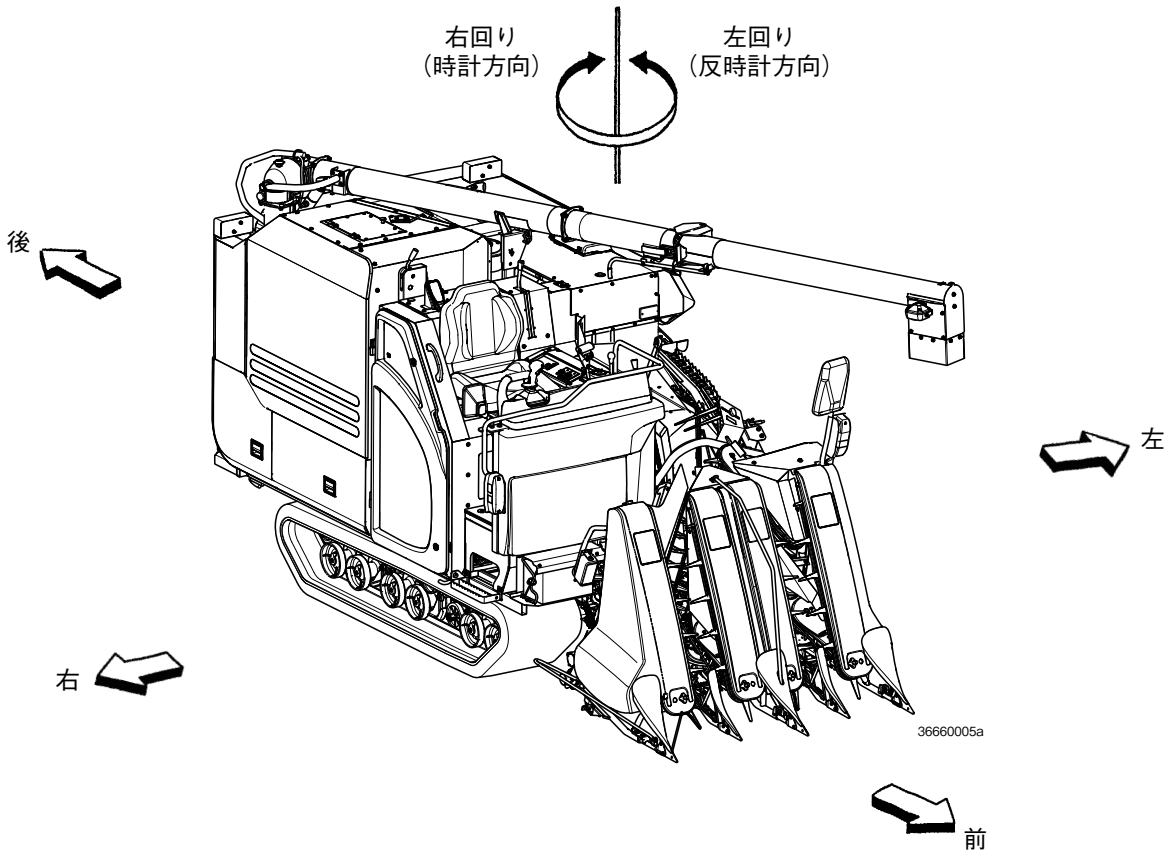
・主な仕様（装備）は，次のようになっています。
仕様の異なる型式の場合は，都度［○○**仕様**］表示で型式を示し追加説明していますので，お買いあげの機械の型式をお確かめのうえ，お間違えのないようにお読みください。
・お買いあげの機械の型式と主な仕様の違いを，次の表でお確かめください。

	主な仕様と																														
	エンジン					走行系														操作系									刈取部		
	型式	出力	コモンレールシステム	DPF	エンジンルームオープン	作業速度1.3m／s	HST+副変速2段	クローラ			舟形クローラ	フルモードターン	可動転輪	グリスアップ転輪	グリスアップアイドラ	オイルバスアイドラ	最低地上高（190～290㎜）	主変速レバー中立戻し機能	旋回ダイヤル	マルチステアリング	ジャストディレクタ	DX座席シート	ナローガイド手元操作	排ワラ切替手元操作	負荷モニター	籾充填モニター	後進上昇機能	操作部バックライト	中分草ガイド	3段かき込み搬送	ニューツインハーモニシステム
								ハイラグ 400㎜	ハイラグ 450㎜	幅広ロング480㎜																					
V450AET	D1803	50.3	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
V450ALYM			○	○	○	○	○		○		○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
V450ALYWM			○	○	○	○	○			○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

| 型式記号 | | |

3. 用語について

⑴ この取扱説明書に使用している**「前後・左右・右回り・左回り」**などの用語は，図示のとおりです。



⑵ **型式表示**

・この取扱説明書は，V450A型LYM仕様を基本に説明しています。

・区分により仕様（装備）が異なるため，取扱い方法が変わる点は，そのつど［**Y仕様**］などで表示し，追加説明しています。

⑶ **マークの説明**

この取扱説明書では，その都度守っていただきたい事柄を，次のマークを使用して説明しています。

・**⚠危険** **⚠警告** **⚠注意**……安全上重要な事項を，3段階に分けて説明していますので，必ず読んでください。

・**取扱いのポイント** ……機械の機能・性能上に関する説明です。守らないと，故障の原因になることがあります。

4. 小型特殊自動車について

このコンバインは，「**小型特殊自動車**」に該当し，道路運送車両法に適合していますので公道走行ができます。

1. 小型特殊自動車の届出

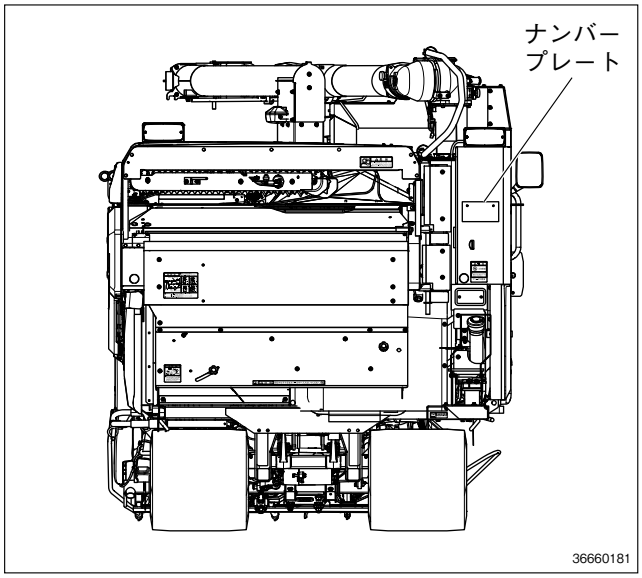
❶ 小型特殊自動車取得の届出とナンバープレートの取付け

新たにコンバインを購入された方または，所有者となられた方は，市（町・村）条例により，その取得を市（町・村）役所に届出し，ナンバープレートの交付を受けなければなりません。

・手続きは，市（町・村）により多少異なりますので，詳しいことは「**市（町・村）役所**」または「**お買いあげ先**」に相談してください。

小型特殊自動車の取得証明書，または売渡・販売証明書など（「**お買いあげ先**」で準備します）を添えて，市（町・村）役所に届出し，ナンバープレートの交付を受けます。

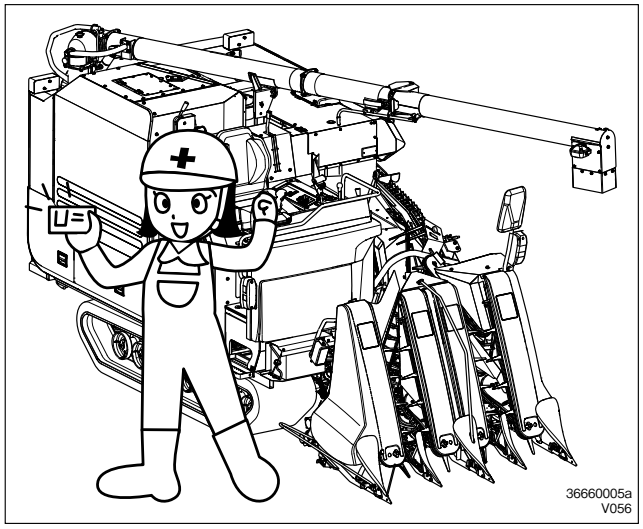
ナンバープレートは，機械の指定された位置に取付けます。



2. 公道走行するために

❶ 公道を走行するときは，「**大型特殊自動車の運転免許**」が必要です。運転免許証を所持してください。

「**小型特殊自動車**」の運転免許では運転できません。



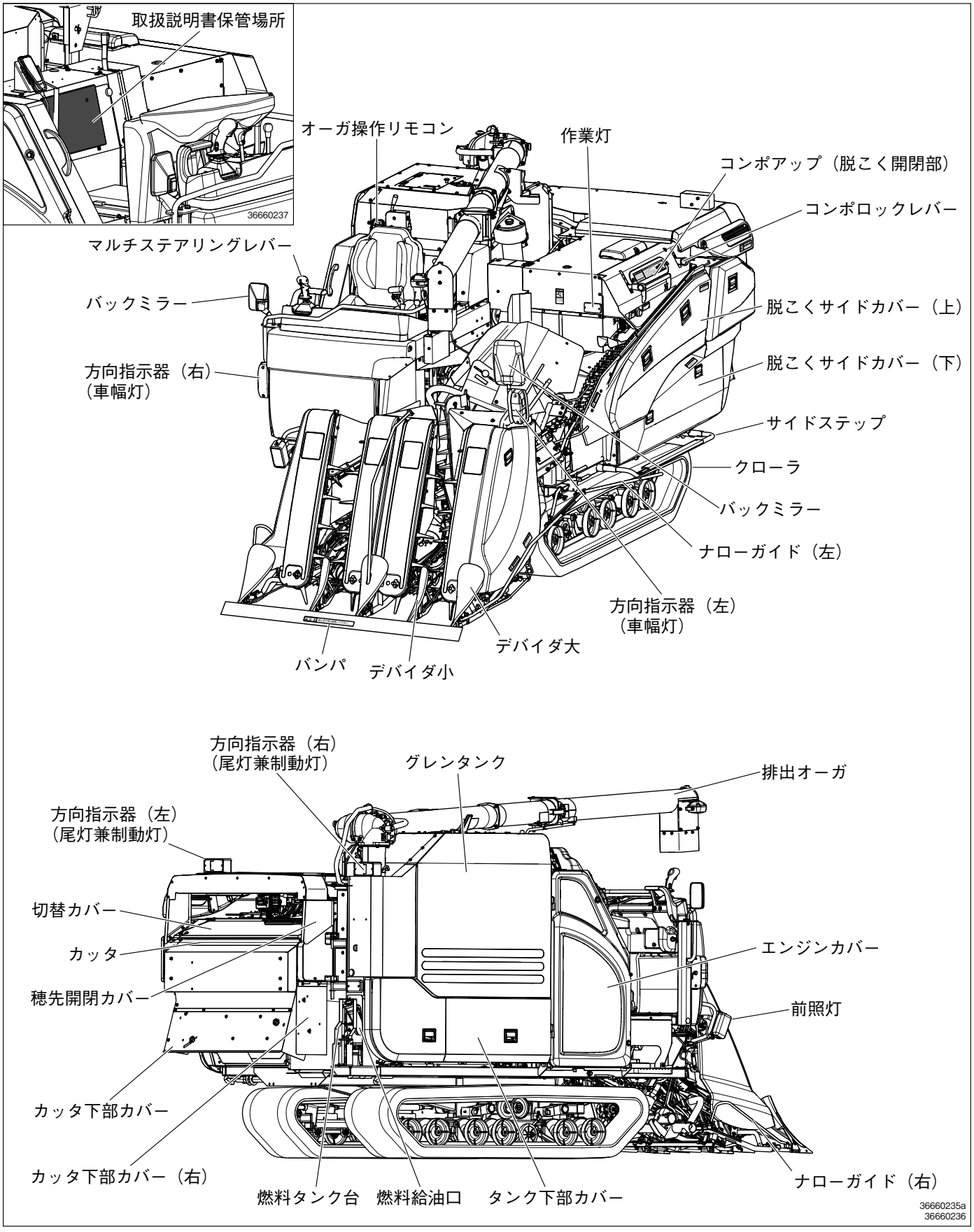
❷ 指定の作業機（カッタ）以外の作業機を取付けた状態では，公道走行はできません。

❸ 任意保険のお勧め

万一の交通事故に備え，任意保険に加入されるようお勧めします。

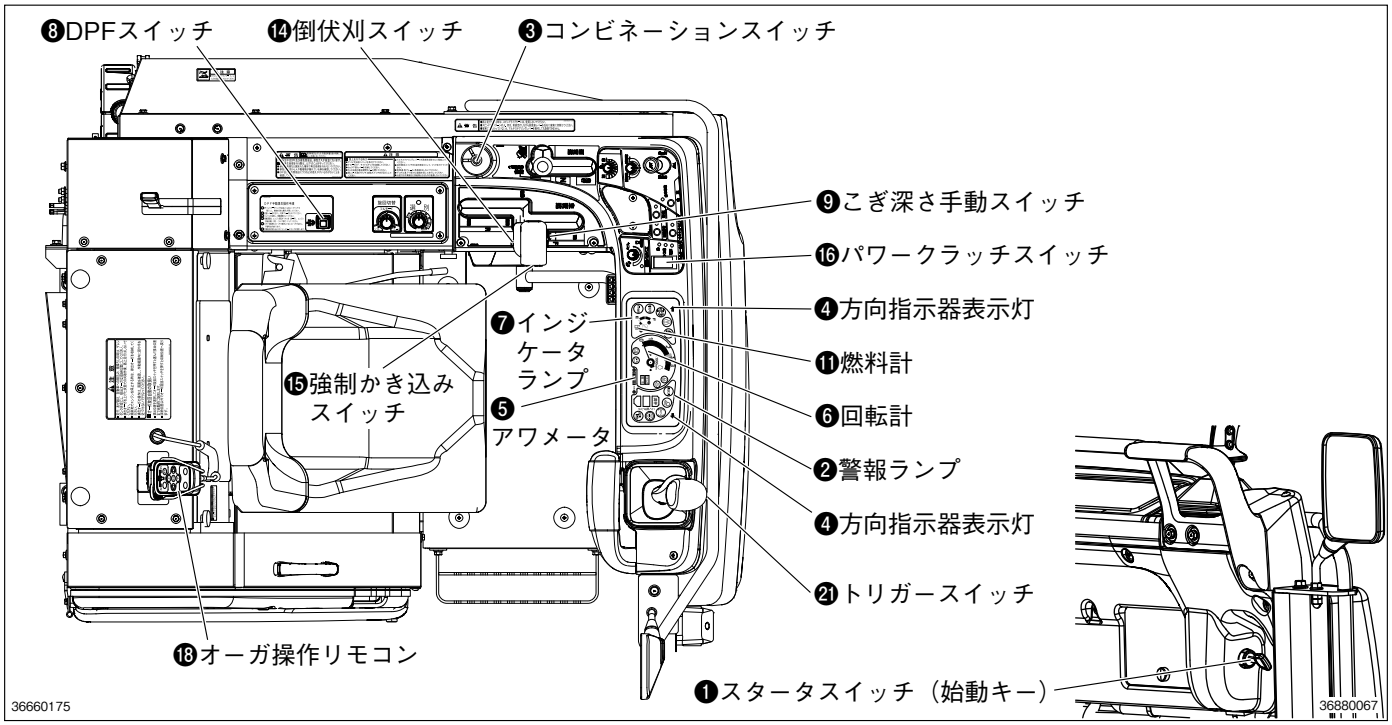
各部のはたらき

1．各部の名称



2. 運転装置の取扱い

1. スイッチ・計器関係



❶ スタータスイッチ（始動キー）

《**切**》……電源切（エンジン停止）

スタータスイッチを《**切**》にするとエンジンが停止します。

《ＡＣＣ》……アクセサリ

使用しません。

《**入**》……電源入（運転中・予熱）

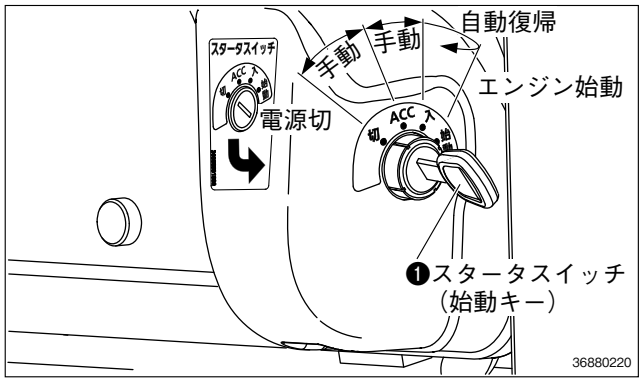
スタータスイッチを《**入**》にすると，メータ内の予熱ランプが点灯し，エンジンを予熱します。

約0.1秒～10秒（温度による）で，予熱が完了すると消灯します。

《**始動**》……エンジン始動

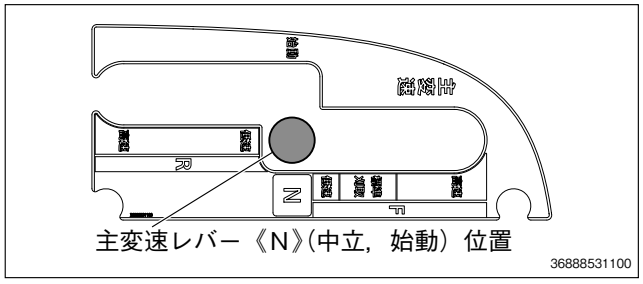
スタータスイッチを《**始動**》位置に回すと，エンジンが始動します。

手を放せば，自動的に《**入**》位置に戻ります。

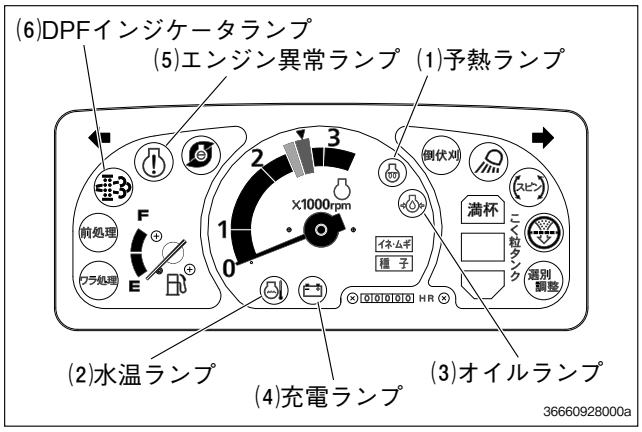


取扱いのポイント

●主変速レバーを《N》(中立，始動)(前進側N位置）にしこく粒排出レバーを《切》位置にして，走行クラッチペダルをいっぱい踏込まないとエンジンは始動しません。



❷ 警報ランプ



(1) 予熱ランプ



スタータスイッチを《**入**》位置にすると，点灯してエンジンの予熱の状態を示します。予熱の時間は外気温により異なります。

(2) 水温ランプ



エンジンの冷却水温度が異常に上昇（**オーバーヒート**）すると，「**点灯**」し，警報ブザーが鳴ります。

取扱いのポイント

- **運転中にランプが点灯し警報ブザーが鳴ったら直ちに作業を中止し，温度が下がるまでエンジンのみ「低速運転」してください。（警報ブザーは連続音から断続音になります）**
- **冷却水温度が下がり，ランプが消灯したら，エンジンを停止し，エンジンが冷えてからエンジンカバー，ラジエータフィン，オイルクーラフィンなどのラジエータ吸気部のゴミ付着（101ページ参照）・エンジンファンベルトの張り（145ページ参照），および冷却水（補助タンク）の水量などを点検してください。**

(3) オイルランプ



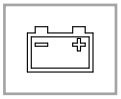
エンジン運転中，エンジンの潤滑系統に異常があれば「**点灯**」し警報ブザーが鳴ります。

正常なときは，スタータスイッチを《**入**》位置にすると１回点灯し，直ぐに消灯します。

取扱いのポイント

- **運転中に点灯し警報ブザーが鳴ったら，直ちにエンジンを停止しエンジンオイル量を点検してください。（88～89ページ参照）**
- **オイル量が適量であれば，ほかに異常があります。「お買いあげ先」にて点検を受けてください。**

(4) 充電ランプ



エンジン運転中，充電系統に異常があると点灯します。

正常なときは，スタータスイッチを《**入**》位置にすると「**点灯**」し，エンジンが始動すると消灯します。

取扱いのポイント

- **エンジンの運転中に連続点灯するときは，エンジンを停止し，エンジンファンベルトの張りを点検し，調整してください。（145ページ参照）**
- **エンジンファンベルトが正常であれば，ほかに異常があります。直ちに「お買いあげ先」にて点検を受けてください。**

⑸ エンジン異常ランプ



このランプは，２つの機能を持っています。もしランプが点灯した場合，原因がどちらにあるか調べ，適切な処置を行なってください。

[エンジン・コントロールシステムの異常]

運転中，水温ランプは消灯しているが，エンジン異常ランプが点灯した場合，いったんエンジンを止め，再始動を行なってください。エンジン異常ランプが消灯しない場合，直ちに**「お買いあげ先」**にて点検を受けてください。

取扱いのポイント

エンジン異常ランプが点灯時，エンジンの故障箇所により下記現象が現れます。

- **エンジンが突然止まった。**
- **エンジンが再始動できない。または始動してもすぐ止まる。**
- **エンジン出力が充分でない。**
- **エンジン出力は充分あるがエンジン異常ランプが点灯する。**
- **エンジン出力が充分でない場合，直ちに作業を中断し，安全な場所にコンバインを移動し，エンジンを止めてください。**

[エンジンのオーバーヒート]

水温ランプが点灯し，エンジン異常ランプが点灯した場合，エンジンのオーバーヒートが予測されます。

「不調時の処置」のエンジン部項を参照し，コンバインを点検してください。

⑹ DPF（ディーゼル･パティキュレート･フィルタ）インジケータランプ



このランプは２つの機能を持っています。

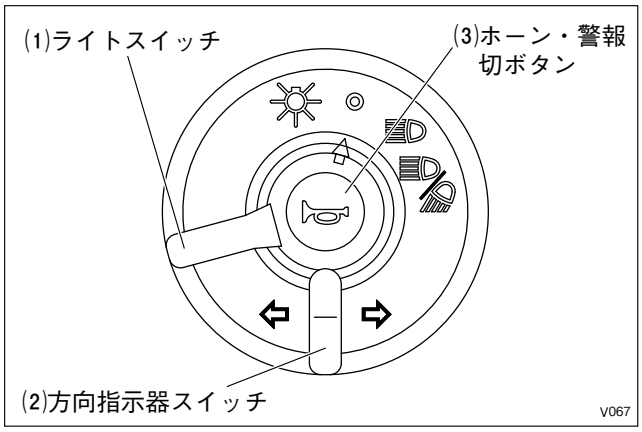
[手動再生要求]

DPF内に一定量のＰＭ（ススなど粒子状物質）が堆積しDPFの手動再生処理が必要なとき，ランプが点滅します。ランプが点滅した場合は，手動再生処理を行って堆積したＰＭを除去してください。（再生手順の詳細は32～33ページ参照）

[再生処理中表示]

自動再生処理および手動再生処理を開始すると点灯し，自動再生処理または手動再生の手順が終了すると消灯します。

❸ コンビネーションスイッチ



(1) ライトスイッチ

《 ◎ 》……消灯

《 ≣D 》……回転計の照明・前照灯が点灯します。

《 ≣D 》……回転計の照明が点灯し，前照灯およびすべての作業灯が点灯します。

(2) 方向指示器スイッチ

方向指示器（左），（右）を点滅させます。

右折，左折のときに使用します。

(3) ホーン・警報切ボタン

・スタータスイッチを《**入**》の位置にして，ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。走行するときの警報，作業時の合図に使用します。

・こく粒タンクランプの点灯（タンク満杯），および警報ブザーが鳴ったとき，このボタンを押すと警報ブザーが鳴り止みます。

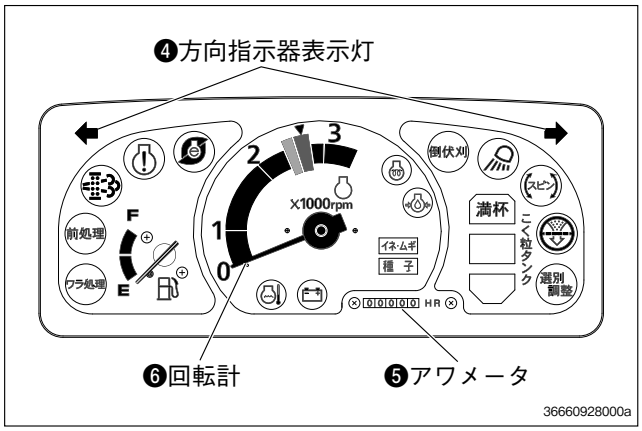
またDPFインジケータランプがゆっくり（1秒間に1回）点滅し，警報ブザーが間欠的に鳴ったときも，このボタンを押すと警報ブザーが鳴り止みます。

取扱いのポイント

●つぎの場合は，警報切ボタンを押しても鳴り止みません。右記の方法で警報音が止まります。

●警報時の点検と処置については，66ページをご参照ください。

警報機能	警報音停止方法
・水温ランプ点灯（オーバーヒート）	水温が下がるまでエンジンを「低速運転」し，スタータスイッチを《切》位置にする。
・オイルランプ点灯	エンジンオイルを給油します。
・ワラ処理ランプ点灯 排ワラ詰まり， 脱こく搬送詰まり， 排ワラ切替カバー後方回動 ランプ点滅 (ノッタひも切れ)	パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《切》にする。
・エコランプ点滅（エンジン負荷ランプ）（12ページ参照）	走行速度を下げる。
・倒伏刈ランプ点滅	刈取部または脱こくフィードチェン搬送部の前部の詰まりを取除きます。
・前処理ランプ点灯	こぎ深さ搬送部の詰まりを取除きます。
・DPFインジケータランプが早く（1秒間に2回）点滅	DPFの手動再生を行います。



❹ 方向指示器表示灯

方向指示器が点滅すると同時に点滅します。

❺ アワメータ

機械の運転の積算時間（スタータスイッチ《入》時間）を示します。

積算時間を目安に定期点検整備を行います。

❻ 回転計

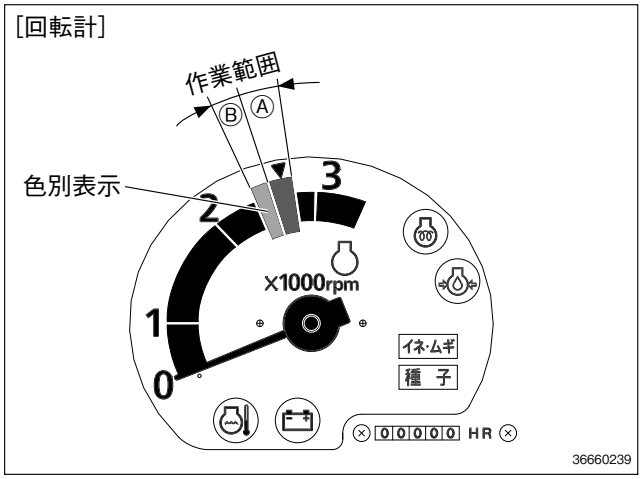
１分間のエンジン回転数を示します。

回転数は，イネ・ムギ（大麦・小麦・ビール麦・裸麦），種子など，刈取る作物によって色別表示がしてあります。

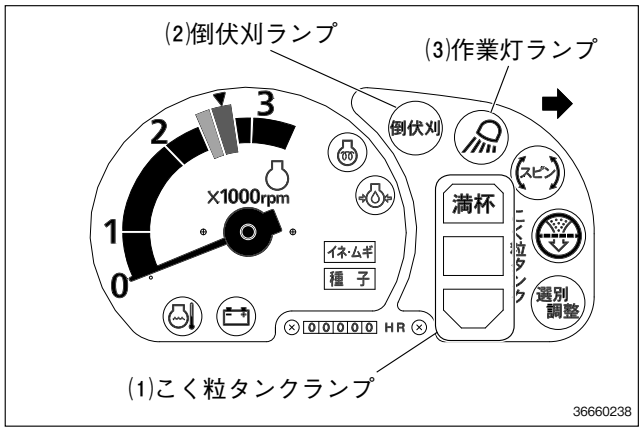
こく粒の排出も色別表示の回転数で行います。

・イネ・ムギ（大麦・小麦・ビール麦・裸麦）の場合……Ⓐの範囲（黄色）

・種子の場合……Ⓑの範囲（緑色）



❼ インジケータランプ



(1) こく粒タンクランプ

グレンタンク内のこく粒量を表示するランプで，こく粒量が増していくと，ランプも□→□→満杯の順に点灯します。

□ランプが点灯した後，しばらく刈取作業を続けると，方向指示器全てが点滅します。

満杯時には，ランプの点灯と警報ブザーの断続音で知らせます。

そのまま作業を続けると，オーバーフローセンサが作動し，エンジンが停止します。

取扱いのポイント

- **最初の警報ブザーが鳴ったら，刈取り作業を中止し，グレンタンク内のこく粒を排出してください。**
- **最初の警報ブザーは，警報切ボタンを押すと鳴り止みます。**
- **エンジンが停止した場合は，主変速レバーを《N》（中立，始動）位置にし，走行クラッチペダルをいっぱい踏込むと，エンジンを再始動できます。その後，こく粒を排出してください。**

(2) 倒伏刈ランプ

倒伏刈

主変速グリップの倒伏刈スイッチを押して《入》にすると，倒伏刈ランプが点灯し，刈取部の速度が通常より速くなります。

刈取部または脱こくフィードチェン搬送部の前部に詰まりが発生すると，ランプが点滅し，警報ブザーの断続音が鳴り，エンジンが停止します。

取扱いのポイント

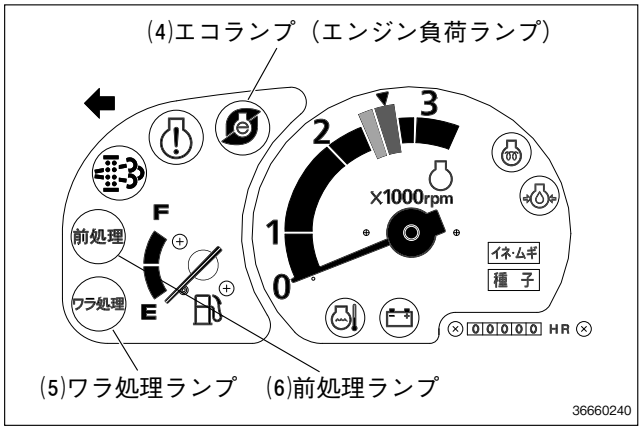
- **通常の刈取りで刈取部速度が最高速に達しているときは倒伏刈スイッチを《入》としても，それ以上は速くなりません。**
- **搬送部に詰まりが発生した場合は，スタータスイッチを《切》位置にし，詰まりを取除いてください。**

⑶ **作業灯ランプ**



スタータスイッチを《**入**》位置にし，コンビネーションスイッチを２段回すと作業灯表示ランプが点灯し，作業灯が点灯します。

・路上走行時は，作業灯を消灯します。



⑷ **エコランプ（エンジン負荷ランプ）**



エンジンの負荷状態を知らせるランプです。パワークラッチ《**刈取**》位置のときエンジン負荷が適正であれば点灯します。刈取り作業中，過負荷運転でエンジン回転が下がると，エコランプ（エンジン負荷ランプ）の点滅と警報ブザーの断続音で異常を知らせます。エンジン回転が下がり，モニタランプが点滅し警報ブザーの断続音が鳴ったら，主変速レバーで走行速度を下げます。

取扱いのポイント

- **エンジン回転負荷の警報ブザーは，警報切ボタンを押しても鳴り止みません。走行速度を下げて，エンジンの負荷を軽くすると，ブザーは鳴り止みます。**

⑸ **ワラ処理ランプ**

脱こくフィードチェン終端部または排ワラチェン終端部に詰まり発生や排ワラ切替カバーが後方に開いていると，ワラ処理ランプが点灯し，警報ブザーの連続音が鳴り，エンジンが停止します。

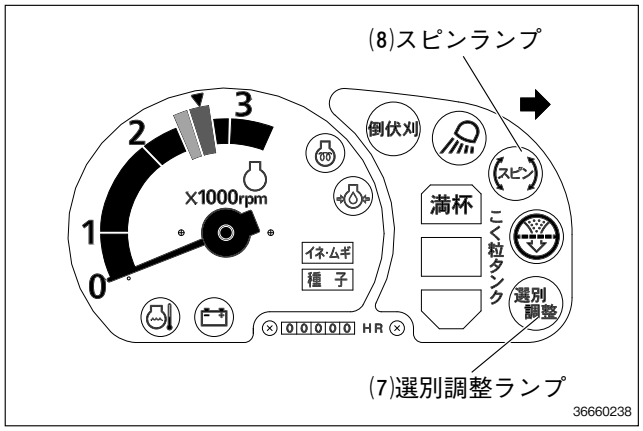
⑹ **前処理ランプ**



こぎ深さ搬送部に詰まりが発生すると，ランプが点灯し，警報ブザーの連続音が鳴り，エンジンが停止します。

取扱いのポイント

- **ワラ処理ランプ，前処理ランプが点灯し，エンジンが停止したら，スタータスイッチを《切》位置にし，詰まりを取除いてください。**
- **主変速レバーを《N》(中立，始動）位置にし，走行クラッチペダルをいっぱい踏込むと，エンジンを再始動できます。**



⑺ **選別調整ランプ**



選別部が過負荷のときに点滅します。作業速度を下げるか，選別ダイヤルを「**開**」側に回します。

取扱いのポイント

- **処理後もランプが点滅するときは，「お買いあげ先」で点検を受けてください。**

⑻ スピンランプ



副変速レバーをスピン位置にするとランプが点灯し，マルチステアリングレバーを左，右にいっぱいに倒した状態にするとスピンターンが作動します。

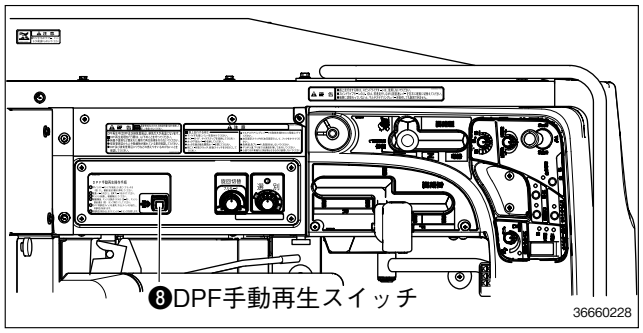
❽ DPF（ディーゼル・パティキュレート・フィルタ）手動再生スイッチ

⚠警告 傷害事故防止のために

◆DPF再生中は，排気管やマフラなどが高温状態になり，火傷や火災が発生する原因になると共に排気ガスによる中毒になる恐れがあります。下記の事項を遵守してください。

- ●納屋や倉庫など換気の悪い場所では，再生処理を行なわないでください。
- ●再生処理を行なう前には，排気管やマフラおよび周辺部に，発火する原因となる燃えやすいゴミなどがあれば取除いてください。
- ●DPF再生中は，排気管やマフラおよび周辺部に人を近付けないでください。また，コンバインからは離れないでください。
- ●DPF再生中とその直後３分程度は，手こぎ作業をしないでください。再生処理の直後はまだ排気管やマフラが高温です。
- ●一日の作業終了後は排気管やDPFおよびその周辺にワラなどの燃えやすいものが溜まっていないか点検し，溜まっていたら掃除して取除いてください。
- ●DPF再生中とその直後は排気管やマフラが高温になっています。シートをかけたり保管する場合は冷えてから行ってください。

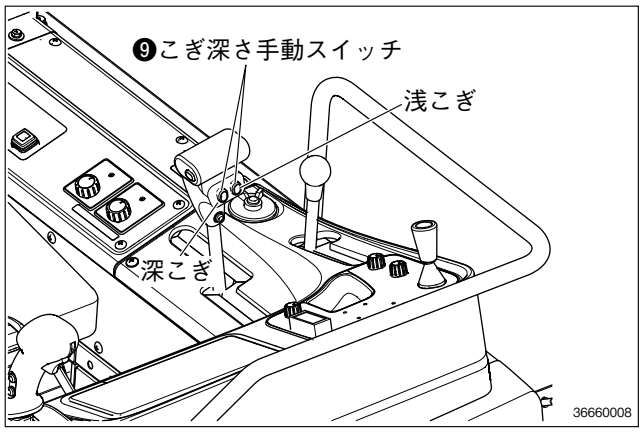
ＰＭ（ススなど粒子状物質）がDPF内に一定量堆積すると，DPFインジケータランプが点滅すると同時に警報ブザーが鳴ります。その際にＰＭを除去するため，手動再生処理を行なうスイッチです。



手動再生処理を行なうとき，手動再生条件にセットしてDPF手動再生スイッチを長押し（１秒以上）すると，DPFインジケータランプが点滅から点灯に切換わり手動再生処理が始まります。再生の手順が終わると，DPFインジケータランプは消灯します。（再生手順の詳細は32～33ページ参照）

❾ こぎ深さ手動スイッチ

作物の長さに合わせて，脱こく部へ供給される作物の穂の位置を，手動で調整するスイッチです。

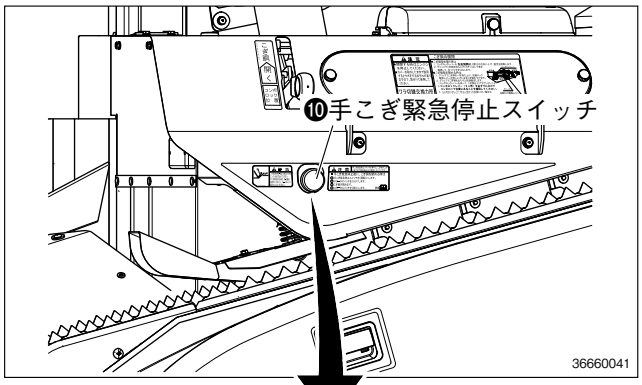


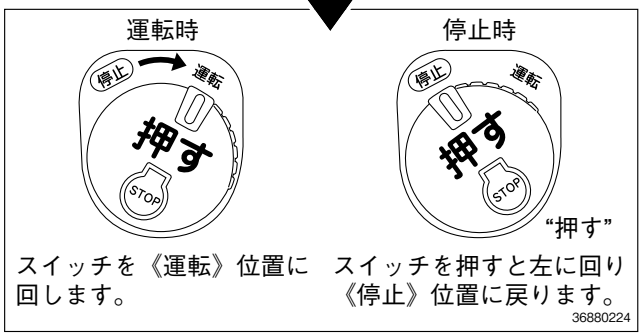
⑩ 手こぎ緊急停止スイッチ

⚠注意 傷害事故防止のために

◆手こぎ緊急停止スイッチを押すと，こぎ胴が上がりますので緊急時以外は操作しないでください。

手こぎ作業時などのトラブル発生時に，このスイッチを押すと，エンジンが停止し，こぎ胴部の固定が解除されます。





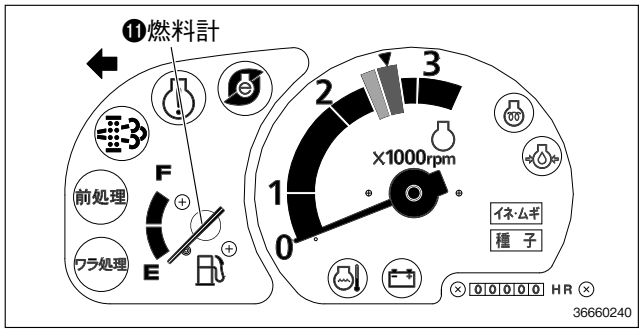
・運転前に手こぎ緊急停止スイッチを《**運転**》位置にします。

取扱いのポイント

- **手こぎ緊急停止スイッチは，パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチが《脱こく》または《刈取》位置のときに作動します。**
- **手こぎ緊急停止スイッチでエンジンを停止したときは手こぎ緊急停止スイッチを《運転》にした後，スタータスイッチを《切》位置にしてください。そのまま放置すると，バッテリが放電します。**
- **手こぎ緊急停止スイッチは緊急時以外は操作しないでください。**

⑪ 燃料計

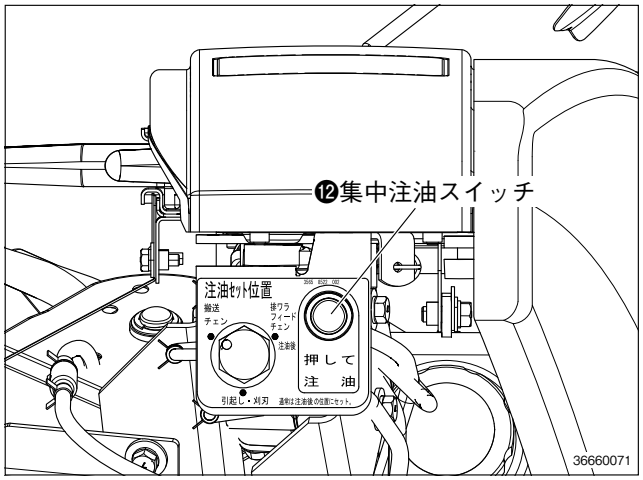
スタータスイッチが《**入**》位置のとき作動し，タンク内の燃料の量を示します。《**F**》は満量（約42Ｌ），《**E**》（ラベル下限）では約５～６Ｌの油量を示します。



取扱いのポイント

- **燃料計が《E》近くになったら早目に燃料を補給してください。**

⑫ 集中注油スイッチ（注油切替ダイヤル）



・集中注油スイッチを押している間だけモータが作動し，刈刃やチェン類に注油します。
・注油切替ダイヤルを回し，注油箇所（排ワラフィードチェン・刈刃・引起し搬送チェン）の切換えを行います。（詳細は，100ページ参照）

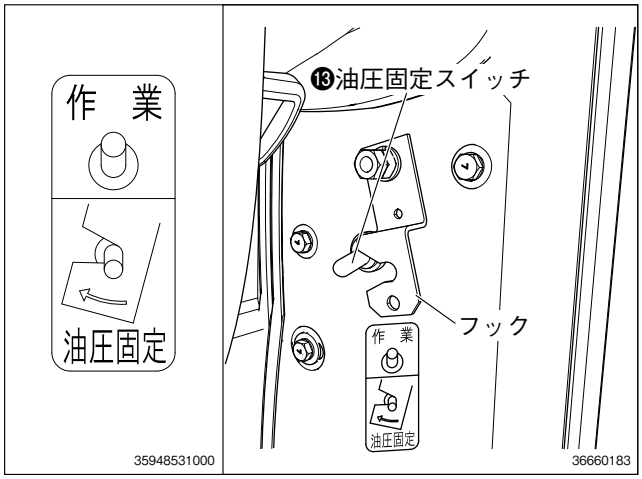
⓭ 油圧固定スイッチ

> **⚠警告** 傷害事故防止のために
>
> ◆刈取部を上げて，その下で整備などするときは，エンジンを停止し，油圧固定スイッチを《油圧固定》の位置にし，フックをかけてください。さらに刈取部が下がらないように刈取部の下に固定脚などをおいて作業してください。
>
> ◆油圧固定スイッチを操作するときは，刈取部付近に人がいないことを確認してください。

刈取部の「**上げ**」・「**下げ**」を固定します。

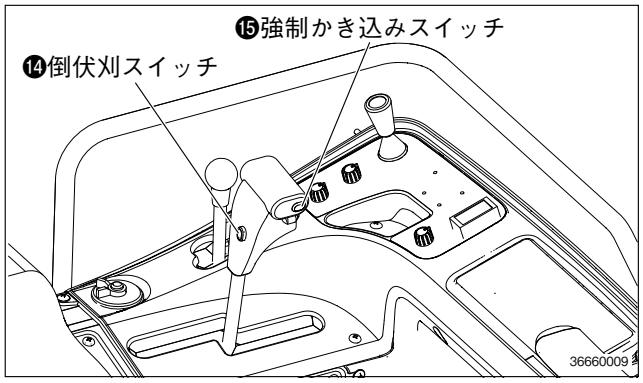
・《**油圧固定**》位置にすると，マルチステアリングレバーを操作しても作動しません。《**油圧固定**》位置にしたときはフックを掛けてください。路上を走行するときは，《**油圧固定**》位置で使用します。

・作業時には，油圧固定スイッチを《**作業**》の位置で使用します。



⓮ 倒伏刈スイッチ

倒伏刈取作業などで，刈取部の速度を通常より速くしたいときは，倒伏刈スイッチを押してください。前パネルの倒伏刈ランプが点灯します。（詳細は，58～59ページ参照）



⓯ 強制かき込みスイッチ

パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチが《**刈取**》位置のとき，走行停止状態，リフトシャット作動時または後進時に刈取搬送および脱こくフィードチェンを作動させたいときは，強制かき込みスイッチを押してください。押しているあいだ作動します。（詳細は，58～59ページ参照）

取扱いのポイント

●刈取走行中は強制かき込みスイッチを操作しないでください。搬送部の詰まりなどの原因になることがあります。

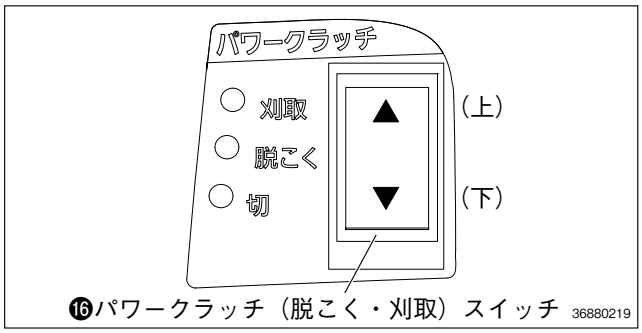
⓰ パワークラッチ（脱こく･刈取）スイッチ

> **⚠警告** 傷害事故防止のために
>
> ◆パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《脱こく》，《刈取》に操作するときは，コンバインの周囲から人を遠ざけてください。

・パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチの▲（上）を1回押すと《**脱こく**》インジケータが点灯し脱こく部が作動します。

・パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチの▲（上）をさらにもう１回押すと《**脱こく**》と《**刈**

取》インジケータが点灯し脱こく部に連動して刈取部が作動します。

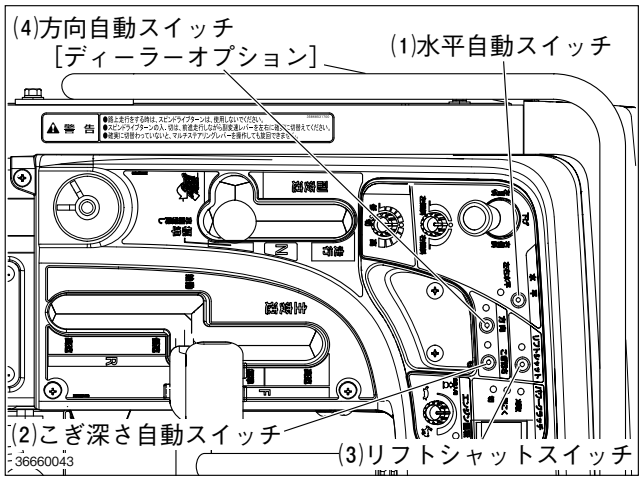


・パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチの▼（下）を1回押すと《**刈取**》インジケータが消灯し《**脱こく**》インジケータのみ点灯し，脱こく部のみが作動します。
・パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチの▼（下）をさらにもう１回押すと《**切**》インジケータが点灯し脱こく部が停止します。
・パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチの▲（上）▼(下）スイッチを長押しするとインジケータが連続して切り替わります。

取扱いのポイント

- **エンジン回転自動《入》時は，パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《脱こく》,《刈取》位置にすると自動的にエンジンが作業回転にセットされます。(詳細は，70ページ参照)**
- **エンジン回転自動《切》時は，パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《脱こく》,《刈取》位置にしてもエンジン回転が作業位置まで上がりませんのでダイヤルで回転数を合せてください。**
- **刈取り作業を行うとき，回転計のそれぞれの「色別表示」(作業範囲）以下では《刈取》位置にしないでください。脱こく部の詰まりの原因となります。**
- **停止時のパワークラッチ（刈取・脱こく）の位置により再始動時にスタータスイッチ《入》で２～３秒の準備時間がかかることがあります。ブザー音でお知らせしますが，異常ではありません。**

⑰ 自動スイッチ



(1) 水平自動スイッチ

水平自動を使用するときは，スイッチを押して，ランプ点灯で使用します。点灯状態から再びスイッチを押すと，ランプが消灯し，自動は働きません。

水平自動スイッチを「**切**」(ランプ消灯）にしたら，水平操作レバーで機体を一番下まで下げます。
(詳細は，76～77ページ参照)

(2) こぎ深さ自動スイッチ

スタータスイッチを《**入**》位置にすると，ランプが点灯し，こぎ深さ自動が「**入**」になります。点灯状態から再びスイッチを押すと，ランプが消灯し，自動は働きません。
(詳細は，71～72ページ参照)

(3) リフトシャットスイッチ

刈取部を上げると刈取搬送，脱こくフィードチェンが停止する機構がリフトシャットです。リフトシャットスイッチを《**入**》にするとランプが点灯します。

取扱いのポイント

- **あぜ際や枕地刈りのときは，リフトシャットを《切》にして行なってください。**
- **刈取作業をする前に，リフトシャットの作動を確認してから，作業を始めてください。**

⑷ 方向自動スイッチ［ディーラーオプション］

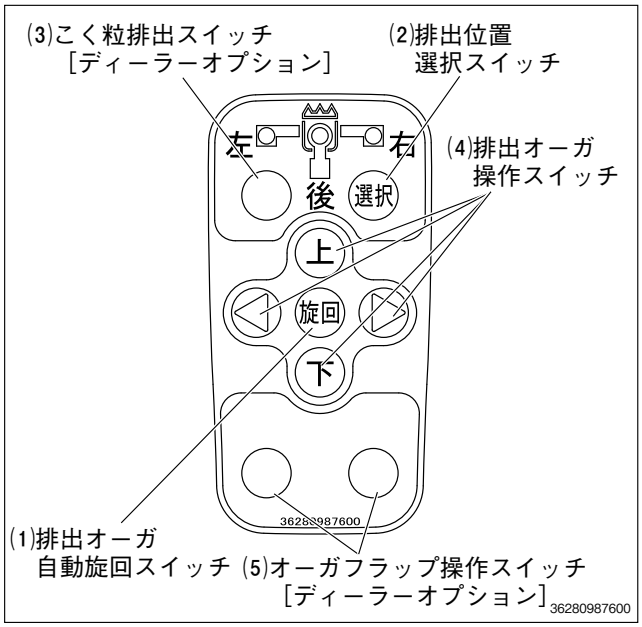
方向自動を使用するときは，スイッチを押して，ランプ点灯で使用します。点灯状態から再びスイッチを押すと，ランプが消灯し，自動は働きません。（詳細は，72～73ページ参照）

⑱ オーガ操作リモコン

⚠注意 傷害事故防止のために

◆排出オーガを操作するときは，排出オーガ固定リングをフックから外して周囲の障害物と衝突しないように行ってください。

◆排出オーガを上げたままでの路上走行や，ほ場の移動はしないでください。上げたままで走行しますと，障害物との衝突により事故となることがあります。また，故障の原因にもなります。



⑴ 排出オーガ自動旋回スイッチ

・排出オーガ収納位置で，自動スイッチを押すと，排出オーガが排出位置まで，自動旋回します。

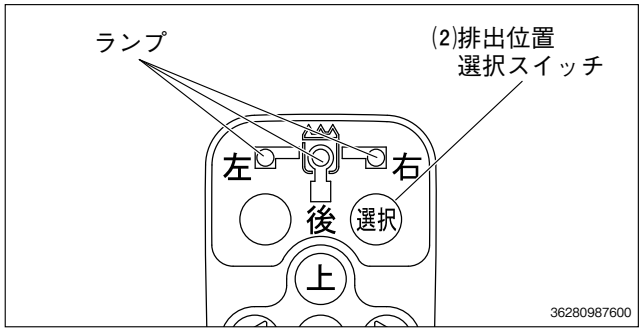
・排出オーガ収納位置以外で，自動スイッチを押すと，排出オーガ収納位置へ戻ります。

・排出オーガ自動旋回中，または自動収納途中で旋回停止を行う場合は，再度，自動スイッチを押すと停止します。（詳細は，79～80ページ参照）

⑵ 排出位置選択スイッチ

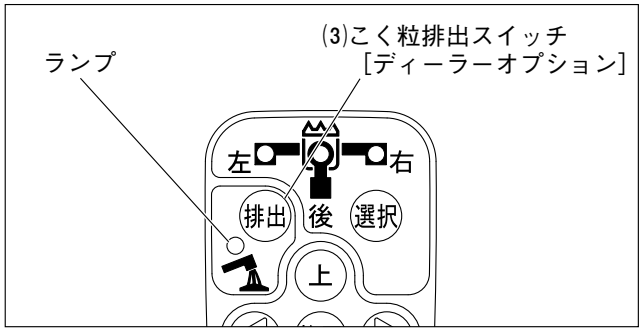
・自動スイッチを押すと排出オーガが自動旋回し，停止する排出位置（「後」「右」「左」の３方向）の選択を行うスイッチです。

・排出位置選択スイッチを押すと
「後」→「右」→「左」→「後」→の順に切換り，ランプが点灯します。



⑶ こく粒排出スイッチ［ディーラーオプション］

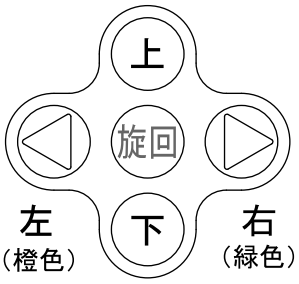
・このスイッチを押すとランプが点灯し，グレンタンク内のこく粒を排出します。再度スイッチを押すとランプが消灯し，排出を停止します。



⑷ 排出オーガ操作スイッチ

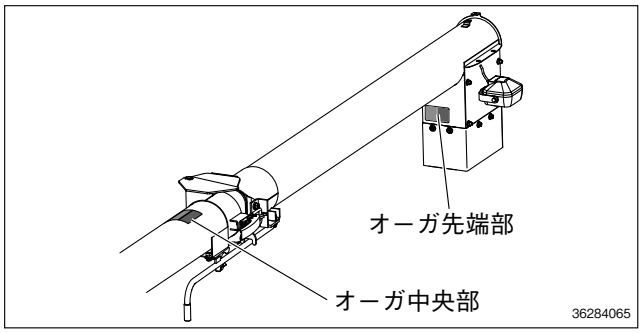
・排出オーガの旋回および上昇・下降の操作を行うスイッチです。

・排出オーガを旋回するときは，排出オーガを上限まで上げてから行います。

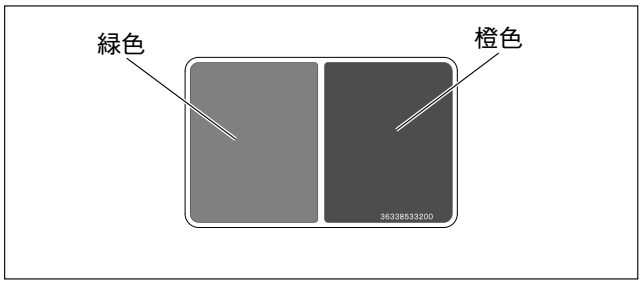


スイッチの操作方向	オーガの動き
上	上昇
下	下降
左	左回り（反時計方向）に旋回
右	右回り（時計方向）に旋回

オーガ操作方向識別ラベル貼付位置（２箇所）

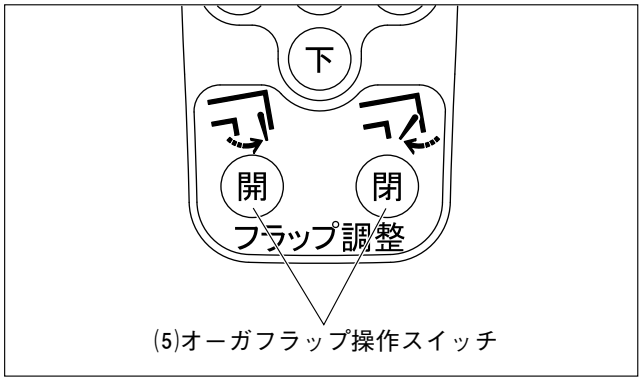


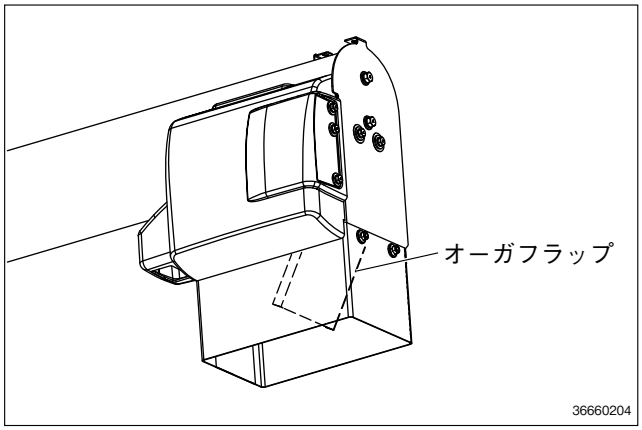
オーガ操作方向識別ラベル



⑸ **オーガフラップ操作スイッチ**
［ディーラーオプション］

・オーガフラップの開閉操作を行うスイッチです。
・オーガフラップを開閉操作し，こく粒排出位置の微調整ができます。
（こく粒排出範囲のみ）



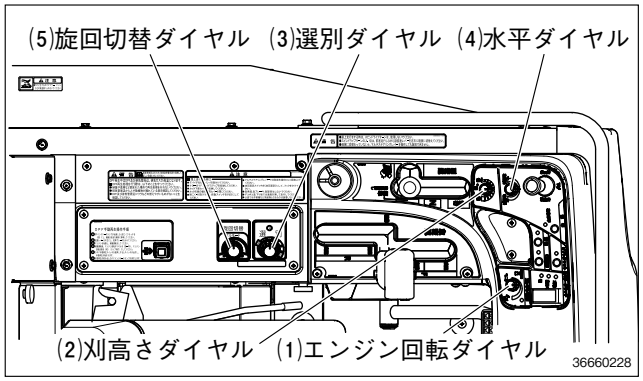


取扱いのポイント

- **エンジン回転自動《入》時は，オーガが旋回し始めると，自動的にエンジンが作業回転にセットされます。**
- **エンジン回転自動《切》時は，エンジン回転を回転計の「作業の上限（黄色)」に合わせてください。**
- **回転が低いと詰まりの原因となります。**
- **排出オーガを動かすときはフックから排出オーガ固定リングを外してください。**
- **水平位置より下げた状態で排出オーガを旋回しないでください。**

⑲ 自動調整ダイヤル

各自動制御の調整ダイヤルが,装備されています。



⑴ **エンジン回転ダイヤル（スイッチ一体型）**

・エンジン回転をコントロールするダイヤルです。ダイヤルを右に回すと回転数が上がります。
・エンジン回転自動を使用するときは，エンジン回転自動スイッチを押してランプ点灯で使用します。
・ランプが点灯状態からダイヤルを押すか，ダイヤルを回したときは，ランプが消灯し，自動は働きません。

⑵ **刈高さダイヤル**

・刈高さの調節は，刈高さダイヤルの操作によって，希望する**「刈高さ位置」**を設定することができます。
・刈高さダイヤルは，通常**《標準》**位置（●印位置）で使用します。

取扱いのポイント

- **刈高さポジションコントロールを使用しないときは，ダイヤルを《切》位置で使用します。**
- **ほ場の凹凸が多い場合には，マルチステアリングレバーで手動操作してください。**
  刈高さダイヤルをどの位置にセットしても，刈高さポジションコントロールが設定できないときは，エンジンを停止して，ヒューズの点検・配線接続部の外れなどがないか確認してください。

⑶ **選別ダイヤル（スイッチ一体型）**

スタータスイッチを《**入**》位置にすると，ランプが点灯し，選別自動が「**入**」になります。点灯状態から再びダイヤルを押すと，ランプが消灯し，自動は働きません。（詳細は77～78ページ参照）

刈取る作物に合わせて，選別ダイヤルをいずれかの位置にセットします。

《**麦**》－通常のムギ刈り作業は，この位置で行ないます。

《**稲**》－通常のイネ刈り作業は，この位置で行ないます。

取扱いのポイント

- **選別自動スイッチ「入」（ランプ点灯）状態で作業すると，刈取り条件に合ったきめ細かい選別制御ができます。**
- **選別自動スイッチ「切」（ランプ消灯）状態で作業するときも，選別ダイヤルを作物に合わせてセットしてください。**
- **選別自動スイッチは「切」（ランプ消灯）の状態でも作業に支障はありませんが，良好な選別状態を得られない場合があります。**
- **スタータスイッチを《入》にして，選別自動スイッチのランプが点灯しないときは，作業を中止しエンジンを停止して，ヒューズの点検・配線の接続部の外れがないか点検してください。**
- **⑰，⑱，⑲の詳細は，自動装置についての項（70～82ページ）を参照してください。**
- **ダイヤル付自動スイッチはダイヤルノブを押すことにより自動の「入」・「切」ができます。**

⑷ **水平ダイヤル**

水平自動《**入**》のとき，水平ダイヤルの操作によって，機体を一定の角度に傾斜させた状態に，制御をすることができます。

・ダイヤルを《**右傾斜**》の方向に回すと，機体は右下がりになります。

・ダイヤルを《**左傾斜**》の方向に回すと，機体は左下がりになります。

⑸ **旋回切替ダイヤル**

ダイヤル操作によって，希望する「**旋回モード**」を設定することができます。

・《**フルモード**》位置（●印位置）およびその左右３ノッチ位置がフルモード旋回（マルチステアリングレバー倒し角度により，ソフト旋回→ブレーキ旋回）となります。

・《**ソフト**》位置（最左およびその手前位置）がソフト旋回になります。

・《**ブレーキ**》位置（最右およびその手前位置）がブレーキ旋回になります。



V191

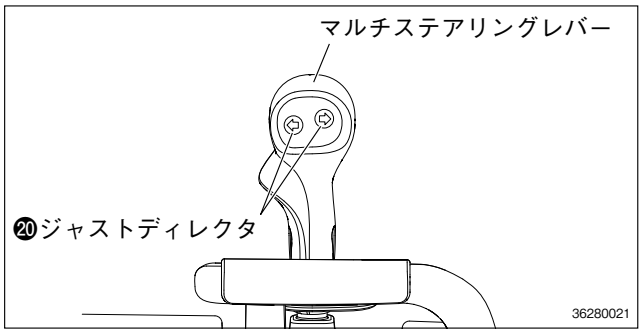
取扱いのポイント

- **フルモード旋回は通常《フルモード》位置で使用します。ダイヤルは，マルチステアリングレバーの操作角度に対して右に回すと旋回動作が速くなり，左に回すと遅くなります。**
- **フルモード旋回，あるいはソフト旋回を設定していても，路上走行時には自動的にブレーキ旋回となります。**

⑳ ジャストディレクタ

⚠警告 傷害事故防止のために

◆自動車などへの積込み・積降ろしのときは，アユミの上でジャストディレクタを操作しないでください。レバー操作をすると急に方向転換して転落事故を起こすことがあります。



マルチステアリングレバーに内装されています。

・ジャストディレクタの《㊀》を押すと左方向に，《㊁》を押すと右方向に機械の進行方向を修正します。

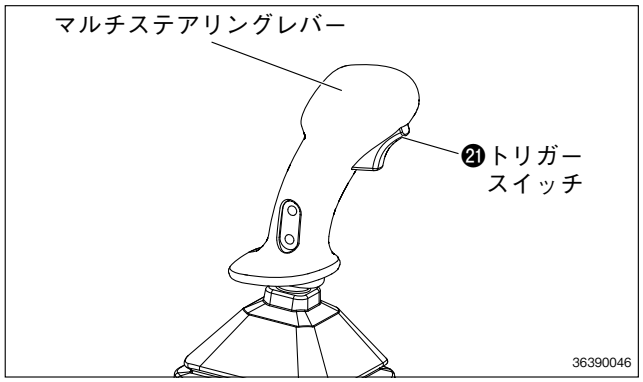
・刈始めの条合わせや，刈取り中の微調整に使用します。

取扱いのポイント

●ジャストディレクタと，マルチステアリングレバーとの併用はできません。マルチステアリングレバー操作が優先します。

●ジャストディレクタは旋回力が小さいので，旋回には使用できません。

㉑ トリガースイッチ



⑴ 半自動後進上昇機能

湿田刈取などのとき車高上昇操作を容易にする機能です。

水平自動が作動している状態で機体後進時，トリガースイッチを握りながらマルチステアリングレバーを上げ操作し続けます。まず刈取部がいっぱいまで上昇した後，機体が上がります。（自動制御は一時停止）トリガースイッチを離すか，刈取部を下げると，元の車高に復帰してから自動制御が再び作動します。

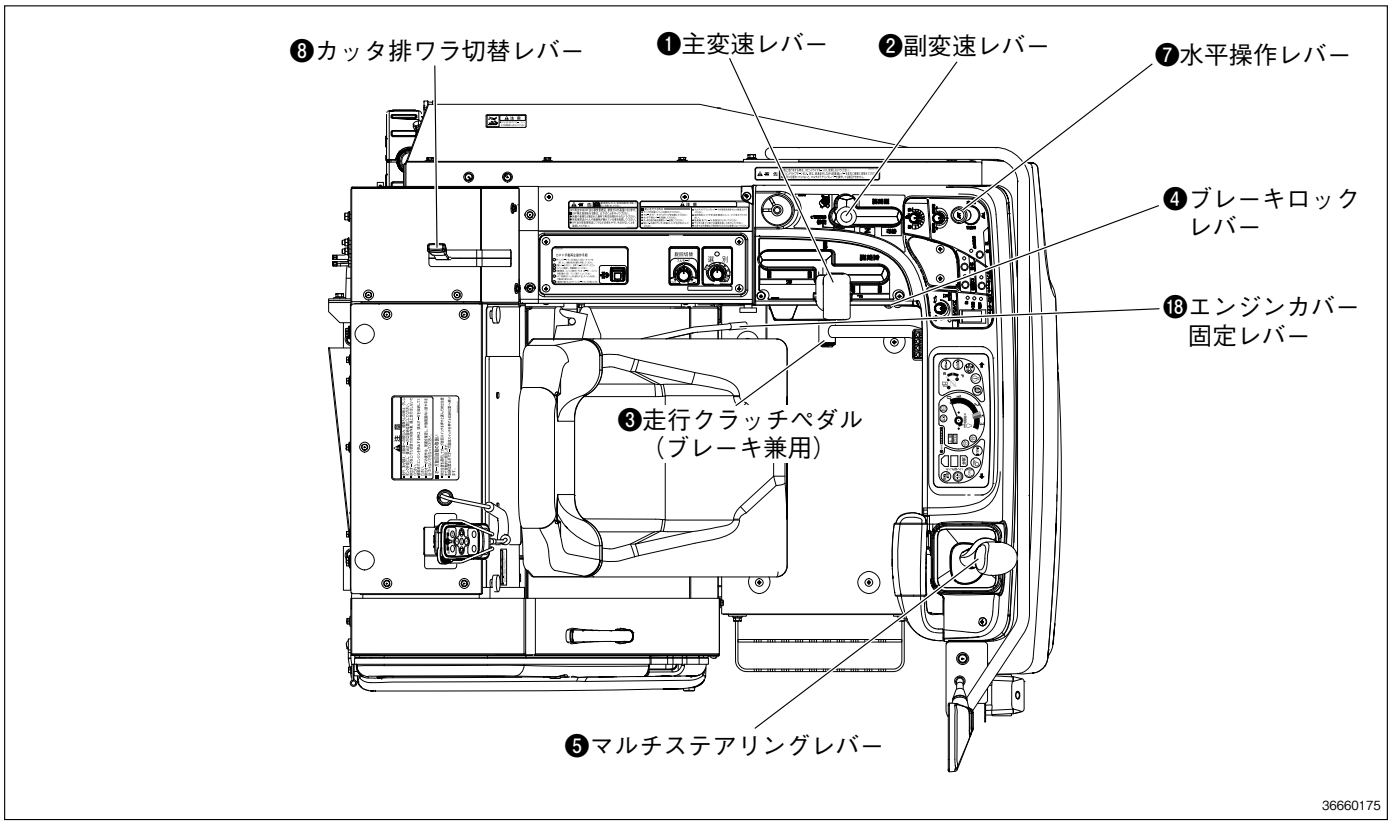
⑵ 刈高解除機能

刈高さポジションコントロールで設定された刈高さを解除する機能です。

刈高さセット位置よりもさらに刈取部を下げたいときはトリガースイッチを握りながらマルチステアリングレバーを下げ操作します。

詳しい操作については「刈高さポジションコントロール」を参考にしてください。

2. ペダル・レバー・ステップ関係



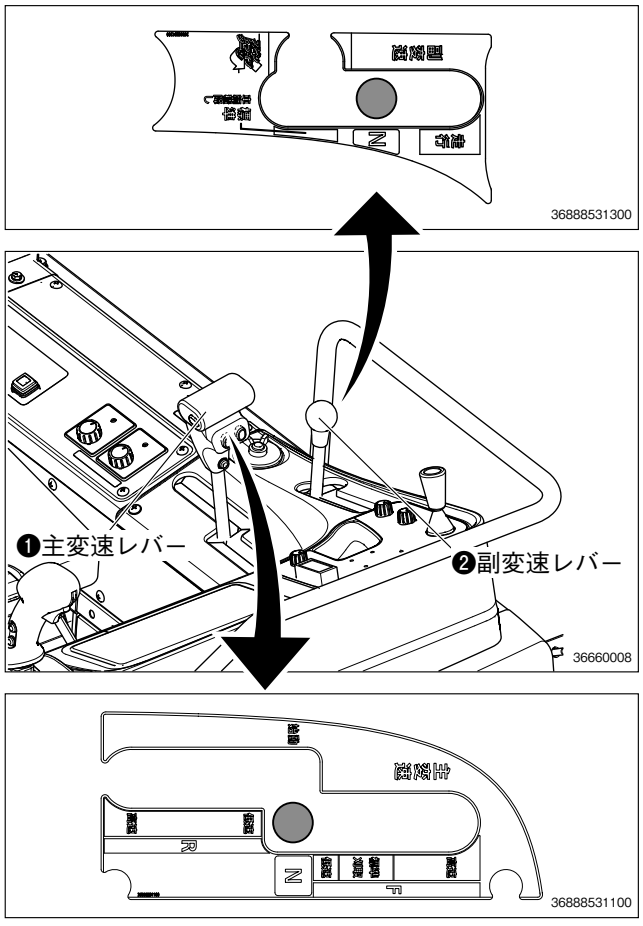
❶ 主変速レバー

⚠警告 傷害事故防止のために

◆走行中，主変速レバーを急激に増速・減速の操作をしないでください。
◆前後進の切替えは，機械が停止してから行なってください。
◆自動車などへの積込み・積降ろしのときは，アユミの上で変速操作，クラッチ操作をしないでください。
◆機械から離れるときは，《N》(中立）でも動く場合があるので，平坦な場所で駐車ブレーキをかけエンジンを停止してください。

走行クラッチペダルを踏まないで走行速度の変速ができます。前進・後進いずれも任意の位置に操作するだけで，作業に適した速度が得られます。

エンジンの始動は，主変速レバーを《N》**(中立，始動)（前進側N位置）**にし，走行クラッチペダルをいっぱい踏込まないとできません。



作業内容	副変速	主変速
積込み，あぜ越え	車両積降し 標準	「N」(中立)から「F」(前進・低速)
積降ろし		「N」(中立)から「R」(後進・低速)
路上，ほ場走行(前進)	標準 走行	「N」(中立) から発進し，その場の状況に応じ順次速度を上げる。
路上，ほ場走行(後進)	標準	
刈取時の後進		
標準刈取り	標準	「N」(中立)から「F」(標準刈取)
倒状刈取り	標準	「N」(中立) から「F」(低速) または「F」(標準刈取)
集中注油	N(中立)	「N」(中立)から「F」(標準刈取)

取扱いのポイント

- **エンジン回転自動スイッチが《入》の場合，主変速レバーの発進操作と共にエンジン回転が上昇します。**
- **副変速レバー《走行》で急旋回すると，主変速レバーが戻ることがありますので，《走行》では急旋回しないでください。**

❷ 副変速レバー

> **⚠警告** 傷害事故防止のために
>
> ◆スピンドライブターンの「入，切」は，ゆっくり前進走行しながら副変速レバーを左右に確実に切替えてください。確実に切替わっていないと，マルチステアリングレバーを操作しても旋回できません。
>
> ◆路上走行するときはスピンドライブターンは使用しないでください。

作業目的や刈取り条件により《**標準・車両積降し**》《**走行**》(**高速**) の２段に変速ができます。

・副変速レバー操作は，主変速レバーを《**N**》(**中立**) にして，走行を停止してから走行クラッチペダルを踏込んで行います。

・自動車への積込み・積降ろし，ほ場への出入りは《**標準・車両積降し**》位置で行います。

・刈取り作業は《**標準・車両積降し**》位置で行います。《**走行**》位置での刈取り作業はできません。

・見通しが良く平坦な道路では《**走行**》位置で走行します。狭い道路や凹凸のある道路は《**標準・車両積降し**》で走行します。

・「**スピンドライブターン**」とは，左右のクローラが逆転して旋回します。小回りが必要なときや能率を上げて作業する場合に使用します。
《**スピンドライブターン**》への切替えは，《**標準**》位置で，走行クラッチペダルを踏まずにゆっくり前進走行しながら副変速レバーを左に確実に切替えます。

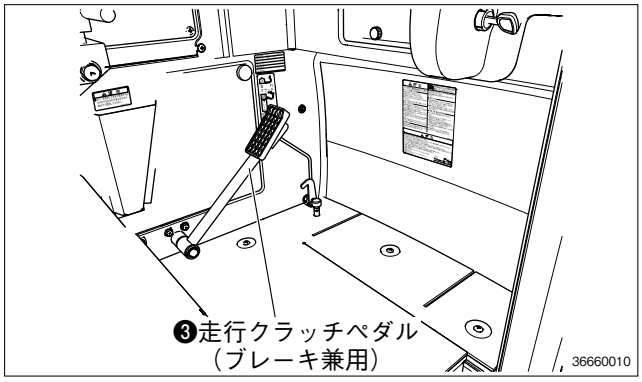
❸ 走行クラッチペダル（ブレーキ兼用）

⚠警告 傷害事故防止のために

◆走行クラッチペダルは自動車への積込み・積降ろしなどアユミの上では操作しないでください。転落事故を起こすことがあります。

◆通常の停止は主変速レバーの操作で停止してください。

◆走行クラッチペダルに足を乗せたまま旋回操作をしないでください。
ペダルに足を乗せていると旋回後も直進に戻らないことがあります。



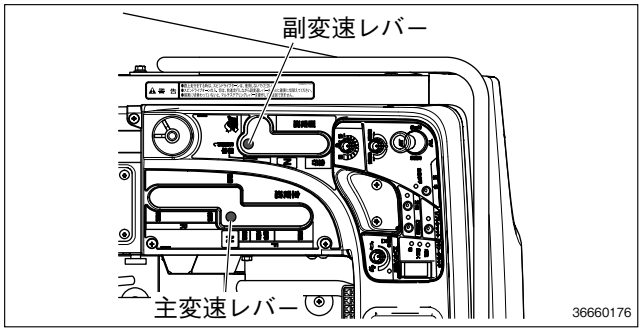
機体の始動，副変速レバーの操作に使用します。走行クラッチペダル（ブレーキ兼用）をいっぱいに踏込むと，主変速レバーが《N》(中立）に戻り，トランスミッションへの動力が絶たれ，ブレーキがかかる構造になっています。

⑴ **エンジンの始動に使用します。**

・エンジンを始動するときは，走行クラッチペダルをいっぱいに踏込みます。

⑵ **機械の副変速レバーの操作に使用します。**

・副変速レバーを操作するときは，走行クラッチペダルをいっぱい踏込みます。



取扱いのポイント

●走行クラッチペダルを踏んだままだと，主変速レバーは操作できません。

●作業中，走行クラッチペダルを踏むと走行と同時に刈取部も停止します。

❹ ブレーキロックレバー

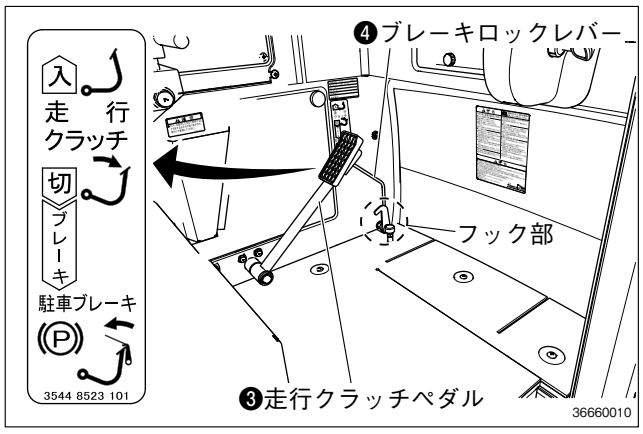
⚠警告 傷害事故防止のために

◆坂道など傾斜のある所では，駐車しないでください。やむをえず駐車する場合には，駐車ブレーキをかけ，木片などでクローラに「車止め」をします。

◆ブレーキロックレバーは，自動車への積込み，積降ろしなどアユミの上では操作しないでください。機械がずり落ちることがあります。

・駐車するときに使用します。走行クラッチペダルをいっぱい踏込み，ブレーキロックレバーを操作してフックをペダルにかけます。

・解除するときは，走行クラッチペダルをいっぱい踏込むと，自動的にブレーキロックレバーのフックが外れます。



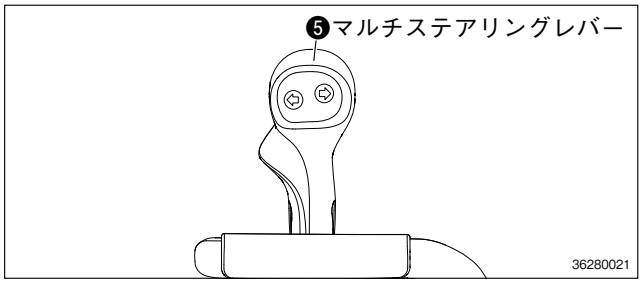
取扱いのポイント

●機械を駐車するときは走行クラッチペダルをいっぱい踏込んでブレーキロックレバーのフックを「固定」方向に倒してください。

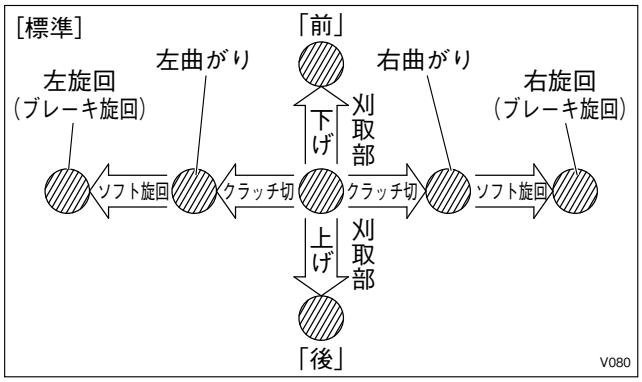
❺ マルチステアリングレバー

⚠警告 傷害事故防止のために

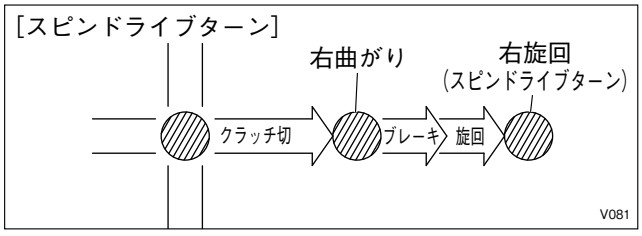
◆旋回するときは，主変速レバーで速度を落として行ってください。
◆自動車などへの積込み・積降ろしのときは，アユミの上でマルチステアリングレバーを左右操作しないでください。
レバー操作をすると急に方向転換して転落事故を起こすことがあります。



・１本のレバー操作により，左右操作で「**旋回**」，前後操作で刈取部の「**上げ**」「**下げ**」ができます。



・マルチステアリングレバーを浅く倒すと機械は倒した側に徐々に曲がり，深く倒すと旋回します。



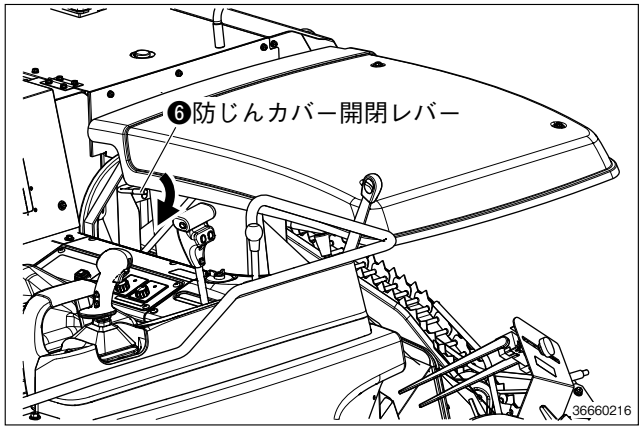
取扱いのポイント

●マルチステアリングレバーを斜め方向に操作すると，刈取部の上げ下げと方向修正・旋回が同時に行えます。

❻ 防じんカバー開閉レバー

［ディーラーオプション］

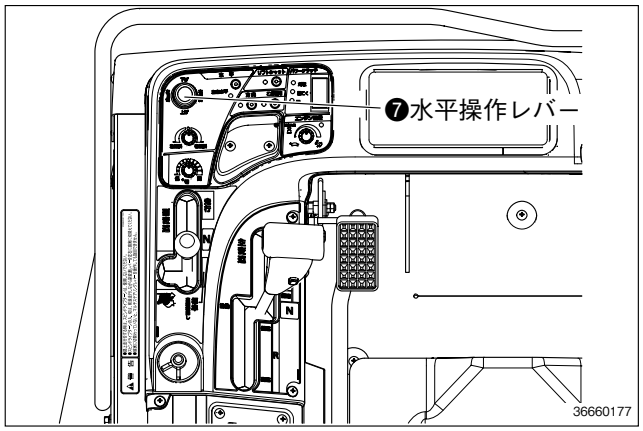
防じんカバーを上げるときに使用します。このレバーは運転席側と機体左側（下図）で操作できます。下げるときはカバー上部を持って押し下げます。



❼ 水平操作レバー

機体の「**上げ**」「**下げ**」「**右傾斜**」「**左傾斜**」をします。

・レバーを《**上げ**》の方向に倒すと，機体が上がります。
・レバーを《**下げ**》の方向に倒すと，機体が下がります。
・レバーを《**右傾斜**》の方向に倒すと，機体が右傾斜します。
・レバーを《**左傾斜**》の方向に倒すと，機体が左傾斜します。



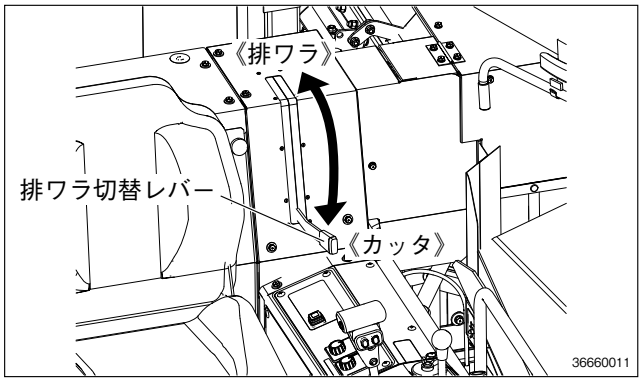
取扱いのポイント

●刈取り作業時以外は，水平操作レバーで機体を一番下まで下げて使用してください。

❽ カッタ排ワラ切替レバー

カッタ作業または排ワラ作業の切替えをするレバーです。

・切替え操作は作物が搬送途中にないことを確認してから行います。



《カッタ》……ワラをカッタで切断します。

《排ワラ》……結束作業，ドロッパ作業，ワラをそのまま排出する作業。

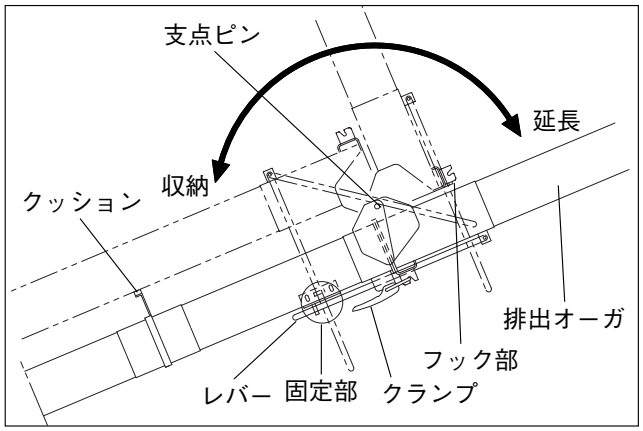
❾ 排出オーガの延長折りたたみ操作レバー［Y仕様］

> **⚠警告** 傷害事故防止のために
>
> ◆排出オーガの延長操作をするときは，平坦な場所に駐車しエンジンを停止して操作し，排出オーガを固定してください。
>
> ◆排出オーガを延長するときは，連結部に手を入れないでください。
>
> ◆路上走行するときは，排出オーガを折りたたんで固定し走行してください。

「延長のしかた」

⑴ レバーを固定部より外し，支点ピンにレバーを掛け排出オーガを延長方向へ回します。

⑵ レバーをフックに掛け直し排出オーガを回して**「延長状態」**でクランプを掛け**「固定」**します。



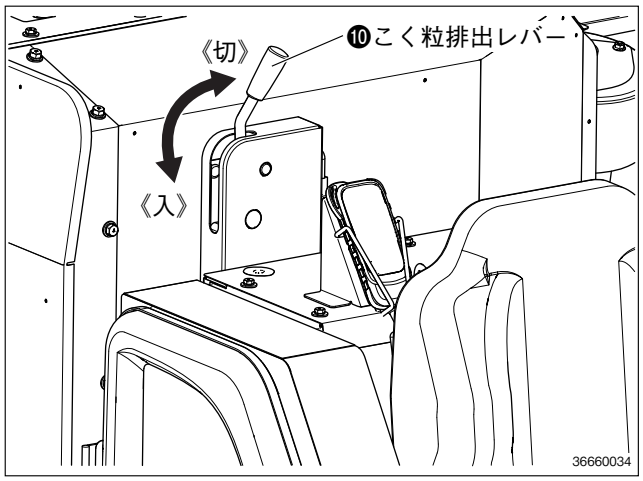
［折たたみかた］

⑴ クランプを**「解除」**し，レバーをフックに掛けて排出オーガを収納方向へ回します。

⑵ レバーをフックから外し手前に引き，排出オーガがクッションと接触したことを確認します。

⑶ レバーを固定部に掛けて固定します。

❿ こく粒排出レバー



グレンタンク内のこく粒を排出するレバーです。

取扱いのポイント

- **こく粒を排出する場合は，エンジン回転を回転計の「作業の上限(黄色)」に合わせてください。回転が低いと詰まりの原因となります。**
- **排出オーガを動かすときはフックから排出オーガ固定リングを外してください。**
- **水平位置より下げた状態で排出オーガを旋回しないでください。**
- **エンジンを始動するとき，こく粒排出レバーが《入》位置にあると始動できません。**

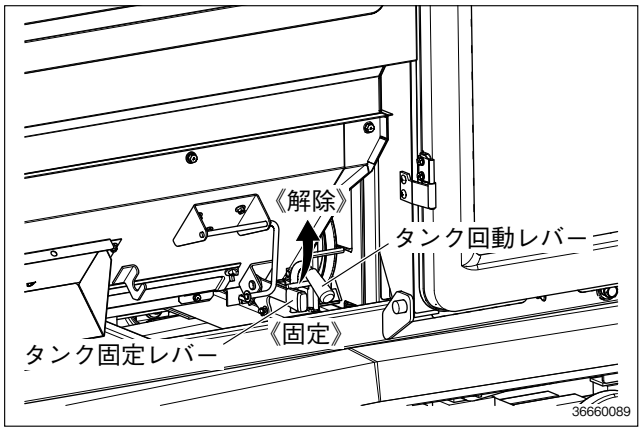
⓫　タンク固定レバー・タンク回動レバー

⚠警告　傷害事故防止のために

◆グレンタンク固定レバーを《解除》するときは，平坦な場所で各クラッチを切り，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。
◆グレンタンク内にこく粒が入っていないことを確認してから行ないます。
◆タンク内にこく粒が入った状態でグレンタンク固定レバーを《解除》するとグレンタンクが不意に回動し，事故となることがあります。また故障の原因となります。
◆エンジンを始動する前に，グレンタンクが固定レバーで固定されていることを確認します。グレンタンクが固定されていない状態でエンジンを始動するとグレンタンクが不意に回動し，事故となることがあります。また故障の原因となります。
◆グレンタンクを回動したら，ストッパをかけて，作業を行なってください。

グレンタンクを定位置に固定するためのレバーです。

グレンタンクを回動するときは，タンク回動レバーを持上げると同時にタンク固定レバーのロックを解除します。



タンクを収納しタンク回動レバーのピンがフレームの穴に入るとタンク固定レバーは固定状態になります。

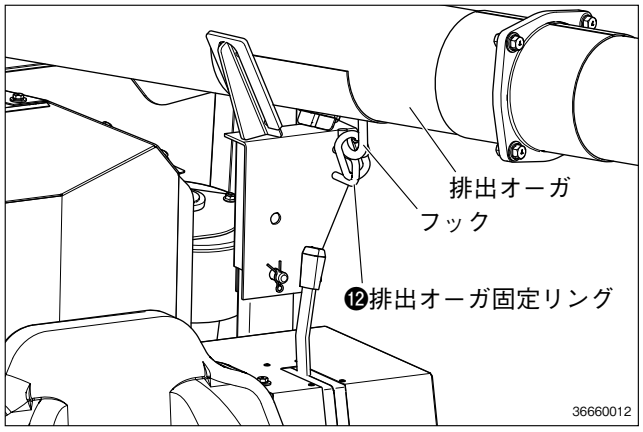
取扱いのポイント

●タンク固定レバーを先に外すとタンク回動レバーが外れにくくなりますので必ずタンク回動レバーを先に外してください。

⓬　排出オーガ固定リング

排出オーガを収納状態で固定するリングです。

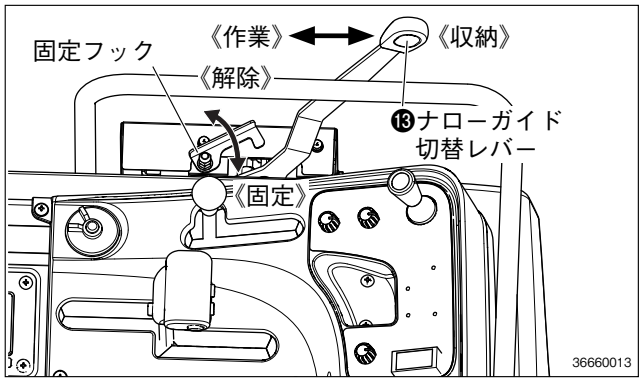
排出オーガを操作する前に，固定リングをフックより外します。排出オーガ収納時は，固定リングをフックにかけておきます。

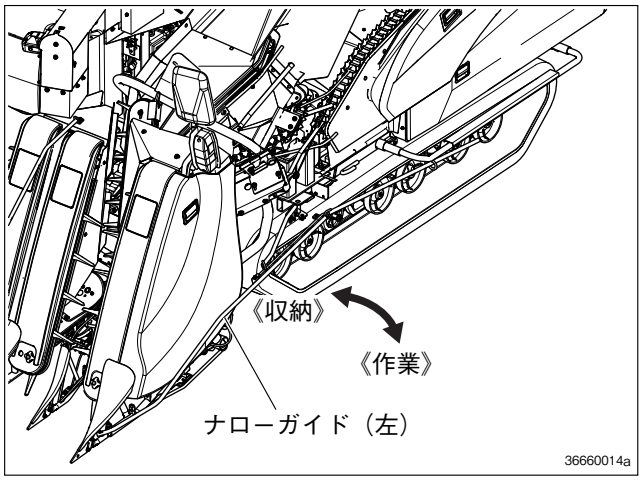


⓭　ナローガイド切替レバー

ナローガイド（左）を運転席に座ったまま操作するレバーです。

・ナローガイド切替レバーを**《作業》**にすると，ナローガイド（左）が引出され作業状態になります。
・通常固定フックは**《解除》**の位置で作業します。
・作業時，レバーが戻る場合は固定フックで**《固定》**にしてください。
・通常走行時には**《収納》**位置にします

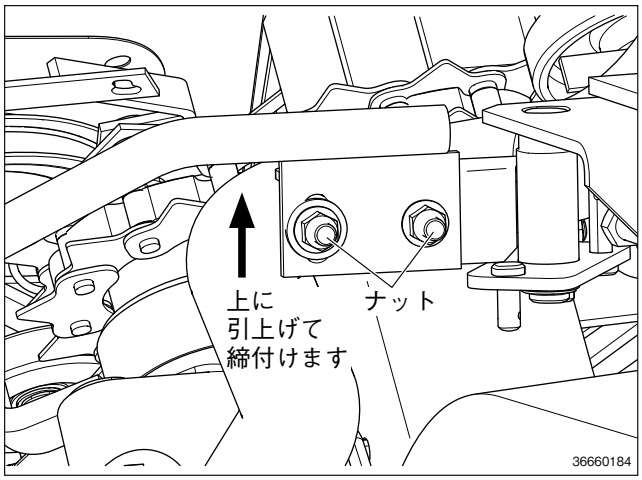




・右回り，あぜ際刈取など，障害物があるときは，《**収納**》位置にします。

取扱いのポイント

- **長稈材などで未刈稈が倒れ込み，脱こく入口部の搬送に支障がある場合は，「上向きセット」にして作業を行います。**
- **ナローガイドを引出した状態で下図のナット（2箇所）をゆるめ，上に引上げナットを締付けます。**



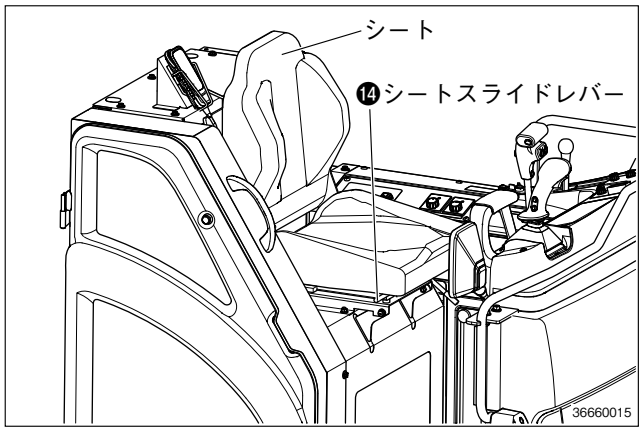
⓮ シートスライドレバー

運転者の体格に合わせ着座位置を前後にスライドさせます。

(1) レバーを上方に回動します。この状態で固定が外れます。

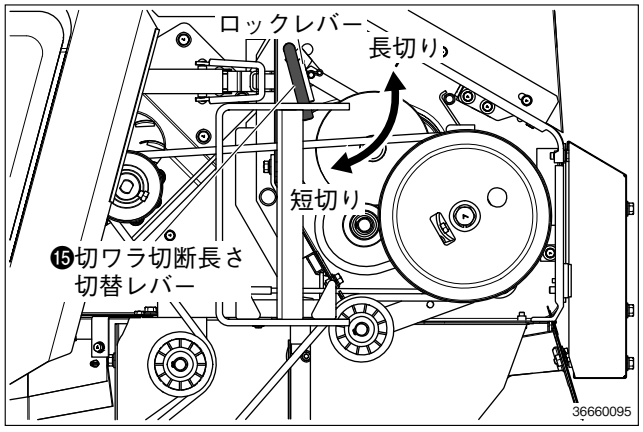
(2) シートを前後にスライドさせ，最適位置でレバーから手をはなします。

(3) その位置で固定されます。



⓯ 切ワラ切断長さ切替レバー

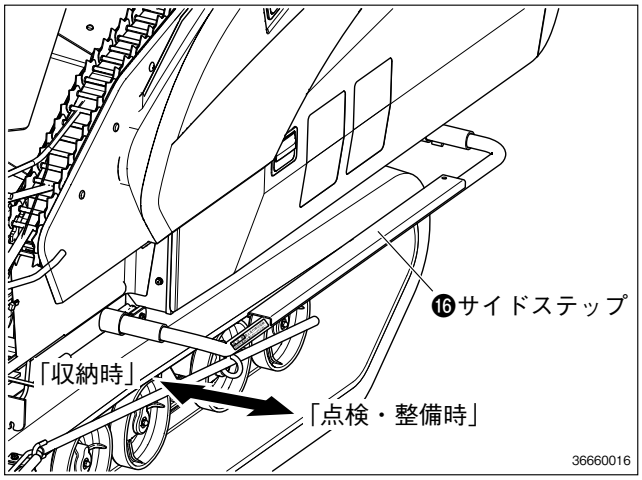
ロックレバーを手前に引きながら解除し切ワラ切断長さ切替レバーの位置を変えることにより「**短切り**」,「**長切り**」に切替操作ができます。



⑯ サイドステップ

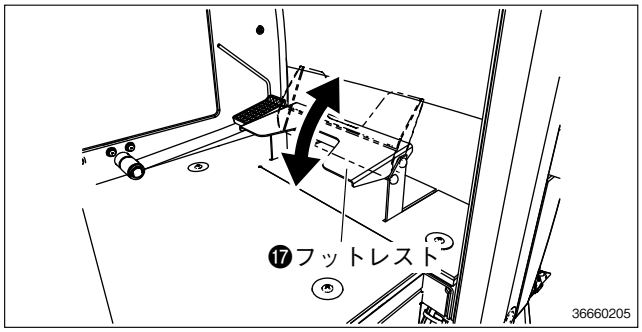
点検や整備のときだけサイドステップを出して使用します。

作業時，路上走行時は収納します。



⑰ フットレスト［ディーラオプション］

必要に応じて切換えてください。

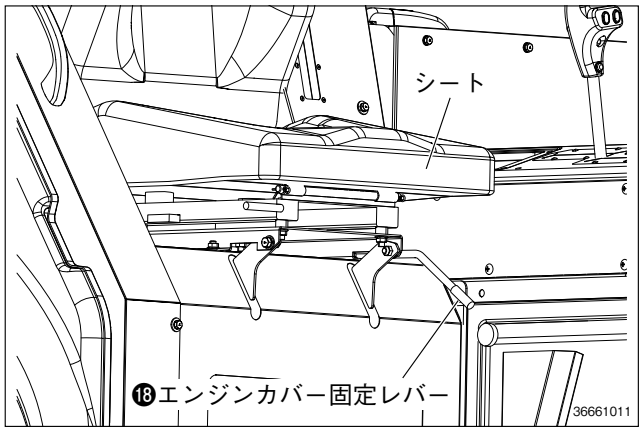


⑱ エンジンカバー固定レバー

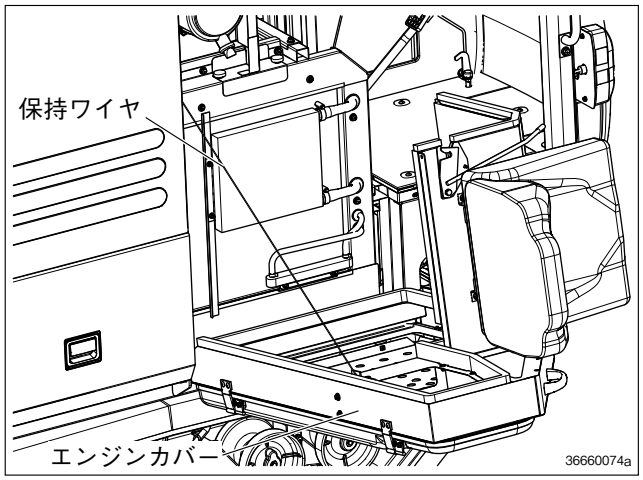
> ⚠注意 傷害事故防止のために
>
> ◆エンジンカバーを閉じたときは固定レバーで確実に固定してください。

エンジンカバーを開くときに使用します。

(1) エンジンカバー固定レバーを機械右方に引き，固定を「**解除**」します。



(2) エンジンカバーをゆっくり外側に開きます。



運転のしかた

1．運転まえの点検

安全作業のために，毎日の運転前に「**運転まえの点検表**」を参考に点検してください。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆異常が見つかった場合は，処置が完了するまで使用しないでください。整備不良のまま使用すると思わぬ事故を引き起こす可能性があります。
◆エンジン回転中やエンジンが熱いときは給油・注油をしないでください。
◆燃料補給時は火気を近づけないでください。燃料に引火し火災の原因になります。
◆燃料補給した後は燃料キャップを締め，こぼれた燃料はきれいに拭取ってください。
◆燃料タンクや燃料ホースの劣化や，傷による漏れなどがあると火災の原因になります。作業前や作業後に点検し，傷や漏れがあれば交換してください。
◆給油・注油・点検するときには機械を平坦な場所に置き，エンジンを停止し駐車ブレーキをかけてから行ってください。
◆ラジエータキャップの取外しは，エンジンが冷えてから行ってください。

⚠注意 傷害事故防止のために

◆点検整備などで取り外したカバー類は，すべて取付けてください。

「**運転まえの点検表**」

点検箇所	内　容	処　置	参照ページ
エンジンカバー および ラジエータフィン オイルクーラフィン	・ラジエータフィン，オイルクーラフィンの目詰まりはありませんか。	・やわらかいブラシなどで，掃除をする。 ・ラジエータフィン，オイルクーラフィンは，コンプレッサでエアを吹き付ける。	101
DPF，排気管やエンジン回り，サイドカバー（上）（下）	・ワラクズは溜まっていませんか。	・掃除をする。	102
各部の損傷，汚れ， ボルトのゆるみ	・エンジン始動後の異常音の原因となります。	・ボルトのゆるみを締付ける。 ・損傷したものは交換してください。	—
油漏れ	・各給油箇所部に油漏れがありませんか。	・給油，排油，検油栓のゆるみを締付ける。 ・直らないときは，点検を受けてください。	87〜98
燃料漏れ	・燃料ホースに燃料漏れがありませんか。	・ホースを交換してください。 ・継ぎ部をしっかり締付ける。	137
電気配線	・他の部品に接触していませんか。 ・損傷はありませんか。	・傷んだ配線を交換修理してください。 ・電気配線回りのワラクズなどを取除く。	109
エアクリーナ	・エレメントが目詰まりしていませんか。	・エレメントを軽くたたくか，コンプレッサで内側からエアを吹きつける。	102

点検箇所	内　容	処　置	参照ページ
エンジンオイル （エンジンクランクケース）	・オイルがレベルゲージの上・下限の間にありますか。	・エンジンオイルを適量補給する。	88〜89
冷却水（ラジエータ）	・補助タンクに適量ありますか。（給水レベルの上・下限の間にあること。）	・清水を補助タンクに適量補給する。	89〜91
エンジン	・エンジン始動後の異音がありませんか。 ・排気ガスの色はきれいですか。	・点検を受けてください。	—
燃料（燃料タンク）	・作業に必要な量の燃料が入っていますか。	・ディーゼル軽油を補給する。（燃料は必ず低硫黄ディーゼル軽油（S10）を使用してください。）	87
燃料セジメンタ	・分離した水が溜まっていませんか。（赤色のフロートが排水レベルに達していませんか）	・分離した水を排出してください。	103〜105
ホーン	・ホーンボタンを押せば鳴りますか。	・ヒューズ切れ，配線の外れを調べ，処置する。	106〜108
方向指示器などの 保安部品	・正常に作動しますか。	・球切れ，ヒューズ切れ，配線の外れを調べ，処置する。	106〜108
バックブザー（ホーン）	・主変速レバーを《R》（後進）位置にしたとき，バックブザーが鳴りますか。	・ヒューズ切れ，配線の外れを調べ，処置する。	106〜108
インジケータランプ	・オイル，充電，予熱ランプは消灯しますか。（エンジン始動後）	・エンジンオイルを補給する。 ・異常箇所を調べ，処置する。	66 85〜86 109〜115
回転計	・正常に作動しますか。（エンジン始動で）	・点検を受けてください。	—
マルチステアリング レバー	・ゆっくり走行してレバー操作したとき，正常に旋回，刈取部が上下しますか。	・副変速レバーのスピンドライブターン変速を確実に切替てください。 ・異常箇所を調べ，処置する。	— 24
走行クラッチペダル （ブレーキ兼用）	・ゆっくり走行してペダル操作したとき，正常に機械が停止しますか。	・走行クラッチペダルの調整をしてください。	141
チェン，ベルト，ワイヤ クローラ	・たるみ，損傷はありますか。	・正常に調整するか交換してください。	143〜156

2. エンジンの始動と停止

⚠警告 傷害事故防止のために

◆主変速レバー，副変速レバーが《N》(中立) 位置，パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチが《切》位置であることを確認してください。
●機械の周囲から人を遠ざけてください。
◆始動はシートに座って行なってください。
◆屋内での始動は，窓や戸を開け換気をしてください。
◆暖機運転は主変速レバー，副変速レバー《N》(中立）にして，パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチ《切》で駐車ブレーキをかけて行ってください。
●運転者はエンジンをかけた状態で機械の周囲から離れないでください。
●外気温が「0℃以下」のときは暖機運転を10分間以上行ってください。行わないと油圧装置が正常に作動しなくなり，方向変換ができなくなることがあります。
◆空運転するときは，こぎ胴部およびカッタ部を開かないでください。

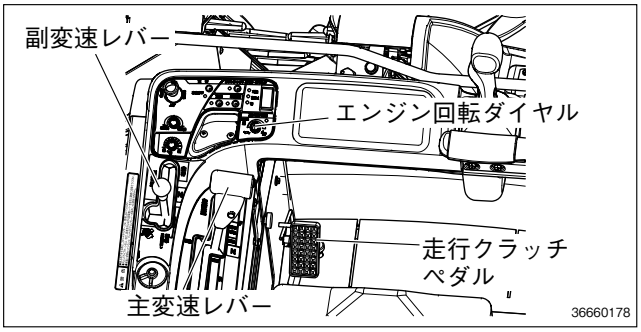
⚠注意 傷害事故防止のために

◆点検整備などで取外したカバー類は，すべて取付けてください。

1. エンジン始動のしかた

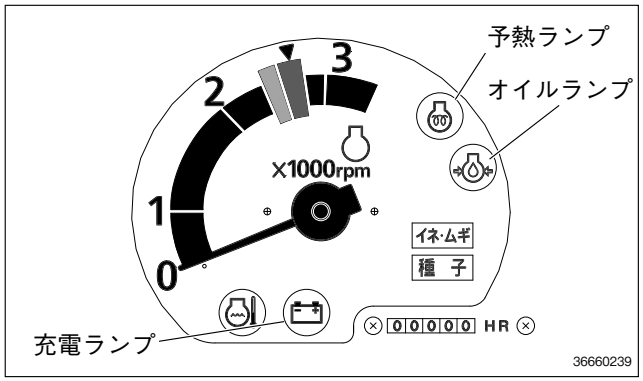
❶ 体格に合わせ着座位置を調節します。

❷ 主変速レバーを《N》(**中立，始動**) (**前進側N位置**)，副変速レバーを《N》(**中立**）にします。



❸ スタータスイッチを《**入**》位置にし，「**オイル**」「**充電**」「**予熱**」のランプが点灯することを確認します。

オイルランプは正常であれば1回点灯し直ぐに消灯します。また予熱ランプも予熱後に消灯します。(時間は外気温により異なります)



❹ 走行クラッチペダルをいっぱい踏込み，スタータスイッチを《**始動**》位置に回し，エンジンを始動します。

❺ 始動後，駐車ブレーキをかけ，エンジン回転を**低回転**にセットし，暖機運転をします。

取扱いのポイント

- **主変速レバーを《N》(中立，始動) (前進側N位置）にし，走行クラッチペダルをいっぱい踏込まないとエンジンは始動しません。**
- **エンジン始動後，「オイル」「充電」のランプが消灯することを確認してください。**
- **スタータスイッチは5秒以上の連続使用はしないでください。**
- **セルモータは短時間に大きな電力を消費します。5秒以上の連続使用は，バッテリ故障の原因となりますので避けてください。**

2. エンジン停止のしかた

❶ パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《**切**》にします。

❷ エンジン回転ダイヤルで《🐢》(**低速**）にします。

❸ スタータスイッチを《**切**》位置にすると，エンジンが停止します。

3. DPF（ディーゼル・パティキュレート・フィルタ）装置のはたらきと取扱い

⚠警告　傷害事故防止のために

◆排気ガス中毒になるおそれや，DPF再生中の高温状態の排気管やDPFに接触して火傷や火災が発生する原因となるため，下記事項を遵守してください。

- ●納屋や倉庫など換気の悪い場所では，再生処理を行なわないでください。
- ●再生処理を行なう前には，排気管やDPFおよび周辺部に，発火する原因となる燃えやすいゴミなどがあれば取除いてください。
- ●DPF再生中は，排気管やマフラおよび周辺部に人を近付けないでください。また，コンバインからは離れないでください。
- ●刈取作業中に自動再生処理が始まりますので，わらなどの燃えやすいものが多い場所の上ではコンバインを停止しないでください。また，コンバインを停止する場合は，排気管の後方にわらなどの燃えやすいものが少ない場所に停止してください。
- ●DPF再生中とその直後３分程度は，手こぎ作業をしないでください。再生処理の直後はまだ排気管やDPFが高温です。
- ●一日の作業終了後は，排気管やDPFおよびその周辺にわらなどの燃えやすいものが溜まっていないか点検し，溜まっていたら掃除して取除いてください。

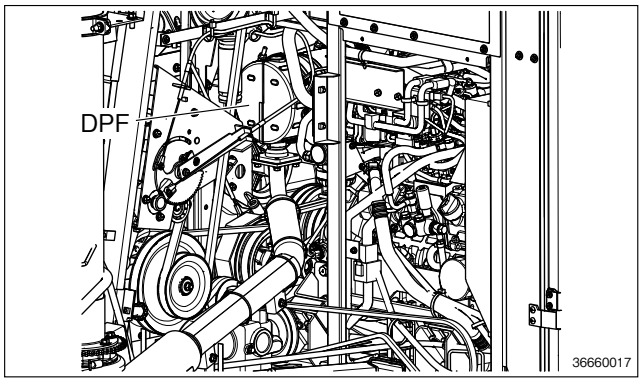
DPFは，ディーゼルエンジンから排出される排気ガス中のＰＭ（ススなど粒子状物質）をフィルタで捕集し，大気中に放出されるＰＭの量を削減させます。

捕集したＰＭをDPF内で燃焼させてＰＭ除去フィルタ内を浄化および再生します。また，DPFの再生処理方法には自動再生と手動再生の２通りがあります。刈取作業中は自動再生モードになっています。

自動再生モード中は，DPF内にＰＭが堆積されると自動再生機能がはたらき，ＰＭを自動的に除去します（自動再生処理）。また，ＰＭがDPF内に堆積し，手動再生の警報が発生したときは，手動再生処理を行なって堆積したＰＭを除去してください。

取扱いのポイント

- ●**DPFインジケータランプがゆっくり点滅し，警報ブザーが間欠的に鳴ったときは，刈取作業を中止し手動再生処理を行なってください。継続して作業を行ない，さらにDPFインジケータランプが早く点滅し，警報ブザーが断続的に鳴り始めたときは，直ちに作業を中止して手動再生を行なってください。**
- ●**手動再生の警報を無視し続けると，エンジンの出力が低下します。また，手動再生ができなくなり故障の原因となります。手動再生ができない場合は，直ちに「お買いあげ先」に連絡してください。**
- ●**再生処理を行なうとき，自動再生処理と手動再生処理でエンジン回転数が異なりますので注意してください。**
- ●**指定の純正エンジンオイル以外のエンジンオイルを使用すると，再生処理（自動再生および手動再生）を行なう頻度が増加し，作業能率の低下や燃料消費量の増加の原因となりますので必ず指定のエンジンオイルを使用してください。**
- ●**通常，再生処理には10～30分程度かかります。再生処理にかかる時間は，外気温度・排気温度・エンジン回転数によって変わります。**
- ●**再生処理終了直後は，DPF（および排気管）はまだ高温です。排気装置（DPF・排気管）を冷却するために，３分間程度エンジンの運転を継続します。**



［自動再生処理について］

自動再生処理は刈取作業を行っているとき（パワークラッチ《刈取》）にはたらきます。自動再生処理中は通常どおり刈取作業ができます。

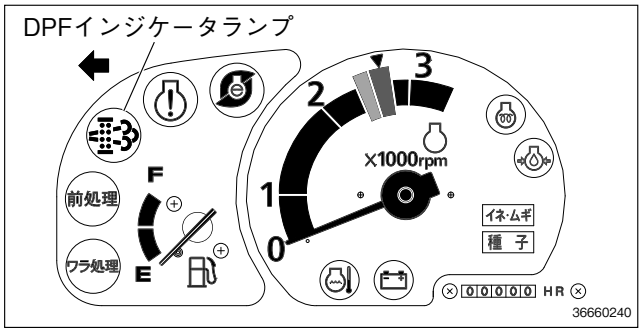
⑴ 刈取作業中にＰＭが堆積すると，DPFインジケータランプが点灯し自動再生を開始します。

⑵ 自動再生が終了すると，DPFインジケータランプが消灯します。

［手動再生処理について］

ＰＭがDPF内に一定量堆積したときには，手動再生処理を行なってください。

⑴ ＰＭが一定量堆積すると，DPFインジケータランプがゆっくり（１秒間に１回）点滅すると同時に警報ブザーが間欠的に鳴ります。警報ブザーは警報切ボタンを押すと止まります。



取扱いのポイント

●継続して作業を行なうと，DPFインジケータランプが早く（１秒間に２回）点滅し，警報ブザーが断続的に鳴り始めます。このときは警報切ボタンを押しても鳴り止みません。

⑵ 作業をいったん中止したあと，平坦な場所に移動します。

換気の悪い納屋や倉庫などへは移動しないでください。

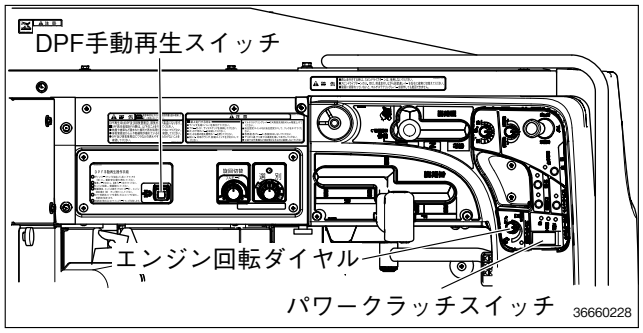
⑶ 各レバー，ペダル，スイッチを下記の手動再生処理条件の状態にセットします。

・パワークラッチを《切》位置にします。

・主変速レバーを《N》(中立)，副変速レバーを《N》(中立）にします。

・駐車ブレーキをかけます。

・エンジン回転ダイヤルを《🐢》(低速）にし，エンジン回転自動《切》(ランプ消灯）とします。



⑷ DPF手動再生スイッチを長押し（１秒以上）すると，エンジン回転数が上がると同時に，DPFインジケータランプが点灯し，手動再生処理が開始されます。

⑸ 手動再生処理が終了すると，エンジン回転数がアイドリング回転数まで下がります。

再生処理の直後はまだ排気管やマフラが高温ですので，DPFインジケータランプが消灯するまで（３分間程度）そのままエンジンの運転を継続します。

取扱いのポイント

●エンジン始動直後に手動再生を行う場合はエンジンを暖機後に行います。

●手動再生処理中に，各レバー，ペダル，スイッチは触らないでください。手動再生処理条件の状態が解除されると，手動再生処理が途中で停止します。この場合は再度手動再生処理を行なう必要があります。

●条件を満たしても，手動再生スイッチを受けつけない場合には，直ちに「お買いあげ先」に連絡してください。

3. 走行・停車のしかた

1. 走行のしかた

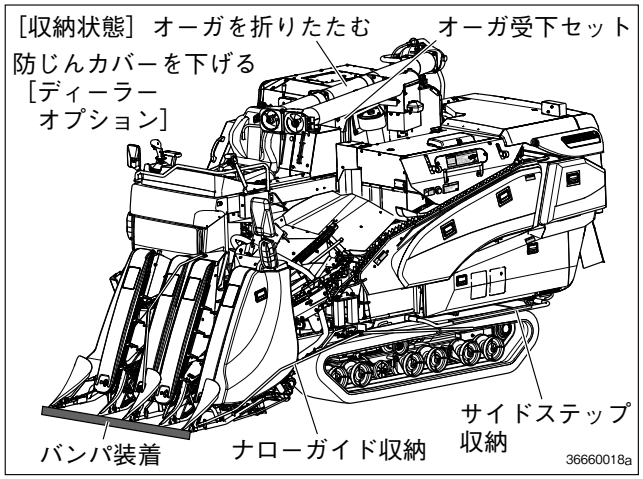
⚠警告 傷害事故防止のために

◆公道走行は交通法規を守って運転してください。
◆運転者の他に子供など，人や物を機械にのせないでください。
◆ヘルメットをかぶってください。
◆発進，停止および旋回するときは周囲を確認し速度を落としてください。
◆狭い農道や傾斜地では，路肩に寄りすぎないようにして低速走行し，軟弱な路肩や草の生い茂っている所は走行しないでください。
◆走行時に排出オーガ先端部を障害物などにあてないようにしてください。
◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろし時には，水平自動スイッチを《切》にし，水平操作レバーで機体を一番下まで下げてください。
◆あぜ越え，路上走行などではジャストディレクタを使用しないでください。

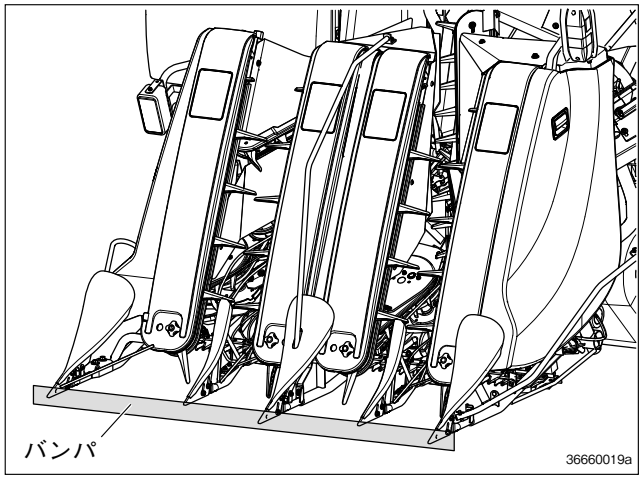
⚠注意 傷害事故防止のために

◆走行する前に機械を「収納状態」にしてください。
●グレンタンク内の籾はすべて排出します。
●バンパを取付けます。
●ナローガイドを収納します。
●排出オーガは固定リングをフックに掛け固定します。
●グレンタンク固定レバーでグレンタンクを固定します。
●方向自動制御スイッチを《切》(ランプ消灯)にします。[ディーラーオプション]
●カッタ以外のアタッチメントを取外します。
●防じんカバーを下げます。[ディーラーオプション]
◆路上走行するときは，作業灯は消灯してください。
◆公道走行する前に保安部品であるエンジン，燃料タンク，燃料ホース，トランスミッション，変速装置，ブレーキ，各警報（ブザー），灯火装置（スイッチ，メータ，ランプ含む）を確認し異常がある場合は，「お買いあげ先」に連絡して処置を行なってください。また異常がある場合はトラック輸送を行なってください。

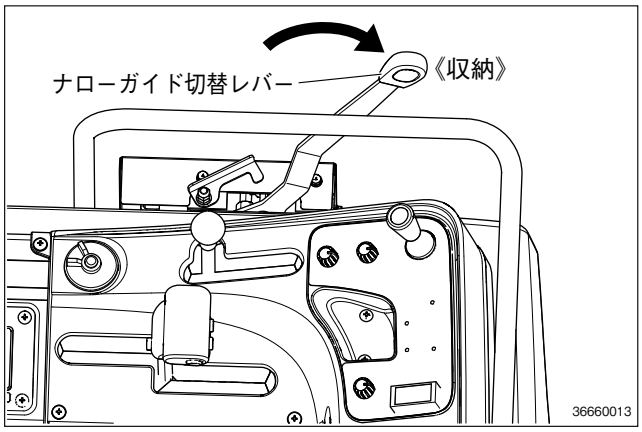
❶ 走行するときは機械を「**収納状態**」にして「**安全な速度**」で走行します。

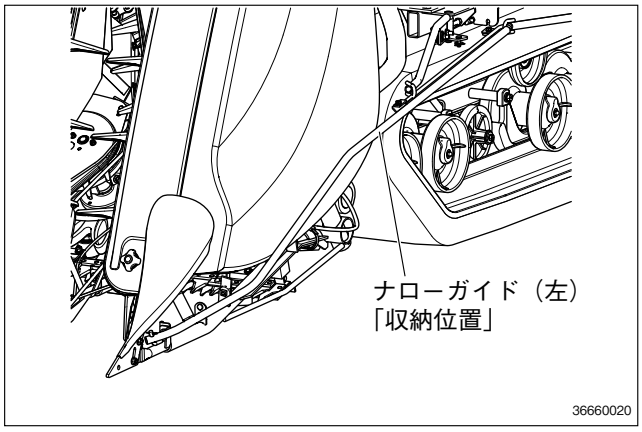


❷ デバイダ先端に「**バンパ**」を取付けます。



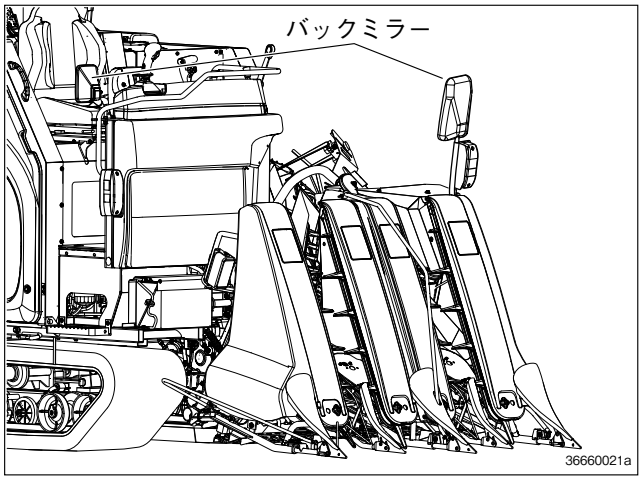
❸ ナローガイド切替レバーを《**収納**》位置にします。



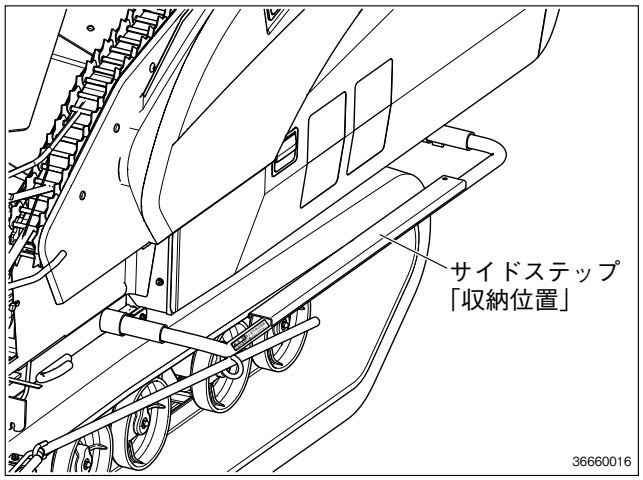


❹ バックミラーの調整

バックミラーは上下，左右に角度調整ができますので運転席に座って見やすい位置に調節してください。

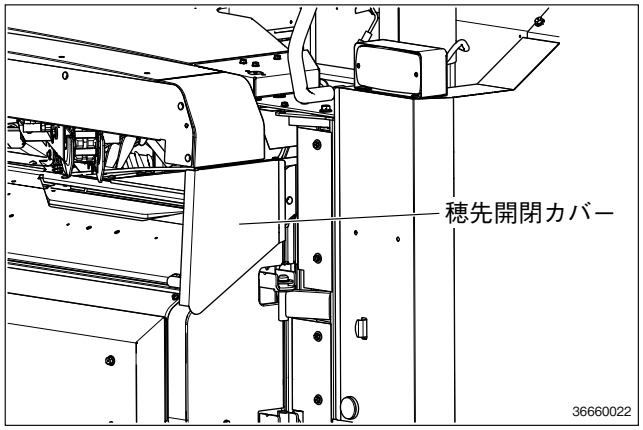


❺ 「**サイドステップ**」を収納します。（点検，整備時のみ，サイドステップを引出して使用します。）

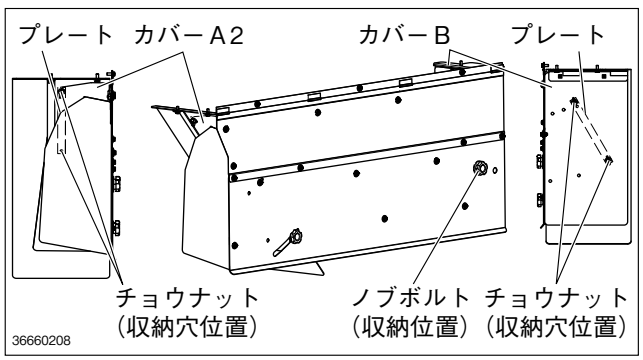


❻ 公道を走行するときは，カッタ以外のアタッチメント（ノッタなど）を取外します。

・カッタ右側の穂先開閉カバーを閉じます。

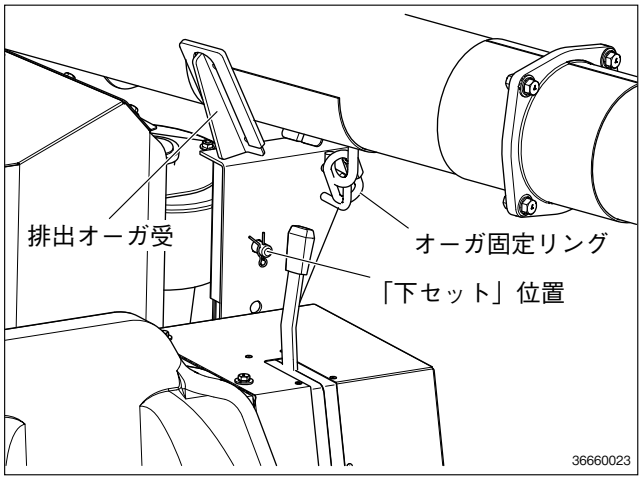


・カッタを回動します。
・ノブボルトをゆるめてカバーＢを収納しノブボルトで固定します。
・カバーＡ・Ｂのチョウナットを外してプレートを取外します。
・カバーＡ・Ｂ収納時の位置にし，プレートとチョウナットで固定します。
・作業後カッタを閉じます。



❼　グレンタンク内のこく粒をすべて排出します。

❽　排出オーガ受を「**下セット**」にして，排出オーガを折りたたみ「**固定リング**」がかかっていることを確認します。（41ページ参照）

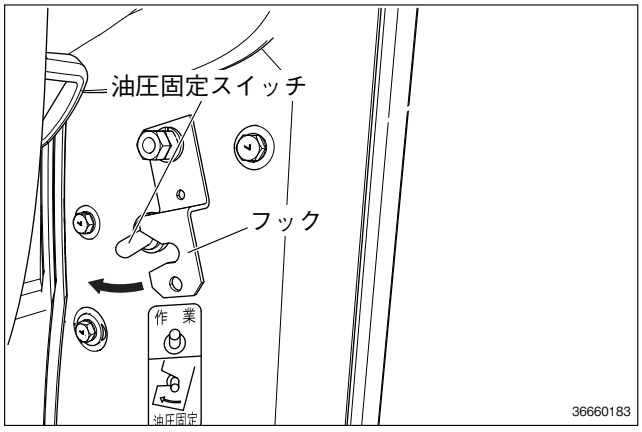


❾　パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《**切**》にし，自動スイッチをすべて「**切**」にします。

❿　エンジンを始動し，エンジン回転を「**2000回転**」以上にセットします。

⓫　マルチステアリングレバーで刈取部先端を「**40㎝**」程度上げます。

⓬　油圧固定スイッチを《**油圧固定**》位置にして，フックをかけ刈取部を固定します。



⓭　水平自動スイッチを「**切**」にして，水平操作レバーで機体を一番下まで下げます。

⓮　副変速レバーを走行する条件に合った位置にします。

⓯　ブレーキロックレバー（駐車ブレーキ）を解除します。

⓰　主変速レバーをゆっくり操作し，適正な走行速度にします。

⓱　路上走行で方向を変えるときは，方向指示器を点灯し合図をします。

⓲　発進するときや作業開始の合図は，ホーンボタンを押して，ホーンで行います。

路上走行時，作業灯は消灯します。

取扱いのポイント

- **副変速レバーを動かすときは，必ずクラッチペダルを踏んで行なってください。**

2. 停車のしかた

⚠警告 火災や傷害事故防止のために

◆平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，刈取部を下げて，各操作レバーを《切》，《中立》，副変速レバーを《標準》に入れてください。機械から離れるときは，キースイッチからキーを抜取ってください。

◆燃えやすいものの近くに，止めないでください。

❶ 主変速レバーを《N》(**中立**）にします。

❷ パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《**切**》にします。

❸ 駐車ブレーキをかけます。

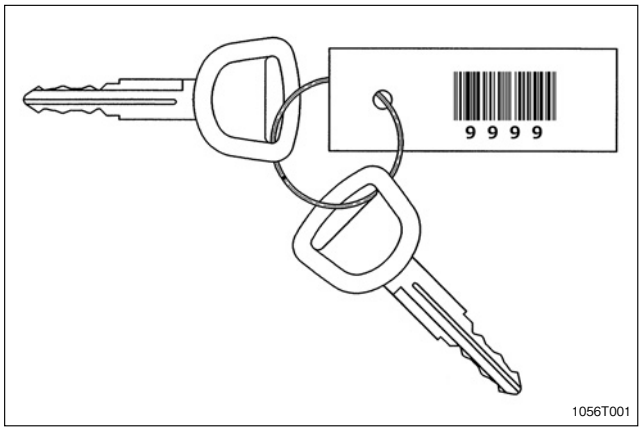
❹ エンジン回転を《🐢》(**低速**）にし，５分間程度空運転を行います。

❺ スタータスイッチを《**切**》位置にして，エンジンを停止します。

❻ 副変速レバーが《**標準**》に入っていることを確認し，ブレーキロックレバーがかかっていることも確認します。

取扱いのポイント

- **ブレーキロックを解除するときは，走行クラッチペダルをいっぱい踏込んで離してください。**
- **キーリングに付属しているキーナンバー票は，キーを紛失した際必要となります。キーナンバーを裏表紙の記入欄に控えておくか，キーナンバー票を大切に保管してください。**



4. 自動車への積込み・積降ろし

・自動車への積込み・積降ろしは，周囲に障害物のない平坦で硬い場所を選び，運転者は誘導する補助者と協力して，次のことを守り慎重に行います。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆積載重量が，自動車の最大積載量を超えないで，かつ荷台から機械がはみ出さない車を使用してください。

- 自動車は平坦で硬い場所に停止し，駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止し，変速を１速か後進（バック）に入れ，タイヤに車止めをしてください。

◆アユミは，機械の重量に耐える強度，幅，（クローラが外れない幅）長さ（荷台高さの４倍以上）のある，すべり止め，フック付きのものを使用します。

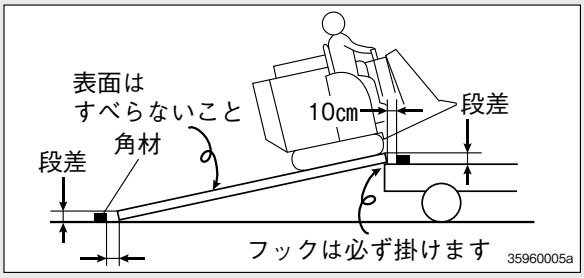
- アユミを機械のクローラ間隔に合わせ自動車の荷台に平行にはずれないようにかけます。

◆機械は積込む前に，「収納状態」にしてください。

- グレンタンク内のこく粒はすべて排出します。
- バンパを取付けます。
- ナローガイドを収納します。
- 排出オーガをオーガ固定リングをフックに掛け固定します。
- グレンタンク固定レバーでグレンタンクを固定します。
- エンジン回転自動は《切》(ランプ消灯）にして，エンジン回転自動が作動しない状態にします。
- 水平自動スイッチを《切》にし，水平操作レバーで機体を一番下まで下げます。

●方向自動スイッチを《切》(ランプ消灯）にします。[ディーラーオプション]
●防じんカバーを下げます。[ディーラーオプション]
●カッタ以外のアタッチメントを取外します。
●積込み・積降ろしは補助者立会誘導のもとに行ってください。また機械の周囲に人を近づけないようにしてください。
●アユミの上での進路変更がないように，左右のクローラをアユミの中央に真直ぐにセットします。

◆アユミと路面および自動車の荷台との段差が６㎝以上ある場合は段差の半分程度の高さの角材などを置いてください。

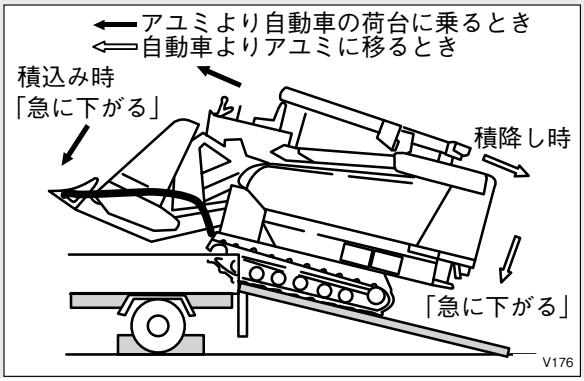


◆自動車への積込み・積降ろし中は，つぎの操作はしないでください。操作をすると，急に方向転換し転落する恐れがあります。

・主変速レバー
・副変速レバー
・マルチステアリングレバー
・走行クラッチペダル
・ブレーキロックレバー
・ジャストディレクタ

はアユミの上では操作しないこと。

◆積込みは前進，積降ろしは後進で，主変速レバー《低速》位置，副変速レバー《標準・車両積降ろし》位置で行ってください。

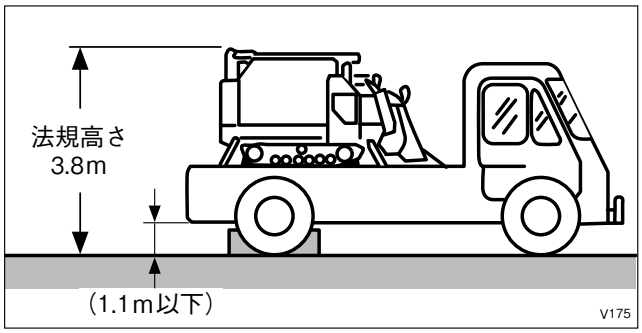


◆各カバーの固定が確実か確認してください。
◆防じんカバー［ディーラーオプション］が開いていると，風圧で防じんカバーが破損・脱落の恐れがありますので，閉じてロープなどで浮上がりを防いでください。
◆積込みが終わったら駐車ブレーキをかけ，コンバインのフレームの４隅のフックにロープまたはワイヤをかけて機械を固定してください。
このフックは他の物のけん引には使用しないでください。

1．自動車・アユミについて

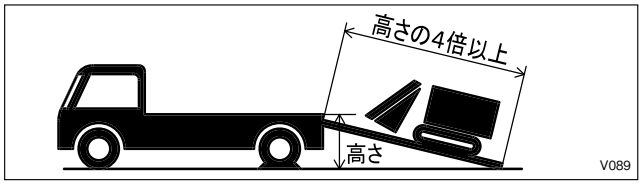
❶ 積載重量が自動車の最大積載重量を超えないで，かつ荷台から機械がはみ出さない車を使用してください。

・トラックに積んだ場合，**「車両制限令」**により地上からの高さが3.8m以下に規制されています。3.8mを越える場合は許可が必要になりますので所轄の警察署で緩和申請を受けてください。



❷ 自動車は駐車ブレーキをかけ，タイヤに**「車止め」**をします。

❸ アユミは，機械の質量に耐える強度，幅（クローラが外れない幅），長さ（荷台高さの４倍以上）のあるすべり止め付き，フック付きのものを使用します。



アユミの基準

長さ	自動車の荷台の高さの４倍以上
幅	50㎝以上
数量	２枚
強度	１枚が1,500kg以上の重量に耐えるもの

❹ アユミは，機械のクローラに合わせ自動車の荷台と平行に**「段差」**のないようにかけ，**「横ずれ」**したり，**「外れ」**たりしないようにセットします。

❺ 機械輸送時の自動車の運転で，急発進・急停止・急ハンドルなどの操作は行わないでください。荷くずれや自動車の転倒事故につながります。

2．機械の積込み要領

❶ ナローガイドを収納します。（35ページ参照）グレンタンク，排出オーガの固定を確認します。

❷ エンジンを始動して，エンジン回転ダイヤルでエンジン回転を**「2000回転」**程度にします。

❸ 刈取部をいっぱい上げます。

❹ 積込みは，主変速レバー《**F**》**(前進)** の低速，副変速《**標準・車両積降ろし**》で行います。

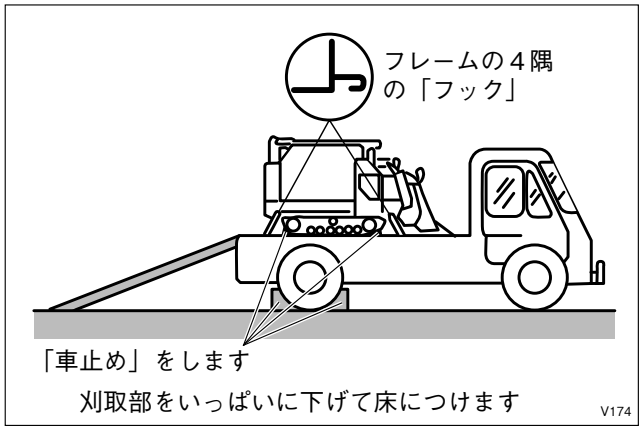
❺ 積降ろすときは，主変速レバー《**R**》**(後進)** の低速，副変速《**標準・車両積降ろし**》で行います。

❻ 積込み・積降ろしの途中では，進路変更，走行クラッチ操作，変速操作はしない。

❼ 補助者の立会誘導のもとに，周囲を確認して行います。

❽ 自動車に積込みが終わったら，機械のクローラに**「車止め」**をし，駐車ブレーキをかけ，機械のフレームの４隅のフックにロープ，またはワイヤをかけて固定します。

❾ 刈取部は完全に下げて床につけます。こぎ深さは，深こぎ側へいっぱいに上げておきます。



5. ほ場への出入り

⚠警告 傷害事故防止のために

◆10cm以上のあぜ，溝，10度以上の急傾斜のあるほ場への出入りは，アユミを使用し「低速」で「直角」に行ってください。

●急な坂道の場合は，進行方向や速度を誤ると，転倒してケガをするおそれがあります。

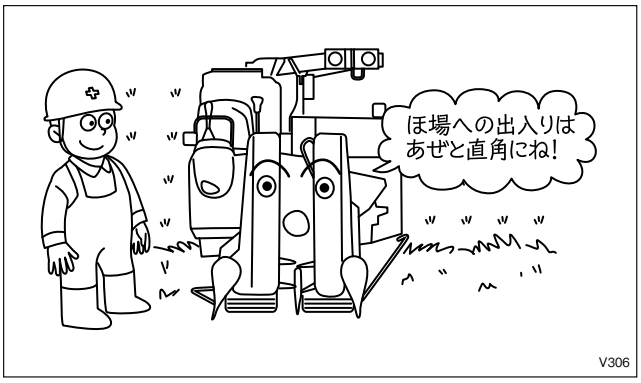
◆ほ場への出入りをする前に，グレンタンク内のこく粒をすべて排出してください。

◆水平自動スイッチを「切」にし，水平操作レバーで機体を一番下まで下げてください。

◆方向自動スイッチを「切」にしてください。[ディーラーオプション]

◆あぜが崩れないことを確認してから，ゆっくり行ってください。

1. ほ場への出入りのしかた



❶ 刈取部を上げ，エンジン回転ダイヤルでエンジン回転を「**2000回転**」程度にセットし，副変速を《**標準・車両積降ろし**》，主変速を《**F**》(**前進**)の低速または《**R**》(**後進**)の低速にしてあぜに直角に走行します。

❷ アユミを使用するときは，「**自動車への積込み・積降ろし**」の内容に従って行います。

作業のしかた

1．作業まえの準備

作物やほ場の条件が刈取り作業に適していないと，脱こく精度が低下する恐れがあります。次の条件を整えて作業に入ります。

1．作物の条件について

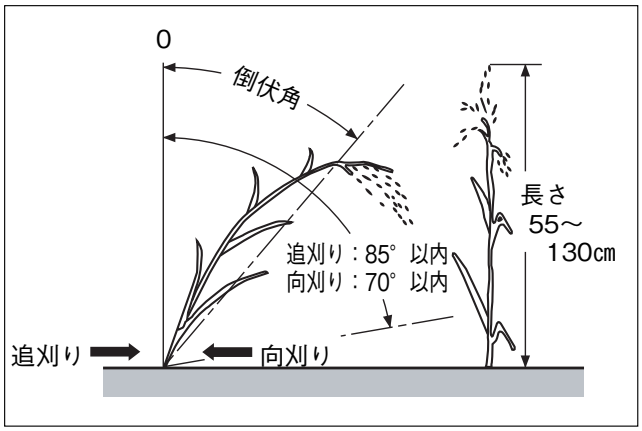
❶ 作物の長さと倒れ

・長さ…55～130㎝まで刈取りできます。

・倒れ（倒伏角）

…追刈り：85° 以内まで刈取りできます。

向刈り：70° 以内まで刈取りできます。



❷ 作物の濡れ

・濡れた作物（雨あがり・朝露）の刈取りは，次のようなことがありますので，乾燥するのを待って刈取ります。

・能率があがらない

・選別不良

・詰まりやすい

・乾燥処理時間の増加

❸ 病害虫に侵された作物

病害虫に侵された作物の刈取りは，次のようなことがありますので，刈取り作業の速度を遅くするか，またはできるだけその部分は**「手刈り」**をしておきます。

・こく稈が折れやすい

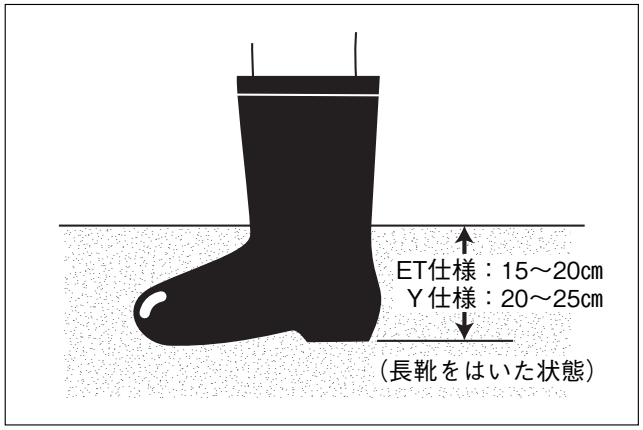
・刈取り・搬送部の詰まり

・脱こく部の詰まり

2．ほ場の条件について

❶ 湿田ほ場のぬかるみ程度

・沈下量が**「ET仕様：15～20㎝」，「Y仕様：20～25㎝」**までは作業ができます。

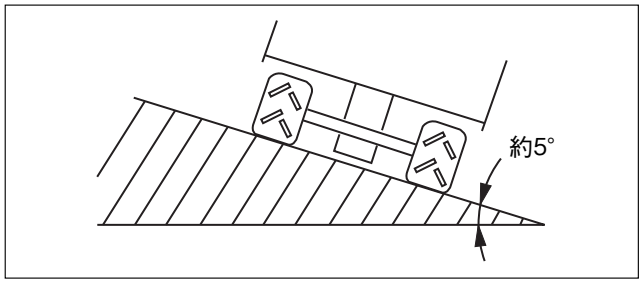


取扱いのポイント

●一度通ったクローラ跡はなるべく通らないようにしてください。

❷ 機械の傾斜

機械の傾斜角度５° 以上では，刈取り作業はできません。



取扱いのポイント

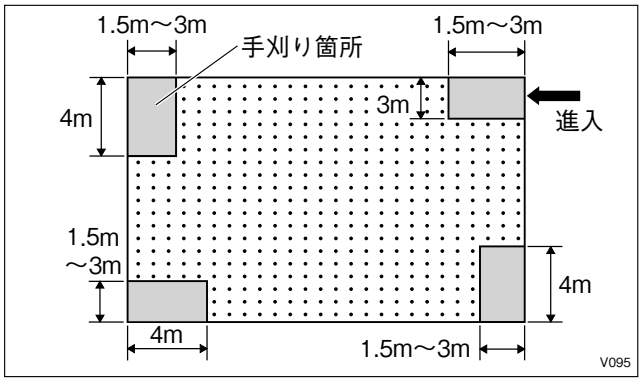
●適応範囲をこえての作業はできません。行わないでください。

●ほ場内に雑草が多いと，刈取り作業ができない場合があります。ほ場内の除草に心がけてください。

3. ほ場の準備

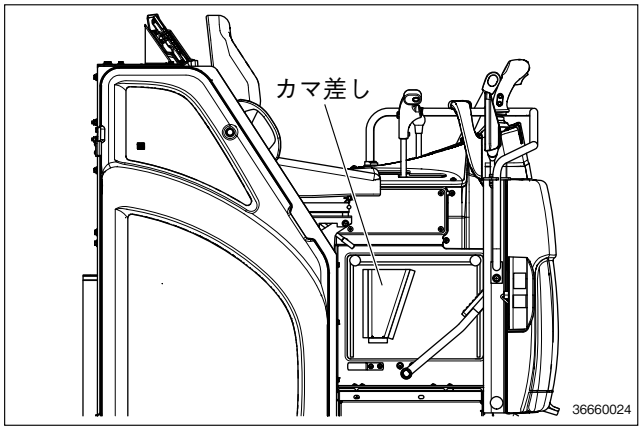
❶ 手刈り

・機械をほ場に入れる前に，あらかじめ四隅を**「旋回できる程度」**手刈りします。



取扱いのポイント

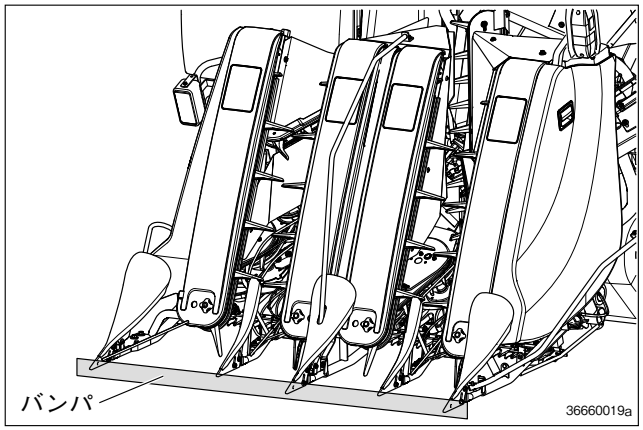
- **強制かき込みスイッチを使用することにより，四隅の手刈り面積を少なくできます。**
- **ほ場の周囲がコンクリートあぜ，または高あぜで，あぜ際いっぱいに植付けされているときは，作業に支障がないように手刈りしてください。**
- **カマ差しは，運転席左側下部にあります。**



4. 機械の準備

❶ バンパの取外し

バンパを取外します。

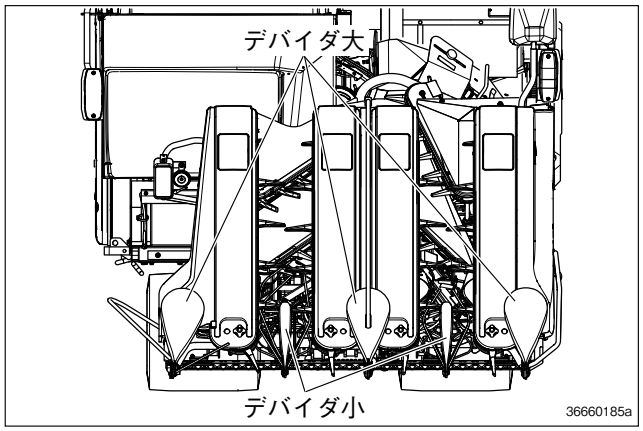


❷ デバイダの上下調整

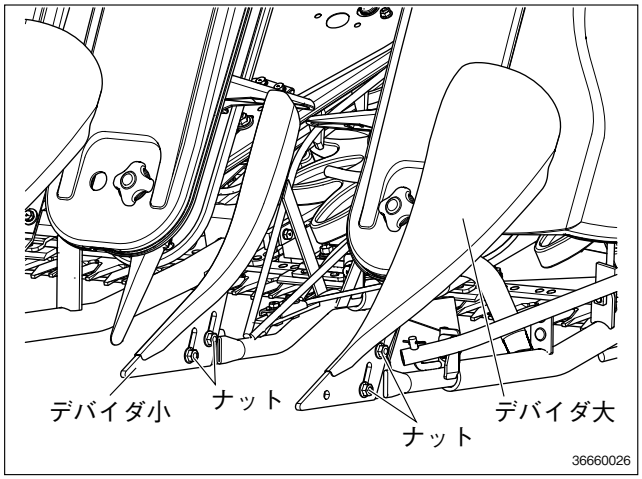
次のような場合は，デバイダを**「下側」**にセットします。

・刈取部を下げたときに，デバイダよりも先に刈刃が地面に着く場合。

・刈取部をいっぱいに下げても，デバイダが地面より離れている場合。



デバイダ取付のナットをゆるめて，デバイダが適正な高さとなるように調整し，締付けて固定します。



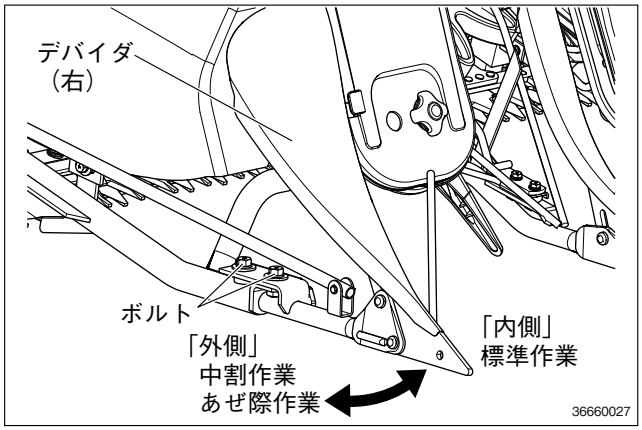
取扱いのポイント

●デバイダは，すべて同じ高さになるようにセットしてください。

❸ デバイダ（右）の調整

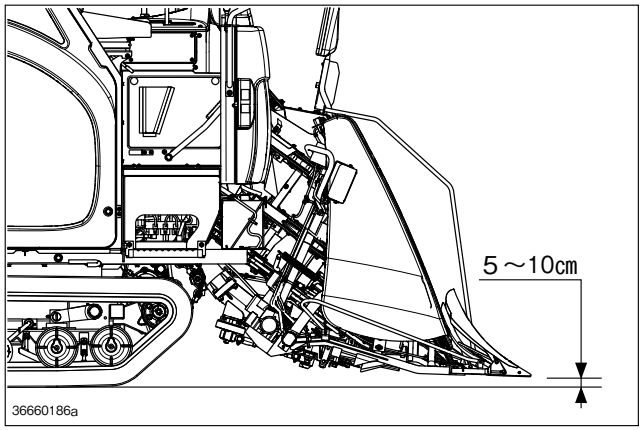
・デバイダ（右）は「**内側**」位置が標準です。

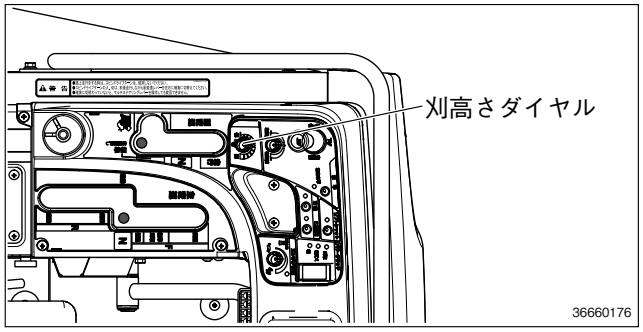
・中割作業やあぜ際作業をするときは，２本のボルトをゆるめて「**外側**」の位置にいっぱい広げ，締付けて固定します。



❹ 刈取り高さの調整

刈取部を下げ，デバイダ先端がほ場表面から「５～10㎝」になるように刈高さダイヤルで調整します。（74～75ページ刈高さポジションコントロール参照）



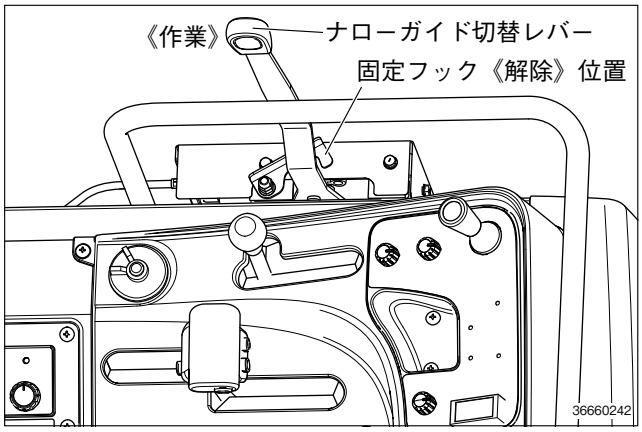


・倒伏および短い作物の場合は，デバイダ先端を地面すれすれに調節します。

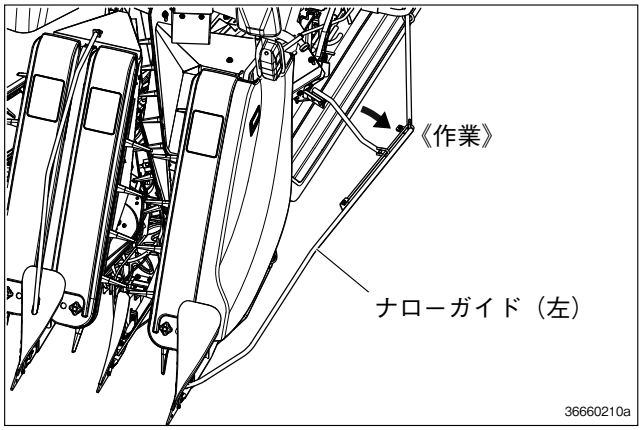
❺ ナローガイド（左）の調節

・ナローガイド切替レバーを《**作業**》にすると，ナローガイド（左）が引出され，作業状態になります。

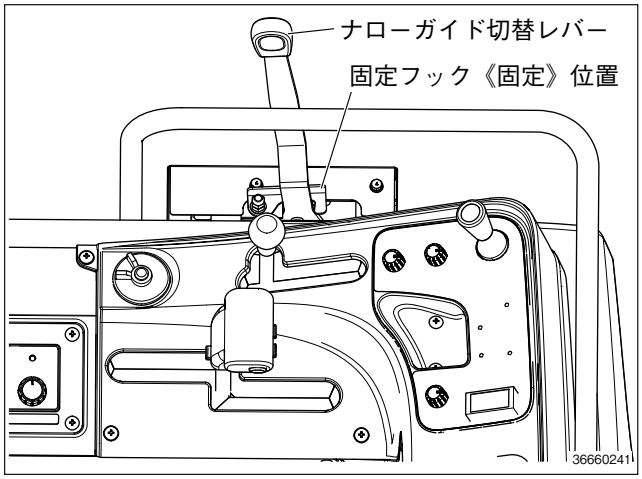
・通常固定フックは《**解除**》の位置で作業します。



・右まわり，あぜ際刈取など，障害物があるときは，収納してください。

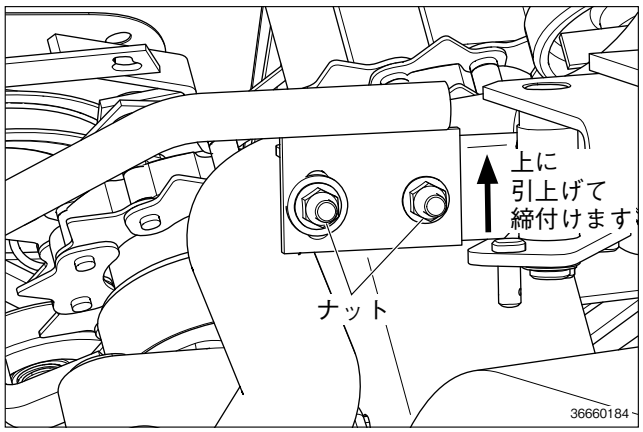


・作業時，レバーが戻る場合は固定フックで《**固定**》してください。



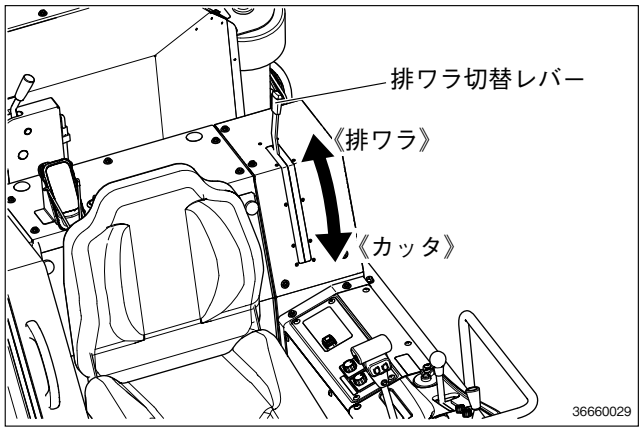
取扱いのポイント

- **長稈材などで未刈稈が倒れ込み，脱こく入口部の搬送に支障がある場合は，「上向きセット」にして作業を行います。**
- **ナローガイドを引出した状態でナット（２箇所）をゆるめ上に引上げナットを締付けます。**

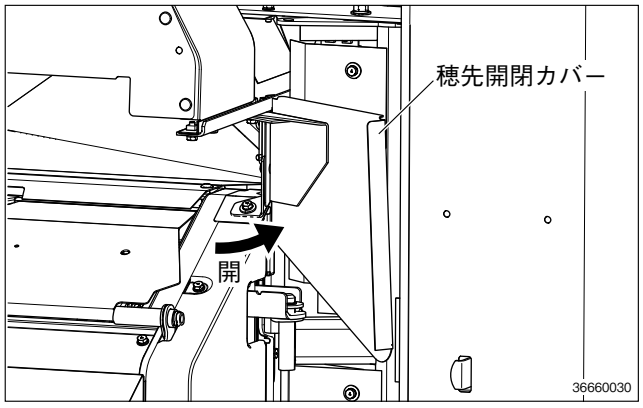


❻ 排ワラ切替レバーの調節

⑴ 作業内容に合わせて，切替レバーで《**カッタ**》・《**排ワラ**》の切替えを行います。



⑵ 排ワラ作業の場合は，穂先開閉カバーを開きます。



❼ 排出オーガ受けのセット

⚠注意 傷害事故防止のために

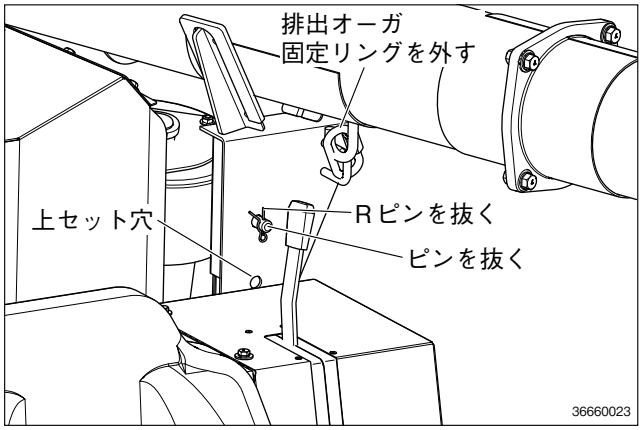
◆こく粒排出作業時以外は，排出オーガを排出オーガ固定リングで，固定してください。
◆路上走行時は，排出オーガ受けを「下セット」にしてください。

工場出荷時に排出オーガ受けは，「**下セット**」で出荷されています。

⑴ 排出オーガ固定リングを外し，排出オーガを《**上げ**》ます。

⑵ 排出オーガ受けを止めているピンのRピンを抜き，ピンをブラケットから抜きます。

「**出荷状態（下セット）**」

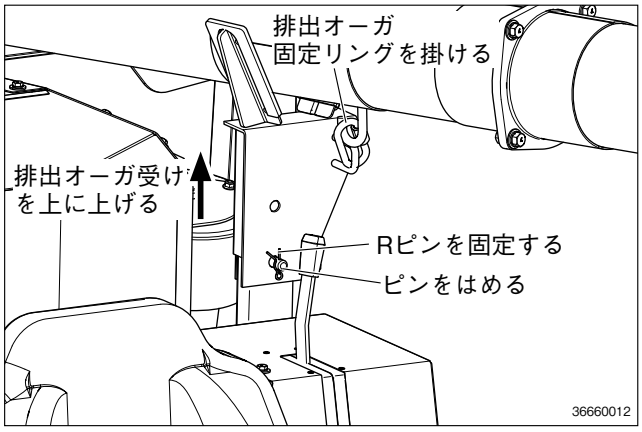


⑶ 排出オーガ受け「**上位置**」のセット穴と，ブラケットの穴を合わせます。

⑷ ピンを差込んで，Rピンで止めます。

⑸ 排出オーガを《**下げ**》フックに排出オーガ固定リングを掛けます。

「**上位置セット**」



❽ 排出オーガの延長［Y仕様］

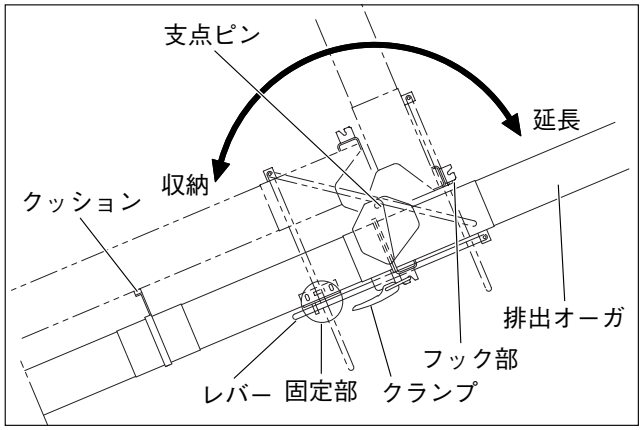
⚠注意 傷害事故防止のために

◆排出オーガの延長操作をするときは，平坦な場所に駐車し，エンジンを停止して操作し，排出オーガを固定してください。
◆排出オーガを延長するときは，連結部に手を入れないでください。

「**延長のしかた**」

⑴ レバーを固定部より外し，支点ピンにレバーを掛け排出オーガを延長方向へ回します。

⑵ レバーをフックに掛け直し排出オーガを回して「**延長状態**」でクランプを掛け，「**固定**」します。



「**折りたたみかた**」

・排出オーガを最上位まで上昇させて低回転で排出クラッチを《**入**》にし，残留こく粒を下降させた後，排出オーガを収納して排出オーガ固定レバーで固定して，「**延長と逆順**」に行います。

⑴ クランプを「**解除**」し，レバーをフックに掛け排出オーガを収納方向へ回します。

⑵ レバーをフックから外し手前に引き，排出オーガがクッションと接触したことを確認します。

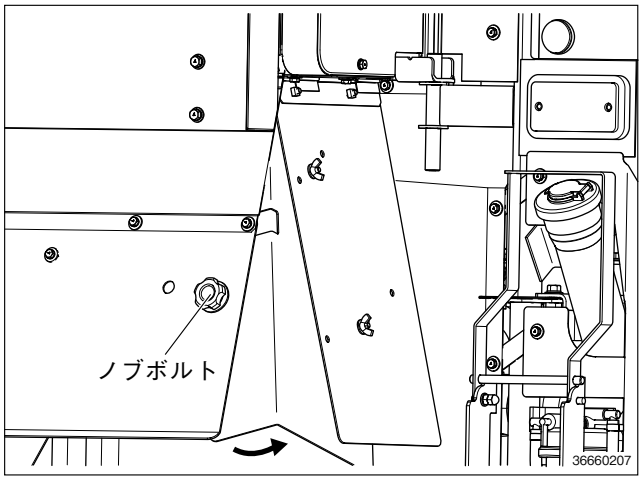
⑶ レバーを固定部に掛けて固定します。

❾ カッター下部カバーの調整

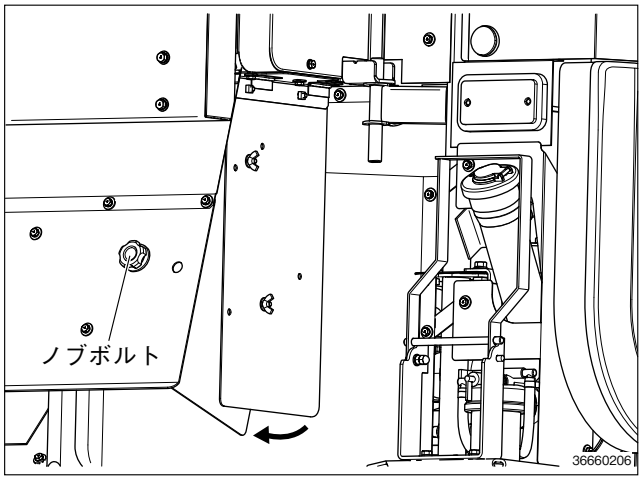
(1) カッター下部カバー（右）のノブボルトをゆるめカバーを開閉します

［下部カバー（右）通常作業状態］

・通常の作業時はこの位置にセットします。



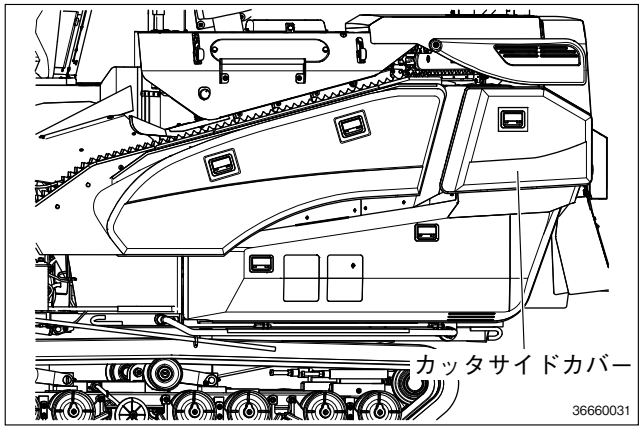
・ワラを少し左側に寄せたときにこの位置にセットします。

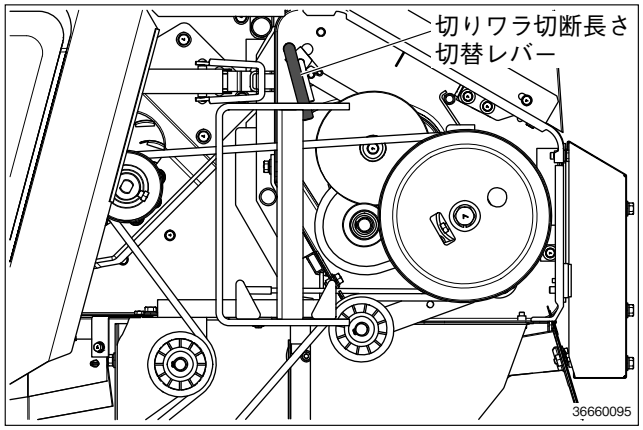


❿ ワラ切断長さの調節

「**カッタ**」作業の場合は「**切ワラ長さ**」を切ワラ切断長さ切替レバーで「**長切り**」「**短切り**」に好みに応じて調節します。(67ページ参照)

・カッタサイドカバーを外すと，レバーが見えます。



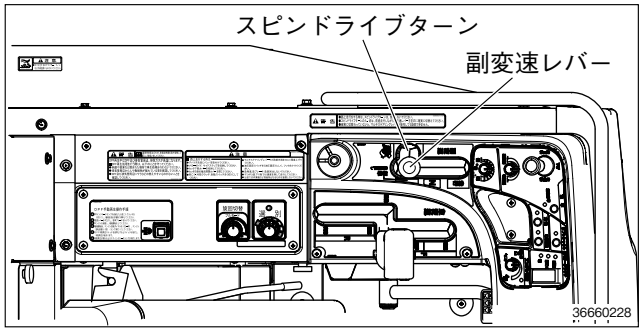


切替後はカッタサイドカバーを取付けます。

⓫ 旋回方式の選択

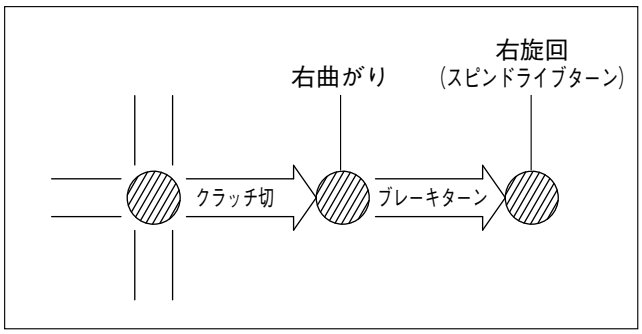
> ⚠警告 傷害事故防止のために
>
> ◆スピンドライブターンは急旋回しますので路上走行するときは使用しないでください。

通常ブレーキ旋回の他に，作業条件に応じて次の旋回方式が選択できます。



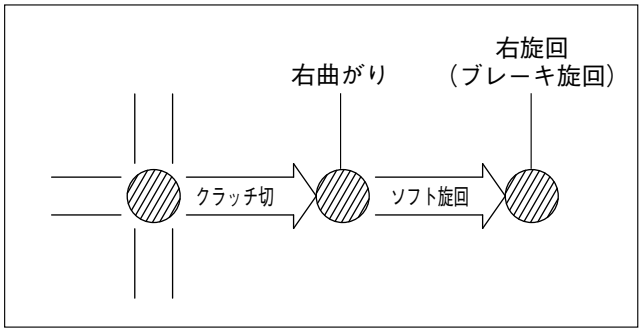
《スピンドライブターン》

副変速レバーがスピンドライブターン位置のとき，マルチステアリングレバーを倒すとサイドクラッチが切れ，さらに倒すと左右のクローラが逆転して旋回します。
小回りが必要なときや能率を上げて作業する場合に使用します。



《ソフト旋回・ブレーキ旋回》

ステアリングレバーを倒すとサイドクラッチが切れ，さらに倒すと片側のクローラが減速し，左右のクローラが同じ方向に回転して旋回します。（ほ場の荒れを少なくして作業する場合に使用します。）
さらに倒すと旋回側のクローラをブレーキで停止させて旋回します。（ブレーキ旋回）



2. 刈取り作業のしかた

麦刈り作業時の調整のしかたは68～69ページを参照してください。

各自動装置の取扱いは **自動装置について** の項を参照します。

1. 刈取り操作の手順

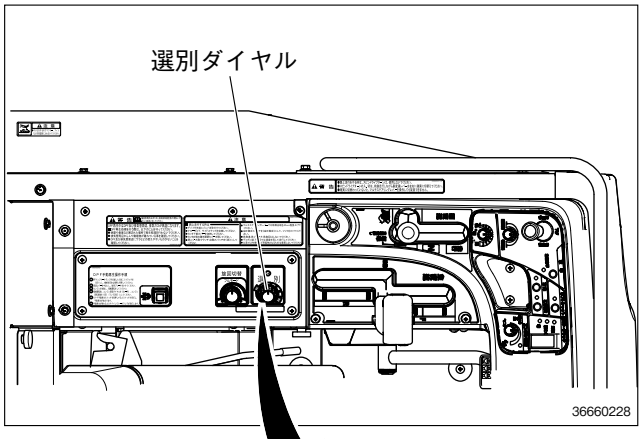
⚠警告 傷害事故防止のために

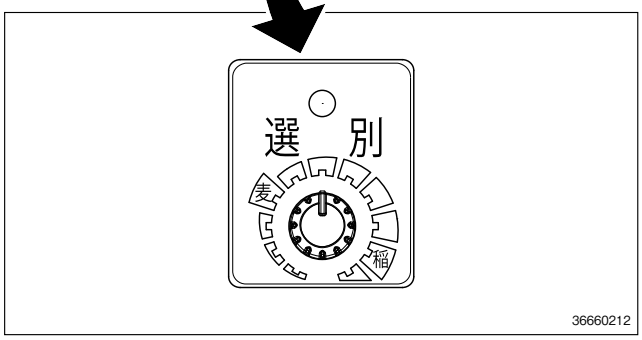
◆刈取り作業をするときは，周囲を確認し，機械に人を近づけないでください。

◆作業中に走行クラッチペダルを踏んで停止したときは，主変速レバーを《N》(中立)に戻してください。発進するときは低速から順次に速度を上げてください。

❶ エンジンを始動し，各自動スイッチが点灯していることを確認します。使用したい自動スイッチが消灯している場合は，スイッチを押して点灯させます。

❷ 選別ダイヤルを刈取る作物に合った位置にセットします。

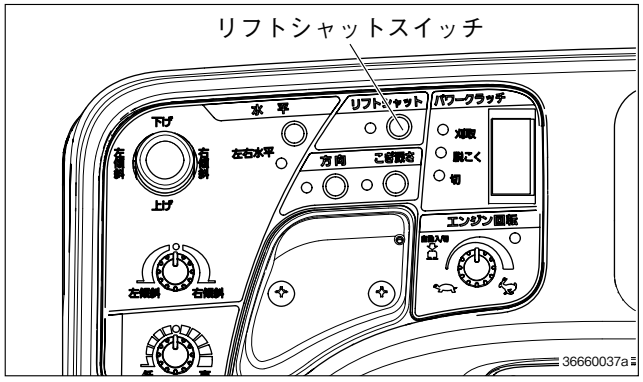




・選別ダイヤルのセット方法は，「**選別自動制御の取扱い**」の項77～78ページを参照。

各自動装置の取扱いは70～82ページを参照します。

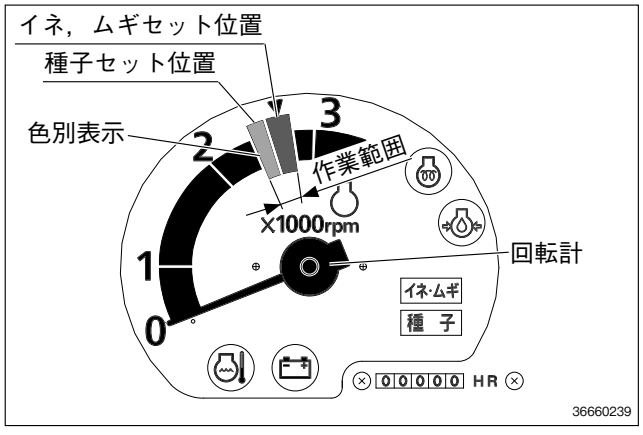
❸ リフトシャットスイッチを作業に応じて《**入**》，または《**切**》にします。(取扱い方法は59ページ参照)



❹ 刈取り条件に合わせ副変速レバーをセットします。(50ページ参照)

❺ エンジン回転自動《**入**》のときは，パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《**刈取**》にするとエンジン回転がイネ・ムギセット位置に自動的にセットされます。

種子セット位置はエンジン回転ダイヤルで回転計の指針が「**色別表示の上限**」になるように調整します。



取扱いのポイント

●**刈取り作業中は，「色別表示」の範囲内に常時指針があるように，主変速レバーとエンジン回転ダイヤルで作業速度を調整してください。**

●**規定の回転より低いと，こぎ残しが多くなったり，脱こく内部にこく粒が詰まったりすることがあります。**
また，回転が高すぎると，こく粒が損傷した飛散が多くなることがあります。
●**パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《切》→《脱こく》にすると，脱こく部が回転すると同時に脱こくフィードチェン搬送が一定速（手こぎ）回転となります。**
●**パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《刈取》にすると，刈取部搬送と脱こくフィードチェン搬送が車速に同調した回転速度となります。（走行停止状態では刈取部および脱こくフィードチェン搬送は停止します）**

❻　最初は低速で発進し，刈取り条件に合わせ，主変速レバーで適正な速度を選びます。（作業速度の選びかた50ページ参照）

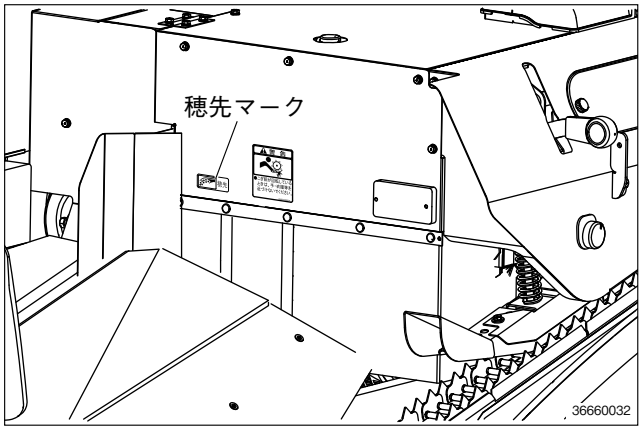
❼　方向修正は，マルチステアリングレバーまたはジャストディレクタを操作して行います。

[ディーラーオプション]

・方向自動制御を使用する場合は，**「方向自動制御の取扱い」**の項72～73ページを参照。

❽　適正こぎ深さの調整

作物が脱こく供給口に搬送され始めたら，作物の穂先が**「穂先マーク」**の位置になるように，自動制御されます。



取扱いのポイント

●**こぎ深さ自動制御は，「こぎ深さ自動制御の取扱い」の項71～72ページを参考にし，適正こぎ深さになるよう調整してください。**

❾　作業中は，回転計の指針が，**「色別表示の範囲内」**に位置するように，主変速レバーで適正な速度に調整します。

刈取り作業中，エンジン回転が下がると，エコランプ（エンジン負荷ランプ）の点滅と警報ブザーの断続音で異常を知らせます。主変速レバーで走行速度を下げ，適正負荷レベルにして作業を行います。（12ページ参照）

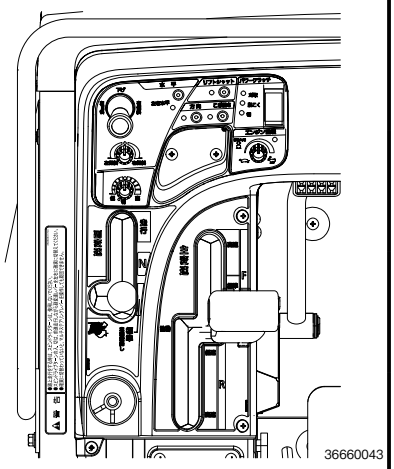
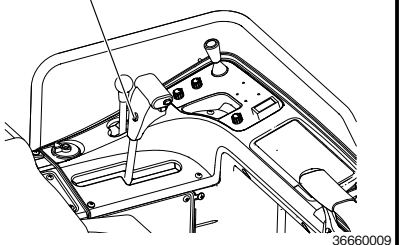
取扱いのポイント

●**エコランプ（エンジン負荷ランプ）の警報ブザーは，警報切ボタンを押しても鳴り止みません。走行速度を落としてエンジンの負荷を軽くすると，ブザーは鳴り止みます。**

2. 作業速度の選びかた

・作業の状態など，作業内容に合わせて，副変速・主変速レバー，引起し変速レバーの速度を選び，最適の状態で作業してください。

<table>
<tr><th rowspan="2">No.</th><th rowspan="2">使用条件
（作物の状態）</th><th colspan="3">変速レバー位置</th></tr>
<tr><th>副変速</th><th>倒伏刈
スイッチ</th><th>主　変　速</th><th>各レバー略図</th></tr>
<tr><td>①</td><td>1. 直立。
2. 半倒伏の場合。</td><td rowspan="3">標 準</td><td>《切》</td><td rowspan="5">「N」(中立) 位置から発進してください。

「標準刈取」の範囲で刈取作業を行い，稈の搬送状態，およびエンジンの馬力の余裕に応じて順次速度を上げてください。</td><td rowspan="8">
36660043
倒伏刈スイッチ

36660009</td></tr>
<tr><td>②</td><td>1. 倒伏追い刈りなどで穂先が極端に遅れている場合。または整然と搬送されない場合。</td><td>《切》</td></tr>
<tr><td></td><td>《入》</td></tr>
<tr><td>③</td><td>1. 全倒伏の場合。
2. 周囲刈りで，低速作業をする場合。</td><td>標 準</td><td>《入》</td></tr>
<tr><td>④</td><td>1. 脱粒しやすい品種を刈取る場合。
2. 倒伏向刈りなどで株抜けや，稈の浮き上がりが目立つ場合。
3. 根腐れや根付きが悪く，株抜けが発生する場合。
4. 短稈で穂先が極端に先行する場合。
5. 麦での稈抜けが極端に目立つ場合。
6. 麦倒伏での稈切れが目立つ場合。</td><td>標 準</td><td>《切》</td></tr>
<tr><td>⑤</td><td>1. 路上走行
2. 長距離の走行</td><td>走 行</td><td>－</td><td>－</td></tr>
<tr><td>⑥</td><td>1. 積込み，積降ろし
2. あぜ越え</td><td>標 準</td><td>－</td><td>「N」(中立) から低速，エンジン2000回転程度。</td></tr>
<tr><td>⑦</td><td>1. 集中注油</td><td>N (中立)</td><td>－</td><td>「N」(中立) から「標準刈取」</td></tr>
</table>

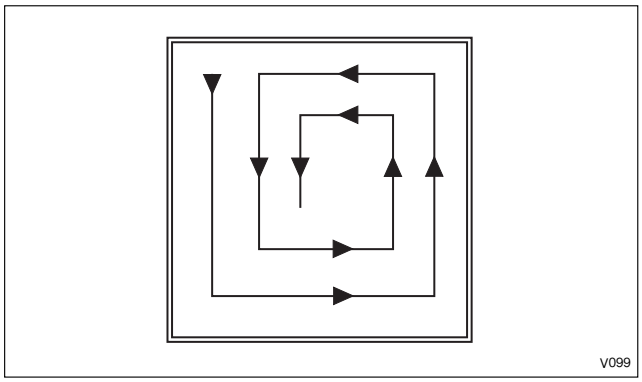
3. 刈取り手順

❶ 回り刈り（左回り）

・このコンバインでの刈取りは，「**左回り刈り**」が基本です。

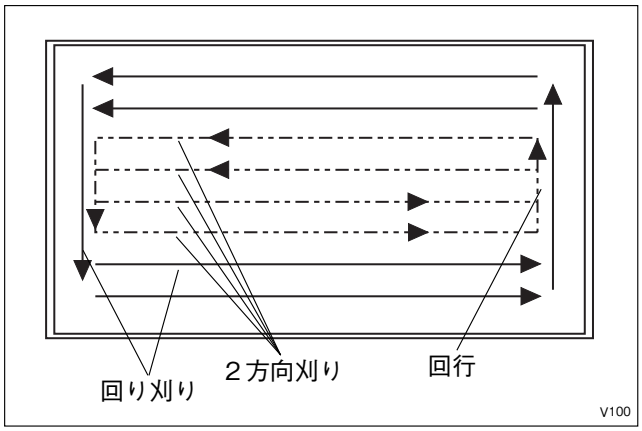
ほ場の形状・大きさにより，つぎのような刈取りをします。

⑴ 正方形に近いほ場



⑵ 長方形に近いほ場

・回行部分が広くなったら，長い２方向のみ刈取ると能率的です。

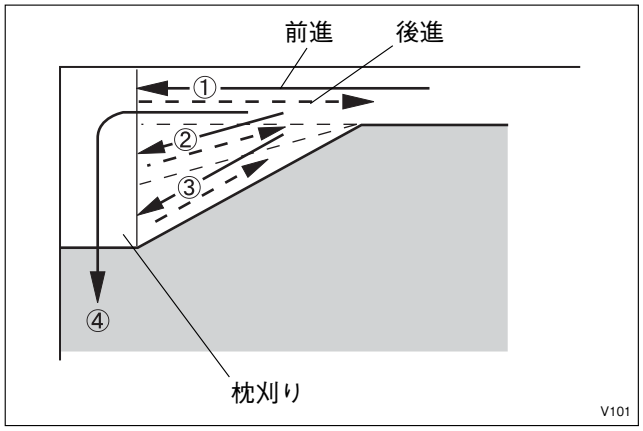


⑶ あぜぎわ刈り

あぜの草などにより，デバイダが見づらい場合がありますので，右デバイダをあぜに当てたり，デバイダ先端を突っ込んだりしないように刈取りします。

⑷ コーナー部の刈取り

回り刈り時機械が旋回できるコーナー部が狭い場合の刈取りは，下図のようにします。

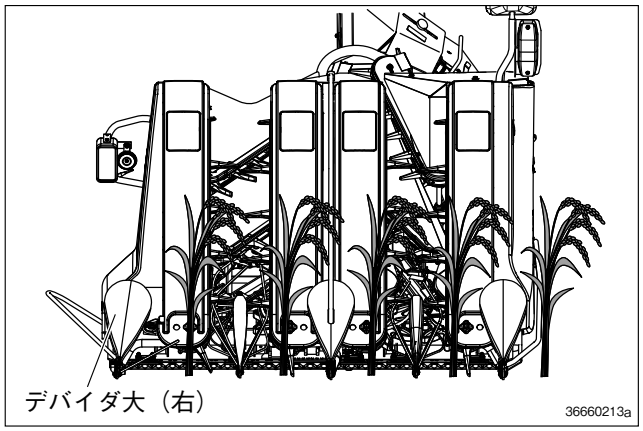


取扱いのポイント

- **コーナー部の刈取り中に方向修正しないでください。途中で方向修正すると稈が倒れ稈長が不揃いになりこぎ残しの原因になります。**
- **②③の斜め刈りで回行しにくいときや湿田では斜め刈りの回数をふやして刈取りしてください。**
- **刈り終わりから前進する余裕がないときは，刈取部を上げる前に強制かき込みスイッチを使用して稈こぼれを防ぎます。**

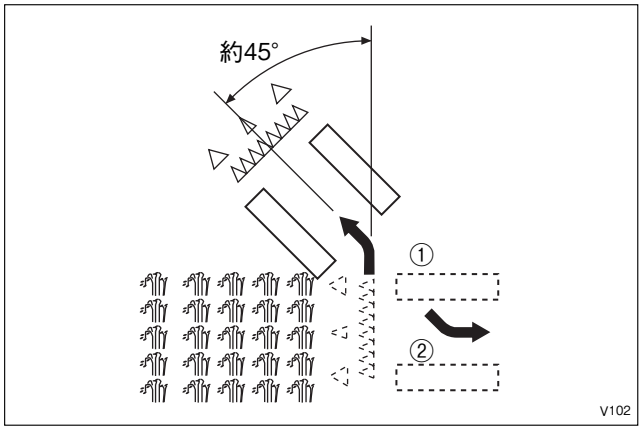
⑸ 条合わせ刈り

・デバイダ大（右）を基準に「**左回り**」で刈残しのないように刈取りします。



⑹ **旋回のしかた（左回り刈り）**

・刈り終わったら，刈取部を40㎝程度上げます。
　エンジン回転はそのままで，連続作業の状態で旋回します。(湿田では，大きく旋回します。)
・左に「**約45°**」向きを変えて停止します。
・後進しながら向きをかえ，次の刈取る方向に機械が真直ぐになるように「**条合わせ**」をします。

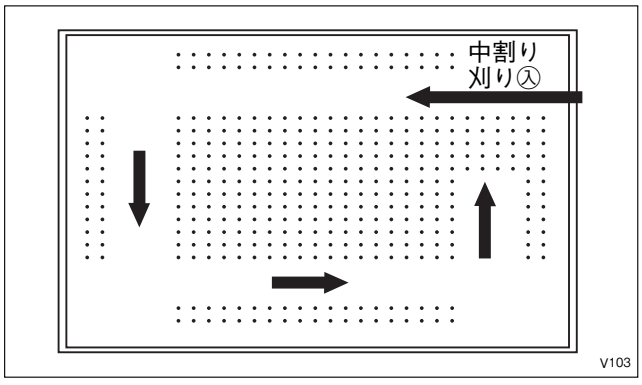


取扱いのポイント

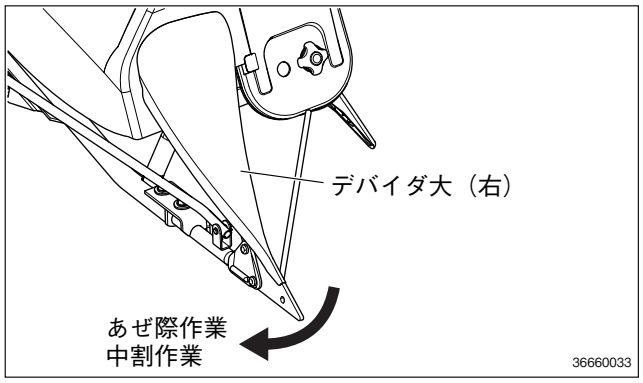
●**旋回のときには，エンジン回転を下げたり，パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《切》にしないでください。脱こく部の詰まりの原因となります。**

❷ **中割り刈り**

・あぜ際刈りや，ほ場の状態により部分的に刈取りするとき，「**中割り刈り**」をします。
・中割り刈りは，《**標準刈取**》よりやや「**低速**」で行います。



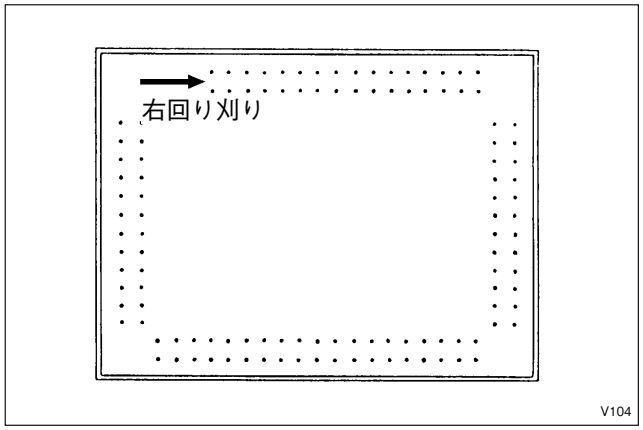
⑴ デバイダ大（右）を，あぜ際作業，中割作業位置にセットします。



⑵ デバイダ大（右）を，刈取りする株元の右側に合わせ，刈取ります。

❸ **右回り刈り**

⑴ 回りのあぜが高く，あぜ際まで植付けされているときは，あぜ際４条を残し「**中割り・左回り**」で刈取りをします。
⑵ 残した４条を最後に「**右回り**」で刈取ります。
⑶ あぜ際を「**右回り刈り**」するときは，「**ナローガイド（左）**」を収納し，「**デバイダ（左）**」をあぜに突込まないようにします。

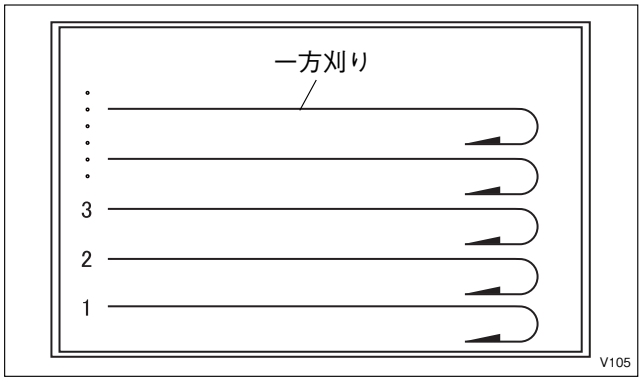


取扱いのポイント

●**ほ場の状態によっては，最初にあぜ際を「右回り」で刈取り，次から正常な「左回り」で刈取りするのが良い場合もあります。**

❹ 倒伏作物の刈取り

・倒伏した作物は，状態にあわせて「**一方刈り**」を行います。



⑴ 刈取り方向

・倒伏した作物の刈取りは，下と右の図表を参考にして行います。

1．倒伏，中倒伏の場合の副変速は《**標準**》で，倒伏刈スイッチは倒伏している場所でのみ《**入**》にして刈取作業を行ってください。

※中倒伏および倒伏共，主変速レバーは,《**標準刈取**》の範囲で使用してください。搬送姿勢が安定した刈取作業ができます。

2．②右倒伏刈りが困難なときは，「**④左倒伏刈り・③追刈り**」となるように「**一方刈り**」をします。

「**方向自動を使用しないとき**」

刈取り方向＼倒伏程度		倒伏	中倒伏	立毛状態
①②③④	①向い刈り	×	△	○
	②右倒伏刈り	×	○	○
	③追い刈り	△	○	○
	④左倒伏刈り	△	○	○

○刈取り可能
×刈取り不可能
△走行速度を落として刈取り可能

「**方向自動で刈取りするとき**」[ディーラーオプション]

刈取り方向＼倒伏程度		倒伏	中倒伏	立毛状態
①②③④	①向い刈り	×	×	○
	②右倒伏刈り	×	○	○
	③追い刈り	×	○	○
	④左倒伏刈り	×	○	○

○刈取り可能
×刈取り不可能（倒伏刈取りできません）

⑵ スーパーデバイダ（別売り）

スーパーデバイダは稲の倒伏方向が一定でないとき（右倒伏・向い倒伏刈りとなるとき），倒伏材の引起し性能をさらにアップさせます。

取扱いのポイント

- **倒伏した作物を刈取るときは，引起し爪が最も下がった状態（地面に近い位置）で作用するようにデバイダを調整してください。**
- **デバイダ先端が土に突込まないようにしてください。**
  土に突っ込むと株の引抜きが発生し，詰まりの原因となります。
- **倒伏した作物の，中割り刈りは避けてください。**
- **クローラで穂先を踏まないようにしてください。脱こく部の詰まりなどの原因になることがあります。**
- **倒伏した作物を刈取る際に，刈取部の速度を通常より速くしたいときは，倒伏刈スイッチを押し，ランプ点灯状態で作業をしてください。**

4．こく粒の排出操作方法

⚠警告 傷害事故防止のために

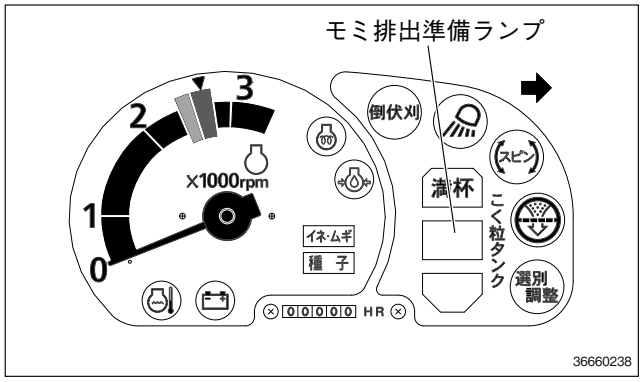
◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろしをするときは，グレンタンク内のこく粒を排出してください。
◆傾斜地でのこく粒の排出作業はしないでください。
◆排出オーガの操作は運転席から，後方を向いて周囲の安全を確認してから行ってください。
◆こく粒の排出作業をするときは，駐車ブレーキをかけて行なってください。
◆排出オーガ先端部に溜まったこく粒を取除く場合は，こく粒排出スイッチ［ディーラーオプション］または，こく粒排出レバーを「切」にしエンジンを停止してください。
◆旋回範囲近くに障害物がある場合は，排出オーガ自動旋回スイッチを使用しないで，手動操作で排出オーガを操作してください。
◆水平自動スイッチを「切」にして，水平操作レバーで機体を一番下まで下げてから，排出作業をしてください。
◆作業終了後は，オーガ操作リモコンをリモコンホルダへ戻してください。

⚠注意 傷害事故防止のために

◆排出オーガの作動範囲に頭や手を近づけないでください。
◆こく粒排出後の移動は，排出オーガを収納し，固定リングで固定してから行なってください。
◆排出オーガ排出口のビニールカバーは，人や物に接触したときに，相手を傷つけないように装備されています。ビニールカバーが破損したときは，直ちに「お買いあげ先」にて交換してください。
◆こく粒排出後の移動は，排出オーガを収納し，固定リングで固定してから行なってください。

❶ モミ満杯予告シグナル

・満杯に近づくと，方向指示器全てが点滅し補助者にモミ排出準備を知らせます。



❷ グレンタンクのモミ警報

・グレンタンクにこく粒が充満すると，こく粒タンクランプ《**満杯**》の「**点灯**」と警報ブザーの「**断続音**」で知らせます。刈取り作業を中止し，こく粒の排出を行います。
・警報ブザーは，警報切ボタンを押すと止まります。

取扱いのポイント

●警報ブザーが鳴ったあと，そのまま作業を続けると，警報ブザーの連続音が鳴り，自動的にエンジンが停止します。

❸ モミ排出残量お知らせ機能

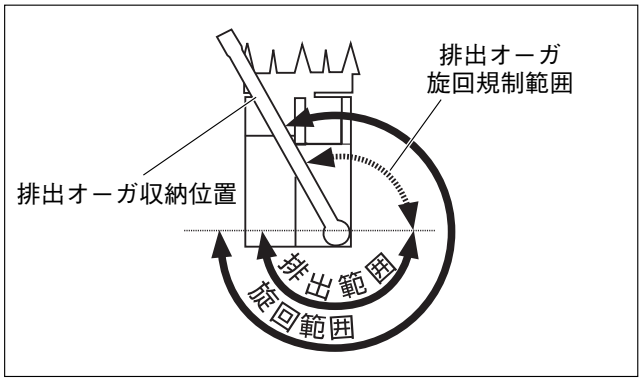
・こく粒排出中にグレンタンク内のこく粒の量が少なくなるとブザーでお知らせする機能です。排出終了のタイミングの目安とすることができます。

取扱いのポイント

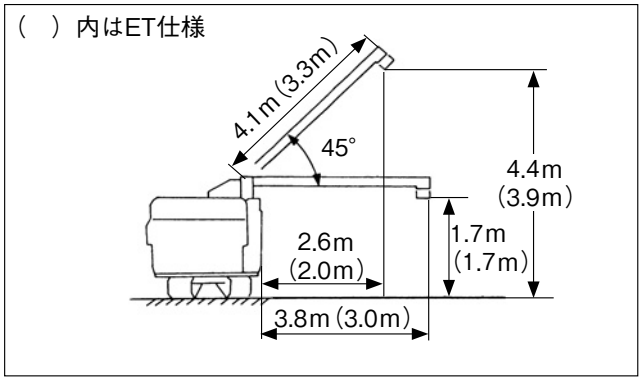
●グレンタンク内のこく粒量が最初から少ない状態でこく粒排出を行った場合は，お知らせ機能は働きません。

❹ こく粒排出範囲（排出オーガ旋回範囲）

こく粒排出位置まで移動し，平坦な場所を選び，主変速レバーを《N》(中立）にし，駐車ブレーキをかけて機械を停止します。

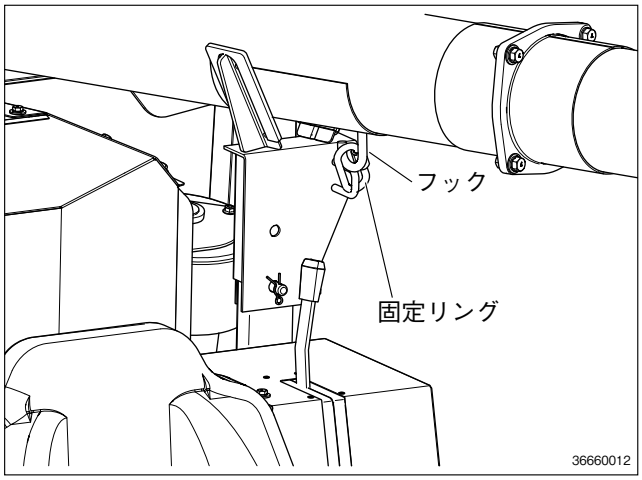


「排出オーガ高さと距離」[Y仕様]



❺ こく粒排出操作手順

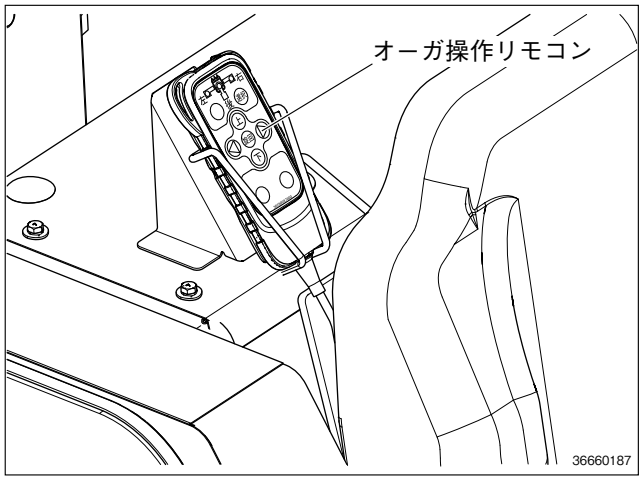
(1) 排出オーガ固定用リングをフック部より外す。

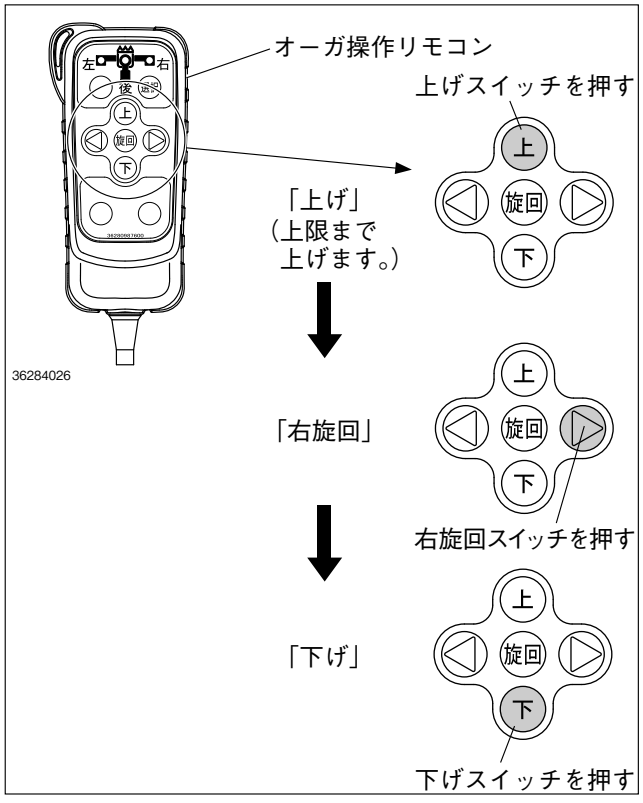


(2) こく粒排出オーガの先端部を排出位置にセットする。

位置セットする場合，「手動」と「自動」の二通りの操作が可能です。

手動操作のとき





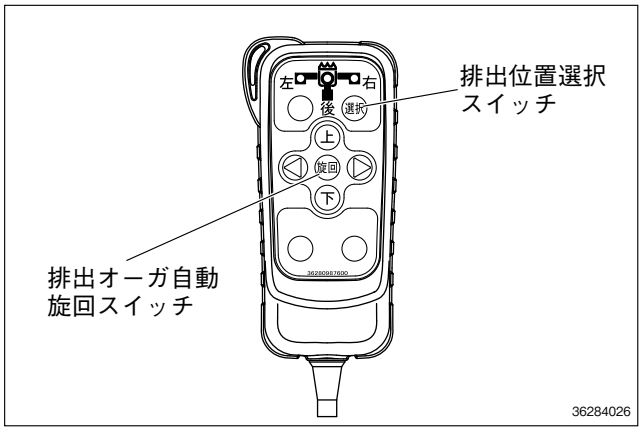
自動操作のとき ［排出時］

・排出位置選択スイッチにて排出位置を設定する。

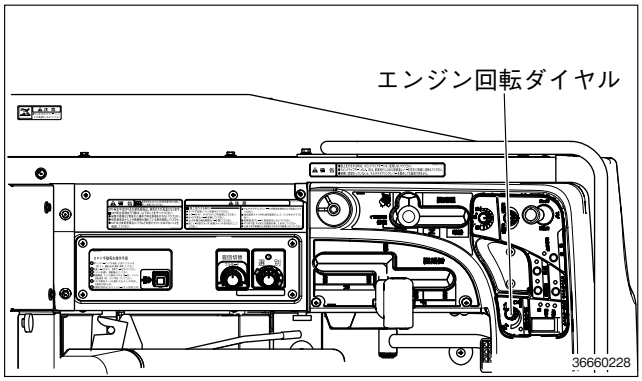
・排出オーガ自動旋回スイッチを「押」す。

……自動旋回開始

→ 設定した位置で停止→手動で高さを合わせる

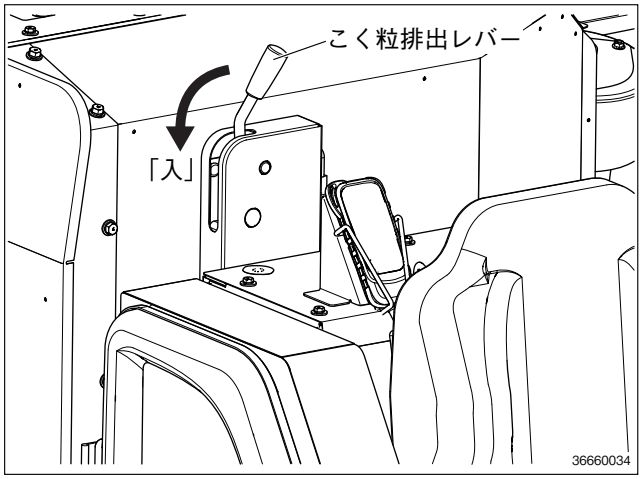


⑶ こく粒を排出する場合は，エンジン回転を回転計の「色別表示」に合わせて行なってください。(詳細は　ページ参照)



⑷ー１　こく粒排出レバーを「入」にする。

……こく粒排出開始



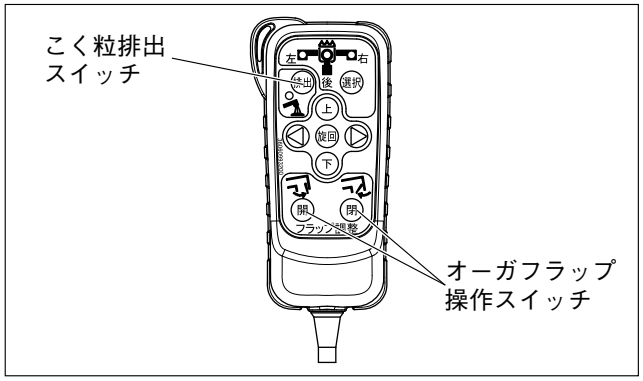
［オーガフラップはディーラーオプション］

⑷ー１　こく粒排出スイッチを「入」にする。

……こく粒排出開始

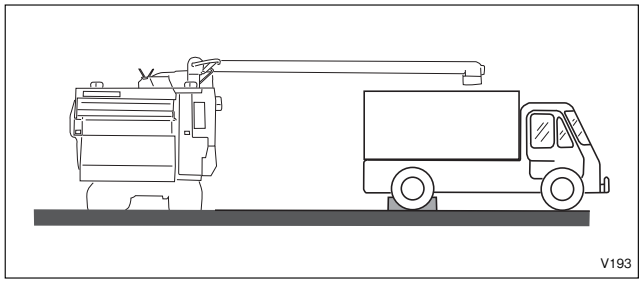
⑷ー２　オーガフラップ操作スイッチ

フラップを「開」「閉」操作し，こく粒排出位置を微調整・均一排出できます。



⑸ こく粒排出スイッチを「切」にする。

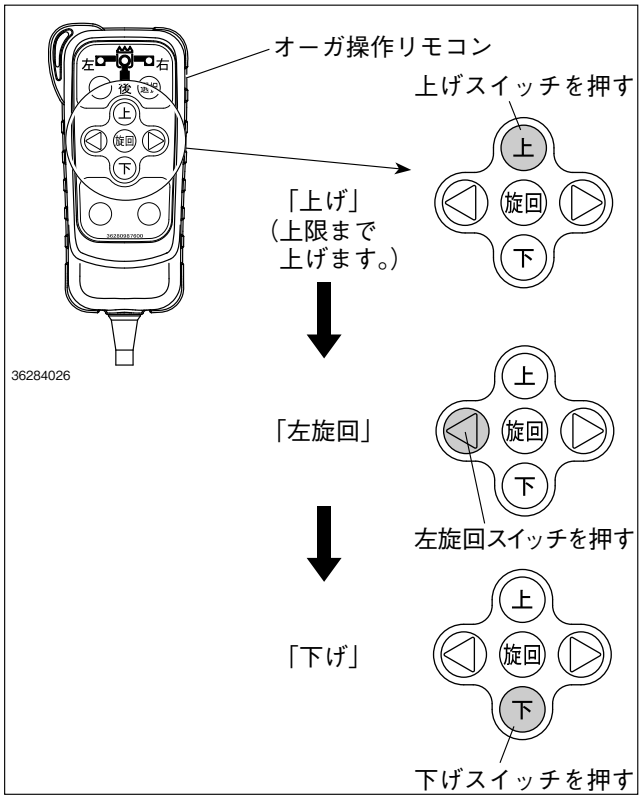
……こく粒排出終了



⑹ こく粒排出オーガを収納する。

収納する場合，「手動」「自動」の二通りの操作が可能です。

手動操作のとき



自動操作のとき ［収納時］

・排出オーガ自動旋回スイッチを「押」す。

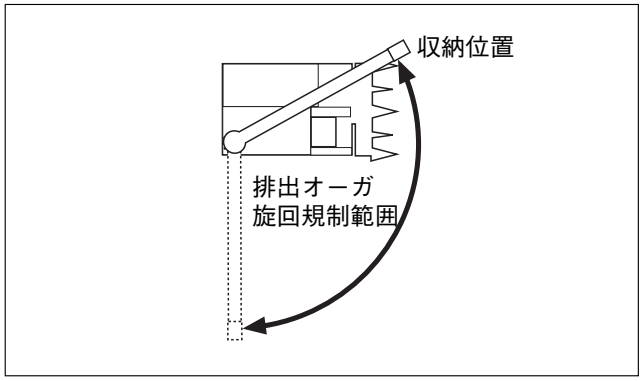
……自動収納開始

→ 収納位置で停止→自動収納終了

⑺ 排出オーガ固定用リングをフック部にかける。

取扱いのポイント

- こく粒の排出は，排出オーガの先端部をこく粒で塞がないようにして，排出位置を変えながら行なってください。
- 排出位置の変更は，機械を止めた状態で，排出オーガを少しずつ回動させて行なってください。
- 機械が傾いた状態では，オーガの旋回が遅くなったり，旋回ができなくなったり（サーキットブレーカ作動）します。また，自動収納時，排出オーガ受けに納まらない場所がありますので旋回操作は平坦な場所で操作してください。
- 排出オーガは手で押して動かさないでください。故障の原因になります。
- 排出オーガ旋回規制範囲内では，排出オーガを最上げ状態にしなければ旋回できません。また，この範囲内では，排出オーガの下降はできません。



5．グレンタンク補助樋口の取扱い

故障などにより，グレンタンク内のこく粒が排出不可能になったときに使用します。樋口はグレンタンク下部カバーを取外すと，その内側にあります。

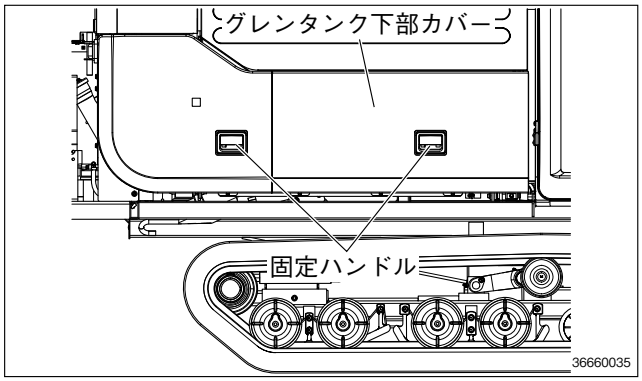
⚠警告 傷害事故防止のために

◆補助樋口からこく粒を取り出すときは，エンジンを停止してください。

⚠注意 傷害事故防止のために

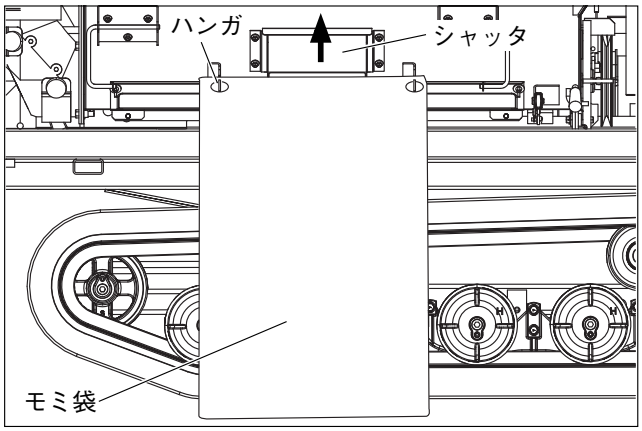
◆カバーを取外したままで使用すると，ケガをする恐れがありますので，取付けて使用してください。

❶ グレンタンク下部カバーの固定ハンドルを引いて，カバーを外します。



❷ ハンガにモミ袋をかけます。

❸ シャッタを引き上げ，タンク内のこく粒をモミ袋に取出します。



❹ こく粒の取出しが終了したら，シャッタを閉め，グレンタンク下部カバーを取付けます。

6．ニューツインハーモニー

⚠警告 傷害事故防止のために

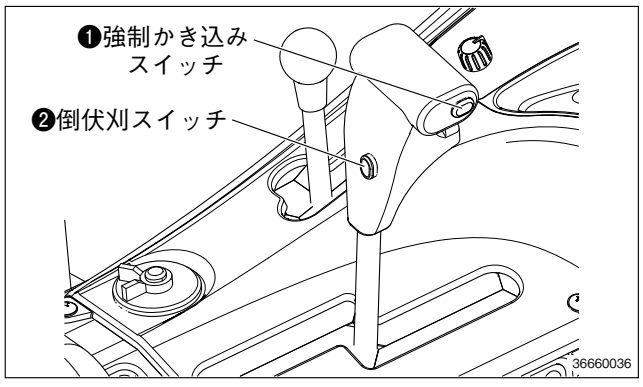
◆詰まりなどの異常が発生したときに，詰まったワラクズなどを取除く場合や，搬送部の点検をする場合には，刈取搬送，脱こくフィードチェンが突然回転する恐れがあります。パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《切》にしてから平坦な場所でエンジンを停止して各部の回転が止まってから行ってください。

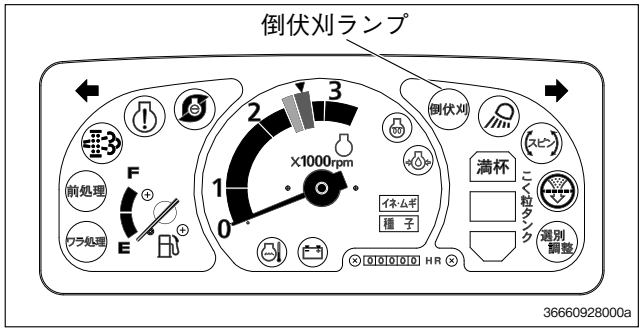
◆パワークラッチ(脱こく･刈取)スイッチ《脱こく》位置で脱こくフィードチェンが回転しているときにパワークラッチ(脱こく･刈取)スイッチの《刈取》への操作を行うと，刈取搬送がわずかの間作動する場合があります。

◆強制かき込みスイッチの操作は，周囲の安全を確かめてから行ってください。

・刈取速度に応じて，刈取搬送，脱こくフィードチェンの搬送速度を同調制御します。

・手こぎ作業時および，強制かき込み作動中は刈取搬送，脱こくフィードチェンは一定速で回転します。





❶ 強制かき込みスイッチ

パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチ《**刈取**》位置のときに，走行停止状態または後進時に押している間，刈取搬送，脱こくフィードチェンが作動します。

取扱いのポイント

- **パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《切》→《脱こく》にすると，脱こく部が回転すると同時に脱こくフィードチェン搬送が一定速（手こぎ）回転となります。**
- **パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《脱こく》→《刈取》にすると，刈取搬送と脱こくフィードチェン搬送が車速に同調した回転速度となります。走行停止状態では刈取搬送および脱こくフィードチェン搬送は停止します。**
- **刈取作業中は強制かき込みスイッチを操作しないでください。搬送部の詰まりなどの原因になることがあります。**
- **ほ場端などでの刈り上げの際は，刈取部を上げる前に強制かき込みスイッチを使用して稈こぼれを防ぎます。**
- **ほ場進入（機体前傾）時，強制かき込みスイッチを押しながら刈取りすると，搬送がスムーズに行えます。**

❷ 倒伏刈スイッチ

「**入**」……押すと倒伏刈ランプが点灯し，刈取搬送，脱こくフィードチェンの搬送速度が通常より速くなります。

「**切**」……再度押すと通常の状態に戻ります。

7. リフトシャットの取扱い

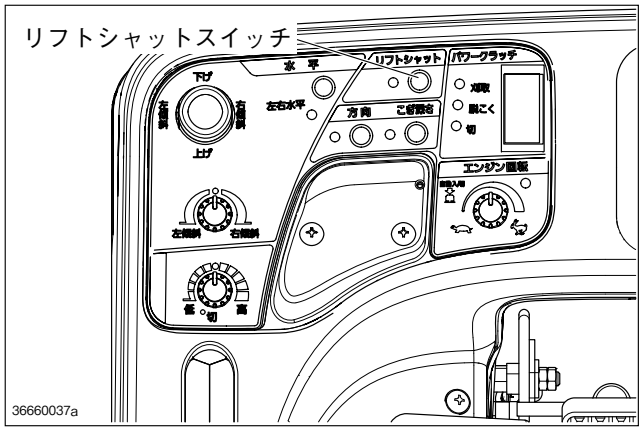
⚠警告 傷害事故防止のために

◆リフトシャットスイッチを《入》にしてパワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチが入っていると，刈取部を下げたときは，刈取部，脱こくフィードチェンが回転します。刈取部，脱こく部に近づかないでください。

◆リフトシャットが作動し，刈取部，脱こくフィードチェンが停止していても，強制かき込みスイッチを押せば，刈取部，脱こくフィードチェンが回転します。強制かき込みスイッチを押すときは，周囲に人がいない事を確認してください。

リフトシャットとは，リフトシャットスイッチを《**入**》にして刈取部を上げると，パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチが入った状態で自動的に刈取り搬送，脱こくフィードチェンが停止する機構です。刈取部を下げると自動的に回り始めます。

リフトシャットスイッチを《**切**》にすると，リフトシャットは機能せず，刈取部の上下位置に関係なく，刈取部・脱こく搬送部は回転します。



次の場合は，リフトシャット《**切**》位置で使用します。

・手刈りのしてないほ場の回り刈り作業
・あぜ越え直後からの刈取り作業
・あぜ際などを高刈りする場合
・湿田などで刈取部を上げた状態で作業する場合

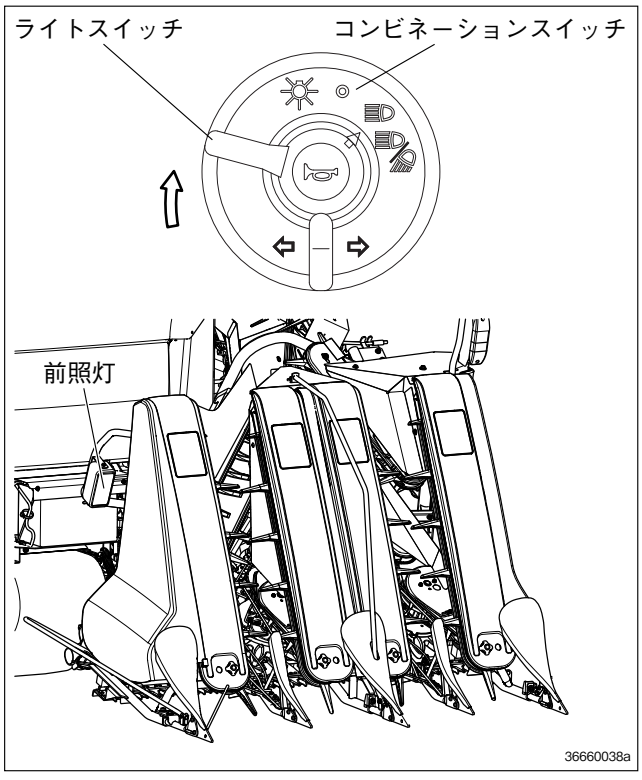
8．夜間作業

⚠警告　傷害事故防止のために

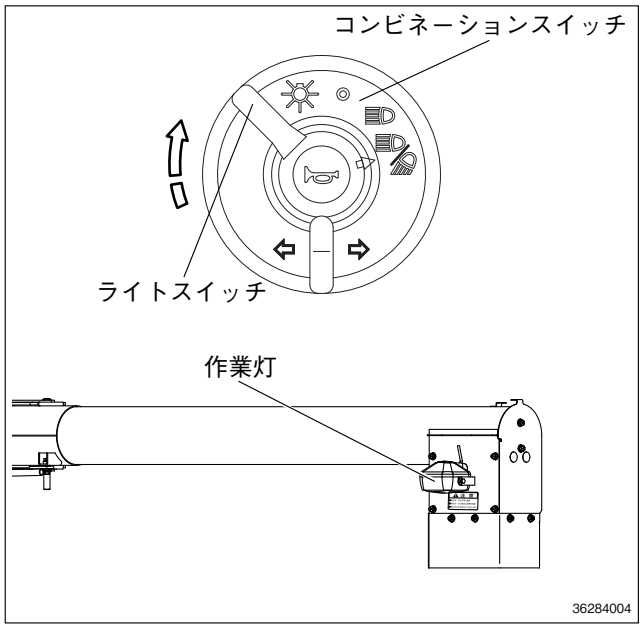
◆夜間作業をするときは，前照灯，作業灯を点灯してください。
◆作業灯電源を他の電源に使用しないでください。
◆路上走行するときは，作業灯を消灯してください。

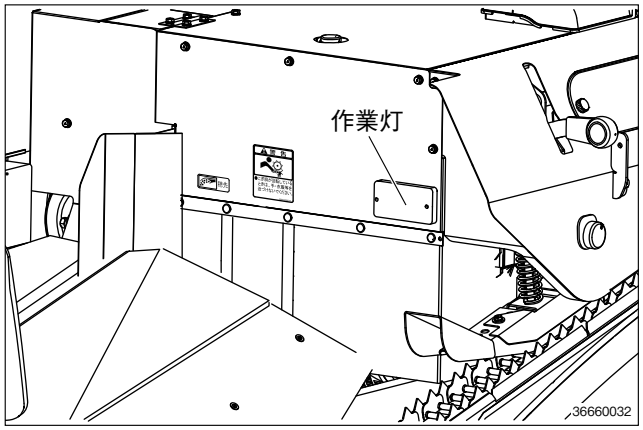
コンビネーションスイッチのライトスイッチと各作業灯スイッチの操作で，前照灯と作業灯を点灯または消灯します。

❶　ライトスイッチを１段回すと前照灯が点灯します。



❷　ライトスイッチを２段回すと，前照灯および全ての作業灯が点灯します。





9. トルクリミッタの取扱い

⚠警告 傷害事故防止のために

◆詰まりなどの異常が発生したときに詰まったワラクズなどを取除く場合や搬送部の点検をする場合には，平坦な場所でエンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。

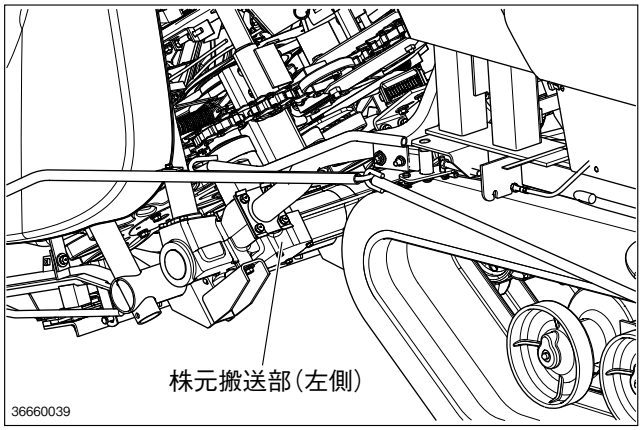
◆刈取部を上げて掃除・点検をする場合は刈取部が下がらないように油圧固定スイッチを《油圧固定》の位置にしてフックをかけ，さらに刈取部の下に「固定脚」などをかませて作業してください。

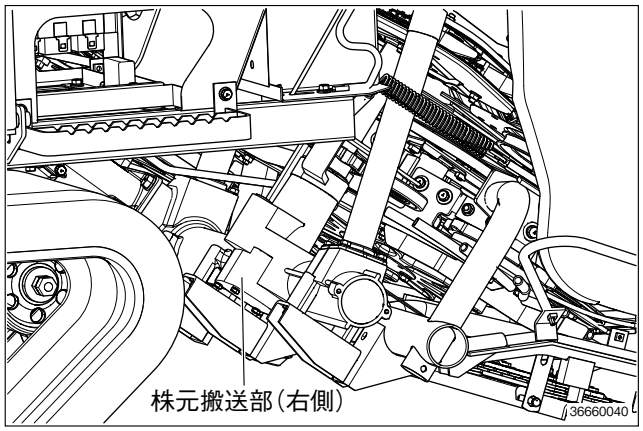
⚠注意 傷害事故防止のために

◆詰まりを取除いて，回転確認を行う前に取外したカバーをすべて取付け，機械の周囲に人がいないことを確認し，低速回転で行なってください。

刈取り作業中に異常（詰まりなど）が発生したとき，機械の破損を未然に防ぐためつぎの箇所に「**トルクリミッタ**」が設けてあります。

使用箇所	トルクリミッタが作動するとき
刈取搬送部 ・株元搬送駆動部 （２箇所）	株元搬送で搬送詰まりおよび異常負荷が発生したとき





❶ 刈取搬送部・トルクリミッタ

⑴ 作業中，刈取部への搬送がスムーズに行われず，異常（詰まりなど）が発生し「**カタカタ音**」を発しているときは，株元搬送の「**トルクリミッタ**」が作動して搬送が停止します。

⑵ ただちに作業を中止し，パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《**切**》にし，エンジンを停止します。

⑶ 油圧固定スイッチを《**油圧固定**》位置にしてフックをかけ，さらに刈取部の下に「**固定脚**」または，「**安全ブロック**」をかませ，詰まり箇所を掃除し，刈取搬送部を点検します。

⑷ 副変速レバーを《**N**》(**中立**) にし，エンジンを始動します。エンジン回転ダイヤルを《🐢》(**低速**) にし，パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《**刈取**》にし，主変速レバーを《**低速**》に操作し正常に回ることを確認してから作業を開始します。

取扱いのポイント

●リフトシャットが《入》の場合い刈取搬送部は回らないときがありますので，リフトシャットを《切》にして，確認をします。

❷ こぎ深さ搬送ガイドの着脱

刈取り作業中にこぎ深さ搬送の箇所で搬送詰まりが発生したときは，ホルダを回動させることにより詰まりを容易に取除くことができます。

「取外し手順」

⑴ パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《切》にし，エンジンを停止します。

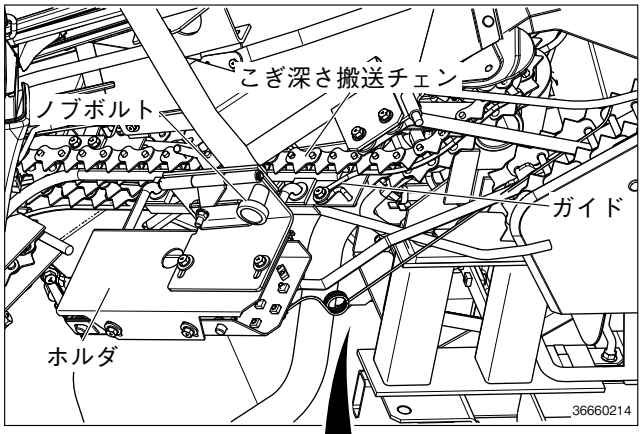
⑵ ホルダのノブボルトを緩め取外します。

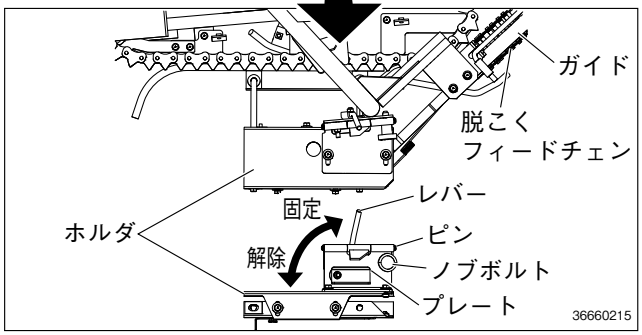
⑶ レバーを解除方向にいっぱい動かすと，ホルダがピンを支点に回動します。

⑷ ガイドが脱こくフィードチェンに当たらないように上に持ち上げながらホルダをいっぱいに手前に引きます。

⑸ プレートＡを回動し，プレートＢに掛けてホルダを固定します。

⑹ 搬送詰まりを取り除きます。





「装着手順」

⑴ プレートＡを回動しプレートＢから外します。

⑵ ガイドが脱こくフィードチェンの上にくるようにしてホルダを奥に押し当て，ノブボルトを締付けます。

⑶ レバーを固定方向にパイプに当たるまで動かし，ホルダを固定します。

10．エンジン自動停止の取扱い

⚠警告 傷害事故防止のために

◆詰まりなどの異常が発生しエンジンが自動停止した場合は，スタータスイッチを《切》位置にしてから，詰まりを取除いてください。

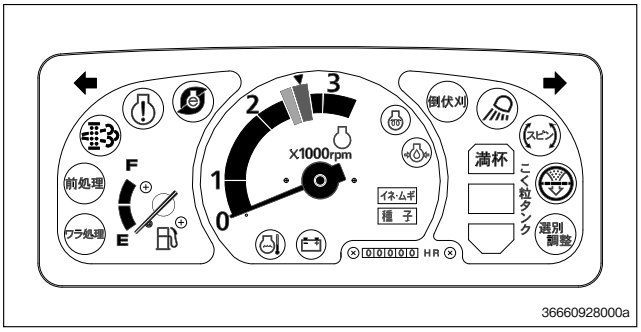
◆脱こくフィードチェンの詰まりの掃除・点検作業は，こぎ胴部を一杯持ち上げ（こぎ胴部は自動ロックされます），ゆっくり手を離してロックされていることを確認してから行なってください。

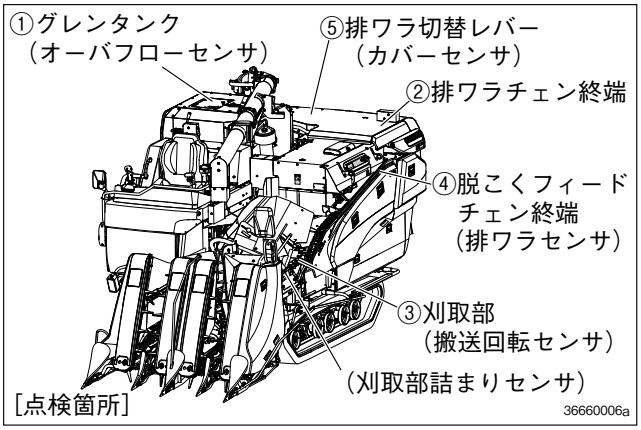
◆排ワラチェン詰まりやカッタ詰まりの掃除・点検作業は，こぎ胴部やカッタを開きストッパをかけてから行なってください。（117～119ページ参照）

◆詰まりを取除いて，回転確認を行う前に，全てのカバーを取付け，こぎ胴部を閉めて，機械の周囲に人がいないことを確認してから，低速で回転確認を行なってください。

刈取り作業中に異常（詰まりなど）が発生したときは，機械の破損や変形を未然に防ぐため，次の箇所のセンサが作動して，警報ブザーが鳴り，ワラ処理ランプ，前処理ランプ，またはこく粒タンクランプが点灯あるいは，倒伏刈ランプが点滅してエンジンが自動停止します。

No.	センサ設置部	停止条件	センサ名
①	グレンタンク	オーバーフロー	オーバーフローセンサ
②	排ワラチェン終端	詰まり	排ワラセンサ（排ワラチェン）
③	刈取部	詰まり	搬送回転センサ 刈取部詰まりセンサ
④	脱こくフィードチェン終端	詰まり	排ワラセンサ（脱こくフィードチェン）
⑤	排ワラ切替カバー	オープン	カバーセンサ





❶ エンジンが停止したら，スタータスイッチを《**切**》位置にして，詰まりやオーバーフローを取除きます。

❷ 詰まりを取除き，副変速レバーを《**N**》(**中立**) にし，エンジンを始動します。エンジン回転ダイヤルを《🐢》(**低速**) にし，パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《**刈取**》位置にして，主変速レバーを《**低速**》に操作し，搬送部が正常に作動することを確認してから作業を開始します。

取扱いのポイント

- **こぎ胴部を閉じるときは，脱こくフィードチェン，排ワラチェン部のワラを取除いてから行なってください。**
- **停止時のパワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチの位置により再始動時にスタータスイッチ《入》で２～３秒の準備時間がかかることがあります。ブザー音でお知らせしますが，異常ではありません。**
- **リフトシャットが《入》の場合刈取搬送部は回らないときがありますので，リフトシャットを《切》にして，確認をします。**

11．手こぎ作業

⚠警告 傷害事故防止のために

◆手こぎ作業はパワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《脱こく》にし，刈取部の作動停止を確認してから行なってください。

- 機械を走行させながらの手こぎ作業はしないでください。
- 機械をワラクズの近くに止めないでください。（火災防止）

◆パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチは周囲の人に合図してから操作してください。

◆手こぎ作業をするときは手袋を使用しないでください。

◆手こぎ作業は，手や衣服を供給口に入れたり，脱こくフィードチェンに触れたりしないでください。

◆手こぎ作業をするときは，そで口はきっちり止めて，巻きタオル，腰タオルは着用しないでください。

◆カッタの切ワラがたまったら作業を中断し機械を移動するか，パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《切》にし，エンジンを停止して切ワラを取除いてください。

❶ 主変速レバーを《**N**》(**中立**) および駐車ブレーキを《**入**》にし，走行を停止します。

❷ パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《**切**》にします。

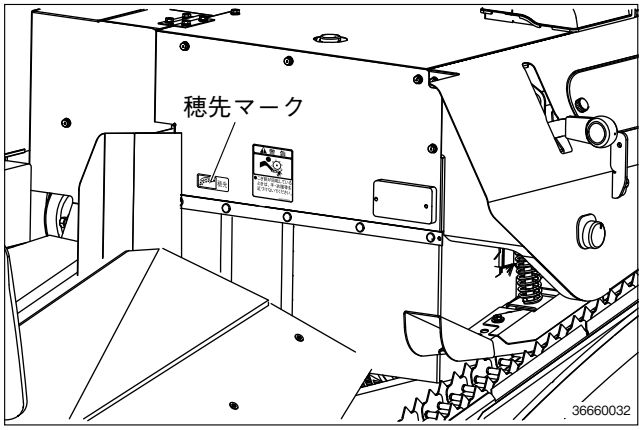
❸ 水平自動スイッチを「**切**」にし，水平操作レバーで機体を一番下まで下げます。

❹ 刈取部をいっぱいに「**下げ**」ます。

❺ 防じんカバーを上方に開きます。[ディーラーオプション]

❻ パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《**脱こく**》，エンジン回転を回転計の「**色別表示の上限**」(刈取る作物の回転数上限）にセットします。(詳細は71ページ参照)

❼ 作物の穂先を穂先マーク位置に合わせ，手こぎ作業をします。



❽ 手こぎ作業が終わったら，パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《**切**》にして，防じんカバーを元の位置に戻し，こぎ深さ搬送体をこぎ深さ手動スイッチで適正位置に調整します。

取扱いのポイント

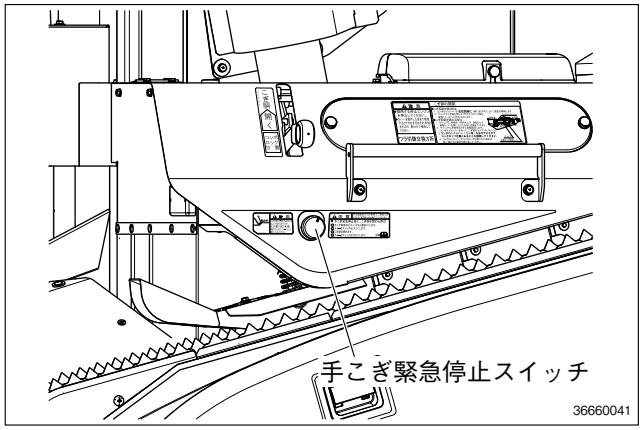
- **バラこぎで平均に供給します。結束した作物は供給しないでください。**
- **防じんカバーを開いたままでこぎ胴部を開けると，防じんカバーが破損する恐れがありますので，元の位置に戻してください。**
- **パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《脱こく》にしますと，脱こく部が回転すると同時に脱こくフィードチェン搬送が一定速（手こぎ）回転となります。**
- **パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《刈取》にしますと，刈取搬送と脱こくフィードチェン搬送が車速に同調した回転速度となりますが走行停止状態では刈取および脱こくフィードチェン搬送は回転しません。手こぎ作業ではパワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《脱こく》で使用してください。**

12. 手こぎ緊急停止スイッチの取扱い

⚠注意 傷害事故防止のために

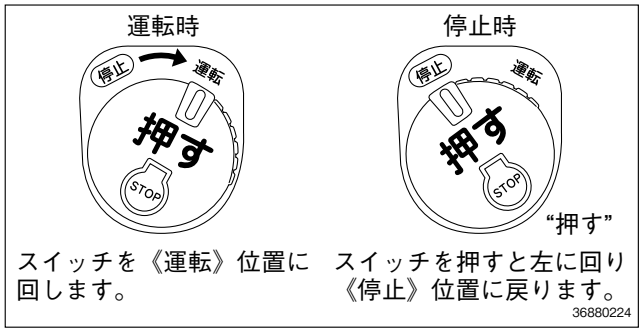
◆手こぎ緊急停止スイッチを押すと，こぎ胴が上がりますので緊急時以外は操作しないでください。

このスイッチを押すと，エンジンが停止し，こぎ胴部のコンポロックが解除されます。手こぎ作業中などに万一トラブルが発生したときは，この手こぎ緊急停止スイッチを押して，エンジンを停止します。



取扱いのポイント

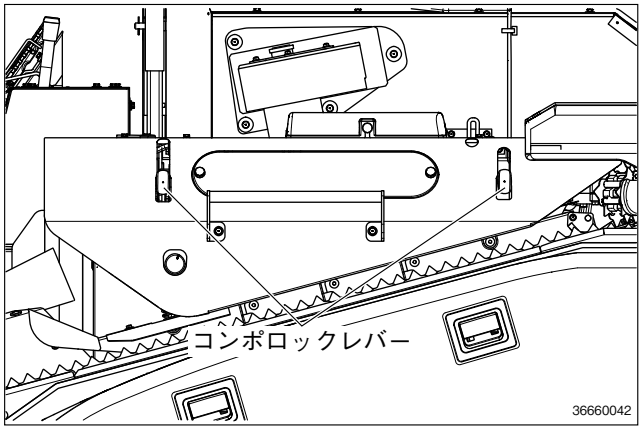
- **手こぎ緊急停止スイッチはパワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチが《脱こく》《刈取》のときのみ働きます。**
- **手こぎ緊急停止スイッチは緊急時以外は使用しないでください。**



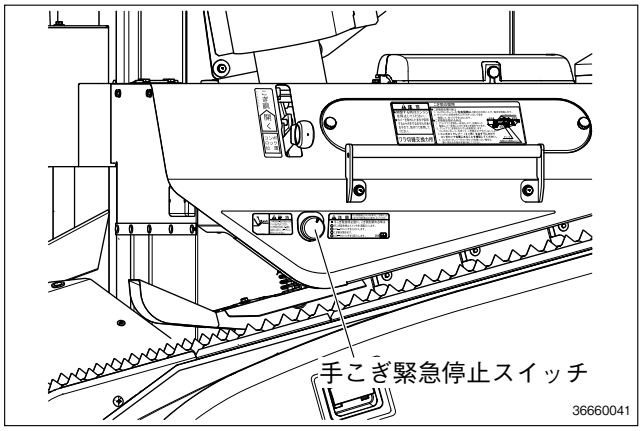
[手こぎ緊急停止スイッチを使用後のこぎ胴部の閉じ方]

手こぎ緊急停止スイッチを押した場合はこぎ胴部のコンポロックが解除しますので，次の手順でこぎ胴部を閉じます。

⑴ こぎ胴部を閉じます。



⑵ 手こぎ緊急停止スイッチを《**運転**》位置にします。



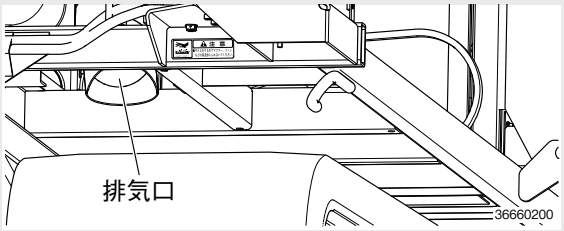
取扱いのポイント

- **手こぎ緊急スイッチが《停止》位置のままですとエンジンは始動できますが，パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《入》にした途端エンジンが停止します。**
- **手こぎ緊急停止スイッチでエンジンを停止したときは，手こぎ緊急停止スイッチを《運転》にした後スタータスイッチを《切》にしてください。そのまま放置するとバッテリが放電します。**

13. 刈取り作業終了後の取扱い

⚠警告 火災防止のために

- ◆機械をワラクズの溜まった近くに止めないでください。マフラ排気口にワラクズが触れ火災になることがあります。
- ◆シートカバーをかけるときは，エンジンが冷えてから行なってください。
- ◆エンジン，排気口，燃料タンク，バッテリ周囲のワラクズなどを掃除してください。



❶ 平坦な場所で主変速レバーを《**N**》(**中立**）の位置にします。

❷ パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《**切**》にします。

❸ 駐車ブレーキをかけます。

❹ エンジン回転ダイヤルで《🐢》(**低速**）の位置に戻してしばらく空運転をし，エンジン温度を下げてから，副変速レバーを《**標準**》に入れて停止します。

❺ **作業後の手入れ**

・機械をきれいに洗車し，各回転部・摺動部に注油をします。

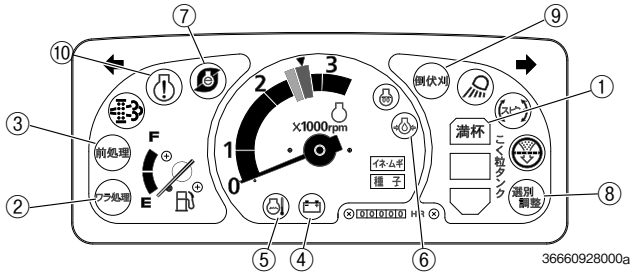
取扱いのポイント

- **パワークラッチ(脱こく・刈取)スイッチは，脱こく内部のワラクズなどがきれいに排出されるまで,《脱こく》にし，空運転してから《切》にします。**
- **水洗いするときは，エンジン回り，電気配線部，マイコン装着部，運転パネル部および脱こく内部には水をかけないでください。故障の原因となります。**

13. 警報装置について

つぎの箇所に異常が発生した場合は，警報点灯，警報ブザー，エンジン停止などで警告します。

異常箇所を確認して，つぎの処置を行います。



36660928000a

	名称	現象	警告の方法			解除方法	点検と処置	参照ページ
			警報ランプ	ブザー	エンジン			
①	モミ処理	満杯	点灯	断続音の断続	－	警報切ボタン「**押す**」またはパワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチ《**切**》	こく粒が満杯になっていますので，こく粒を排出します。	54～57
		モミオーバーフロー	点滅	断続音の連続	停止	パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチ《**切**》		
②	ワラ処理	脱こくフィードチェン詰まり	点灯	連続	停止	パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチ《**切**》	脱こくフィードチェンにワラが詰まっていますので取除きます。	12
		排ワラ詰まり					排ワラチェンにワラが詰まっていますので取除きます。	117～118
		排ワラ切替カバー回動					排ワラ切替カバーを閉め，作業状態（カッタまたはドロッパ）とします。	119
		ノッタひも切れ	点滅	連続	－		ひもが切れているか，ひもがなくなっていますので点検します。	ノッタの取扱説明書
③	前処理	こぎ深さ搬送部の詰まり	点灯	連続	停止	パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチ《**切**》	こぎ深さ搬送部にワラが詰まっていますので取除きます。	―
④	充電	充電不足	点灯	－	－	スタータスイッチ《**切**》	・スタータスイッチ《**入**》で点灯し，エンジンが始動すると消えるのが正常です。 ・運転中の点灯はバッテリへ充電されていませんので，エンジンを止め，ファンベルトなどを点検します。	109～115
⑤	水温	オーバーヒート	点灯	「**低速運転**」中は断続	－	水温が下がるまでエンジンを「**低速運転**」	・エンジンの冷却水温度が異常に上昇（オーバーヒート）しています。作業を中止し，エンジンを低速運転し，温度を下げます。その後，エンジンを停止し，ラジエータ吸気部,ファンベルトの張り，冷却水（補助タンク）の水量などを点検します。	101 89～90
⑥	オイル	エンジンオイル量不足	点灯	連続	－	スタータスイッチ《**切**》	・スタータスイッチ《**入**》で一瞬点灯し，直ぐに消えるのが正常です。 ・運転中の点灯は，エンジンオイル量を点検して補給します。	88～89
⑦	エコランプ（エンジン負荷ランプ）	エンジン回転が下がる	点滅	断続	－	走行速度を下げる	・作業速度を下げてエンジン過負荷をなくします。 ・こぎ深さ，送じんガイドの調整がよいか確認します。 ・ワラ切りカマが損耗していないか確認します。	70 80～81 138～139
⑧	選別調整	選別部の過負荷	点滅	断続	－	－	作業速度を下げるか，選別ダイヤルを「**開**」側に回します。	12
⑨	倒伏刈	刈取部詰まり	点滅	断続	停止	－	刈取部の詰まりを取除きます。	11
		搬送HST異常					異常を取除きます。	
⑩	エンジン異常	エンジン異常	点灯	－	故障状態による	スタータスイッチ《**切**》	・スタータスイッチ《**入**》で点灯し，エンジンが始動すると消えるのが正常です。 ・点灯時はP9を参照し処置を行ってください。	9

その他ランプあるいは自動スイッチランプが点滅するときには「**お買いあげ先**」で点検を受けてください。

3．ワラ処理部の取扱い

⚠警告　傷害事故防止のために

◆回転部にワラなどの巻付きが発生し，または異物が混入したときは，エンジンを停止して各部の回転が止まってから，カッタを開き，ストッパをかけて，ワラなどを取除いてください。

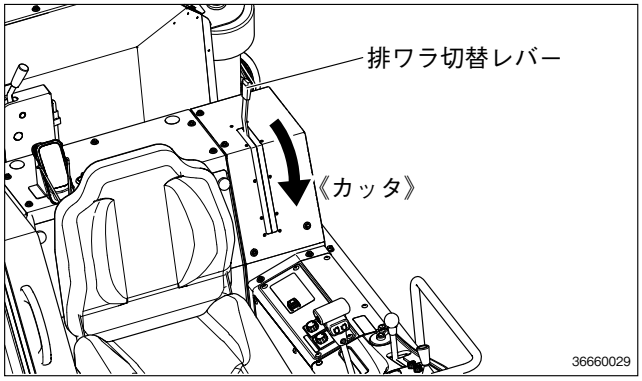
◆巻付きなどを取除くときは，カマなどを使用し，手ではカッタ刃に触れないでください。

取扱いのポイント

- **排ワラ切替レバー操作は，搬送経路のワラを完全に排出してから行います。**
- **脱こく作業中の切替え操作は，しないでください。詰まりの原因となります。**
- **こぎ胴部を開いた状態でカッタ排ワラ切替レバーの切替えは行わないでください。**

1．カッタ作業

❶　排ワラ切替レバーを《**カッタ**》位置にします。



❷　カッタサイドカバー（左）を取外し，カッタの切ワラ切断長さをセットします。

・出荷時は切ワラ切断長さのセット位置は《**短切り**》位置にしてあります。

・《**長切り**》位置に切替える場合は，切ワラ切断長さ切替レバーを《**長切り**》位置にセットします。

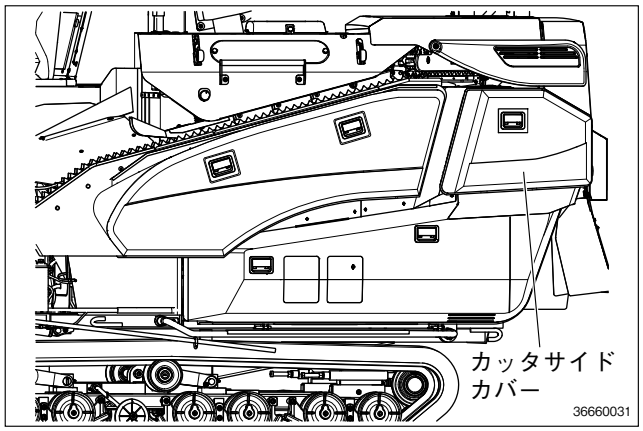
・切断長さ切替レバーは手前に引いてロックを解除し回動します。

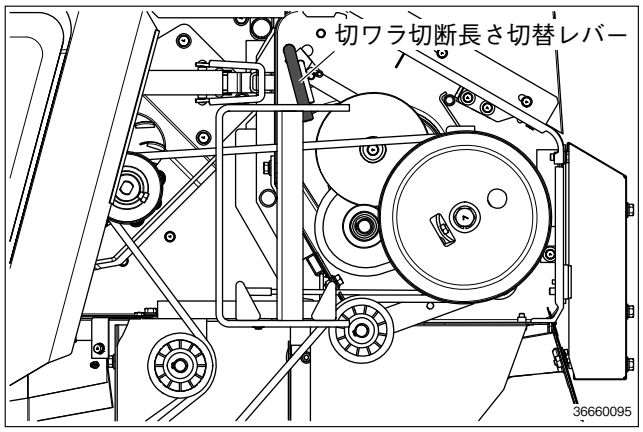
《**短切り**》……切断長さ約60（40）㎜

《**長切り**》……切断長さ約180（160）㎜

（（　）寸法は［**スーパーマルチカッタ仕様**］の切断長さを示します。）［**ディーラーオプション**］

・切替後はカッタサイドカバーを取付けてください。





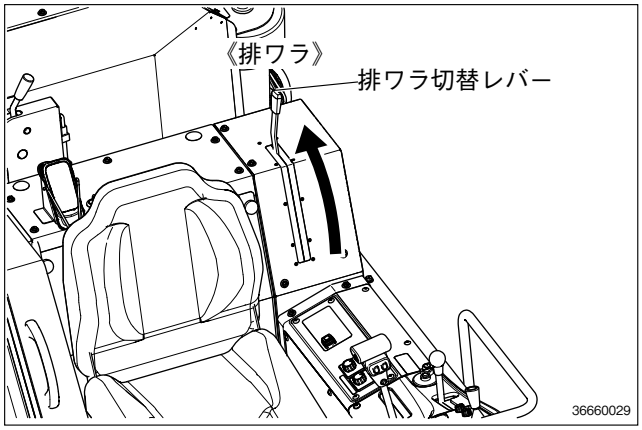
取扱いのポイント

- **刃の切れ味が低下すると，巻付きが発生しやすくなりますので，刃の交換を行ってください。**
- **倒伏した作物の刈取り作業を行う場合，ワラがカッタの回転軸に巻付くことがあります。巻付いたまま長時間作業しますと，巻付き防止パイプが変形する恐れがありますので，50ａ（アール）作業ごとにエンジンを停止してカッタ内を点検し，巻付いている場合は巻付きを除去してください。**
- **カッタの点検，掃除はカッタを開き，ストッパをかけてから行います。（開閉のしかたは，118～119ページ参照）**

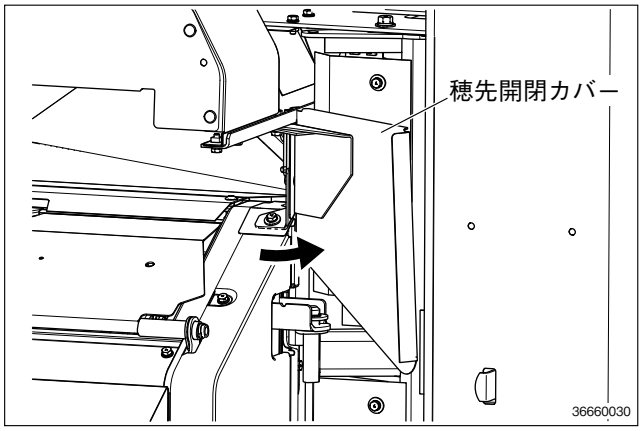
2．排ワラ作業

排ワラ作業には，①脱こくされたワラをそのまま排出する作業，②ドロッパ作業，③ノッタ作業があります。

❶ 排ワラ切替レバーを《**排ワラ**》位置で使用します。



❷ 穂先開閉カバーを開きます。



取扱いのポイント

●**ノッタおよびドロッパは別売りです。取扱いについては，それぞれの「取扱説明書」をお読みください。**

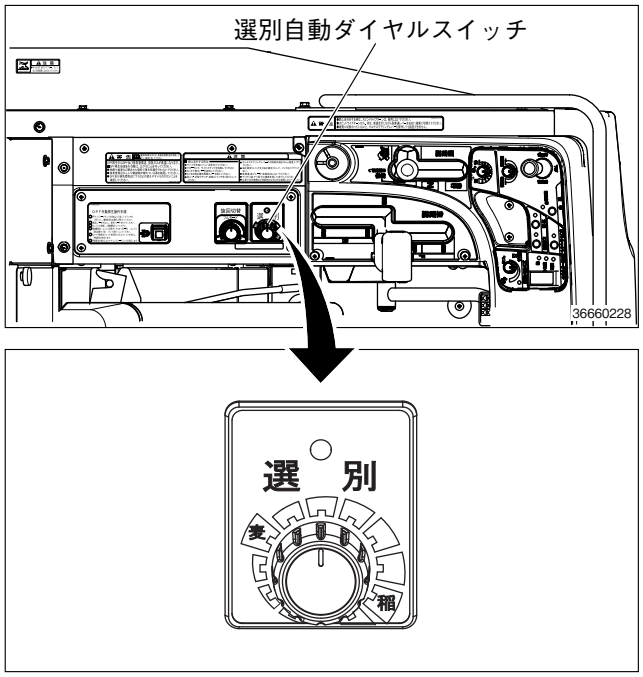
4．麦刈り作業時の調整のしかた

工場から出荷のときは，「**稲作業セット**」にしてあります。

麦刈り作業をするときは，次の箇所を「**麦作業セット**」に切替え調整します。

1．選別ダイヤルの調節

麦刈り作業をするときは，ダイヤルを《**麦**》位置にセットします。なお作業条件により，次のように使いわけてください。



・選別ダイヤルのセット方法は，「**選別自動制御の取扱い**」の項77～79ページを参照。

取扱いのポイント

●**選別ダイヤルの操作は，脱こく内部のワラクズなどがきれいに排出されるまで，脱こく部を空運転し，ワラクズなどが排出された後に行なってください。**

●**脱こく内部にワラクズなどが溜まっていると，選別自動がセットできない場合があります。**

●**選別自動スイッチ「入」（ランプ点灯）状態で作業すると，刈取り条件に合ったきめ細かい選別制御ができます。**

●選別自動スイッチ「切」（ランプ消灯）状態で作業するときも，選別ダイヤルを作物に合わせてセットしてください。
●選別自動スイッチは「切」（ランプ消灯）の状態でも作業に支障はありませんが，良好な選別状態を得られない場合があります。
●スタータスイッチを《入》にして，ランプが点灯しないときは，作業を中止しエンジンを停止して，ヒューズの点検・配線の接続部の外れがないか点検してください。

5．刈刃の高さ調節のしかた

・出荷のときは，「下セット」になっています。
うね栽培の麦刈りの場合および刈刃が土をかむことが多い刈取り時は，刈刃のカラーを入れ替えて「上セット」にします。
・セット方法は，157～158ページを参照します。

自動装置について

1．エンジン回転自動制御

エンジン回転自動は，エンジンが負荷を感知する刈取作業や排出作業または，走行移動時のエンジン回転数を制御します。

エンジン回転自動中にダイヤルを回すと手動が優先となります。

⚠警告　傷害事故防止のために

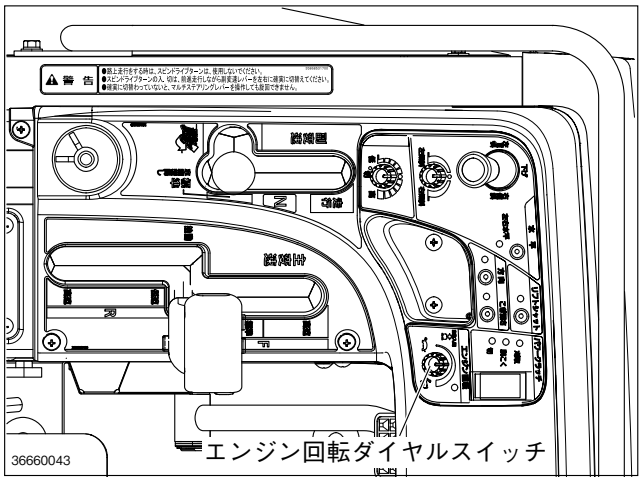
◆あぜ越え，自動車への積込み・積降ろしをするときはエンジン回転自動は「切」にしてください。

1．運転装置

エンジン回転自動制御が「**入**」のとき，下記自動上昇条件のいずれかの操作がおこなわれるとエンジン回転数が設定回転数まで自動上昇します。また，下記条件が全て解除されるとエンジンの回転数はアイドリング回転数になります。

［自動上昇条件］

・パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチ《**脱こく**》位置
・オーガ振出アクション中（オーガ操作中，またはオーガ排出位置セット中）
・主変速レバー前進・後進操作



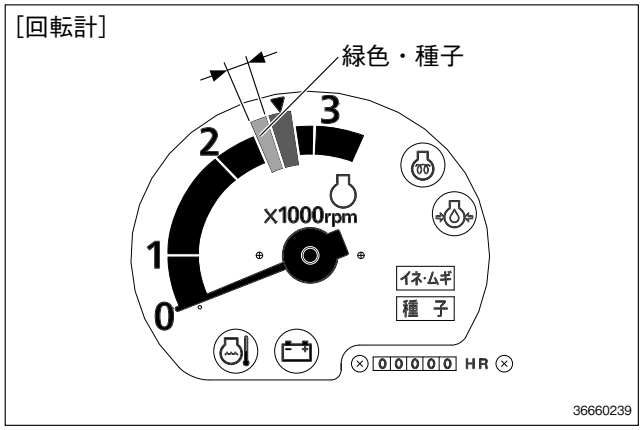
❶　エンジン回転自動　ダイヤルスイッチ

・「**入**」……エンジン回転自動ダイヤルスイッチを押すと，ランプが点灯し，エンジン回転自動が作動状態になります。

・「**切**」……ランプが点灯しているときに，エンジン回転自動ダイヤルスイッチを押すか，ダイヤルを回すとランプが消え，エンジン回転自動は作動しません。

［種子の位置に合わせる場合］

エンジン回転自動は「**切**」にして回転を「**色別表示の上限**」(**緑色**）になるように調整します。



取扱いのポイント

●**刈取作業中は，「色別表示」の範囲内に常時指針があるように，主変速レバーとエンジン回転ダイヤルで作業速度を調整してください。**

2. こぎ深さ自動制御

こぎ深さ自動は，刈取った作物の長さを搬送の途中に設けたセンサで検出して，適正なこぎ深さとなるように自動的に調整します。こぎ深さ自動使用中に，手動スイッチで手動操作すると，手動が優先となります。

1. 運転装置

こぎ深さ調整は，**「自動制御」**と**「手動」**の二通りの操作が可能です。

・自動制御中は，手動スイッチによる調整の必要はありません。

但し，倒伏角45°以上の倒伏材，および雑草の多い材料で極端に作物の長さが変動するときは，自動制御を解除して，こぎ深さ調整をこぎ深さ手動スイッチで行います。

❶ こぎ深さ自動スイッチ

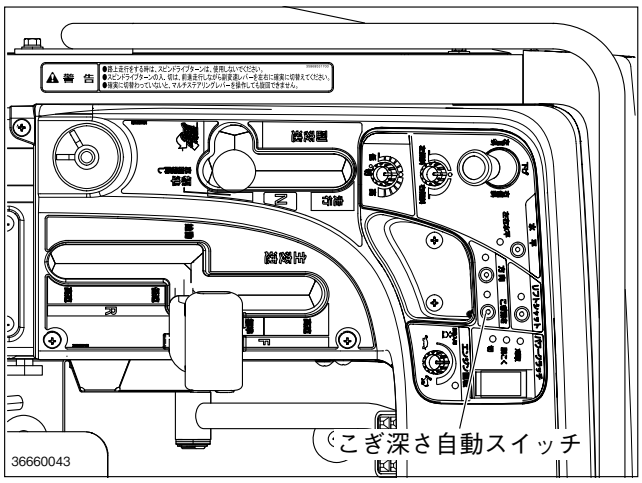
スタータスイッチを《**入**》位置にすると，ランプが点灯し，こぎ深さ自動が作動状態になります。

・**「切」**……ランプが点灯しているときに，こぎ深さ自動スイッチを押すと，ランプが消灯し，こぎ深さ自動は作動しません。



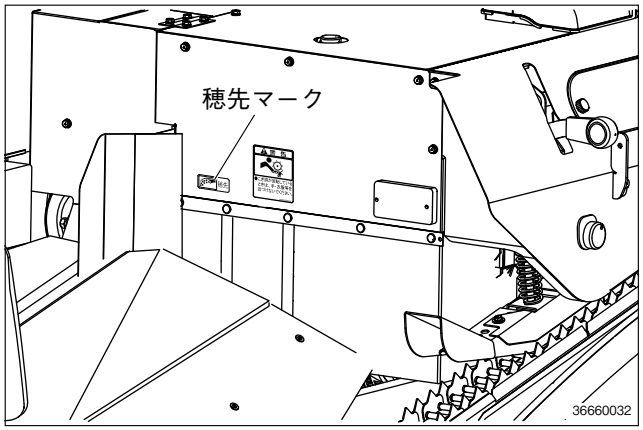
・**「入」**……再度，こぎ深さ自動スイッチを押すと，ランプが点灯し，こぎ深さ自動が作動状態となります。

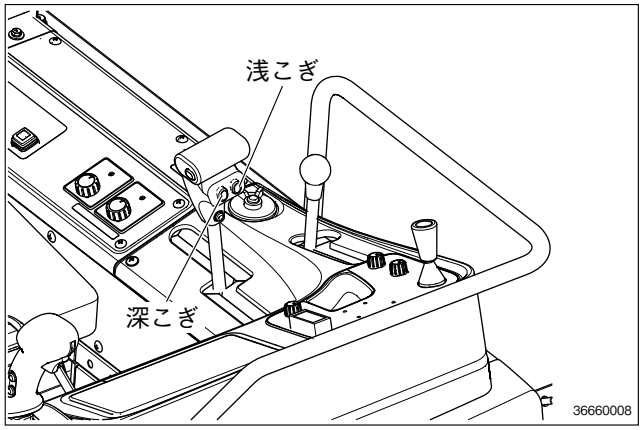




❷ こぎ深さ手動スイッチ

脱こく供給口の**「穂先マーク」**位置に作物の穂先がくるように，こぎ深さ手動スイッチで調整します。





《**深こぎ**》……《**深こぎ**》側を押すと，作物の穂先が深い位置に移動します。

《**浅こぎ**》……《**浅こぎ**》側を押すと，作物の穂先が浅い位置に移動します。

取扱いのポイント

●自動制御が故障のときは，こぎ深さ手動スイッチによって，手動で操作してください。

❸ ヒューズ

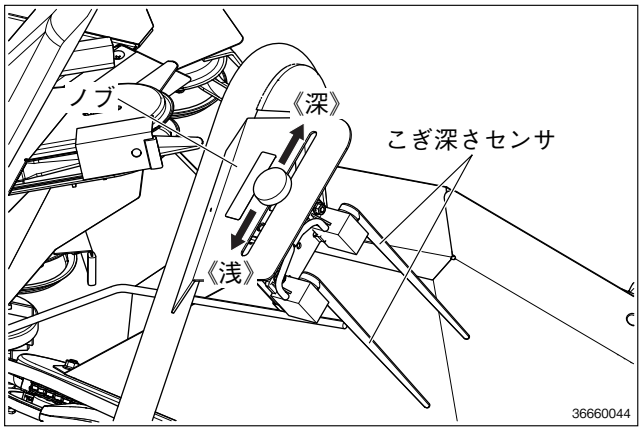
取扱い方は，106～108ページを参照します。

取扱いのポイント

●こぎ深さ自動ランプが点灯してもこぎ深さ自動が作動しないときは，エンジンを停止して，ヒューズの点検・配線接続部の外れがないか確認してください。

2. こぎ深さセンサの調整

こぎ深さセンサは，工場からの出荷のとき，**「標準」**(合わせマークの中央）の位置に調整してあります。



・次のようなときは，ノブをゆるめセット位置を調整します。
こぎ深さを**「深く」**したいときは，センサケースを**《深》**方向へ移動します。
こぎ深さを**「浅く」**したいときは，**《浅》**方向へ移動します。
・調整後は，ノブを確実に締めます。

3. こぎ深さ自動制御が使えない条件

・次の状態では，こぎ深さ自動スイッチを**「切」**（ランプ消灯）にし，手動スイッチでこぎ深さを調整します。

○倒伏角45°以上の倒伏作物
○腐れ状態の作物
○雑草が多いとき
○作物の長さが極端に変動するとき

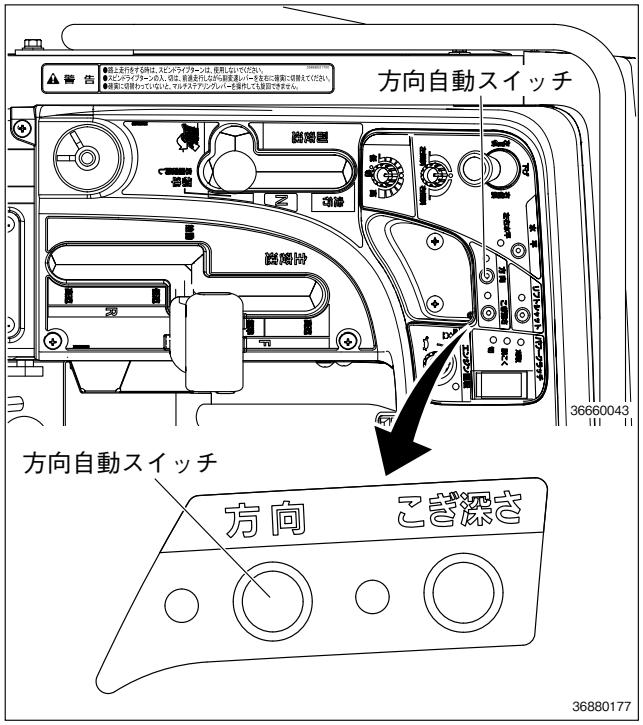
3. 方向自動制御［ディーラーオプション］

方向自動は，刈取部に取付けた方向センサで条の曲がりを感知し，条列に沿って自動操行します。また，マルチステアリングレバーを操作すると，一旦，方向自動制御は**「解除」**され，手動操作優先となります。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろしするときは方向自動スイッチを「切」にしてください。

1. 運転装置



方向自動スイッチ

・**「入」**……押すとランプが点灯し，方向自動スイッチが**「入」**の状態であることを表示します。



・**「切」**……**「入」**の状態から，再び押すとランプが消え，方向自動制御は作動しません。



取扱いのポイント

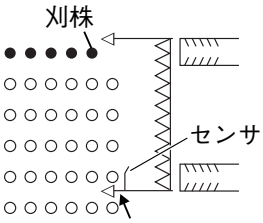
●方向自動スイッチ内ランプが点灯しても，方向自動が作動しないときは，エンジンを停止して，ヒューズの点検，配線の接続部の外れがないか点検してください。

2．作業のしかた

❶　スイッチの操作・条合わせのしかた

⑴　方向自動スイッチを「**入**」(ランプ点灯）にします。

⑵　機械が条列に真直ぐになるようにマルチステアリングレバーの操作で条合わせをします。

	方向自動スイッチ	条合わせのしかた
条刈り	スイッチのランプを「**点灯**」にする	

❷　刈取り作業中の手動操作

方向自動制御中でも，マルチステアリングレバー，ジャストディレクタを手動操作すると，「**手動優先**」で進路を変えることができます。

❸　旋回時の操作

旋回するときは，マルチステアリングレバーで手動操作します。

このときに，方向自動スイッチを「**切**」にする必要はありません。

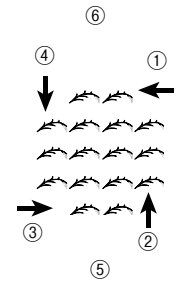
取扱いのポイント

●条合わせは，機械が条列に真直ぐになるようにしてください。斜めになったときは，条外れすることがあります。

3．方向自動制御の使えない条件

次の条件では，方向自動スイッチを「**切**」にして，マルチステアリングレバーで手動操作します。

・横刈り
・中割り
・斜め刈り
・あぜ際刈り
・雑草が多いとき
・バラまきほ場
・湿田
・条間および株間が極度に乱れているとき
・稈量が少ないとき
・欠株が多いとき
・植付条間が25cm未満の場合
・植付条間が33cm以上
・植付株間20cm以上の場合
・倒伏材は，「**❹倒伏作物の刈取り**」項（53ページ）を参照
・次のような倒伏材

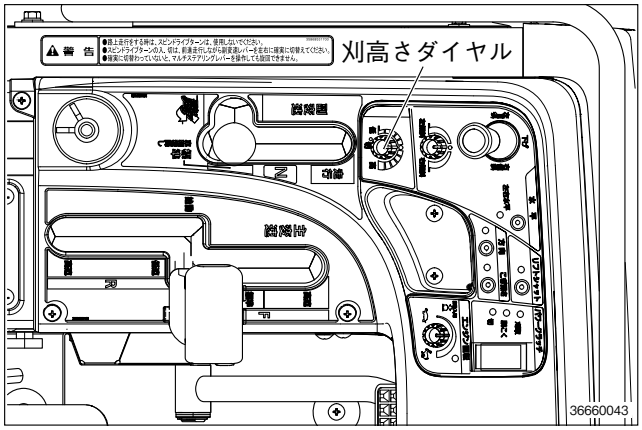
刈取り方向 ＼ 倒伏程度			倒伏程度 倒伏	中倒伏	立毛状態
標準刈取り		①向い刈り	×	×	○
		②右倒伏刈り	×	○	○
		③追い刈り	×	○	○
		④左倒伏刈り	×	○	○
中割刈取り		⑤右倒伏刈り	×	×	○
		⑥左倒伏刈り	×	×	○

○ 刈取り可能
× 刈取り不可能(方向自動が使えません)

4. 刈高さポジションコントロール

刈高さダイヤルにより，シートに座ったまま手元操作で，刈取部の下限高さを設定することができます。

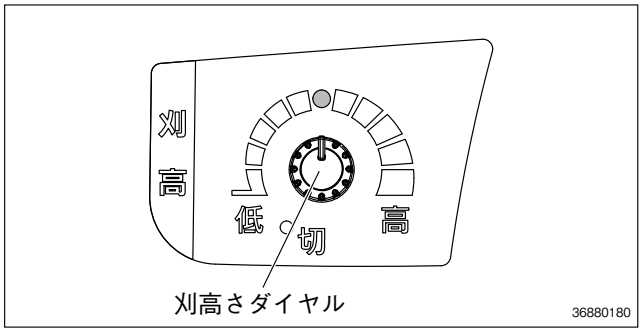
1. 運転装置



❶ 刈高さダイヤル

スタータスイッチを《**入**》位置にすると刈高さポジションの設定ができます。

・刈高さの調節は，刈高さダイヤルの操作によって，お望みの「**刈高さポジション**」を設定することができます。



・刈高さダイヤルは通常，《●》位置で使用します。

・刈高さポジションコントロールを使用しないときは，ダイヤルを《**切**》位置で使用します。

❷ ヒューズ

取扱いは，106～108ページを参照します。

取扱いのポイント

●ほ場の凹凸が多い場合には，マルチステアリングレバーで手動操作してください。

●刈高さダイヤルをどの位置にセットしても，刈高さポジションが設定できないときは，エンジンを停止してヒューズの点検・配線接続部の外れなどがないか確認してください。

2. 自動での作業のしかた

刈高さダイヤル《切》位置とパワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチ《切》位置状態ではこの機能は働きません。

❶ 乾田での標準刈高さセット

ほ場・作物条件に合わせて，低く刈取るときは《**低**》の方向に，高く刈取るときは《**高**》の方向にダイヤルをセットします。

(1) 刈高さダイヤルを標準《●》位置にセットします。

(2) パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチ《**刈取**》でマルチステアリングレバーを《**下げ**》に操作して刈取部を下げます。刈取部が停止した位置が刈高さポジションの設定位置です。

❷ 刈高さが高すぎる場合

(1) 刈高さダイヤルを少し《**低**》側へ回します。

(2) 刈取部が下がり，停止した位置が新しい刈高さポジションの設定位置です。

❸ 刈高さが低すぎる場合

(1) 刈高さダイヤルを少し《**高**》側へ回します。

(2) 刈取部が上がり，停止した位置が新しい刈高さポジションの設定位置です。

取扱いのポイント

●刈高さポジションコントロール中に，マルチステアリングレバーを瞬間的にでも《上げ》操作すると，ポジションコントロールが解除されます。

●再度ポジションコントロール状態にしたいときは，マルチステアリングレバーを《下げ》操作してください。

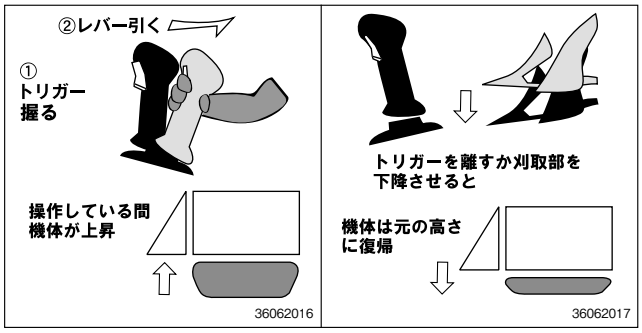
●刈高さダイヤルを《切》位置以外に設定しているときは，マルチステアリングレバーを《下げ》操作しても，刈高さセット位置より低くすることはできません。

❹ トリガースイッチの使用

⑴ 半自動後進上昇機能

湿田刈取などのとき刈取部の上下操作に合せ車高上昇操作を容易にする機能です。

水平自動が作動している状態で機体後進時，トリガースイッチを握りながらマルチステアリングレバーを上げ操作し続けます。まず刈取部がいっぱいまで上昇した後，機体が上がります。（水平自動制御は一時停止）トリガースイッチを離すか，刈取部を下げると，元の車高に復帰してから自動制御が再び作動します。



⑵ 刈高さ解除機能

刈高さセット位置よりもさらに刈取部を下げたいときはトリガースイッチを握りながらマルチステアリングレバーを下げ操作します。

ただし，刈取部の下限ストッパが作用する高さ以下には下がりません。

トリガースイッチの操作をやめると約１秒後に元の刈高さポジションコントロール位置に戻ります。



取扱いのポイント

- トリガースイッチ操作中に元の刈高さポジションコントロール位置より高くした場合には元の高さに戻りません。
- 再度ポジションコントロール状態にしたいときには，マルチステアリングレバーを《下げ》操作してください。

3．手動での作業のしかた

刈高さダイヤル《**切**》位置にすると，刈高さポジションコントロールは作動しません。

マルチステアリングレバー操作によって，刈取部の高さを任意の位置に合わせることができます。

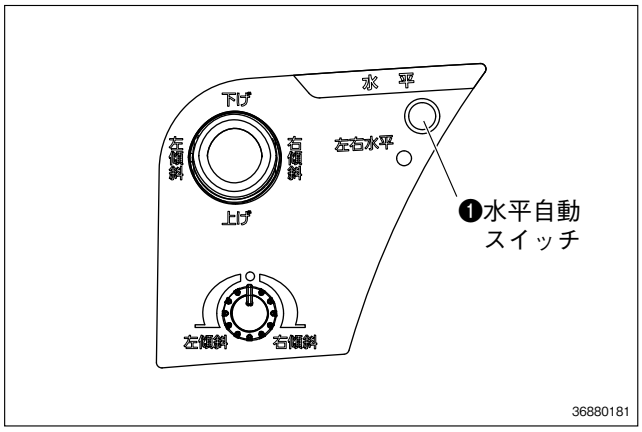
5．水平自動制御
（ジャストマチック）

・水平自動は湿田などで機体が傾斜した場合，自動的に機体を水平に修正します。「**水平操作レバー**」で機体全体を持上げることもできます。
・あぜ際や溝のある麦刈作業時および傾斜地での作業では，ほ場条件に合わせ水平操作レバーで機体角度を調整し，傾斜させながら作業ができます。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろし，こく粒の排出時は，水平自動スイッチを「切」にし，水平操作レバーで機体を一番下まで下げて行ってください。

1．運転装置



❶　水平自動スイッチ

・「**入**」……押すとランプが点灯し，水平自動スイッチが「**入**」の状態であることを表示します。



・「**切**」……「**入**」の状態から再び押すとランプが消え，水平自動制御は作動しません。



取扱いのポイント

●水平自動スイッチランプが点灯しても，水平自動が作動しないときは，エンジンを停止してヒューズの点検，配線の接続部の外れがないか点検してください。

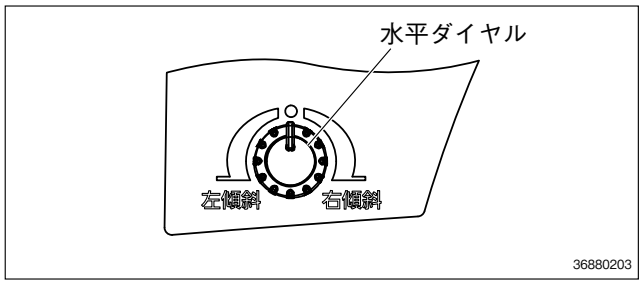
❷　ヒューズ

取扱い方は，106～108ページを参照します。

❸　水平ダイヤル

水平ダイヤルの操作によって，機体を一定の角度に傾斜させた制御をすることができます。

・ダイヤルを《**右傾斜**》の方向に回すと，機体は右下がりになります。
・ダイヤルを《**左傾斜**》の方向に回すと，機体は左下がりになります。



❹　水平操作レバー

取扱い方は，26ページを参照します。

2．作業のしかた

❶ 作業前

水平ダイヤルで，機体をお望みの角度に調整します。

❷ 刈取作業

パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチ《**刈取**》位置で水平自動制御が作動します。

❸ 作業終了時

パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチ《**切**》位置にしたとき，機体が左右どちらか低い方に合わせて地面に平行になります。

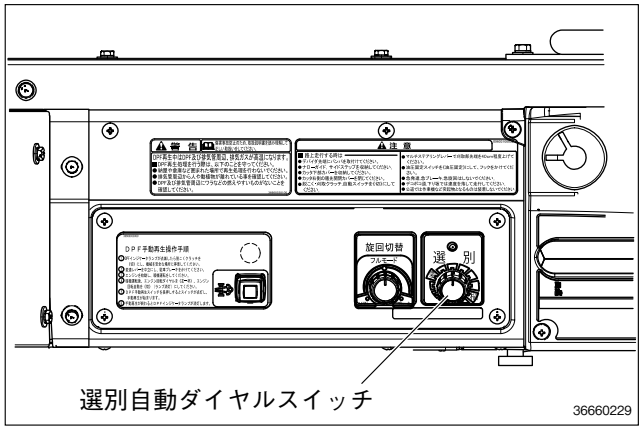
取扱いのポイント

- **水平自動スイッチが「入」でも水平操作レバーを操作すると，「手動優先」で機体の高さ，傾斜角を変えることができます。**
  但し，水平操作レバーを離すと，傾斜角は水平ダイヤル設定位置に戻ります。
- **自動制御中，機体の高さを変えたいときは，水平操作レバーを操作してください。**
- **旋回中は水平自動制御は作動しません。**

6．選別自動制御

選別自動は，脱こくしたこく粒の量に応じて自動的に揺動板を調整し，刈取り条件に合ったきめ細かい選別となるように自動的に調整します。

1．運転装置

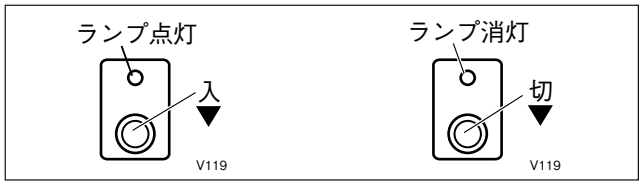


❶ 選別自動ダイヤルスイッチ

スタータスイッチを《**入**》位置にするとランプが点灯し，選別自動が作動状態になります。

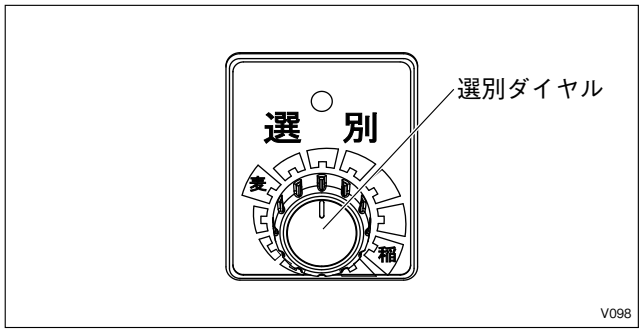
・選別自動スイッチランプが点灯時に選別自動スイッチを押すと，ランプが消灯し，選別自動は作動しません。

・再度，選別自動スイッチを押すと，スイッチランプが点灯し，選別自動が作動状態となります。



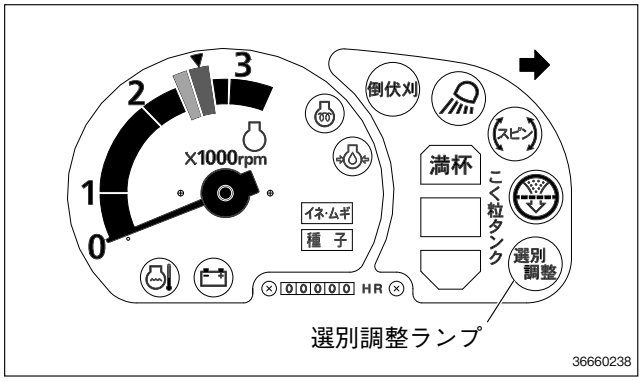
❷ 選別ダイヤル

刈取る作物に合わせて，選別ダイヤルをいずれかの位置にセットします。



作業内容		選別ダイヤル
稲刈り作業	通常の刈取り作業	《稲》
	《稲》で選別が悪いとき	《稲》より《左》側に回します。
	青材，高水分材料，高収量材料または，脱こく負荷が大きいとき	《稲》より《右》側に回します。
麦刈り作業	通常の刈取り作業	《麦》
	《麦》で選別が悪いとき	《麦》より《左》側に回します。
	高収量材料または，脱こく負荷が大きいとき	《麦》より《右》側に回します。

❸ 選別調整ランプ



選別部に処理能力以上のこく粒などがあるときに点滅します。作業速度を下げるか，選別ダイヤルを右へ一杯に回します。

取扱いのポイント

- **処理後もランプが点滅するときは，「お買いあげ先」で点検を受けてください。**

❹ ヒューズ

取扱い方は，106～108ページを参照します。

取扱いのポイント

- **選別ダイヤルの操作は，脱こく内部のワラクズなどがきれいに排出されるまで，脱こく部を空運転し，ワラクズなどが排出された後に行ってください。**
- **脱こく内部にワラクズなどが溜まっていると，選別自動がセットできない場合があります。**
- **選別自動スイッチ「入」(ランプ点灯）状態で作業すると，刈取り条件に合ったきめ細かい選別制御ができます。**
- **選別自動スイッチ「切」(ランプ消灯）状態で作業するときも，選別ダイヤルを作物に合わせてセットしてください。**
- **選別自動スイッチは「切」(ランプ消灯）の状態でも作業に支障はありませんが，良好な選別状態を得られない場合があります。**
- **スタータスイッチを《入》にして，ランプが点灯しないときは，作業を中止しエンジンを停止して，ヒューズの点検・配線の接続部の外れがないか点検してください。**

7．排出オーガ自動制御

・排出オーガ自動は，自動スイッチの操作により，排出オーガが自動的に収納位置から自動旋回停止位置まで動き，排出位置から収納位置まで動きます。

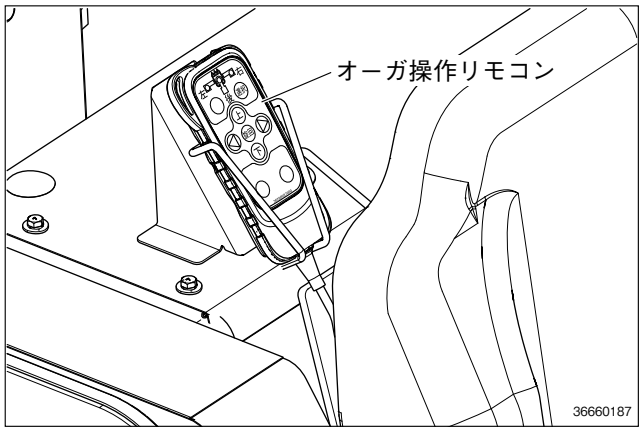
⚠警告 傷害事故防止のために

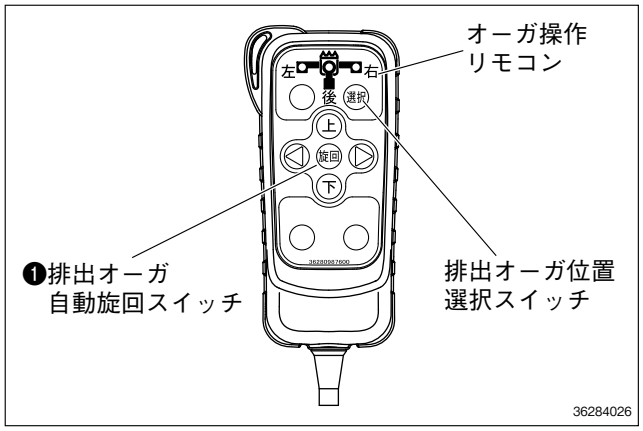
◆傾斜地でのこく粒の排出作業は，行わないでください。
◆こく粒の排出作業をするときは，駐車ブレーキをかけて行なってください。
◆排出オーガ先端部に溜まったこく粒を取除く場合は，こく粒排出レバーを「切」にして，エンジンを停止してください。
◆旋回範囲近くに障害物がある場合は，自動スイッチを使用しないで，排出オーガ操作スイッチで排出オーガを操作してください。
◆排出オーガ自動旋回中に緊急停止する場合は，リモコン内の何れかのスイッチを押して止めてください。
◆走行中に排出オーガを操作しないでください。こく粒排出後の移動は，排出オーガを収納し，固定リングで排出オーガを固定してから行なってください。
◆水平自動スイッチを「切」にして，水平操作レバーで機体を一番下まで下げてから，排出作業をしてください。

⚠注意 傷害事故防止のために

◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろしをするときは，グレンタンク内のこく粒を排出してください。
◆排出オーガの運転操作は運転席から，周囲の安全をよく確認してから行なってください。
◆排出オーガの作動範囲に，頭や手を近づけないでください。

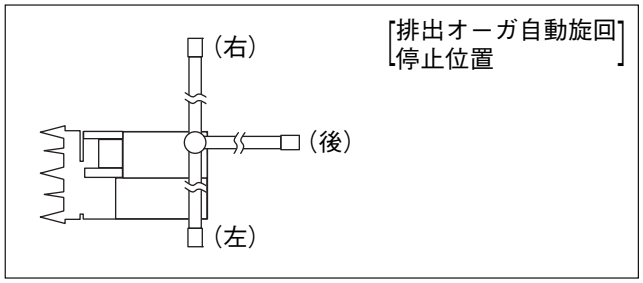
1．運転装置





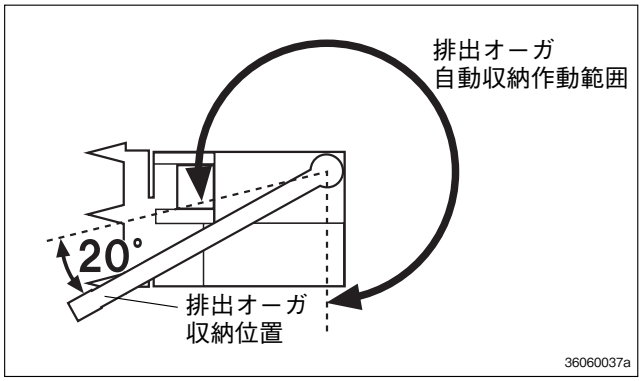
❶ 排出オーガ自動旋回スイッチ

・排出オーガ収納位置で，自動旋回スイッチを押すと，排出オーガが排出位置選択スイッチで設定した排出位置まで，自動旋回します。
・排出オーガ収納位置以外で，自動スイッチを押すと，排出オーガ収納位置へ戻ります。
・排出オーガ自動旋回中，または自動収納途中で旋回停止を行う場合は，リモコン内の何れかのスイッチを押して止めてください。



取扱いのポイント

●**自動収納は，排出オーガが下図の範囲にあると作動できません。**



●**自動旋回は，排出オーガが収納位置にあるときにだけ作動します。排出オーガ自動旋回スイッチの操作は，排出オーガの固定リングを外してから行なってください。**

●**スイッチを「入」にして，作動しないときは，エンジンを停止してヒューズの点検・配線接続部の外れがないか確認してください。**

❷ ヒューズ

取扱い方は，106〜108ページを参照します。

8. 送じん量自動調節

・送じん量は《標準》位置で出荷しています。
送じん量自動調節は，こぎ室内の発生クズ量に応じて送じんガイドの位置を自動で調整し，こぎ室内の負荷を軽減する機構です。

取扱いのポイント

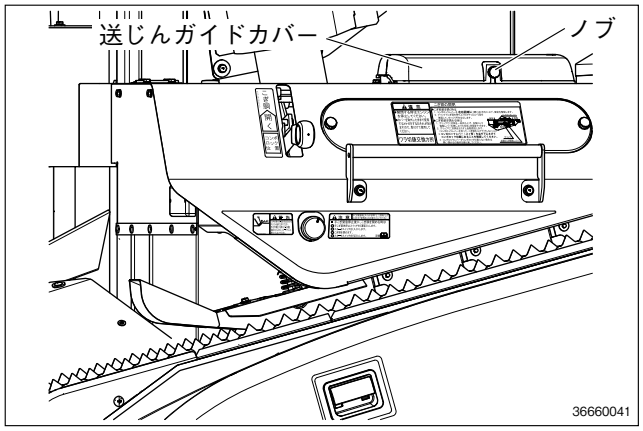
●**ほ場や材料の条件に合わせて自動初期位置を変えることができます。**

●**モミに枝梗の付着が多いときや，こぎ室内で「ゴトゴト音」がする場合は送じん量を調節することができます。**

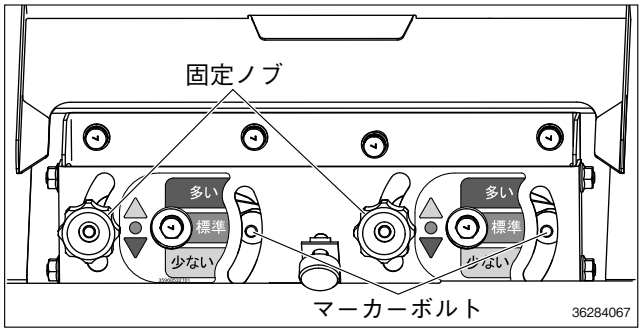
作業状態	送じん量調節位置
こぎ室内で「ゴトゴト音」がする場合	**《多い》**
通常の刈取りの場合	**《標準》出荷位置**
枝梗の付着が多い場合	**《少ない》**

手動調節しかた（送じんガイドの固定）

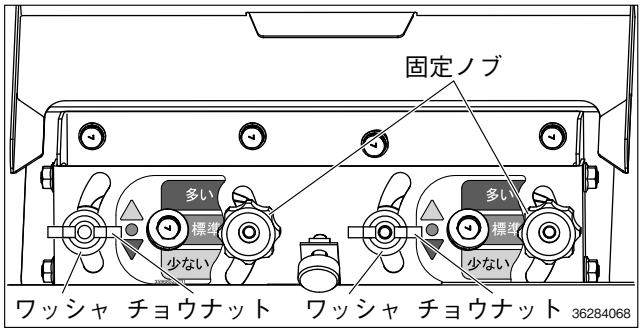
・作業状態に応じて送じん量調節位置の固定ができます。
ノブをゆるめて，送じんガイドカバーを開きます。



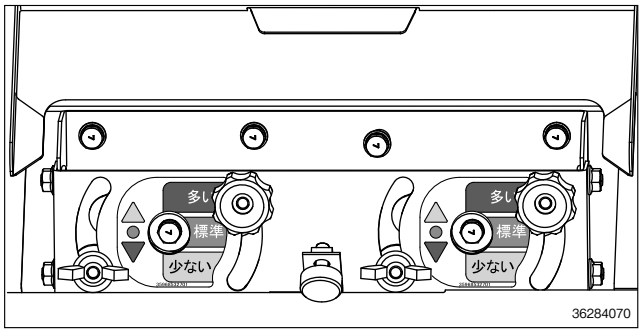
固定ノブを取外し，マーカーボルトを固定します。取外した側のボルトを付属品のチョウナットとワッシャで固定します。



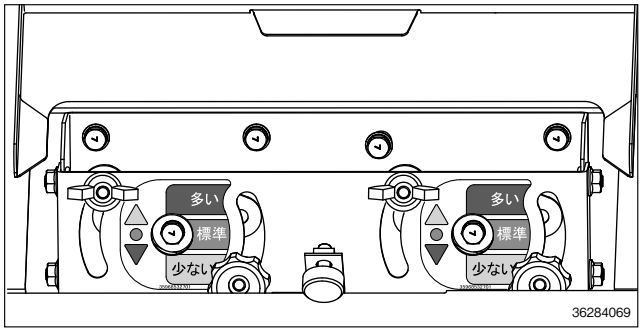
送じん量調節位置を《**標準**》での固定位置



送じん量調節位置が《**多い**》のときの固定位置



送じん量調節位置が《**少ない**》のときの固定位置



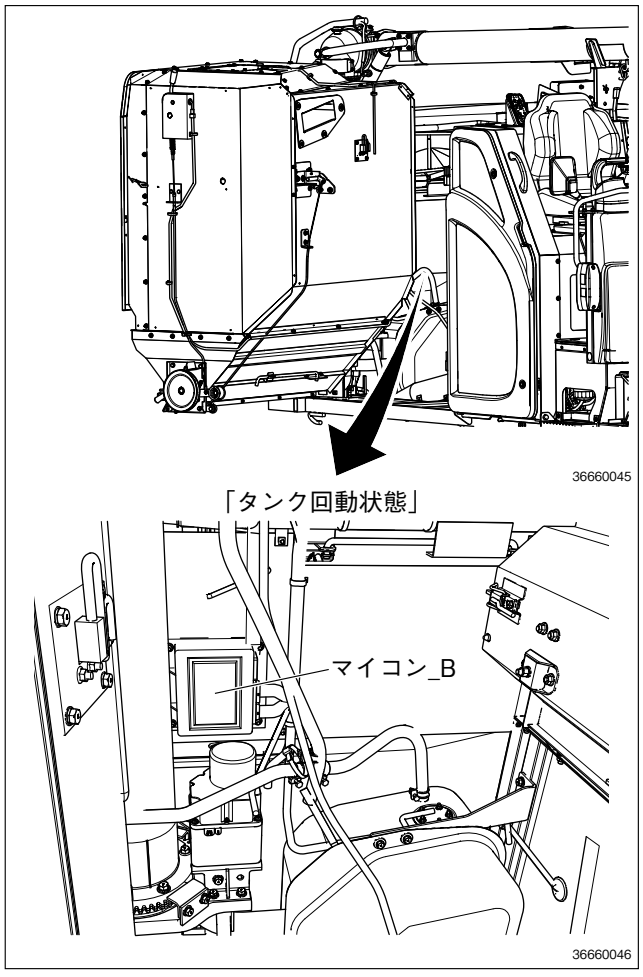
9. マイコン（マイクロコンピュータ）

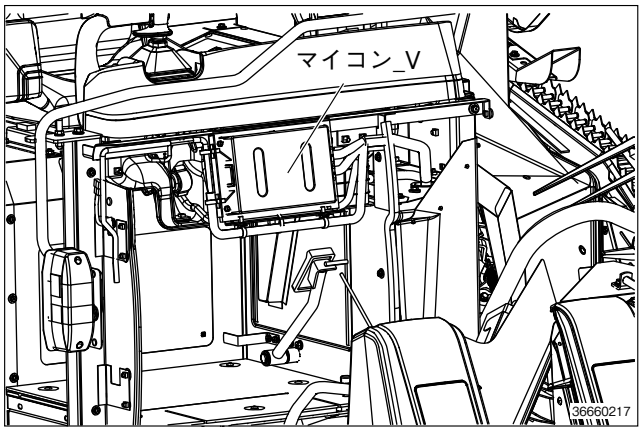
高性能マイクロコンピュータが２個搭載されています。これにより下記の制御が集中コントロールされ，オペレータの作業が軽減されます。

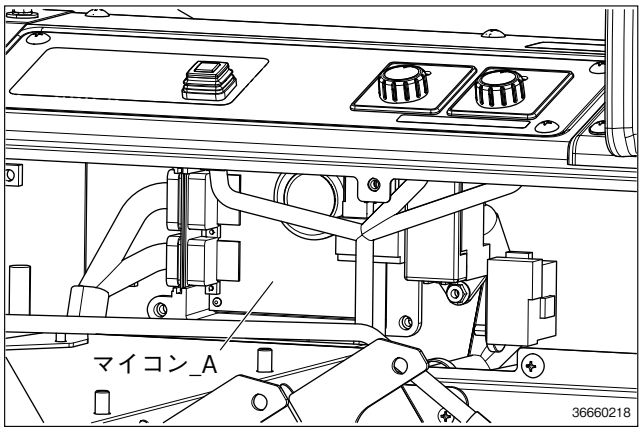
❶ マイコンによる制御機能

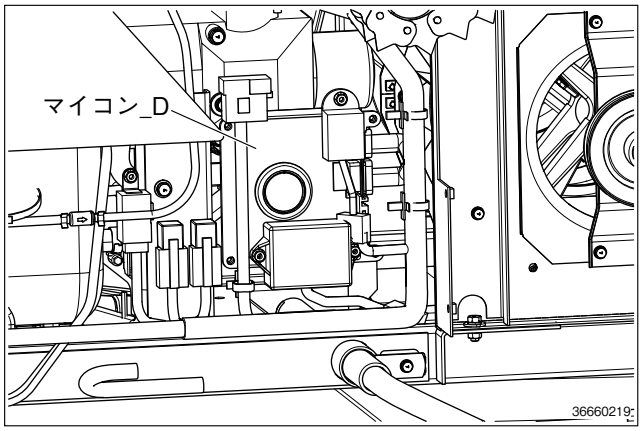
・エンジン停止制御
・エンジン回転自動制御
・マルチステアリングレバー
・方向自動制御［**ディーラーオプション**］
・水平自動制御［**L 仕様**］
・リフトシャットシステム
・刈高さポジションコントロール
・こぎ深さ自動制御
・選別自動制御
・ニューツインハーモニーシステム
・排出オーガ自動旋回（旋回＋収納）
・ホーン・モミ警報・その他各種警報

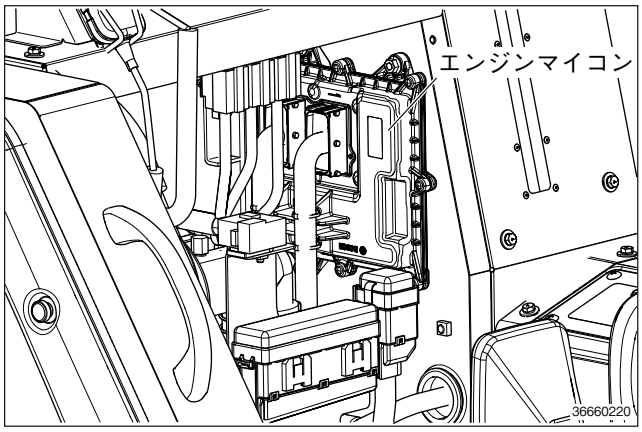
マイコンユニットの設置場所











❷ ヒューズ

「**マイコン**」の10Aヒューズが溶断しているときは，マイコンによる各制御機能が停止状態となります。（106～108ページ参照）

取扱いのポイント

- **マイコンユニットは，洗車時に水やスチームがかからないようにしてください。**
- **ヒューズを交換しても再発するとき，また制御不能のときは，「お買いあげ先」に相談してください。**

手入れのしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆点検・整備・掃除するときは平坦な場所に機械を置いて，駐車ブレーキをかけエンジンを停止して各部の回転が止まってから行ってください。
◆屋内でのエンジン始動は窓や戸を開けて換気をしてください。

⚠注意 傷害事故防止のために

◆取外したカバー類は全て取付けてからエンジンを始動してください。

●機械または部品などを破棄するときは，「お買いあげ先」にご相談ください。
●使用済み廃棄物の処分について
廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。
廃棄物を処理するときは
◆機械から廃液を抜く場合は，適切な容器に受けてください。
◆地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。
◆廃油, 燃料, 冷却水 (不凍液), 冷媒, 溶剤, フィルタ, バッテリ, ゴム類, その他の有害物を廃棄, または焼却するときは,「お買い上げ先」,または産業廃棄物処理業者などに相談して,所定の規則に従って処理してください。

1．定期点検整備

・正常な機能を発揮し，いつでも安全な状態であるように「**定期点検整備表**」に従って，定期的に点検し，必要により掃除・調整・整備を行います。

◆使用者が行なってはいけない修理
下記部位に異常があるときは，「お買いあげ先」に必ず連絡して修理を依頼してください。
●結束部の結節部完備(ノッタ部)[ディーラーオプション]　●エンジン本体　●トランスミッション
●ギヤ（ベベルギヤを含む）を内蔵したケース類　●油圧系統（HST 含む）　●電気部品と電気系統
●刈取部の動力伝達系統

取扱いのポイント

●分解・調整・交換などを自ら行なうと機械のトラブルの原因となります。また，メーカ保証の対象外となりますのでご注意ください。
参照ページに☆印のある整備項目（交換・修理・調整）については「お買いあげ先」で行なってください。

「定期点検整備表」(点検・補給・掃除・調整・グリスアップ○，交換●)

分類	点検・整備項目	整備内容	点検整備時間（アワメータ表示時間）																					備考	参照ページ
			シーズン前	運転前	25	50	100	150	200	250	350 (300)	400	450	500	550	600	650	700	750	800	850	格納時		
エンジン部	エンジンオイル	点検・補給・交換	○	○		●		●		●	●		●		●		●		●		●		初回50Hr以降100Hr毎か1年の早い方で交換	88～89
	エンジンオイルフィルタ	交換				●		●		●	●		●		●		●		●		●		エンジンオイルの交換と同時に交換	☆89
	ラジエータ（冷却水）	点検・補給・交換		○																		●		☆89～91
	エアクリーナエレメント	点検・掃除・交換	○	○							● (300)					●							掃除は50Hr毎（プライマリエレメントのみ）	102
	燃料フィルタ	点検・掃除・交換	○			●						●								●				☆103～104
	燃料セジメンタ	点検・掃除	○	○		○						○												☆103～104
	燃料セジメンタ内フィルタ	掃除・交換	○			○			●			●				●				●				☆103～104
	エンジンファンベルト(オルタネータ)	点検・調整・交換	○											●									張り調整100Hr毎	☆145
	燃料ホース	点検・交換	○	○（50時間毎）								●（2年または140時間で早い方）											燃料漏れ点検	☆137
	エアクリーナホース	点検・掃除	○						○			○				○				○			損傷の場合交換	☆137
	ホースバンド	点検	○																				もれ, ゆるみ点検 もれ, ゆるみ, 損傷の場合交換	☆137
	ホース類（エンジン補器）	点検・交換	○									●								●				☆137
	断熱材(エキゾーストパイプ部, DPFカバー部)	点検・掃除・交換	○	○	●（300時間毎または3年毎で早い方）																			☆161
	DPF差圧センサホース・パイプ	点検・交換	○（1年毎）　●（2年毎）																					☆
	EXマニホルド	点検	1年毎																					☆
	EXマニホルド取付ボルト	点検	1年毎																					☆
	オイルセパレータラバーホース	交換	2年毎																					☆
	EGRクーラホース	交換	2年毎																					☆
	EGRシステム配管	点検	1年毎																					☆

手入れのしかた

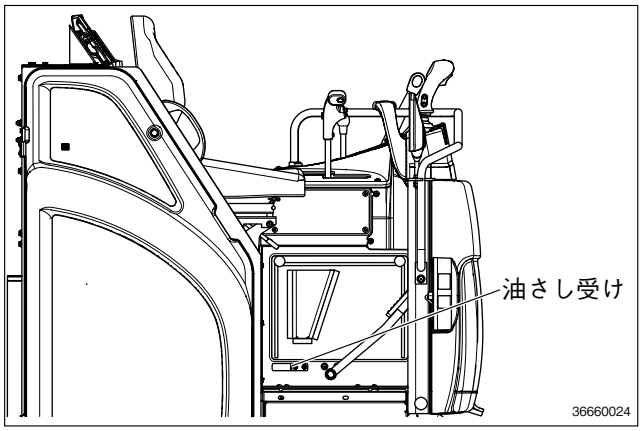
分類	点検・整備項目	整備内容	点検整備時間（アワメータ表示時間）																				備考	参照ページ
			シーズン前	運転前	25	50	100	150	200	250	350(300)	400	450	500	550	600	650	700	750	800	850	格納時		
電装関係	バッテリ液	点検・補給	○																				インジケータの色確認	109～115
	電気配線（配線・接続部のゆるみ，損傷）	点検・修理	○	○																			損傷の場合交換	☆109
	計器，スイッチ類	点検・交換	○	○																				☆7～20
走行・運転操作部	油圧作動油（オイルタンク）	点検・補給・交換	○				●						●						●					☆91～93
	油圧ホース	点検・交換	○	●（140時間または２年毎で早い方）																			油もれ点検	☆137
	油圧オイルフィルタ	点検・交換	○				●						●								●			☆92～93
	ＨＳＴオイルフィルタ	交換					●						●								●			☆92～93
	ブレーキシュー	交換	●（400時間または２年毎で早い方）																					☆
	駐車ブレーキ	点検・調整	○																					☆141
	トランスミッションケースオイル	点検・補給・交換	○				●						●								●			☆91
	走行ベルト	点検・調整・交換	○			○					●						●							☆145
	走行クラッチペダル	点検・調整・交換	○	○		○		○		○	○		○	●ワイヤ	○		○		○		○			☆141
	脱こく・刈取りクラッチおよびワイヤ	点検・調整	○		○																			☆142
	クローラ	点検・調整	○	○																				☆156
	水平制御リフトアーム軸受部	グリスアップ	○																					☆97～98
	ローラ・アイドラ〔Y仕様を除く〕・転輪	点検・グリスアップ	○	○	（グリスアップは3ha作業毎，および格納時に行います。湿田作業をした場合は1日作業後に行います。）																			98
	ホースバンド	点検	○																				もれ，ゆるみ点検 もれ，ゆるみ，損傷の場合交換	137
刈取部	こぎ深さギヤケースオイル	点検・補給	○																					☆93
	刈取駆動ギヤケースオイル	点検・補給	○	○																				☆94
	トルクリミッタケース（右）オイル	点検・補給	○																					☆94
	トルクリミッタケース（左）オイル	点検・補給	○																					☆94
	かき込みベルト	点検・調整・交換	○	○	○	○		○		○	●		○	○		○		●		○				☆146
	株元搬送チェン（右）	点検・調整・交換	○	○	○						●							●						☆151
	株元搬送チェン（左）	点検・調整・交換	○	○	○						●							●						☆151
	引起しチェン，爪	点検・調整・交換	○	○	○						●							●						☆137
	こぎ深さ搬送チェン	点検・調整・交換	○	○	○						●							●						☆152
	かき込み搬送チェン，爪	点検・調整・交換	○	○	○						●							●						☆153
	穂先搬送チェン，爪	点検・調整・交換	○	○	○						●							●						☆152
	刈刃	点検・調整・交換	○	○	○					●				●					●			○		☆157～158
	集中注油タンク	点検・補給	○	○																			エンジンオイル	97
	刈取ベルト	点検・調整・交換	○	○	○						●							●						☆142
脱こく部	脱こくギヤケースオイル	点検・補給	○																					☆95
	こぎ胴ギヤケースオイル	点検・補給	○																					☆95
	搬送ＨＳＴギヤケースオイル	点検・補給	○																					☆96
	搬送ＨＳＴ駆動ベルト	点検・調整・交換	○	○	○						●							●						☆142
	こぎ胴伝動ベルト	点検・調整・交換	○	○	○						●							●						☆147
	脱こく入力ベルト	点検・調整・交換	○	○	○						●							●						☆147
	こぎ胴ベルト	点検・調整・交換	○	○	○						●							●						☆148
	１番ラセン駆動ベルト	点検・調整・交換	○	○	○						●							●						☆149
	選別ベルト	点検・調整・交換	○	○	○						●							●						☆148
	脱こくフィードチェン	点検・調整・交換	○	○	○						●							●						☆154
	排ワラ駆動ベルト	点検・調整・交換	○	○	○						●							●						☆149
	排ワラチェン	点検・調整・交換	○	○	○								●							●				☆155
	穂先排ワラチェン，爪	点検・調整・交換	○	○	○								●							●				☆154
	揚こくラセンタッチ部	点検・掃除	○																					122
	こぎ歯	点検・増締め・交換	○		○													●						☆140
	ワラ切カマ	点検・交換	○											●						●				☆138～139
	脱こく受網	点検・掃除・交換	○											●										☆120～121
	脱こく底板・こぎ室揺動選別部	点検・掃除	○																					122
	２番ラセンタッチ部	点検・掃除	○																					122
グレンタンク部	こく粒排出レバー	点検・調整	○																					☆144
	グレン入力ギヤケース	点検・補給	○																					☆97
	グレンタンク	点検・掃除	○																					129
	グレン入力ベルト	点検・調整・交換	○	○	○									●										☆150
	横ラセン駆動ベルト	点検・調整・交換	○	○	○									●										☆144
	縦ラセン筒上・下	点検・掃除	○																					129
カッタ部	排ワラ切替レバー	点検・調整	○		○																			☆143
	カッタ刃	点検・交換	○	●（100 時間毎）																				☆130～136
	カッタベルト	点検・調整・交換	○		○									●										☆150

2. 給油・注油・給水のしかた

・オイルの点検・交換は，**「運転まえの点検表」**（29～30ページ）および**「定期点検整備表」**(83～84ページ）に従って行います。
・オイルの点検・交換は，機械を平坦な場所に駐車して行います。

取扱いのポイント

●各給油箇所には，指定オイルを規定量給油してください。
●廃油など汚れたオイルを注油すると，故障の原因となりますので使用しないでください。
●コンバイン運転席に油さし受けがついていますので，いつでも注油できるように，オイルを入れた油差しを常備してください。
●交換したオイルを廃却するときは，「お買い上げ先」または産業廃棄物処理業者などに相談して，所定の規則に従って処理してください。



⚠警告 火傷や火災防止のために

◆燃料補給時は，火気を近づけないでください。
◆エンジン回転中やエンジンが熱いときは，給油・注油しないでください。
◆損傷や劣化した燃料ホースは，交換してください。燃料漏れがあると，火災の原因となります。
◆こぼれた燃料は，きれいに拭き取ってください。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆給油・注油・点検するときは，機械を平坦な場所に置き，エンジンを停止し，各部の動きが止まってから行なってください。
◆回転部・摺動部から異音が発生するときは，エンジンを停止し，各部の動きが止まってから注油してください。

⚠注意 傷害事故防止のために

◆使用オイルの詳細は，「潤滑油について」を参照してください。
◆刈刃，チェンなどに注油する際は，指定の潤滑油を使用してください。
◆エンジンカバーを開いて点検などを行なった後は，エンジンカバーを閉じてください。

「給油・注油・給水表」

No.	箇所	種類	分類		容量（L）	備考
			API サービス分類	SAE 粘度番号		
①	燃料タンク	ディーゼル軽油	−	−	42	
②	エンジンクランクケース	ディーゼルエンジンオイル	CJ-4またはDH-2	10W-30	7.0	
③	ラジエータ（補助タンク1.0L含む）	冷却水	−	−	7.6	
④	トランスミッションケース	ギヤオイル	GL-4以上	80W※	14.5	
⑤	油圧オイルタンク	油圧作動油	GL-4以上	10W-30	20.5	
⑥	こぎ深さケース	ギヤオイル	GL-5以上	140	1.1	
⑦	刈刃駆動ギヤケース	ギヤオイル	GL-5以上	140	1.1	
⑧	トルクリミッタケース	ギヤオイル	GL-5以上	140	左：2.4 右：1.8	
⑨	脱こくギヤケース	ギヤオイル	GL-5以上	90	0.55	
⑩	こぎ胴ギヤケース	ギヤオイル	GL-5以上	90	0.65	
⑪	吸引ファンギヤケース	ギヤオイル	GL-4以上	80W※	0.07	
⑫	搬送HSTギヤケース	ギヤオイル	GL-5以上	90	1.7	
⑬	グレン入力ギヤケース	ギヤオイル	GL-5以上	90	0.5	
⑭	集中注油タンク	エンジンオイル	−	−	1.5	
⑮	水平リンク	グリース	−	−	−	
⑯	下部転輪	グリース	−	−	−	
⑰	アイドラ	グリース	−	−	−	[ET仕様]
⑱		ギヤオイル	GL-4以上	80W※	0.07	[ET仕様以外]
⑲	刈刃リンク	グリース	−	−	−	
⑳	リフトサポートホルダ	グリース	−	−	−	
㉑	オーガ旋回部	グリース	−	−	−	

※はスーパーマルチSTOU2オイル使用可

指定オイル

- ディーゼルエンジンオイル…… (純正油) または，使用オイル表（180ページ）の指定オイル
- 油圧作動油…… (純正油) または，使用オイル表（180ページ）の指定オイル
- ギヤオイル…… (純正油) または，使用オイル表（180ページ）の指定オイル

取扱いのポイント

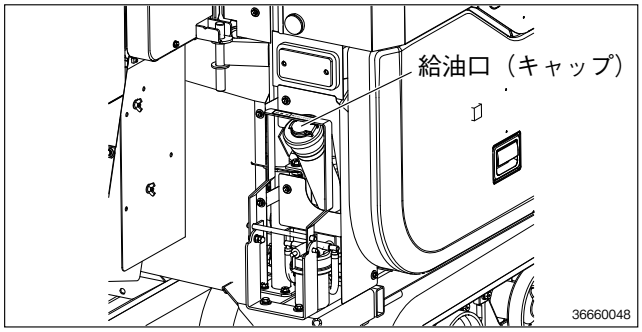
●燃料タンク・集中注油タンク以外は，工場出荷時の容量です。
交換時は，残油量がありますので，レベルゲージまたは検油栓により，容量を確認してください。
ただし，レベルゲージまたは検油栓のない箇所は，全量交換してください。排油栓のない箇所は補充してください。

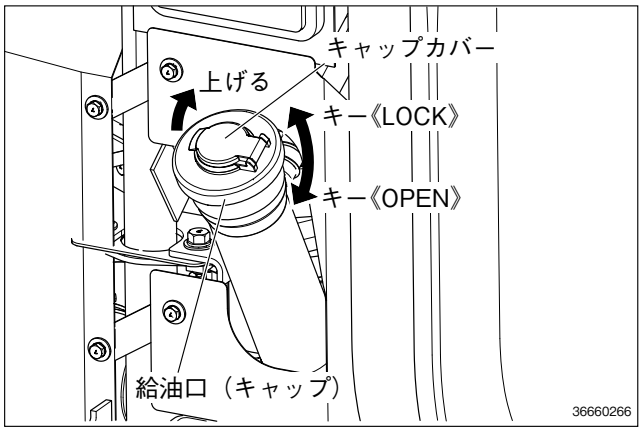
●使用オイルの詳細は，潤滑油についての項（180ページ）を参照してください。

1．燃料の補給

取扱いのポイント

- **燃料は必ず低硫黄ディーゼル軽油（S10）を使用してください。（低硫黄ディーゼル軽油以外の軽油やバイオ燃料を使用した場合，エンジンや排ガス後処理装置などに悪影響を与え，故障の原因となります。また，排ガス浄化基準に適合しなくなる恐れがあります。）**
- **コモンレール仕様のエンジン燃料噴射部品は超精密仕上げになっています。これらの部品の作動不良を防ぐため，ドラム缶やホームタンクなどから燃料を補給される場合，砂や水などの異物が混入しないよう十分注意してください。**
  また，燃料補給時はこし網を外さないでください。
- **燃料切れでエンジンが停止すると再始動時にエンジン各部に高温状態が生じ，エンジンの早期破損につながる恐れがありますので，燃料切れにならないように注意してください。**





・給油口専用キーはスタータスイッチキーと同じ場所にあります。

・キャップカバーを上げたあと，キーを《LOCK》位置から《OPEN》位置まで回してロックを解除してから給油口（キャップ）を外して補給します。

・燃料は，「**ディーゼル軽油**」を使用してください。ディーゼル軽油には下表の種類があり，地域・季節により流通している種類が異なります。地域・季節に見合ったものを使用してください。

種　類	ディーゼル軽油の流動点（℃）
特１号	＋５以下
１号	－２．５以下
２号	－７．５以下
３号	－２０以下
特３号	－３０以下

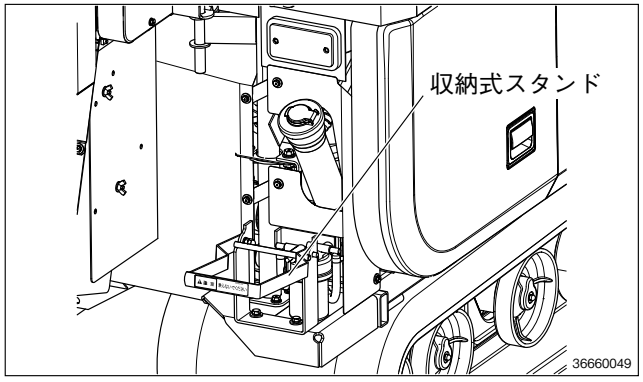
（JIS規格より抜粋）

・未使用の菜種油や，使用済みの調理油などを原料としたバイオディーゼル燃料（BDF），およびその混合油の使用は止めてください。

・**タンク容量……42 L**

取扱いのポイント

- **給油口近くに備付けてある収納式スタンドを手前に引いて，その上に燃料の入った缶，ポリタンクを置いて給油します。［Y仕様］**



- **給油が終わったあとは，必ずキーを《LOCK》位置にしてキーを抜取ってください。**
- **流動点付近以下の温度になると軽油が凍結し，エンジンの始動が困難になったり，停止したりすることがあります。**
- **燃料フィルタの掃除や交換時は，燃料のエア抜きを行ってください。（103〜105ページ参照）**

●燃料の中に，水やゴミなどが混入しますと，エンジンに重大な故障が発生したり，燃料ポンプが作動しなくなることがあります。
燃料タンク給油口のフィルタを通して，給油してください。
●燃料は，雨水などがかからない場所に保管してください。

[燃料満量のお知らせ機能の使いかた]
●燃料計が約半分以下になったときに給油する際溢れ出ることを防ぐ機能です。
・スタータキーを《入》位置にし，給油をします。燃料が満量近くになると，ホーン断続音「ピッピッ」が吹鳴し，満量が近いことをお知らせします。(ホーン断続音の後も完全に満量までは若干の余裕があります)

取扱いのポイント

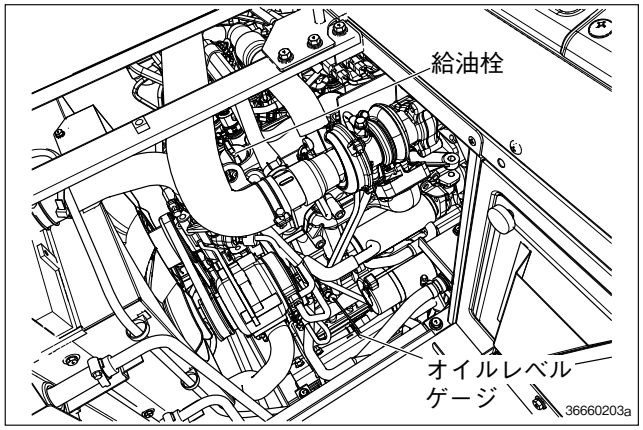
●お知らせ機能はスタータスイッチ《入》位置が条件になります。また，エンジンがかかっているときは，お知らせ機能は働きません。
●給油開始時，燃料が半分以下であることが条件になります。
●給油中にスタータスイッチを《切》にしないでください。
●燃料計の反応は遅いため，断続音の時点で「F」を指していない場合がありますが，やや時間をおいて確認してください。「F」位置に達します。
●バッテリ上がりを防ぐため，給油後はすみやかにスタータスイッチを《切》にしてください。

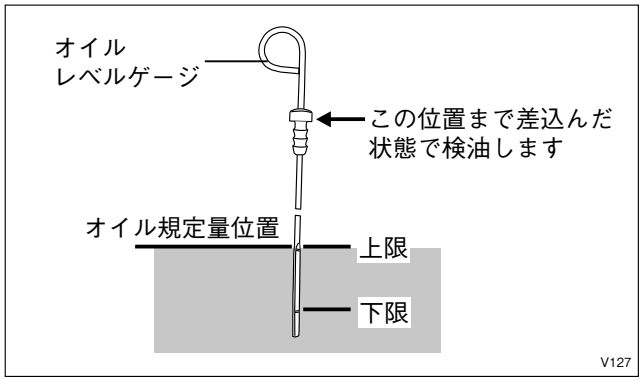
2. エンジンオイル･オイルフィルタの点検･交換

オイルフィルタの交換は，「お買いあげ先」に依頼してください。

❶ エンジンオイルの点検

(1) エンジンカバーを回動します。(101ページ参照)
(2) レベルゲージを抜いて，先端をきれいに拭取ります。もう一度いっぱいに差込んでから抜出し，ゲージの上限と下限の間にオイルがあるか調べます。不足しているときは，オイルを給油口より規定レベル位置まで入れます。さらに，各部油漏れのないことも確認します。
(3) 作業後，エンジンカバーを閉じます。



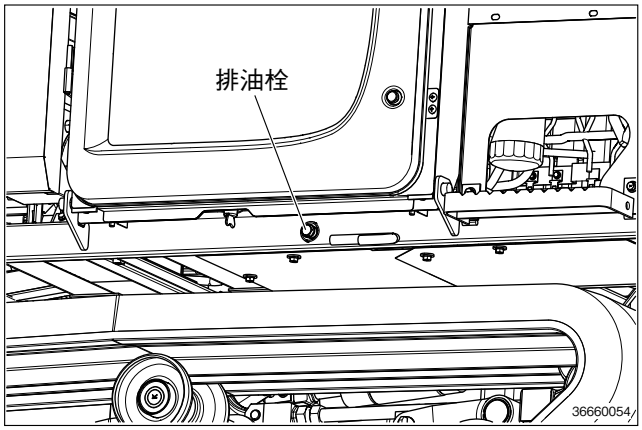


取扱いのポイント

●オイルの量は，エンジンが冷えているときに確認してください。
●給油口からワラクズなどが入らないよう，事前に周囲を掃除してください。
●排油栓，給油栓，レベルゲージは確実にセットされていることを確認してください。

❷ エンジンオイルの交換

⑴ 排油栓を取外し，オイルを抜きます。その際，オイルは適切な容器で受けてください。



取扱いのポイント

- **オイルを抜くときは，オイルがこぼれないようになるべく開口部の大きなオイル受けを使用してください。**
- **低温時はオイルが抜けにくい場合がありますので，あらかじめエンジンを暖機運転してから行ってください。**

⑵ オイルを抜き終わったら排油栓を締め，取外しと逆の手順で組付けます。新しい「**純正エンジンオイル**」をレベルゲージの上限まで給油します。

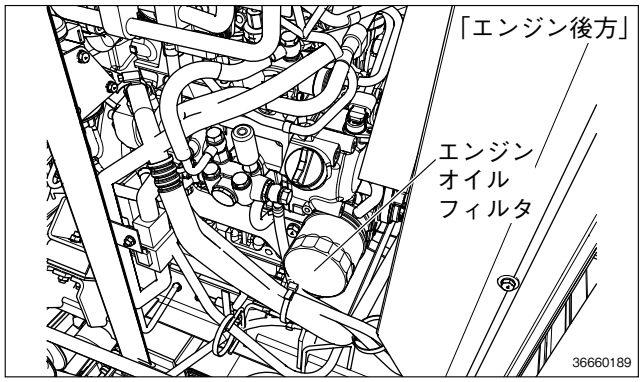
- **ディーゼルエンジン用オイル**
  純正油 または，使用オイル表（180ページ）の指定オイル
- **オイル量……7.0 L**

⑶ 交換後，エンジンを始動して，オイルランプが消えるまで低回転で運転します。（8ページ参照）

❸ エンジンオイルフィルタの交換

オイルフィルタの交換は，「**お買いあげ先**」に依頼してください。

グレンタンクを回動し，エンジンカバー（後）を外した位置にあります。



⑴ オイルフィルタは，「**カートリッジタイプ**」を使用しています。

⑵ オイルフィルタを交換したときは，オイル量が多く入るので，レベルゲージでオイル量を確認し，不足のときは，規定レベル上限までオイルを補給します。

3. ラジエータ冷却水の点検・交換

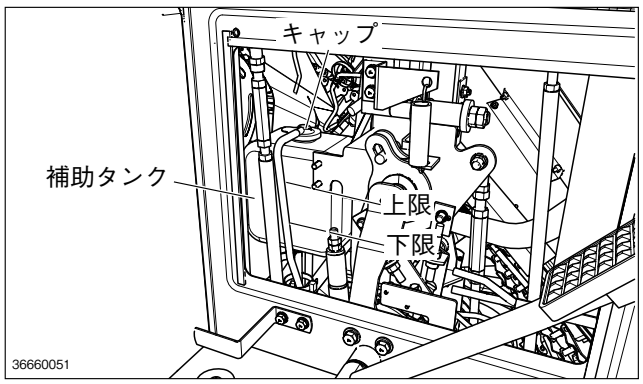
⚠警告 火傷防止のために

◆運転中およびエンジン停止直後は，ラジエータキャップを開けないでください。熱湯が吹き出し「火傷」をすることがあります。冷えてからゆっくり開けてください。

ラジエータの取扱いを誤ると，エンジンの寿命に大きく影響を与えます。ラジエータの点検は，カバーを開けて行います。

❶ 始業前の点検

・エンジンが冷えているとき，補助タンク内の冷却水が「**給水レベルの上限と下限の間**」にあるように補助タンクに冷却水を補給します。



❷ 補助タンクの水を切らしたとき

⑴ ラジエータキャップを外して，冷却水を口元まで注水し，キャップを閉めます。

⑵ 補助タンクのキャップを外します。

・補助タンクの「**上限**」位置まで給水します。

・冷却水……清水（水道水）

・補給後補助タンクのキャップを取付けて足元カバーを取付けます。

取扱いのポイント

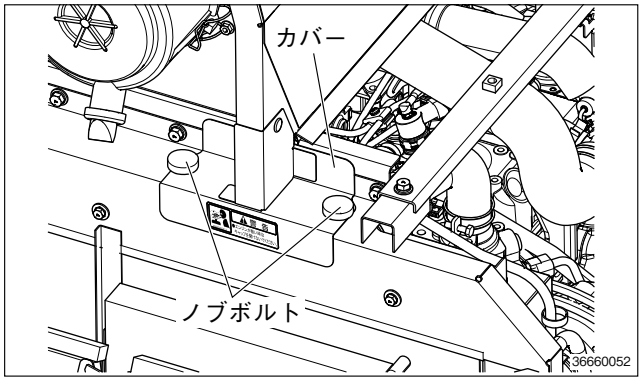
●シーズン前には，ラジエータ内の冷却水の量を点検してください。

●補助タンク内の冷却水を始業前に点検し，不足しているときは補給してください。

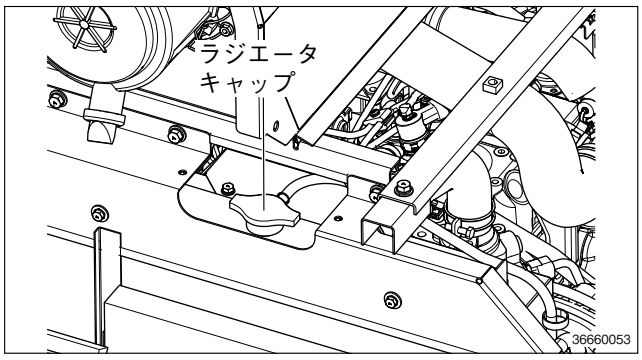
●補助タンクには「上限」以上入れないでください。運転中冷却水が溢れ出すことがあります。

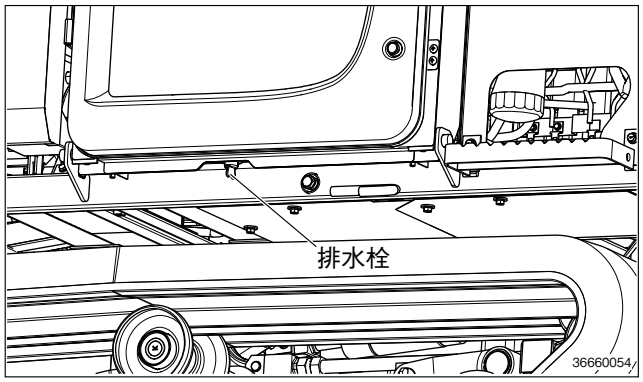
❸ ラジエータ冷却水の交換

⑴ エンジンカバーを開き，ノブボルト（２個）を外してカバーを取り外します。
カバーの下にラジエータキャップがあります。



⑵ ラジエータキャップを外し，次にラジエータ下部の排水栓から排水します。その際，冷却水は適切な容器で受けてください。





⑶ ラジエータ内の水が，きれいになるまで水の入替えを繰返し，内部を洗浄します。

・市販の洗浄剤を使用すると効果的です。

⑷ 排水が終わったら排水栓を閉めます。

⑸ **不凍液の選定**

工場出荷のときは，不凍液が注入され「**外気温度－25℃**」の凍結を防止する濃度になっていますが，納入後２年以上経過すると効力が低下しますので，冷却水を抜き「**不凍液濃度基準**」を参考に入替えます。

「**不凍液濃度基準**」

外気温度 ℃	－5	－10	－15	－20	－25	－30
不凍液濃度 %	20～25	25～30	30～35	35～40	40～45	45～50

不凍液は「**ロングライフクーラント**」(PT）を使用します。

・冷却水量（補助タンク1.0L含む）…7.6L

取扱いのポイント

●不凍液を入替え直後に長期保管されるときは，冷却水の循環が確認できるまでエンジンを「低速で空運転」してください。

●冷却水には清水を使用してください。泥水や塩水を使用しないでください。

●冬季には冷却水が凍結し，エンジンやラジエータを破損することがあります。不凍液「ロングライフクーラント」を混合してご使用ください。

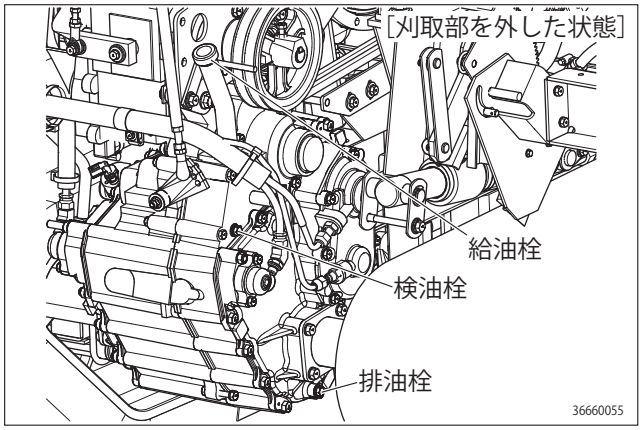
●ラジエータ洗浄剤を使用する際には洗浄剤の取扱説明書を熟読のうえ使用してください。

□２年使用ごとに，冷却水の交換と，ラジエータ内部の洗浄を行ないます。

⑹　別容器（ポリバケツ）に不凍液を必要量（不凍液濃度基準表参照）入れます。
⑺　清水を加えよく攪拌した後にラジエータ給水口の口元一杯まで給水したのちラジエータキャップを閉めます。
⑻　カバーを取付けます。

4. トランスミッションケースのオイル点検･交換

オイル交換は「お買いあげ先」に依頼してください。



❶　点検
・ミッションケース横の検油栓を外して，オイルが出てくれば適正量です。
・不足しているときは，給油口より補給します。
❷　交換
・ミッションケース下部の排油栓を外し，抜取ります。その際，オイルは適切な容器で受けてください
・給油するときは，検油栓まで給油します。
・ギヤオイル…API・GL－4以上，
SAE・80
・オイル量……14.5Ｌ

取扱いのポイント

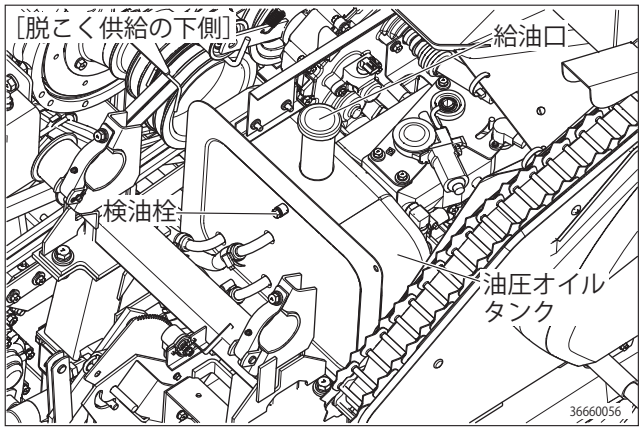
□点検，交換後に排油栓，検油栓が確実に取付けてあるか確認してください。

5. 油圧作動油の点検・交換および油圧オイルフィルタ・HST（走行, 搬送）オイルフィルタの交換

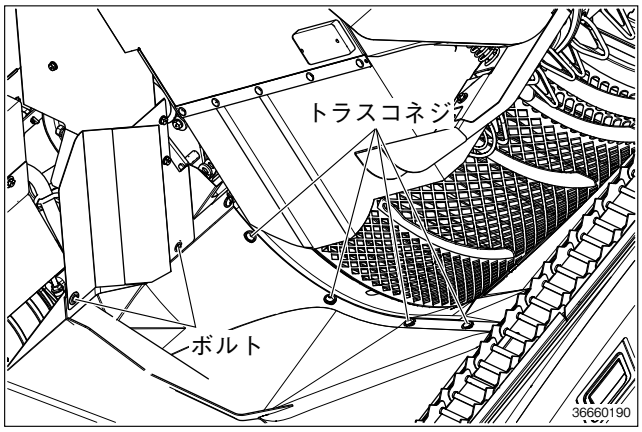
⚠警告　傷害事故防止のために

◆油圧作動油を抜くときは，刈取部・機体を下げ，排出オーガを収納状態にして行います。下げ（収納）状態にしないと機体が傾いたり，刈取部が下がったりして人身事故の原因になることがあります。
◆こぎ胴を開くときは，グリップでこぎ胴を持ち上げ，ゆっくりと手を離しロックが掛かったことを確認してください。

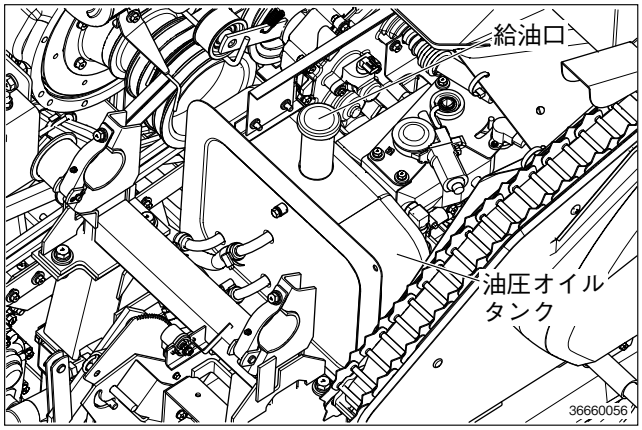
この機械は，多くの油圧装置を採用しており，油圧作動油の保守管理を誤ると不調の原因となります。
・油圧作動油を交換する際に,油圧オイルフィルタとHSTオイルフィルタの交換を同時に行います。
❶　油圧作動油量の点検
・脱こく供給口の下方の油圧オイルタンクの検油栓を外して，オイルが出てくれば適正量です。
・不足しているときは，給油口より補給します。
❷　油圧作動油の交換
・油圧作動油の交換は，「お買いあげ先」に依頼してください。
・油圧作動油…（純正油）または，使用オイル表（180ページ）の指定オイル
・オイル量……20.5Ｌ
（10分程度運転後のオイル補充分を含む）



⑴ コンポアップをし，刈取部の脱こく入口ゴムプレートをめくり入口板を外します。



⑵ 検油栓を外して給油口より給油し，検油口よりオイルが出てくれば検油栓，給油口のキャップを締めます。



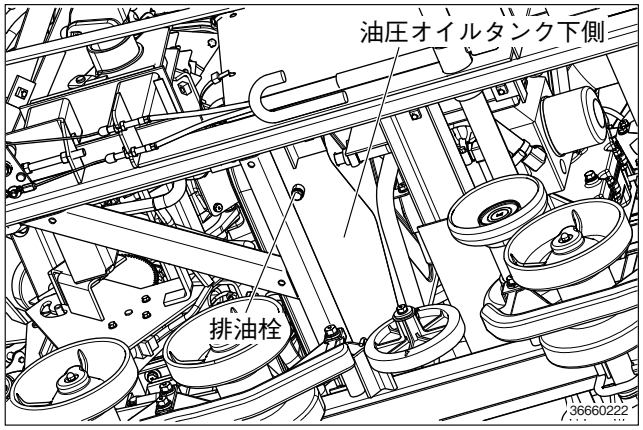
⑶ 作業を終了しましたら，カバー類を元の位置に取付けます。

❸ 油圧作動油の抜取り要領

⑴ エンジンを始動し，刈取部・機体を下げ，排出オーガを収納状態にしてエンジンを停止します。

⑵ 給油口のキャップを外し，オイルタンク下側の排油栓を外して，油圧作動油を抜きます。

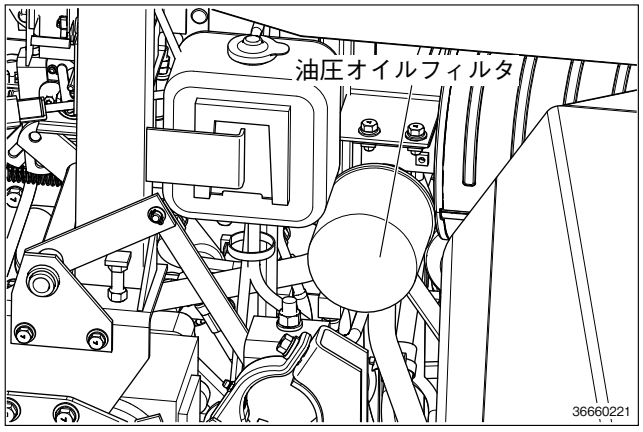
⑶ オイルを抜き終わったら，排油栓を締めます。



❹ 油圧オイルフィルタの取外し要領

⑴ 油圧作動油のオイルフィルタは，**「カートリッジタイプ」**を使用していますので，交換は**「お買いあげ先」**に依頼してください。

⑵ 油圧オイルフィルタは，運転席左側，刈取部との間にあります。



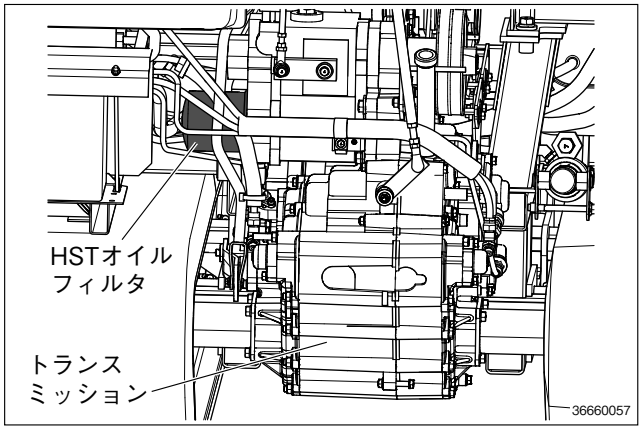
取扱いのポイント

●オイルフィルタを交換するときは，オイルがこぼれないようになるべく開口部の大きなオイル受けを使用してください。

❺ HSTオイルフィルタの取外し要領（走行用）

⑴ HSTオイルフィルタは,「**カートリッジタイプ**」を使用していますので，交換は「**お買いあげ先**」に依頼してください。

⑵ HSTオイルフィルタは，トランスミッションの右側に装備してあります。



❻ 油圧オイルフィルタ，HSTオイルフィルタの取付け要領

⑴ フィルタ取付面をきれいに掃除をして，フィルタのパッキン面にオイルを薄くぬり，滑りを良くして取付けます。

⑵ 締付けは手で行い，取付面にパッキンが当たってから2/3～3/4回転締付けます。

取扱いのポイント

- **フィルタ取付面からオイルの漏れ，にじみがないか点検してください。**
- **給油口とフィルタ周りの周辺をあらかじめ掃除をして，ゴミなどが入らないようにしてください。**

❼ 油圧作動油の給油要領

⑴ オイルタンクの給油口より，タンク中央の検油栓からオイルが出るまで給油します。

⑵ エンジンを始動し，アイドリング回転で10分間程度運転します。

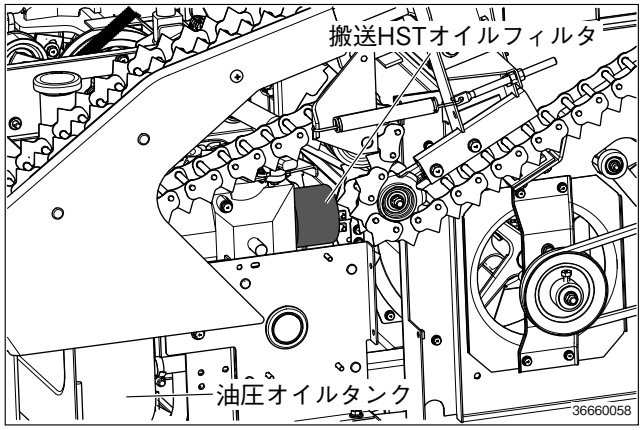
エンジンを停止して，オイル量を点検し，検油栓から出てくれば適量です。

さらに，各部油漏れのないことも調べます。

❽ 搬送HSTオイルフィルタの取外し要領

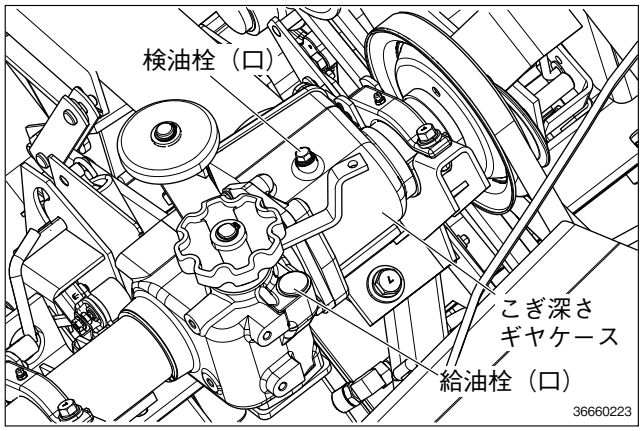
⑴ 搬送HSTオイルフィルタは，「**カートリッジタイプ**」を使用していますので，交換は「**お買いあげ先**」に依頼してください。

⑵ 搬送HSTオイルフィルタは，油圧オイルタンク後に装備してあります。



6．こぎ深さギヤケースのオイル点検

オイルの点検は「**お買いあげ先**」にて行います。



❶ 点検

⑴ 脱こく入口ゴムプレートをめくります。

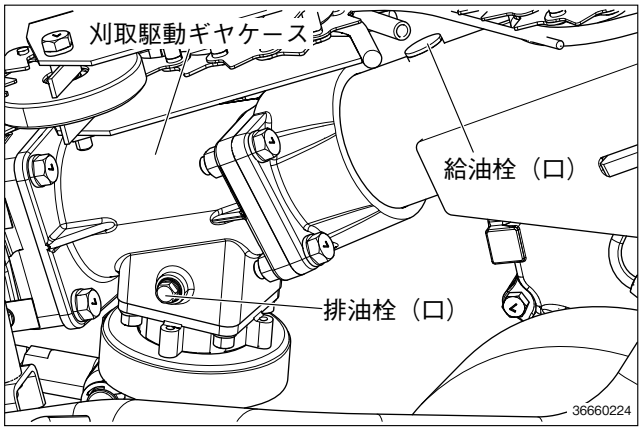
⑵ こぎ深さギヤケースの検油栓を外してオイルが出てくれば適量です。

⑶ 不足しているときは給油栓を外し給油口より補給します。

- **ギヤオイル…API・GL－５以上，SAE・140**
- **オイル量……1.1L**

7．刈取駆動ギヤケースのオイル点検・交換

オイルの点検・交換は「**お買いあげ先**」にて行います。



❶ 点検

⑴ 平坦な場所で刈取部を地面につくまで下げます。

⑵ 給油栓（口）より50±10㎜の位置にオイルがあれば適量です。

❷ 交換

⑴ 排油栓を外してオイルを抜き，排油栓を締めます。その際，オイルは適切な容器で受けてください。

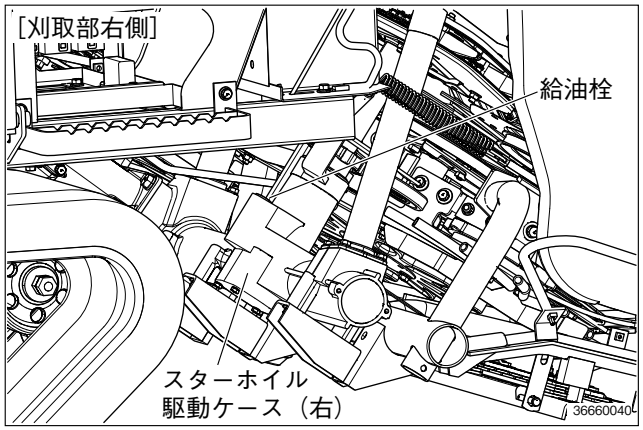
⑵ 給油栓を外し，給油口より給油します。

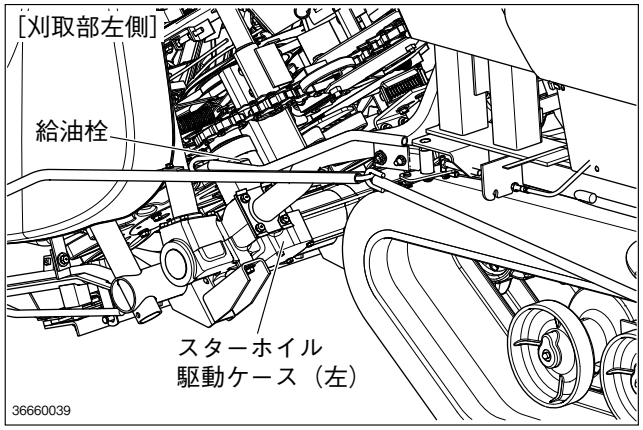
・ギヤオイル…API・GL－５以上，
SAE・140

・オイル量……1.1L

8．トルクリミッタケース右・左（スターホイル駆動ケース）

オイルの点検は「**お買いあげ先**」にて行います。





・ギヤオイル…API・GL－５以上，
SAE・140

・オイル量……右1.8Ｌ・左2.4L

9. 脱こくギヤケースのオイル点検・交換

❶ 点検

⑴ グレンタンクを回動します。(116ページ参照)

⑵ 脱こくギヤケースの検油栓を外してオイルが出てくれば適量です。

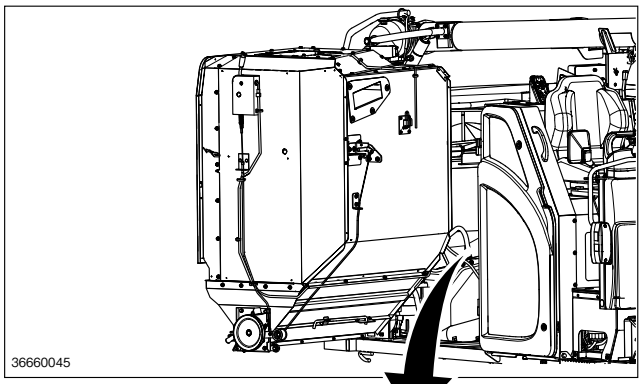
⑶ 不足しているときは給油栓を外し給油口より補給します。

❷ 交換

オイル交換は「**お買いあげ先**」に依頼してください。

⑴ 排油栓を外してオイルを抜き，排油栓を締めます。その際，オイルは適切な容器で受けてください。

⑵ 給油栓と検油栓を外し，給油口より給油します。検油栓からオイルが出てきたら，検油栓を締め，給油栓を取付けます。



・**ギヤオイル…API・GL−5以上,**
SAE・90

・**オイル量……0.55 L**

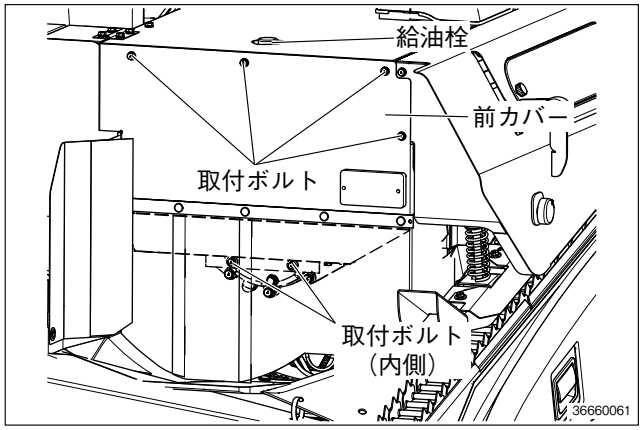
⑶ 作業後グレンタンクを閉じます。(116ページ参照)

10. こぎ胴ギヤケース

❶ 点検

・ギヤケースの検油栓を外してオイルが出てくれば適量です。

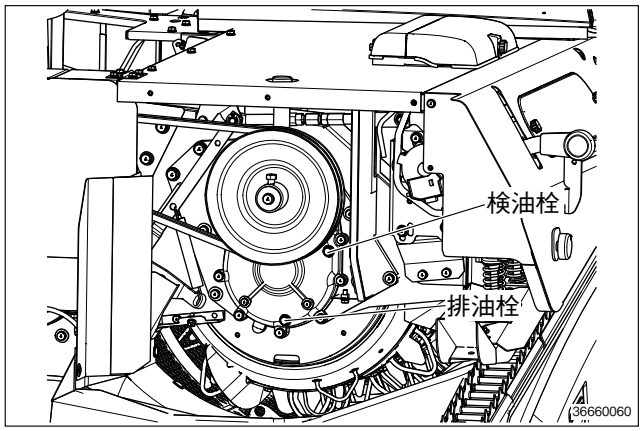
・不足しているときは給油栓を外して給油口より補給します。



❷ 交換

オイル交換は「**お買いあげ先**」に依頼してください。

⑴ こぎ胴部の前カバーを外します。



・ギヤケース下部の排油栓を外し，オイルを抜取り，給油口より給油します。その際，オイルは適切な容器で受けてください。

・**ギヤオイル…API・GL−5以上,**
SAE・90

・**オイル量……0.65 L**

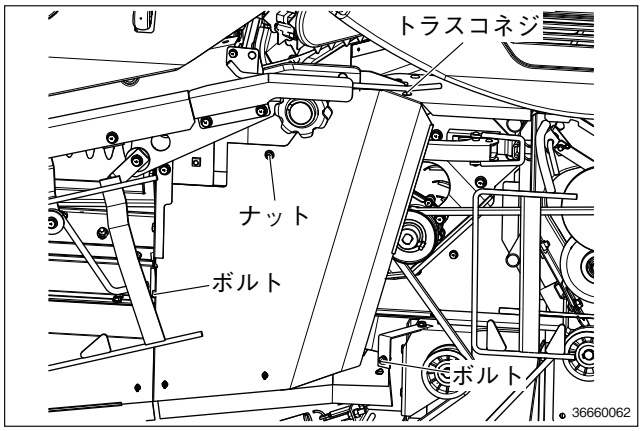
⑵ 作業後，カバーを元の位置に取付けます。

11．吸引ファンギヤケース

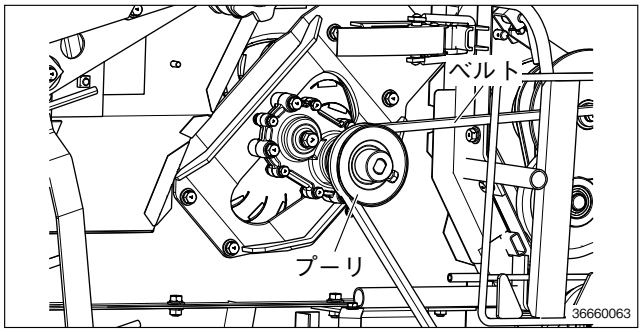
オイル交換は「**お買いあげ先**」に依頼してください。

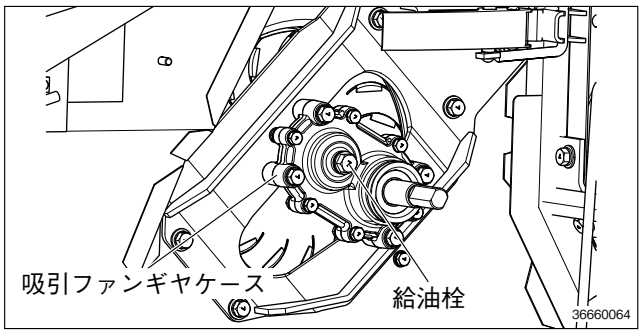
(1) 脱こくサイドカバー（上）（下），カッタサイドカバーを取外します。

(2) カバーのボルト，トラスコネジとナットを外します。



(3) ベルトを外し，プーリを取外します。





・ギヤオイル…API・GL－4以上，
SAE・10W－30

・オイル量……0.07 L

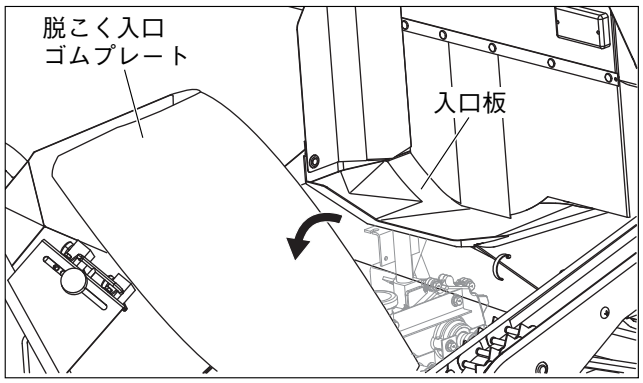
(4) 作業後プーリを取付け，ベルトを掛けて，カバーのボルト，トラスコネジ，ナットを締付けます。

(5) 脱こくサイドカバー（上）（下），カッタサイドカバーを取付けます。

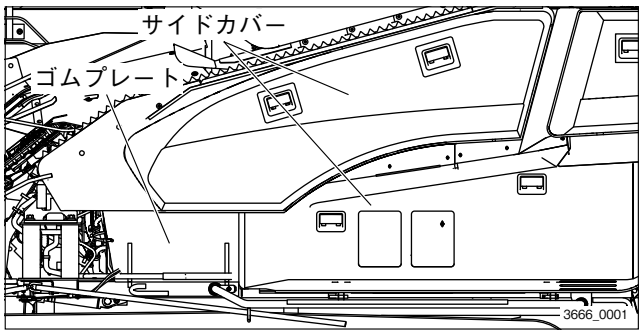
12．搬送HSTギヤケース

オイル交換は「**お買いあげ先**」に依頼してください。

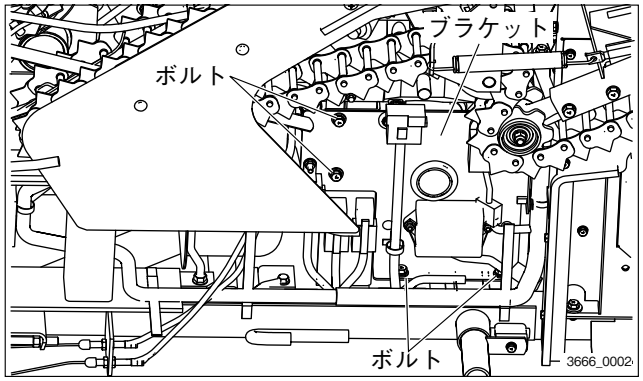
(1) 脱こく入口のゴムプレートをめくり，コンポアップをして入口板を外します。

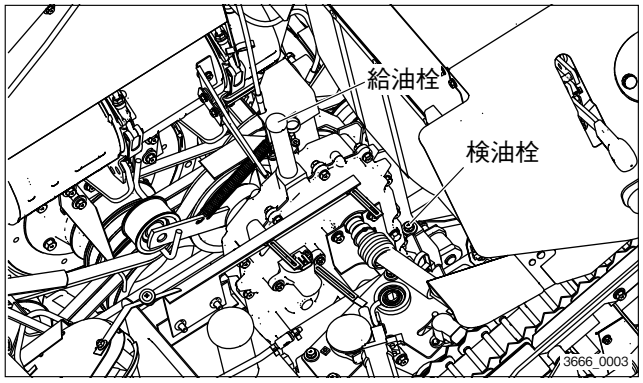


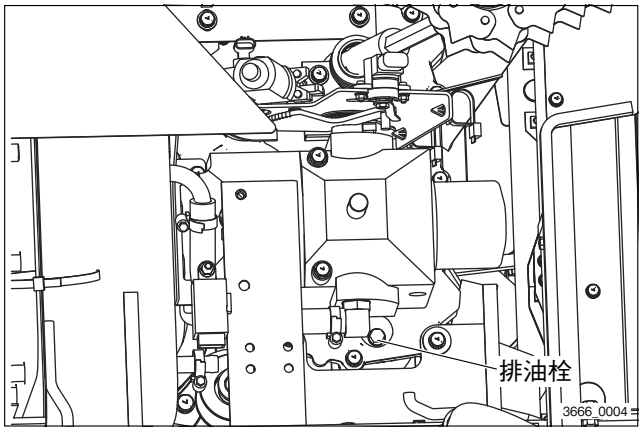
(2) サイドカバー・ゴムプレートを取外します。



(3) ボルト４本を取外し，ブラケットを取外します。







・ギヤオイル…API・GL－5以上,
SAE・90
・オイル量……1.7 L

⑷ 作業後，カバー類を元の位置に取付けます。

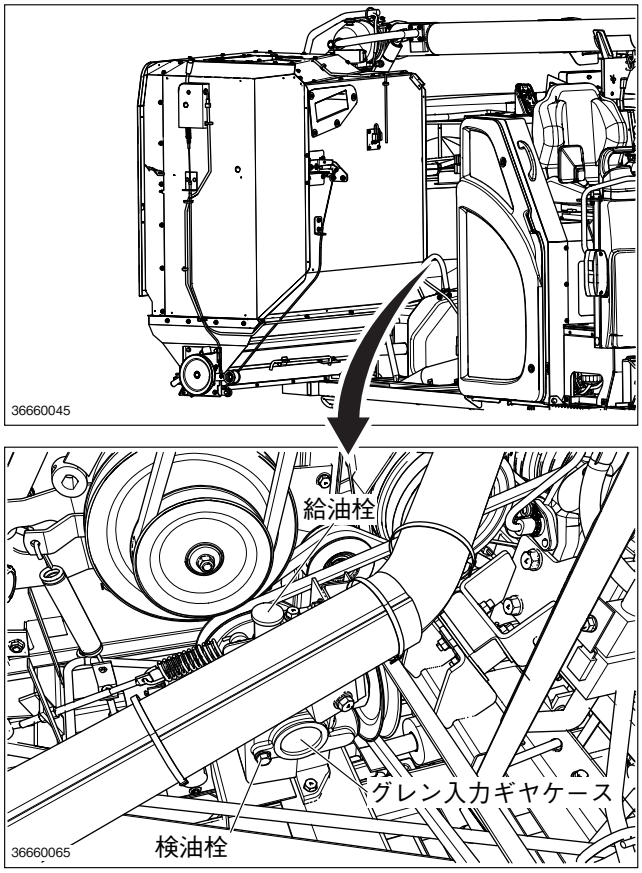
13. グレン入力ギヤケースのオイル点検・補給

❶ 点検・補給

⑴ グレンタンクを回動します。(116ページ参照)

⑵ グレン入力ギヤケースの検油栓を外してオイルが出てくれば適量です。

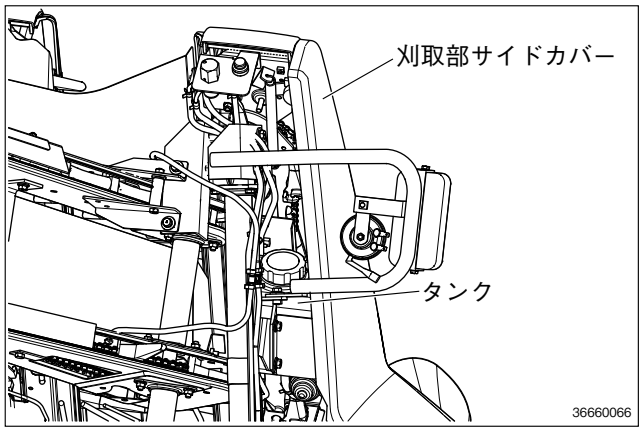
⑶ 不足しているときは給油栓を外して給油口より補給します。



・ギヤオイル…API・GL－5以上,
SAE・90
・オイル量……0.5 L

⑷ 作業後グレンタンクを閉じます。(116ページ参照)

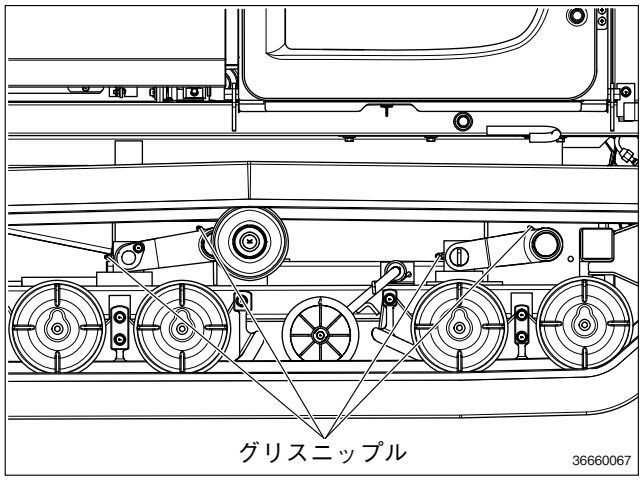
14. 集中注油タンク



・刈取部サイドカバー（右）を外し，タンクに給油します。給油後は刈取部サイドカバー(右)を取付けます。
・エンジンオイル
・オイル量……1.5 L

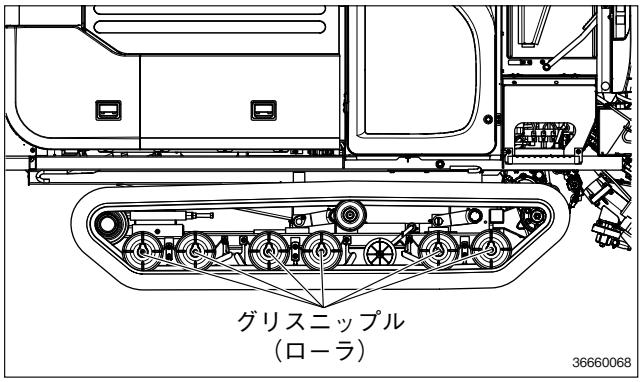
15. 給脂箇所

❶ 水平リンク

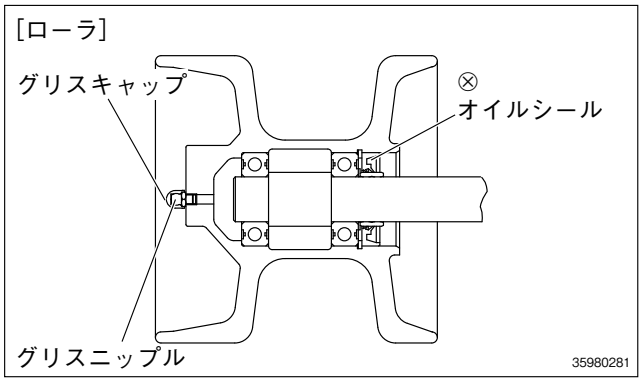


左右８箇所グリスガンで給脂します。
・リチウムグリス
・左右……８箇所

❷ ローラ



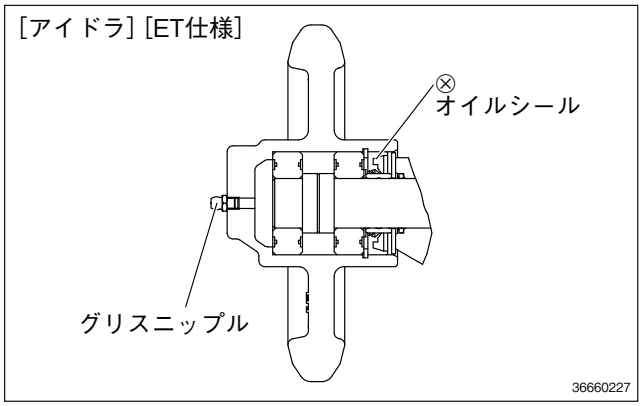
・各部のグリスアップは50ａ（アール）作業毎，湿田作業直後および格納時に行います。
・グリスアップ箇所は，12箇所です。



・グリスアップ箇所のグリスキャップを取外し，グリスニップルからリチウムグリスをポンプでオイルシール部（⊗部）よりわき出るまで封入してください。
グリスアップが終わりましたらグリスキャップを取付けてください。

❸ アイドラ［ET仕様（Y仕様はディーラーオプション)］

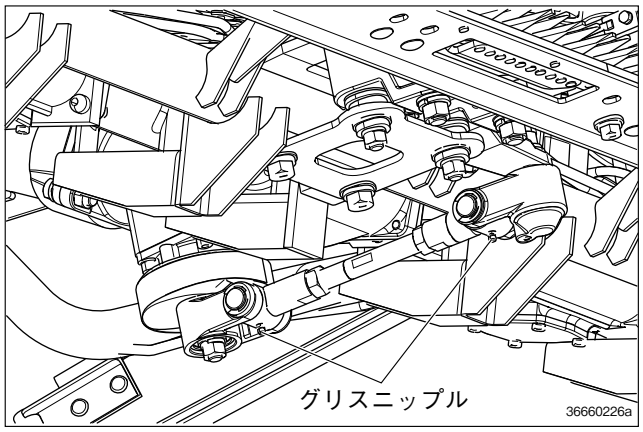
・各部のグリスアップは50ａ（アール）作業毎，湿田作業直後および格納時に行います。
・グリスアップ箇所は，２箇所です。



・グリスアップ箇所のグリスキャップを取外し，グリスニップルからリチウムグリスをポンプでオイルシール部（⊗部）よりわき出るまで封入してください。
グリスアップが終わりましたらグリスキャップを取付けてください。

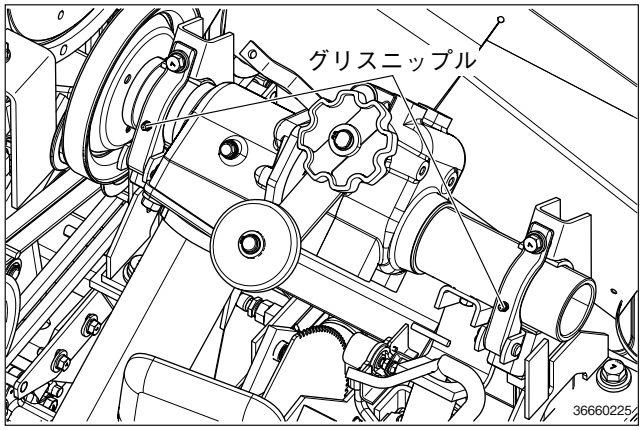
❹ 刈刃リンクへの給脂

２箇所グリスガンで給脂します。



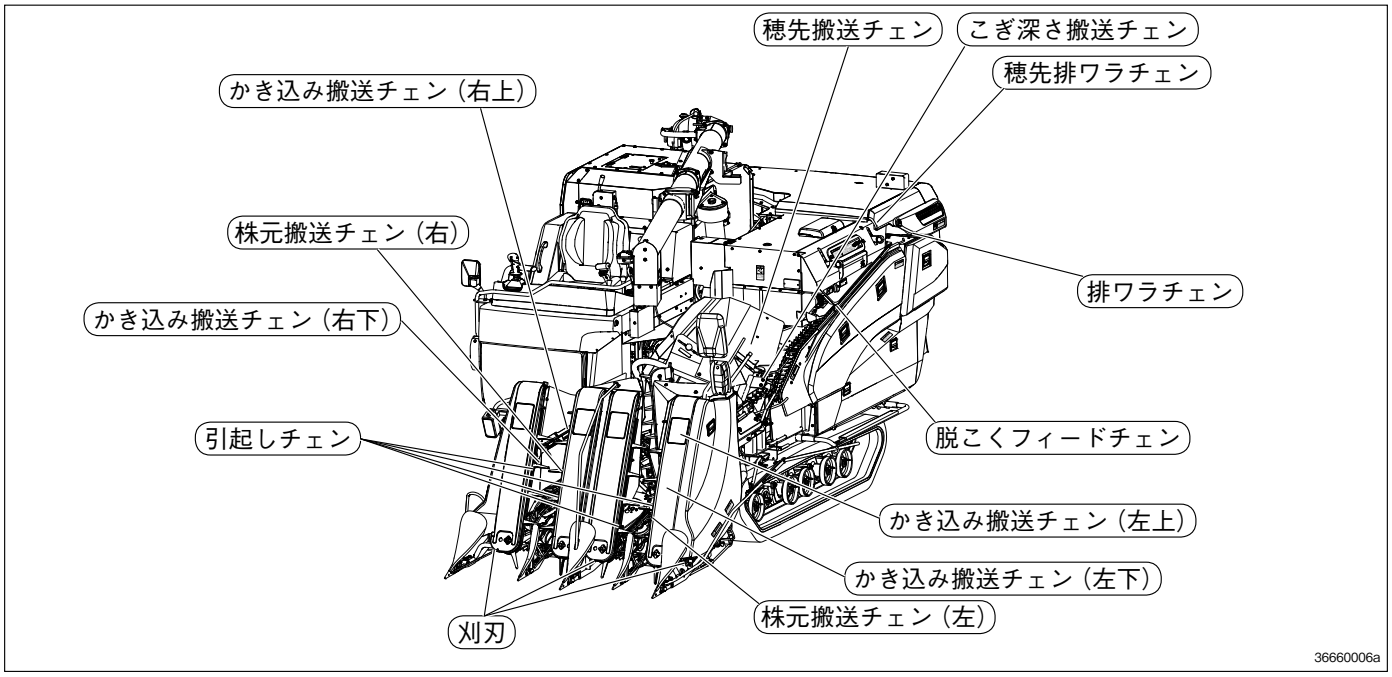
❺ 刈取部リフトサポートホルダへの給脂

２箇所グリスガンで給脂します。

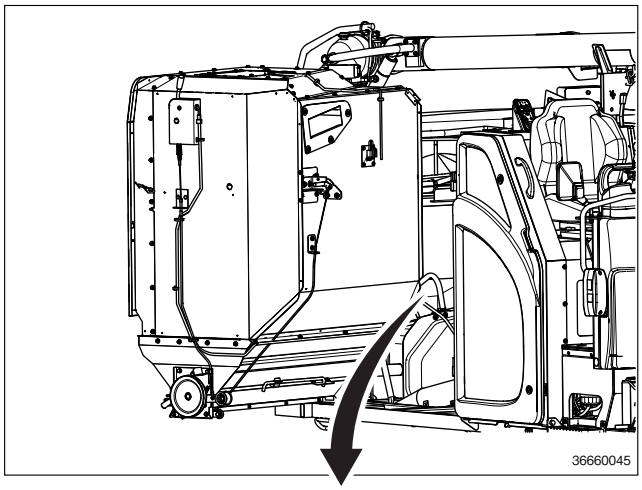


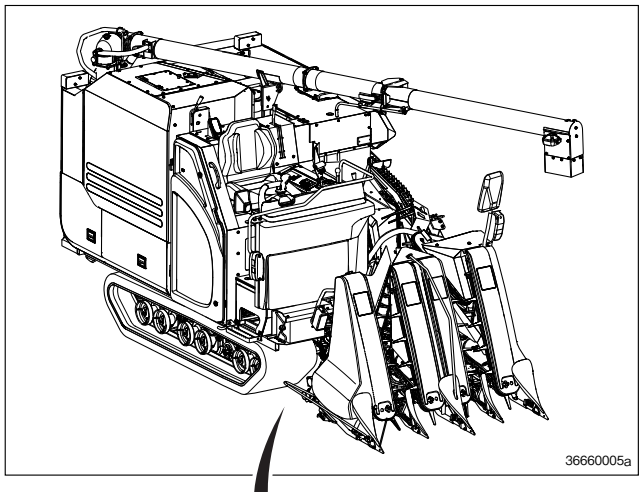
16. 各部の注油

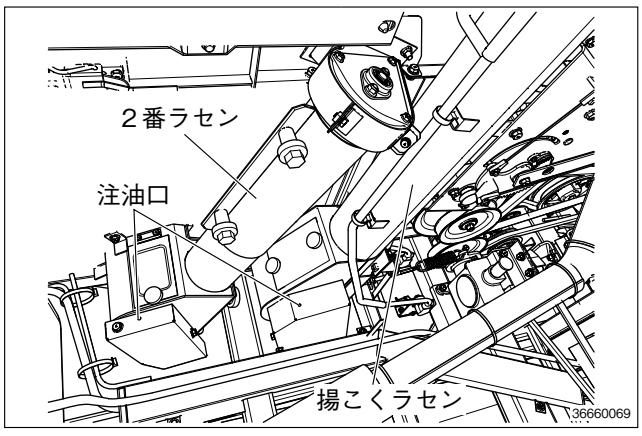
各部の注油は，始業前および刈取面積に応じ適宜行います。刈取部関係の注油（▭箇所）は集中注油装置で注油ができます。

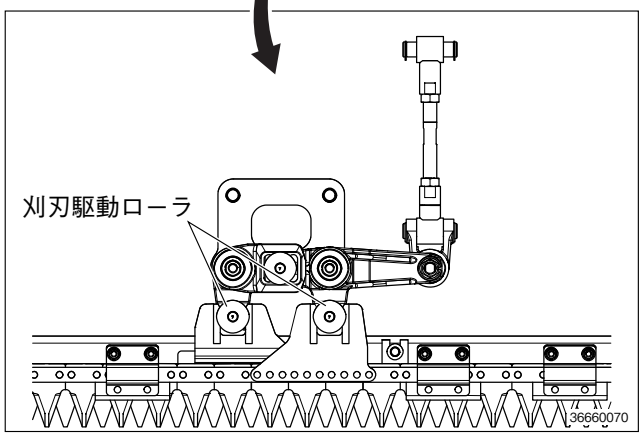


そのほかの注油は「**油差し**」で注油します。









17．集中注油装置の使い方

⚠警告 傷害事故防止のために

◆平坦な場所に機械を置いてください。傾斜地では機械が動き出し，傷害事故の原因となります。
・クローラに車止めをかけてください。

◆刈取部，脱こく部を作動しますので，機械の周囲に人を近づけないでください。

❶ エンジンを始動させます。

❷ 機体，水平を下げ，刈取部を地面より約10cm程度上げます。

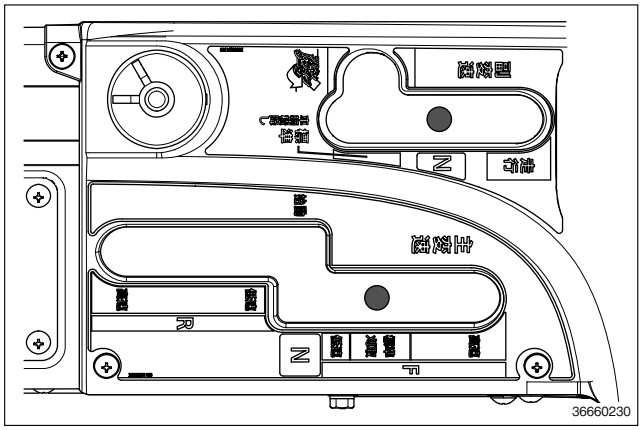
❸ こぎ深さを「**最深こぎ**」にします。

❹ 副変速レバーを《**N**》(**中立**）にします。

❺ エンジン回転を低回転にします。(エンジン自動回転《**切**》)

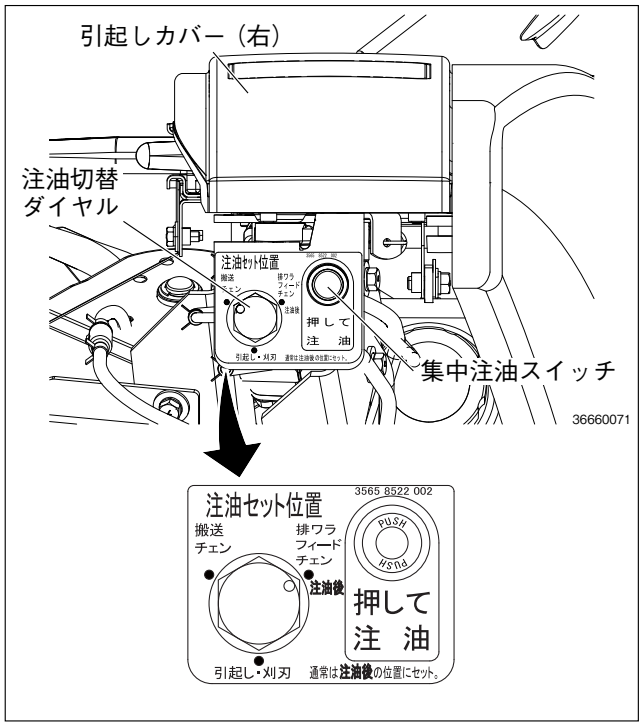
❻ パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《**刈取**》にします。

❼ 主変速レバーを《**標準刈取**》位置にして，刈取部を回転させます。



❽ 集中注油スイッチを押している間，自動的に注油されます。また，注油切替ダイヤルにより以下の注油箇所の切替えができます。

・引起し搬送チェン（引起しチェン，株元搬送左右，かき込み搬送左，こぎ深さ搬送，穂先搬送）
・引起し，刈刃
・排ワラフィードチェン，注油後



❾ 注油作業終了時には，オイル漏れ防止のため注油切替ダイヤルを《**注油後**》位置にしてください。

取扱いのポイント

- **注油切替ダイヤルを切替中に，集中注油スイッチを操作すると，故障の原因となりますので，スイッチを押さないでください。**
- **注油中にオイルが流れ落ちることがありますので，注油場所を選んで行い，こぼれたオイルは，拭き取ってください。**
- **注油ホースの継ぎ部からオイル漏れがないか，点検確認してください。**
- **注油切替ダイヤルは，注油位置マークの指示位置に確実に切替えてください。**
- **《こぎ深さ・注油》ヒューズ（20A）が切れると，注油はされません。(106～108ページ参照)**
- **湿田作業で刈刃の上に溜まった土を掃除するときに，ノズル・ノズル取付プレート・注油ホースを鎌などで損傷しないようにしてください。**
- **ノズルが詰まると，注油の妨げとなりますので，針などで詰まりを除去してください。このとき，刈取部を上げて作業する場合は，油圧を固定し，刈取部を固定脚に乗せてから行なってください。また，エンジンは停止してください。**

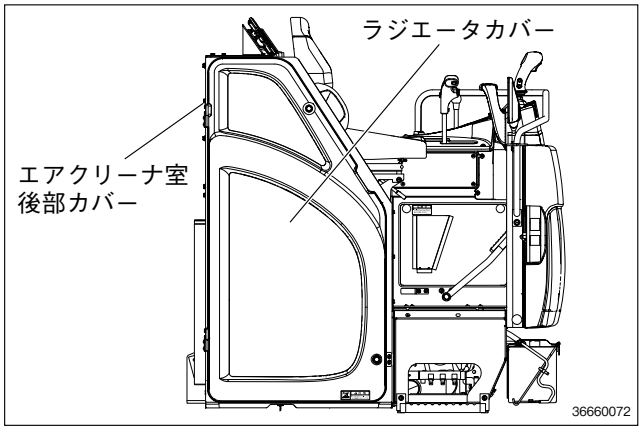
3. 各部の点検と掃除のしかた

1. ラジエータ吸気部の掃除

⚠警告 傷害事故防止のために

◆エンジン周辺を掃除するときは，スタータスイッチを《切》にしてエンジンを停止させ，エンジンが冷えたことを確認してから行います。

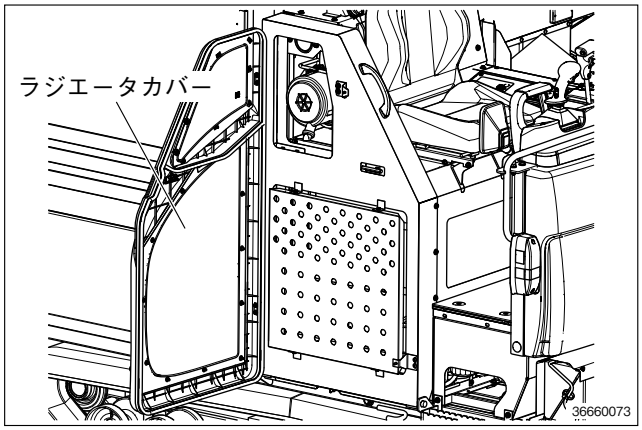
ラジエータカバー，ラジエータフィン，オイルクーラフィンにゴミなどが目詰まりすると，冷却風の通りが悪くなり，エンジンが「**オーバーヒート**」する原因となります。



❶ ラジエータカバーの表面のゴミを取除きます。

❷ グレンタンクを回動し，エアクリーナ室後部カバー表面のゴミを取除きグレンタンクを閉じます。

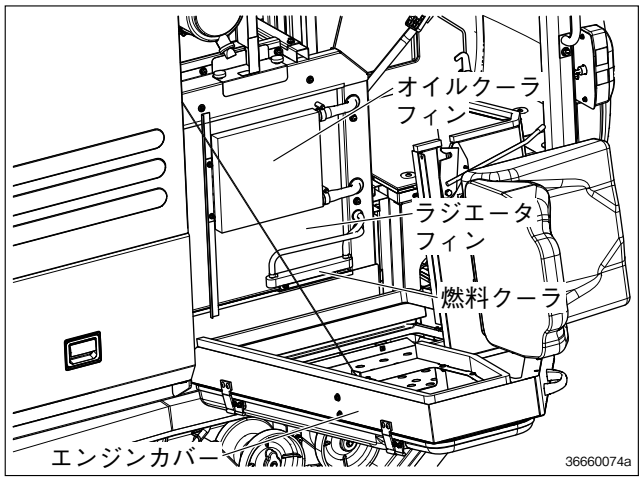
❸ ラジエータカバーを開き，ゴミを取除きます。



❹ ラジエータフィン部，オイルクーラフィン部に「**ゴミ詰まり**」を生じたときは，次の方法で取除きます。

エンジンカバーを開きます。

電気掃除機（小口径のノズル）でゴミを吸い取るか，コンプレッサの圧縮空気を吹きつけてゴミを取除きます。ノズルを強く押当てないでください。強く押当てると，フィンが変形する恐れがあります。



❺ 掃除後はエンジンカバーを閉じます。

2．エアクリーナの掃除

・エアクリーナエレメントを汚れたままで使用すると，エンジンの内部損耗や出力低下を招きます。

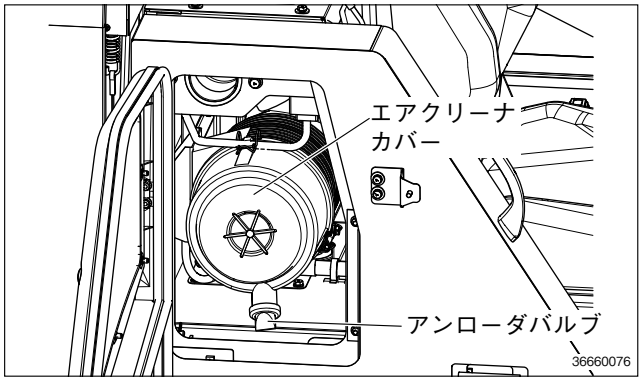
❶ エンジンカバーを開けます。

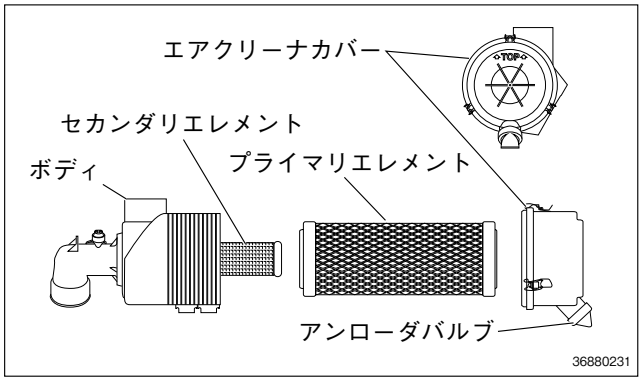
❷ エアクリーナカバーのフック（３箇所）を外し，プライマリエレメントを取出します。

❸ プライマリエレメントは軽く叩くか，コンプレッサでエレメントの内側よりエアを吹きつけて掃除をします。

❹ セカンダリエレメントは掃除して再使用することはできません。

❺ プライマリエレメントの掃除はエンジン保護のためセカンダリエレメントを外さないでください。





❻ 取付けは，アンローダバルブが下向きになるようにセットして取付けます。

❼ エンジンカバーを閉じます。

取扱いのポイント

●コンプレッサでエアを吹きつける場合は，空気圧「205kPa（2.1kgf／㎠）以下」で行なってください。

3．排気装置（DPF・排気管）の掃除

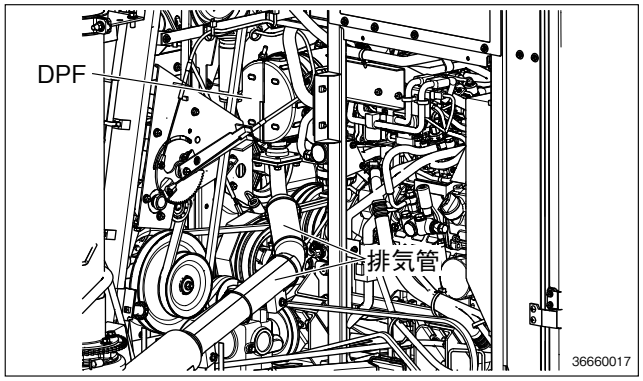
⚠警告 傷害事故防止のために

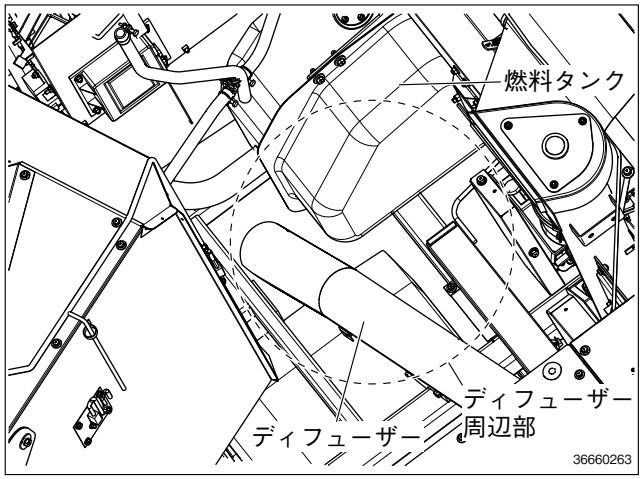
◆エンジン周辺を掃除するときは，スタータスイッチを《切》にしてエンジンを停止させ，エンジンが冷えたことを確認してから行います。

◆スチーム洗車はしないでください。

❶ グレンタンクを回動します。（116ページ参照）

❷ DPFや排気管および周辺部に発火する原因となる燃えやすいゴミなどがあれば取除いてください。





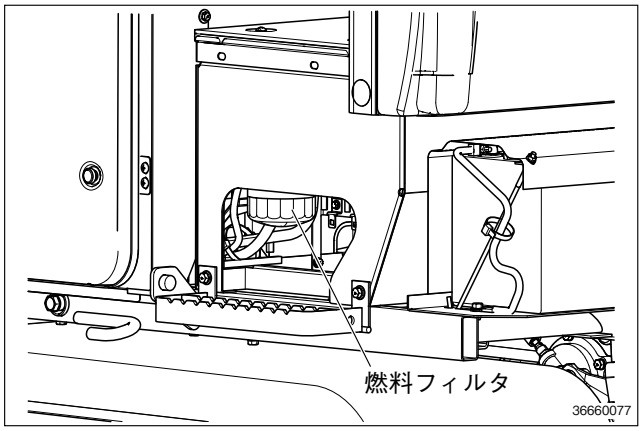
❸ グレンタンクを閉じます。（116ページ参照）

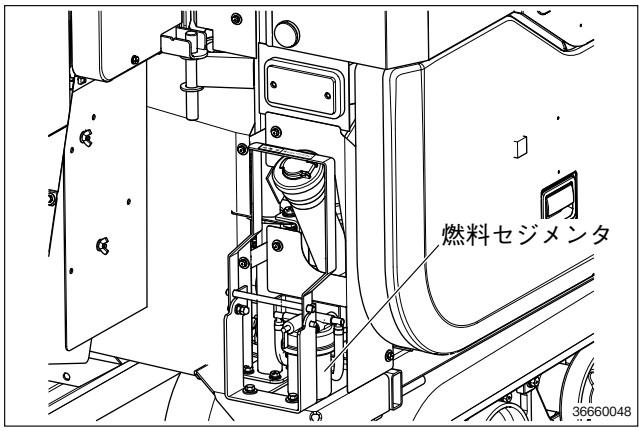
4. 燃料フィルタ・セジメンタの掃除・交換・エア抜き

⚠警告 火災防止のために

◆燃料ホースおよび継ぎ部より燃料がもれている場合は，火災の原因となることがありますので交換してください。

燃料フィルタ・セジメンタは，燃料内に含まれるゴミや水をフィルタにて取除きます。



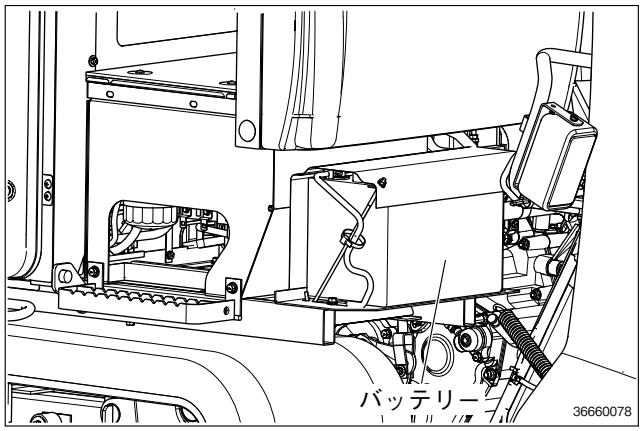


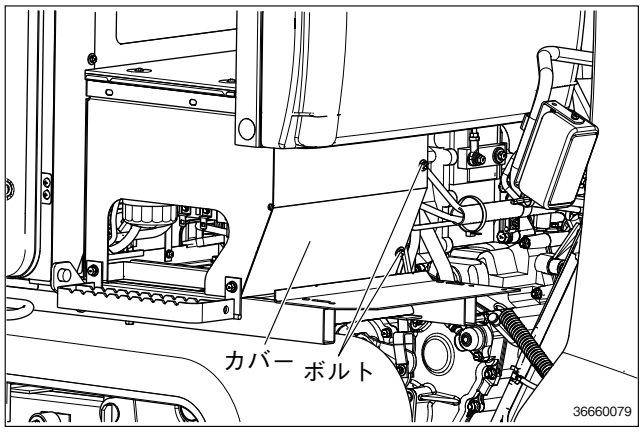
燃料フィルタは「**カートリッジタイプ**」を使用していますので「**定期点検整備表**」(83～84ページ参照）に従って「**お買いあげ先**」に依頼してください。

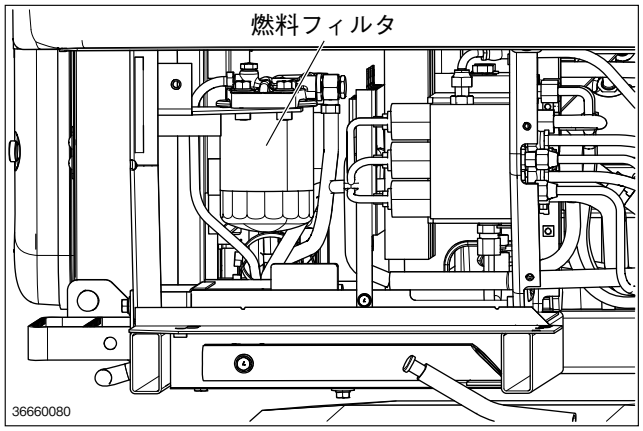
❶ 「**燃料フィルタの交換**」

(1) 燃料セジメンタの燃料コックを《**閉**》位置にします。

(2) 運転席下のカバーを取外します。







(3) 燃料フィルタを取外します。手でゆるまない場合には，専用工具(市販品)を使用して外します。

(4) フィルタ取付面をきれいに掃除をして，フィルタのパッキン面に燃料を薄く塗布してから手で確実に締付けてください。

(5) 運転席下のカバーを取付けます。

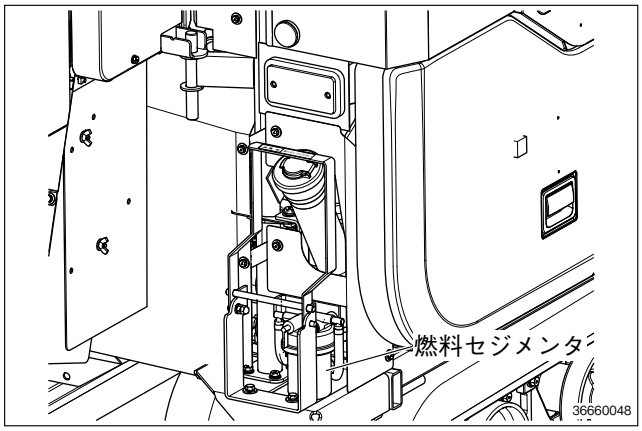
(6) 燃料セジメンタの燃料コックを《**開**》位置にします。

(7) エア抜きを行います。

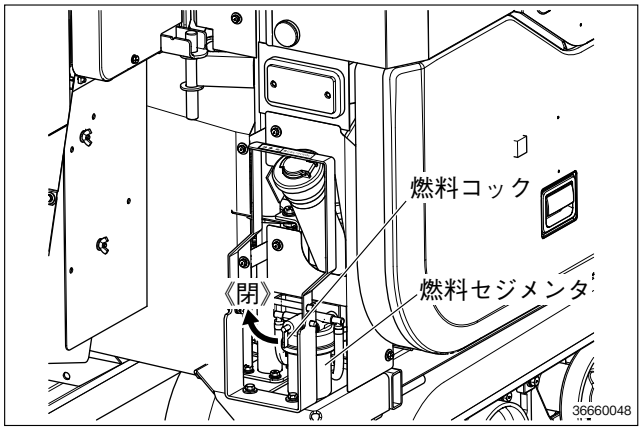
❷ 「燃料セジメンタの水排出」

運転前の点検時に水が溜まっている場合に水を排出します。

・赤いフロートが排出レベルに達するまでに排出します。

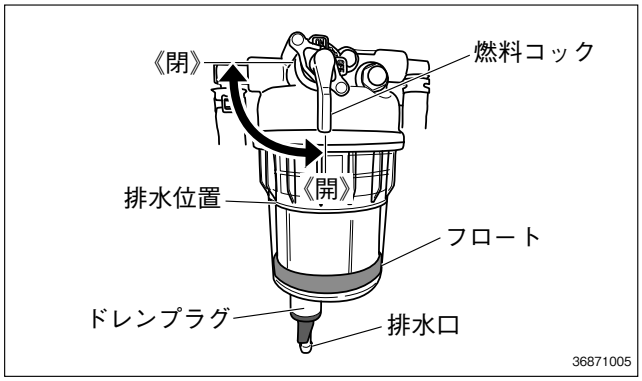


(1) 燃料セジメンタの燃料コックを《**閉**》位置にします。



(2) ドレンプラグをゆるめて水を抜いてください。その際，排水は適切な容器で受けてください。

(3) 水を抜いたらドレンプラグを締め，燃料コックを《**開**》位置にします。



(4) 後退灯横のカバーを取付けます。

(5) エア抜きを行います。

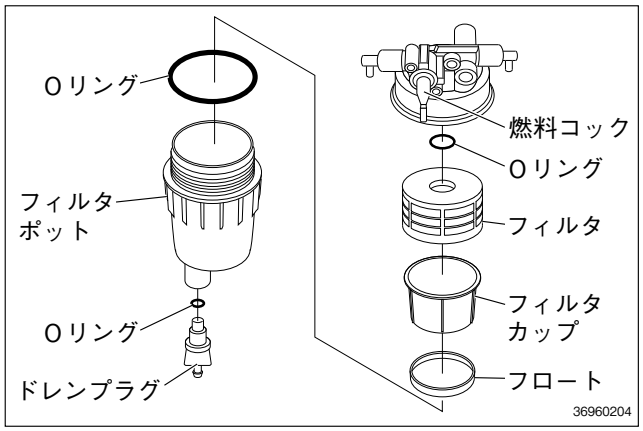
❸ 「燃料セジメンタの掃除」

(1) 後退灯横のカバーを取外します。

(2) 燃料コックを《**閉**》位置にします。

(3) ドレンプラグをゆるめて水を排出します。その際，排水は適切な容器で受けてください。

(4) ドレンプラグを締付けたあとに，フィルタポットをゆるめフィルタ，フィルタカップを取外します。



(5) 取外したフィルタ，フィルタカップを，コンプレッサで圧縮空気を吹きつけてゴミを掃き出します。

(6) フィルタポット内のゴミやよごれをきれいに掃除します。

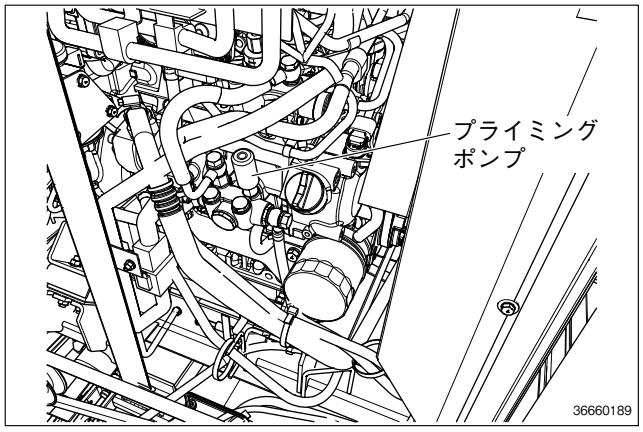
(7) 組付けは取外しと逆の手順で行います。

(8) 燃料コックを《**開**》位置にします。

(9) 後退灯横のカバーを取付けます。

❹ エア抜きの方法

燃料コックを《**開**》位置にし，スタータスイッチを《**入**》位置にして，約30～40秒待ってからエンジン後部のプライミングポンプを重たく感じるまでポンピングするとエア抜きができます。



取扱いのポイント

- 燃料の中に，水やゴミなどが混入しますとエンジンに重大な故障が発生したり，燃料ポンプが作動しなくなることがありますので，給油口のフィルタを通して給油してください。
- フィルタのゴミを掃除するときはコンプレッサの空気圧を686kPa(7kgf/㎠)以下にしてください。

5．ヒューズの交換

⚠警告 火災防止のために

◆取付けてあるヒューズと，異なる容量のヒューズを使用しないでください。また針金，銀紙などを使用すると，配線の加熱焼損の原因になります。

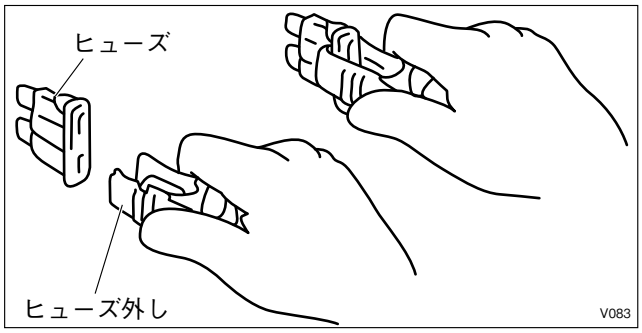
配線の回路に異常が生じたとき，事故を未然に防止するために，ヒューズが設けてあります。

運転中，電気系統の異常を確認したときは，ヒューズの状態をチェックします

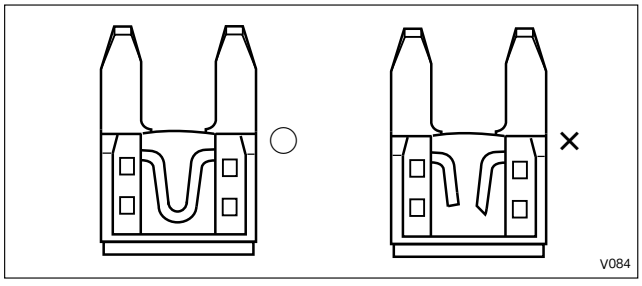
❶ ヒューズボックスのヒューズ交換

⑴ スタータスイッチを《**切**》位置にします。

⑵ ヒューズボックスの蓋を開き，ヒューズ外しまたは，ラジオペンチなどを使って，ヒューズを引抜きます。(ヒューズ外しは，運転席後カバー内のヒューズボックスの中に入ってます)



⑶ ヒューズが図の右側（×印）のようであればヒューズ切れです。スペアのヒューズと交換します。



取扱いのポイント

●交換してもヒューズが切れるときは「お買いあげ先」で点検を受けてください。

❷ 大電流用ヒューズ交換

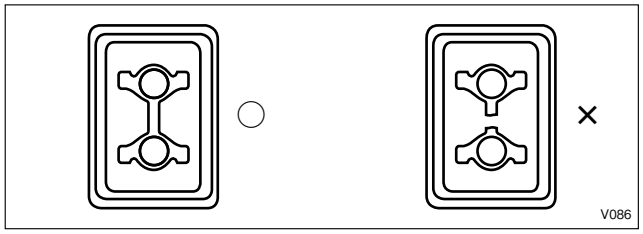
⚠警告 火傷や火災防止のために

◆取付けてあるヒューズ（大電流用）と異なる容量のヒューズを使用しないでください。また針金，銀紙などを使用すると，配線の加熱焼損の原因になります。

◆作業直後はエンジン部が高温になっています。各ヒューズの点検はエンジンが冷えてから行なってください。

⑴ バッテリー（－）端子を外します。

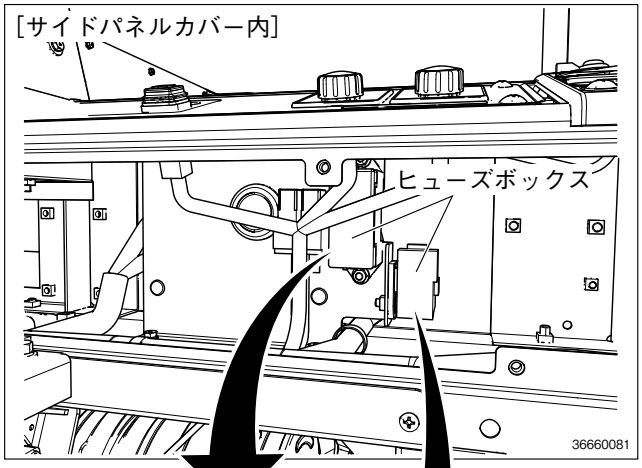
⑵ ヒューズ（大電流用）が下図右側（×印）のようであれば，ヒューズ切れです。指定のヒューズ（大電流用）と交換します。



取扱いのポイント

●大電流用ヒューズが切れたときは，「お買いあげ先」で点検を受けてください

[サイドパネルカバー内]



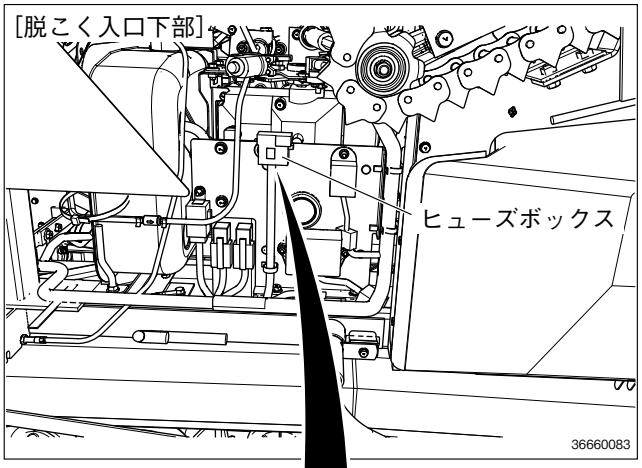
36660807600
ヒューズ抜き

ランプ・計器 10A	アキ		
バッテリ 10A	アキ		
E/Gマイコン 10A	アキ		
アキ	スタータSW 10A		
アキ	アキ		
予備30A	予備20A	予備15A	予備10A

マイコン電源 10A	36880807500
オーガ排出 10A	
水平 10A	スペア 10A
リフト 10A	
操向 10A	
非常時電源 10A	

36660244

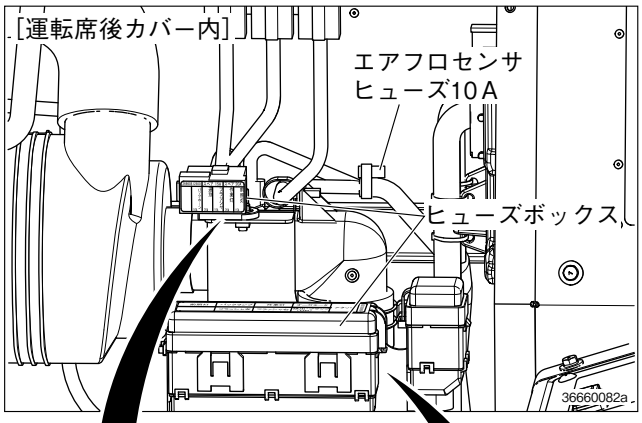
[脱こく入口下部]



クラッチ 20A	コンポ解除 20A	こぎ深さ注油 30A	搬送 20A	ホーン 10A	
スペア30A		スペア10A		36660812700	

3666081270001

[運転席後カバー内]

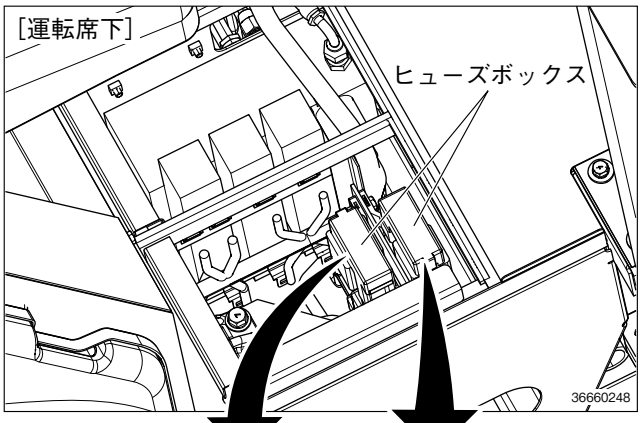


36660812500	スペア 15A		スペア 20A	
	バックホーン 10A	選別 20A	フラッシャ 15A	作業灯 20A	前照灯 15A

前照灯	バックランプ	作業灯	オーガモータ 30A	アタッチ 30A 36660812600
	フラッシャ左	フラッシャ右	排出・フラップ(OP) 20A	

36660245

[運転席下]



36660893700
キーSW 40A
メイン1電源 60A
メイン3電源 60A
バッテリ 100A

36660893800
予熱 60A
スタータ 30A
E／Gメイン 20A

36660247

❸ ヒューズの機能

・ヒューズが溶断した場合，下記の機能が作動不能となります。　　×：作動不能

No.	影響の出る機能 / ヒューズの種類［A］	電流容量	1 エンジン始動	2 エンジン停止	3 燃料の供給	4 予熱	5 充電	6 エンジン制御	7 計器類のモニタランプ	8 電子ブザー	9 前照灯	10 後退灯	11 作業灯	12 制動灯	13 尾灯	14 車幅灯	15 方向指示器	16 ホーン	17 バック警報	18 マルチステアリングレバー	19 ジャストディレクタ	20 方向制御	21 こぎ深さ制御	22 選別制御	23 水平制御	24 刈高さ制御	25 刈取・フィードチェン駆動	26 排出オーガ旋回	27 排出オーガ上下	28 こく粒排出	29 警報装置	30 集中注油	31 結束位置自動モータ	32 フラップ開閉	33 巻き込まれ防止
1	スタータSW	10	×							×																								
2	マイコン電源	10							×	×								×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×			×	
3	操向	10																		×	×	×			×	×			×						
4	リフト	10																								×									
5	水平	10																							×										
6	オーガ排出	10																											×						
7	非常時電源	10																																	
8	バッテリ	10									×	×	×		×	×	×	×	×				×	×			×	×		×		×	×	×	×
9	E/Gマイコン	10	×	×	×	×		×	×																										
10	ランプ・計器	10							×	×				×																					
11	前照灯	15									×																								
12	作業灯	20											×																						
13	アタッチ	30																														×			
14	排出・フラップ（OP）	20																											×				×		
15	オーガモータ	30																										×							
16	フラッシャ	15															×																		
17	選別	20																						×											
18	バックホーン	10										×							×																
19	こぎ深さ制御・注油	30																					×									×			
20	搬送	20																									×								
21	ホーン	10																×																	
22	コンポ解除	20																																	×
23	クラッチ	20																									×								
24	エンジンエアフローセンサ	10						×																											
25	バッテリ	100	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
26	メイン1	60																×					×				×					×			×
27	メイン3	60									×	×	×		×	×	×		×					×					×		×			×	×	
28	キーSW	40	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
29	予熱	60				×																													
30	スタータ	30	×																																
31	E/Gメイン	20	×	×	×			×																											

取扱いのポイント

●取換えしてもヒューズが切れるときは，「お買いあげ先」で点検を受けてください。

6. 電気配線の点検と掃除

⚠警告 火傷や火災防止のために

◆電気配線の点検時には，スタータスイッチを《切》位置にし，バッテリコードのアース側⊖端子を外してください。
◆電気配線およびバッテリ⊕コードが損傷していると，ショートや漏電で火災や損傷の原因となりますので，交換してください。
◆エンジン，バッテリ，電気配線回りのワラクズなどを取除いてください。火災の原因になることがあります。

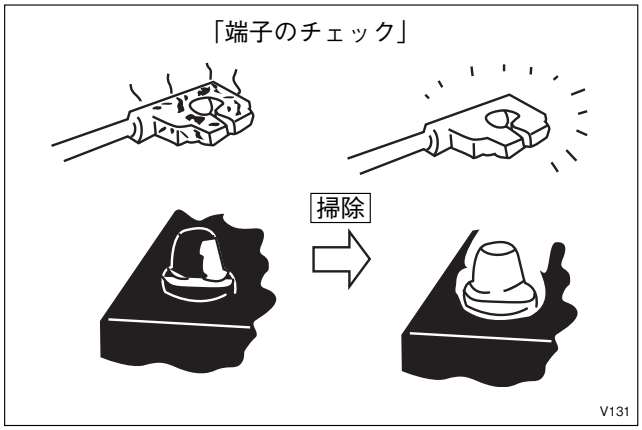
❶ 電気配線の点検

配線の端子部の「**ゆるみ**」や「**接続不良**」または配線が「**損傷**」していると，電気部品の性能を損なうだけでなく，「**ショート（短絡）**」することがあります。
傷んだ配線は交換，修理します。

❷ 電気配線の掃除

(1) エンジン，バッテリ，電気配線部に溜まっている「**ワラやゴミ**」などは，「**火災**」の原因になりますので取除きます。

(2) バッテリ端子にバッテリ液がかかると，端子が「**腐蝕**」することがあります。バッテリ端子が腐蝕すると，「**接触抵抗**」が大きくなり，電流が流れにくくなりますので，「**定期的**」に汚れや腐蝕を，サンドペーパやブラシで取除きます。
腐蝕防止のために，グリースを塗ります。



7. バッテリの点検と充電

この機械は出荷時に補水必要バッテリが装備されています。

バッテリの残存量の確認は111ページの❸を参照してください。

指定バッテリ……95D31R

⚠危険 火災や傷害事故防止のために

共通（補水不要なバッテリ，補水が必要なバッテリ）

◆ブースタケーブルを使用するときは，接続前にエンジンを停止してください。
◆ブースタケーブルは，100A以上の仕様のものを使用してください。
容量の小さいケーブルを使用すると，ケーブルが焼損し，火災の原因となることがあります。
◆バッテリを「着脱」したり充電器で「充電」するときは，エンジンを停止し，始動キーを抜取ってください。
◆⊕端子と⊖端子を間違えないようにしてください。逆接すると，電装品が焼損します。また，「スパーク（短絡）」による電気火花で負傷をすることがあります。
◆⊕端子が機械に接触しないようにしてください。
◆⊖端子を取付けたままで充電すると，発電器や電気配線を焼損することがあります。
◆バッテリを化学繊維製布などで掃除しないでください。静電気による引火爆発のおそれがあります。
◆バッテリ液が皮膚に付着したり目に入ったときは，直ちに水洗いをし，医師の手当を受けてください。
◆衣服についたときは，水洗いし，弱アルカリ性石けんで，硫酸分を洗い流してください。

補水不要なバッテリ

◆密封タイプなので，急速充電や開封は厳禁です。

補水が必要なバッテリ

◆バッテリは，充電するとき引火性の強い「水素ガス」を多量に発生し，「引火爆発」を起こすことがあります。「火気」に近づけたり，「スパーク」による電気火花が発生しないようにしてください。

◆「水素ガス」が滞留しないよう，風通しのよい場所で充電をしてください。
失明や火傷をすることがあります。

◆バッテリ液（電解液）は，希硫酸で劇毒物ですので，こぼさないようにしてください。

◆バッテリを充電するときは，液口栓をすべて取外してください。

◆バッテリの液量が，側面に表示されている「下限」(LOWER LEVEL）以下になった状態で使用したり充電すると，バッテリの破裂（爆発）の原因となることがあります。

◆充電のとき，「バッテリ液」が飛散することがありますので，眼鏡などで目を守り，衣服や皮膚に付着しないようにしてください。

⚠警告 火傷や火災防止のために

共通（補水不要なバッテリ，補水が必要なバッテリ）

◆バッテリを取外すときはバッテリ⊖コードを先にバッテリの⊖端子（アース側）から外し，次にバッテリ⊕コードを⊕端子（プラス側）から外してください。取付けるときはバッテリ⊕コードを先にバッテリ⊕端子（プラス側）に取付けてください。逆の手順で作業するとショートや漏電を起こす原因となります。

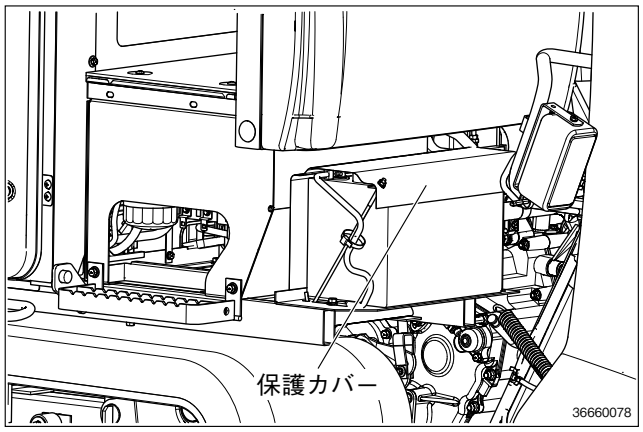
❶ バッテリ取付金具の点検

バッテリの取付けがゆるいと，バッテリが上下左右に動き，振動で電解槽やフタなどが摩耗したり，亀裂を起こすことがあります。

取付金具で，しっかり固定します。

取付金具などが腐蝕していれば取替えます。

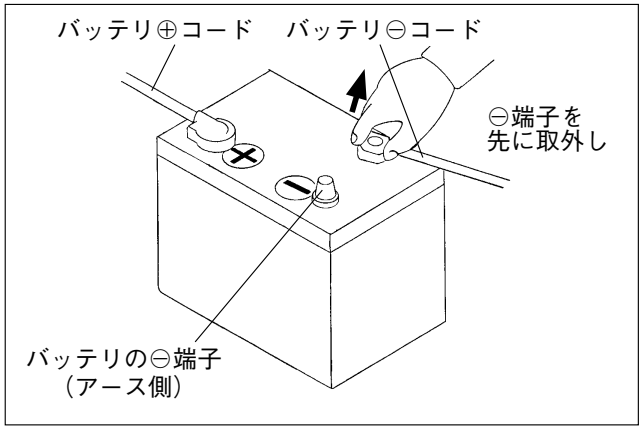
バッテリは車体左側，脱こく部の前側に保護カバーで覆われていますのでクランプを外しカバーを取外します。



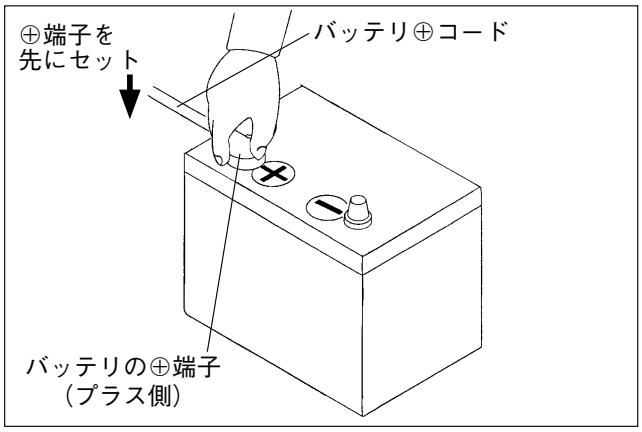
❷ バッテリ着脱時の注意

⑴ バッテリを「**着脱**」したり充電器で「**充電**」するろきは，エンジンを停止し，スタータスイッチから「**キー**」を抜取ります。

⑵ バッテリコードを端子から取外すときは「**⊖端子（アース側）**」を先に外します。



(3) バッテリコードを端子にセットするときは「**⊕端子（プラス側）**」を先に取付けます。



(4) バッテリ上面に貼ってある取扱いの注意ラベルをよく読んでください。

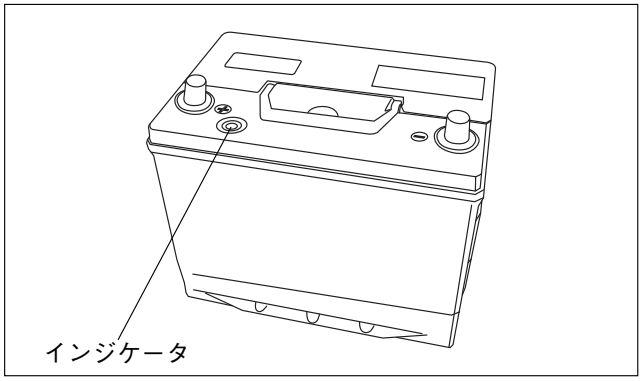
❸ バッテリの状態点検と，異常時の処理

(1) バッテリは上面にあるインジケータの色で充電状態を確認します。下表を参照し，処置を行なってください。

表示の色	充電状態	処　　置
緑	正常	使用可能
黒	放電している	補充電
透明	液減り	交換

取扱いのポイント

●インジケータは真上から確認してください。



(2) バッテリが破損して液もれが発生しているときは，交換してください。

取扱いのポイント

●液もれが発生すると車体が腐蝕する原因となります。

❹ 補充電・交換

⚠危険 死亡事故防止のために

◆バッテリを転倒させたり，衝撃を与えたりしないでください。電解液（希硫酸）のもれにより，失明や火傷をするおそれがあります。

◆バッテリを機体に取付けた状態での充電は避けてください。バッテリの引火爆発や機体損傷の原因となるおそれがあります。

◆バッテリを投げたり，落としたり，斜めにしたり，衝撃を与えたりしないでください。バッテリに入っている電解液（希硫酸）により，失明や火傷の原因となることがあります。

⚠警告 火傷や火災防止のために

◆バッテリは，以下の順序で取換えてください。順序を誤ると，ショートによるスパークで引火爆発するおそれがあります。
・取外し…（−）端子側（アース側）から外す。
・取付け…（＋）端子側を最初に接続する。

◆バッテリの取付け方向を間違えないでください。（＋）と（−）が逆に取付けられると接続ケーブルが損傷し，火災の原因となるおそれがあります。

取扱いのポイント

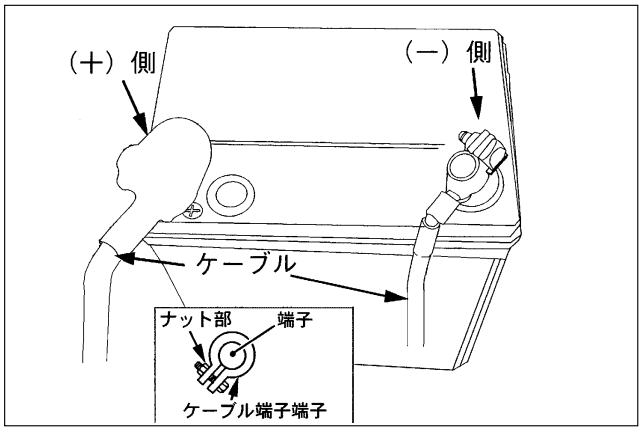
●バッテリが完全に放電し，スタータスイッチを《入》にしても充電・オイルランプが点灯しない状態になった場合は，バッテリを交換してください。他のバッテリでブースターケーブルを使用してエンジンを始動すると高電圧が発生し，電装品を破損することがあります。

次のような状態が発生したときは補充電を行ってください。また，補充電を行っても短期間で再発するときや状態が良くならないときは，バッテリの寿命ですので交換を行ってください。
・スタータモータの回転が，いつもより弱い。
・アクセルの加減で，ヘッドランプの明るさが変わる。
・ホーンの音が，いつもより低い。

1．バッテリを機体から取外します。

⑴ ナットをゆるめてフックを外します。

⑵ ケーブル端子のナットをゆるめて，端子からケーブル端子を取外します。取外すときは，必ず（−）側から取外してください。



2．補充電を行うときは，平坦な風通しの良い場所を選んで行います。また，充電は，バッテリの（＋）を充電器の（＋）側に，バッテリの（−）を充電器の（−）側にそれぞれ接続して，普通の充電方法で（急速充電は厳禁です）行ってください。

3．補充電が終わると取外したときと逆の手順で取付けます。

取扱いのポイント

- **バッテリを交換するとき，バッテリは下記指定のバッテリを使用してください。電圧や容量が違うと故障の原因となります。**
  バッテリ形式：95D31R
- **バッテリはエンジン始動用ですから，ほかの用途には使用しないでください。**
- **バッテリはきちんと取付けてください。傾いたりすると転倒や液もれの原因となります。**

補水が必要なバッテリの場合

（補水が不要なバッテリの説明と異なる部分の説明です。）

❺ 点検・補水

⚠危険 傷害事故防止のために

◆バッテリには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリの２種類があります。補水が必要なバッテリについては，以下のことを守ってください。

◆バッテリは液面がLOWER(最低液面線)以下になったままで使用や充電をしないでください。
LOWER以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。
すぐにUPPER LEVELとLOWER LEVELの間に補水してください。

◆バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。電解液（希硫酸）によって火傷することがあります。

◆充電のとき，「バッテリ液」が飛散することがあるので，保護眼鏡などで目を守り，ゴム手袋を着用ください。

◆バッテリ液が皮膚に付着したり目に入ったときは，直ちに水洗いをし，医師の手当を受けてください。

◆衣服についたときは水洗いし，弱アルカリ性石けんで，硫酸分を洗い流してください。

バッテリの状態を点検し，異常があれば処置します。

1．残存容量の確認（補水が必要なバッテリ）

⑴ バッテリ液の「**比重**」を測定する方法と，「**バッテリテスタ**」で測定する方法があります。

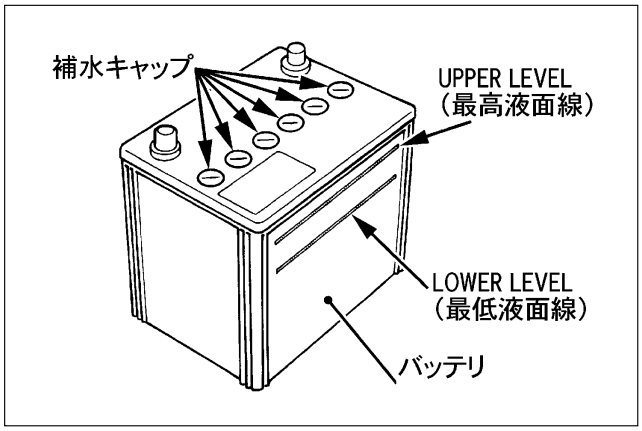
⑵ 残存容量が低下していれば，ただちに補充電をします。

⑶ バッテリ液の比重が「1.220（20℃）」以下であれば補充電をします。

比重（20℃）	放電電気量（%）	残存容量（%）
1.280	0	100
1.240	25	75
1.200	50	50
1.160	75	25
1.120	100	0

⑷ バッテリテスタで測定するときは，バッテリテスタの取扱説明書に従って測定と補充電を行ってください。

2．バッテリ液の量を点検し，「UPPER LEVEL」（最高液面線）と「LOWER LEVEL」（最低液面線）の間の液量があるか確認し，不足しているときは補水します。



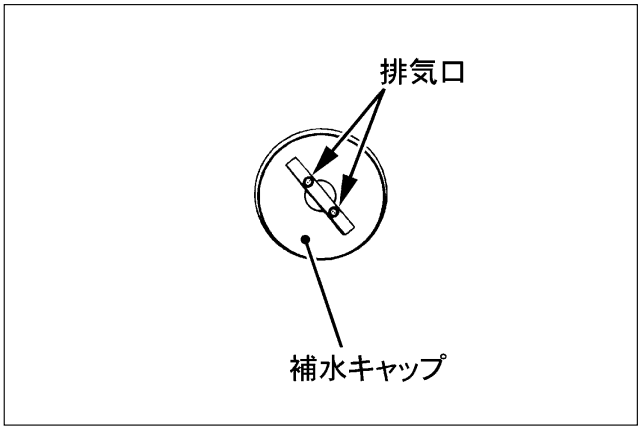
取扱いのポイント

- **バッテリ液が不足している極板が空気中に露出すると，バッテリ寿命は著しく短くなります。**
- **バッテリ液を補充する場合は，必ず精製水を補充してください。希硫酸・井戸水・泥水などは絶対に入れないでください。**
- **バッテリに精製水を入れ過ぎないでください。液もれして機体を傷めるおそれがあります。**

3．補水キャップの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除してください。

取扱いのポイント

- **排気口をふさぎますと，バッテリ内部で発生するガスよりバッテリの内圧が上がり，破損する原因となります。**



❻ 補充電

⚠危険 傷害事故防止のために

◆補充電中は補水キャップを全て取外しますので火は近づけないでください。
引火爆発するおそれがあります。

1．補充電を行うときは，平坦で風通しの良い場所を選んで補水キャップを全て取外した状態で行います。

　また，充電は，バッテリの（+）を充電器の（+）側に，バッテリの（−）を充電器の（−）側にそれぞれ接続して，普通の充電方法で行ってください。

取扱いのポイント

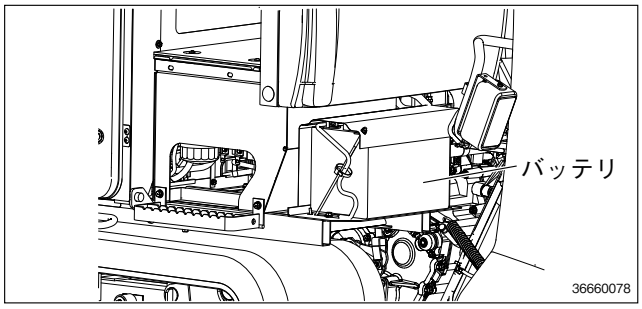
- **急速充電を行ったときは，作業後必ず補充電を行ってください。**

2．補充電が終わったら補水キャップを全て取付けてください。

❼ ブースタケーブルによるエンジン始動

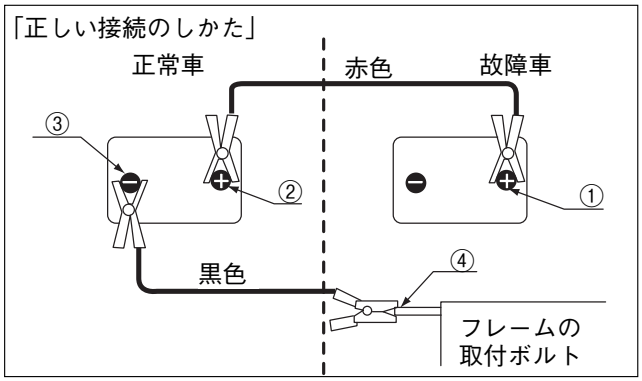
バッテリが放電し，エンジンが始動できないとき，他車(12V仕様車)の良好なバッテリを電源として始動する場合，ブースタケーブルを使用します。

このときは，次の手順を守って行います。



「ブースタケーブルの接続のしかた」

⑴ 正常車のエンジンを停止して，①～④の順序でブースタケーブルを確実に接続します。

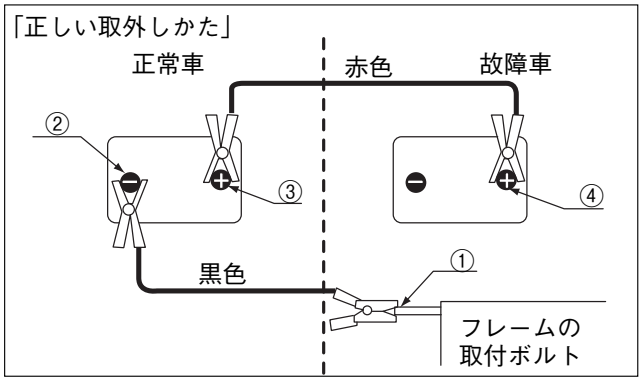


接続順序④は，ブースタケーブル（黒色）のクリップを機械のフレームの取付ボルトに接続します。

⑵ 放電バッテリ搭載車のエンジンを始動します。エンジンがかかりにくいときには，正常車のエンジンをスタートしてから，放電バッテリ搭載車のエンジンをスタートさせます。

「ブースタケーブルの取外し」

・エンジン始動後のブースタケーブルの取外しは，**接続の場合と逆の順序**で行います。



❽ バッテリ単体での充電

共通(補水不要なバッテリ，補水が必要なバッテリ)

⑴ 充電作業にとりかかる前にエンジンを停止し，スタータスイッチ（始動キー）を抜取ります。

⑵ 機体からバッテリを取外します。

⑶ **「水素ガス」**が滞留しないよう，風通しのよい場所で充電をします。

⑷ **「火気」**を近づけたり**「スパーク（短絡)」**による電気火花が発生しないようにします。

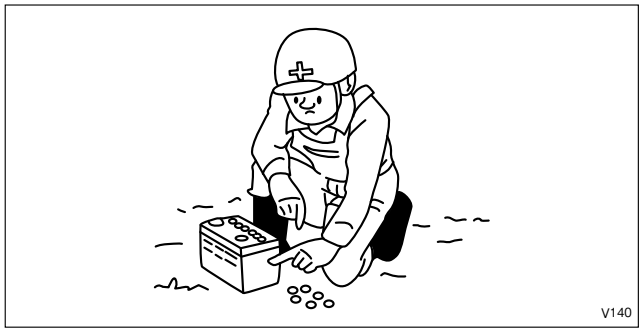
⑸ 充電器のクリップを着脱するときは，充電器のスイッチを**「切」**にし，⊕端子（赤色)・⊖端子（黒色）を正しく取付けます。

補水不要なバッテリ

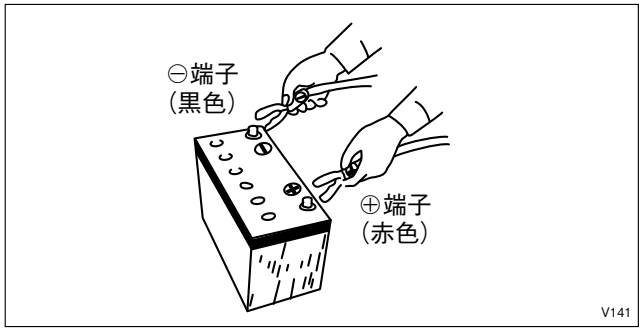
⑴ 急速充電厳禁。

補水が必要なバッテリ

⑴ 充電前に**「液口栓」**をすべて取外します。



⑵ 急速充電はできるだけ避け，普通充電をし，液温が**「45℃」**を超えないようにします。



取扱いのポイント

- **各端子は，「ゆるみ」がないように締付けてください。**
- **取付けのとき，バッテリ端子部は布で油などを拭き取っておきます。取付け後バッテリ端子部には，腐蝕防止のためグリースを塗布してください。**

●バッテリ⊕端子のゴムブーツを，取付けておきます。
●厳寒時は，機械を格納するときに，バッテリを取外して暖かい所に保管してください。
●亀裂や変形のあるバッテリは，新品と取替えてください。汚れていれば，清水で洗浄してください。洗浄後は，水分を拭き取ってください。

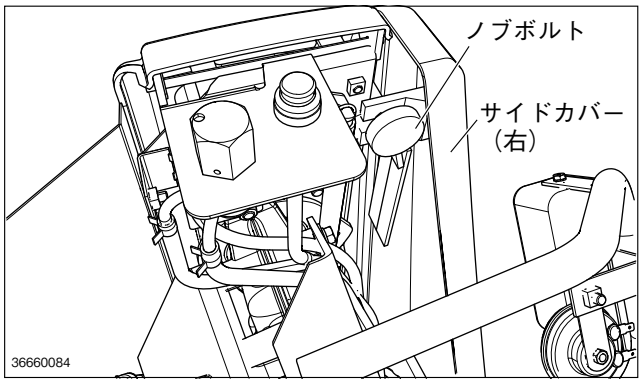
8．刈取部サイドカバー右・左の外しかた

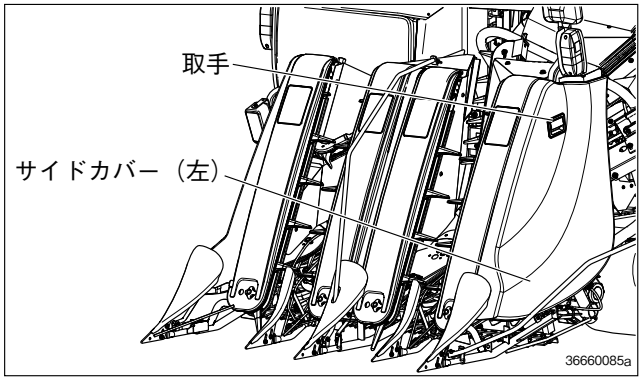
刈取部を地面に接地させて行なってください。

⚠注意 傷害事故防止のために

◆取外したカバーは作業後取付けてください。

❶ 刈取部サイドカバーの取手を引いて取外します。





❷ 掃除などの作業後，刈取部サイドカバーを取付けてください。

取扱いのポイント

●刈取部サイドカバーを取付けるとき，爪がカバーに食い込まないようにしてください。

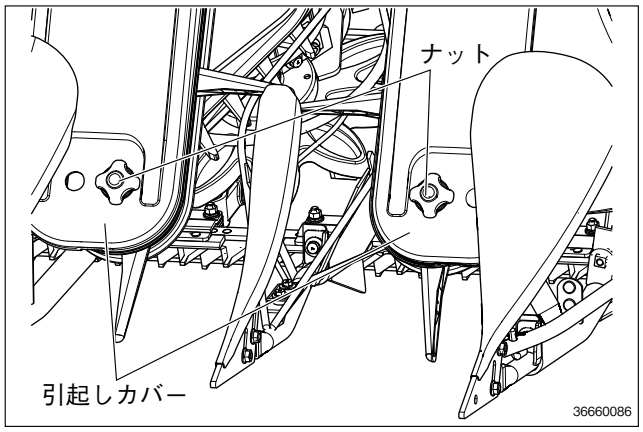
9．引起しカバーの外しかた

刈取部を地面に接地させて行なってください。

⚠注意 傷害事故防止のために

◆取外したカバーは作業後取付けてください。

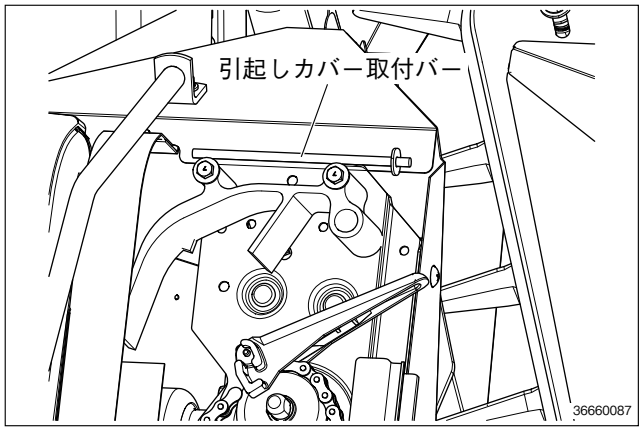
❶ 引起しカバー下側の取付ナットを外します。引起しカバーを少し持ち上げて取外します。



❷ 掃除などの作業後，引起しカバーを取付けて取付ボルトで締付けます。

取扱いのポイント

●引起しカバーを取付けるとき，上部の取付バーに引掛けてください。



10. グレンタンクの回動のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆グレンタンクを回動するときは，平坦な場所で行い，各クラッチを切り，エンジンを停止して，各部の回転が止まってから行なってください。

◆グレンタンクを回動したら，ストッパをかけて，作業を行なってください。

⚠注意 傷害事故防止のために

◆作業後カバーを取付けてください。

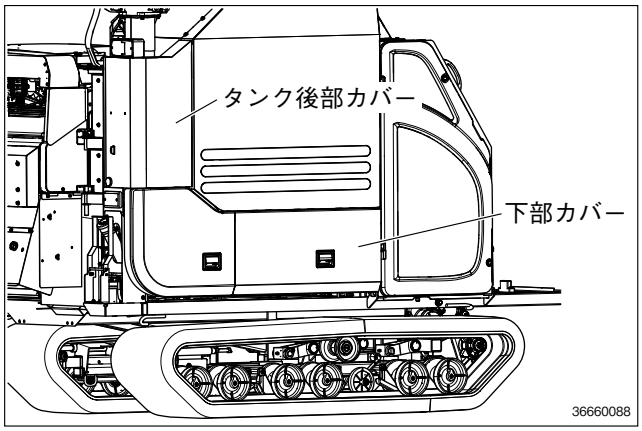
取扱いのポイント

●グレンタンク内にこく粒が入っていないことを，確認してから行います。
タンク内にこく粒が入った状態で回動させると，故障の原因となります。

エンジンおよびベルトの点検・整備や脱こく部の掃除・点検をするときは，グレンタンクを回動して，ストッパをかけて行います。

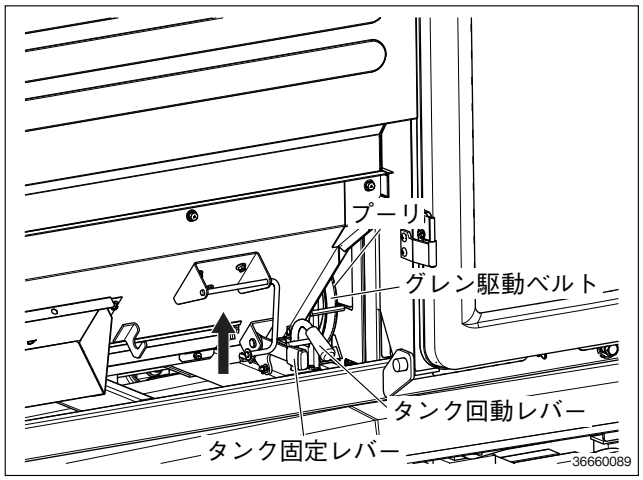
❶ タンク下部カバーを取外します。

❷ タンク後部のカバーを開きます。

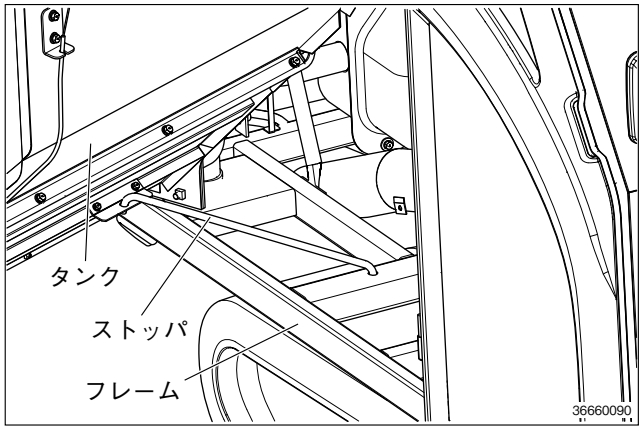


❸ グレン駆動ベルトを，プーリより外します。

❹ タンク回動レバーとタンク固定レバーを持ち上げながら，手前に引きタンクを回動します。



❺ タンクのストッパをフレームにかけます。



❻ 収納は逆の手順で行います。

❼ タンクを収納する途中で，タンク回動レバーのピンがフレームに当たり，回動しなくなります。この場合は，タンク回動レバーを持ち上げながら，タンク回動レバーのピンがフレームの穴に入るまで，タンクを押し込みます。

取扱いのポイント

●収納後は，ベルトの掛け方が間違っていないか，再度確認してください。
●タンク回動は，タンク回動レバー，タンク固定レバーの順で解除して操作をしてください。
●タンクの回動は，タンク回動レバーを持って行なってください。

11．こぎ胴部の開閉のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆こぎ胴部を開くときは，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。

◆こぎ胴部を開くときは，グリップでこぎ胴を持ち上げ，ゆっくりと手を離しロックが掛かったことを確認してください。

◆《自動ロック解除レバー》を操作するときは，グリップまたはシリンダカバー端部を支えて行なってください。このとき，回動範囲内には，手や体を入れないでください。

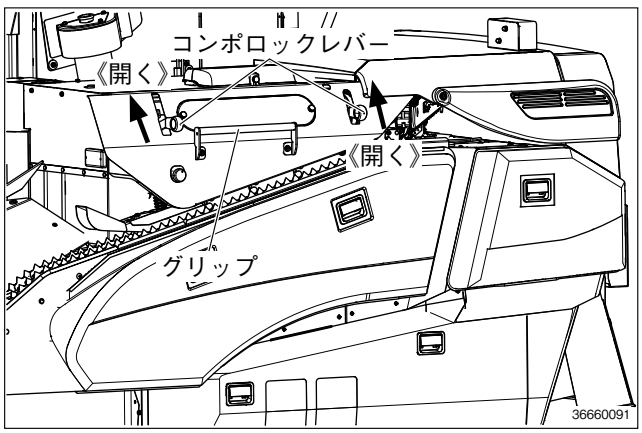
◆サイドステップは２人以上乗らないでください。また足元がすべらないために，ぬれたり，泥のついた靴では乗らないでください。

❶ サイドステップを引出し，乗った状態でこぎ胴の開閉を行うと容易に行えます。

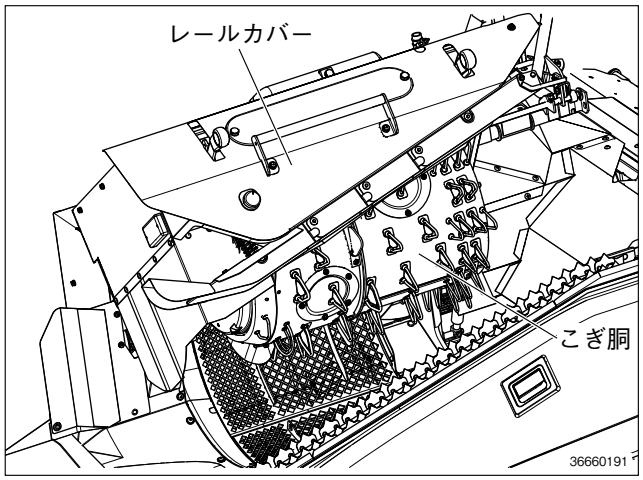
❷ こぎ胴部を開くときは

⑴ ２本のコンポロックレバーを左右同時に《**開く**》の方向に上げ，固定を解除します。(左側のレバー操作のみで右側も自動的に解除されますが，できるだけ２本のレバーで操作してください)

⑵ グリップでこぎ胴を持ち上げ，ゆっくりと手を離しロックが掛かったことを確認します。

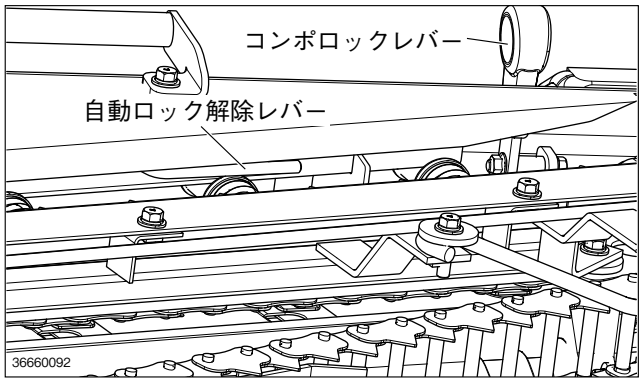


［こぎ胴部開（コンポアップ）状態］

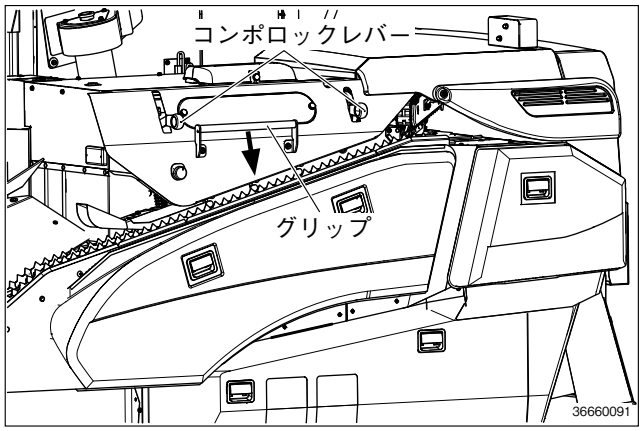


❸ こぎ胴部を閉めるときは

⑴ レールカバーの端部を持ってこぎ胴を一杯持ち上げ，自動ロック解除レバーを（ロックが解除される位置）押上げたままこぎ胴を下げます。

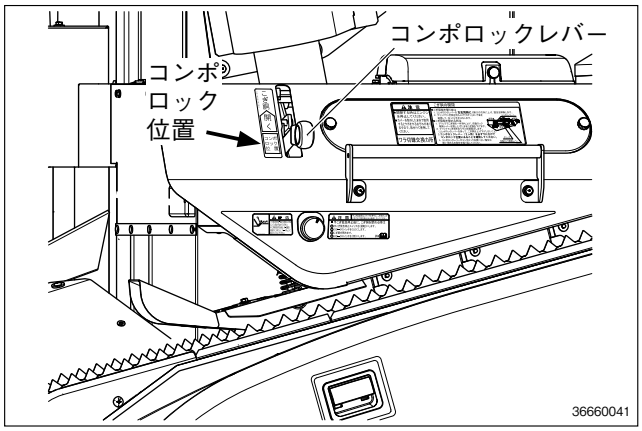


⑵ グリップでこぎ胴をおろすと自動固定します。（コンポロックレバーを持って，こぎ胴を上げ下げしないでください。）



⑶ コンポロックレバーがコンポロック位置にあることを確認します。

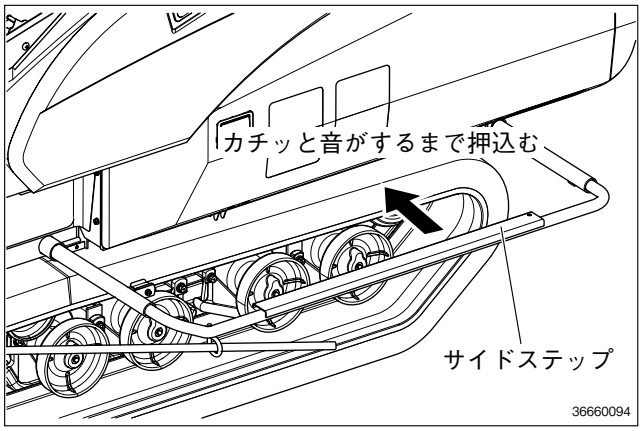
最後まで下がっていない場合は，コンポロック位置までコンポロックレバー（２箇所）を下げます。



取扱いのポイント

●手こぎ緊急停止スイッチを使用したときは，コンポロックの自動解除機能が働きますので，こぎ胴を降ろしてもロックできないことがあります。64ページを参照し，手こぎ緊急停止スイッチを運転に戻します。

❹ サイドステップを使用した場合は収納します。



12. カッタの開閉のしかた

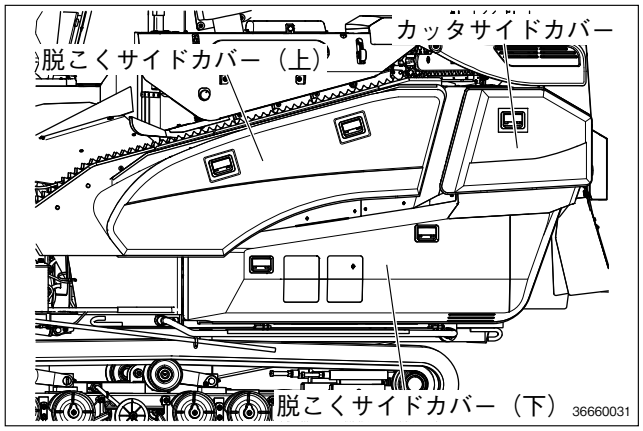
⚠注意 傷害事故防止のために

◆カッタを開閉するときは，機械を平坦な場所に置いて駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止し，各部の動きが止まってから行なってください。

◆カッタを開いて点検作業などをするときは，ストッパをかけてスナップピンで固定してください。
ストッパをロック状態にしないと，カッタが回動して傷害事故を起こすことがあります。

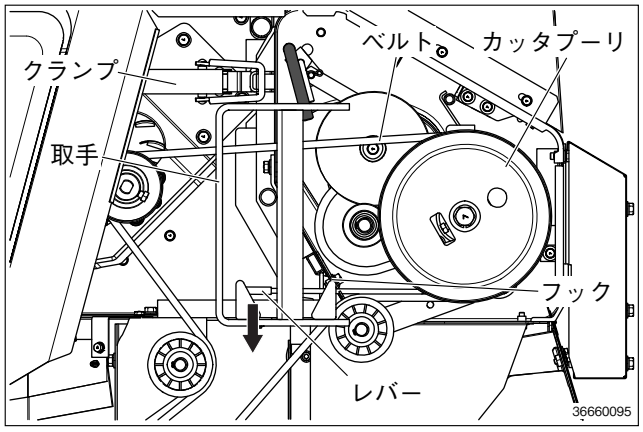
◆カッタを開いたときはカッタ刃に触れないようにしてください。

❶ 脱こくサイドカバー（上）・(下)およびカッタサイドカバーを取外します。



❷ レバーをフックより外し，ベルトの張りを解除します。

❸ ベルトをカッタプーリより外します。



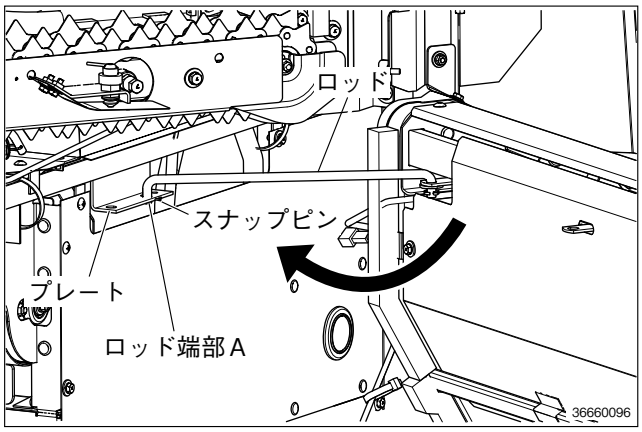
❹ 外したレバーは元のフックに引っ掛けておきます。

❺ クランプを手前に引き，ロックを解除します。

❻ 取手を持ってカッタを少し上方へ持ち上げながら，後方へ回動します。

❼ カッタのストッパ先端についているスナップピンを抜き，ストッパを上方へ持ち上げ，矢印の方向へ回動させます。

❽ ストッパをブラケットの穴に入れ，スナップピンを差込み固定（ロック）状態にします。



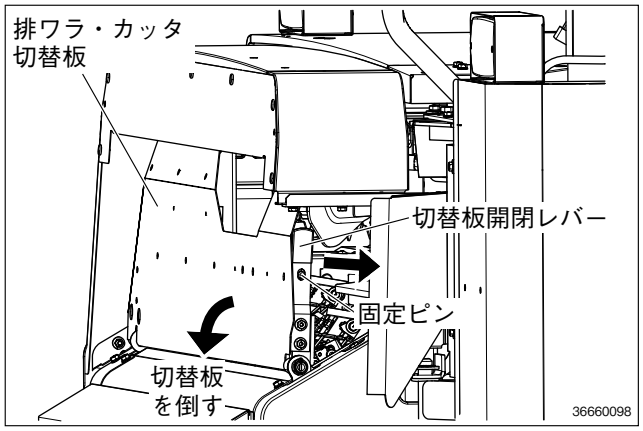
❾ カッタを閉じるときは，逆の手順で行います。

13. 切替板の開閉のしかた

⚠危険 傷害事故防止のために

◆切替板開閉レバーを操作するときは必ずエンジンを停止してください。

カッタ作業のとき切替板開閉レバーを手前に引いて固定ピンから外し，切替板を倒すことができます。カッタ刃部，排ワラチェン終端部を後面から確認できます。



取扱いのポイント

●切替板が開いていると，排ワラランプが点灯しています。エンジン始動はできますが，パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《脱こく》《入》にするとエンジンが停止しますので必ず切替板は作業後に閉じてください。

14. 脱こく部の掃除のしかた

脱こく部を掃除するときは，ワラクズや残粒を落すために上から下へと作業を行なうことをお奨めします。

1．グレンタンク部の掃除
2．脱こくこぎ室の掃除
3．こぎ胴ギヤケース部の掃除
4．ワラ切カマの掃除
5．脱こく受網の掃除
6．第２こぎ室の掃除
7．排じん室の掃除
8．揺動流板の掃除
9．揚こくラセン部の掃除
10．２番ラセン部の掃除
11．１番ラセン底板・２番ラセン底板の掃除

15. 脱こく内部の掃除

⚠警告 傷害事故防止のために

◆各カバー・蓋を開き，脱こく部の各部を掃除するときは，エンジンを停止して，各部の回転が止まってから行なってください。
◆２人以上で作業する場合，特に回転部を動かすときは，互いに声をかけあい，安全を確認してから行なってください。
◆こぎ胴部を開くときは，グリップでこぎ胴を持ち上げ，ゆっくりと手を離しロックが掛かったことを確認してください。
◆《自動ロック解除レバー》を操作するときは，グリップまたはシリンダカバー端部を支えて行ってください。このときは，回動範囲内には手や体を入れないでください。
◆サイドステップは２人以上乗らないでください。また足元がすべらないために，ぬれたり，泥のついた靴では乗らないでください。
◆マフラカバーに触れないでください。

⚠注意 傷害事故防止のために

◆取外したカバー類は，作業後取付けてください。

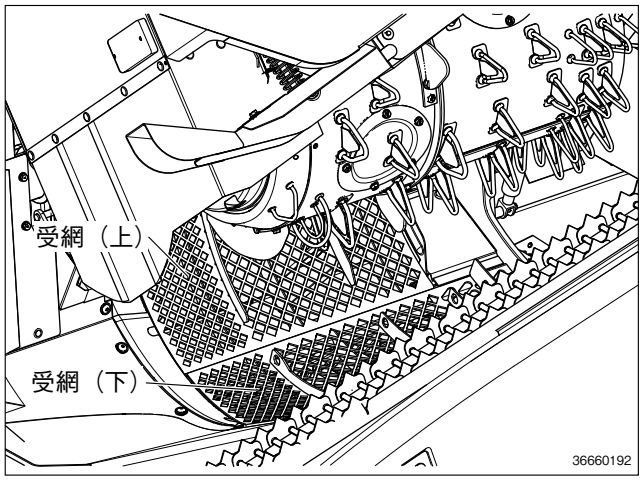
品種の混合や稲・麦の混合を防ぐため，また長期格納の際の脱こく内部のワラクズや残粒を取除くために，各掃除口を開けてきれいに掃除します。

取扱いのポイント

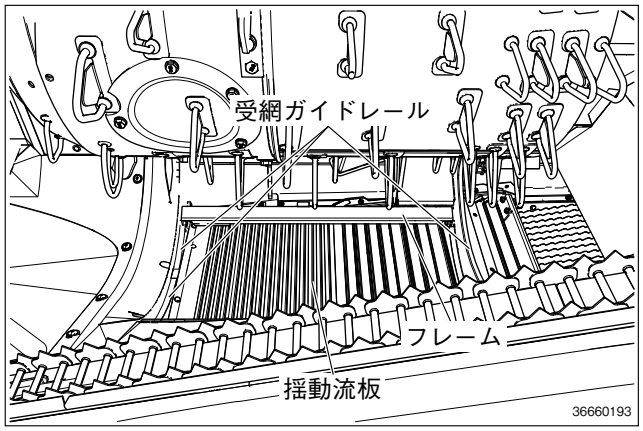
●脱こく内部などの掃除にはブロアを使用すると容易にできます。

❶ 「脱こく受網（上)･(下）の着脱」

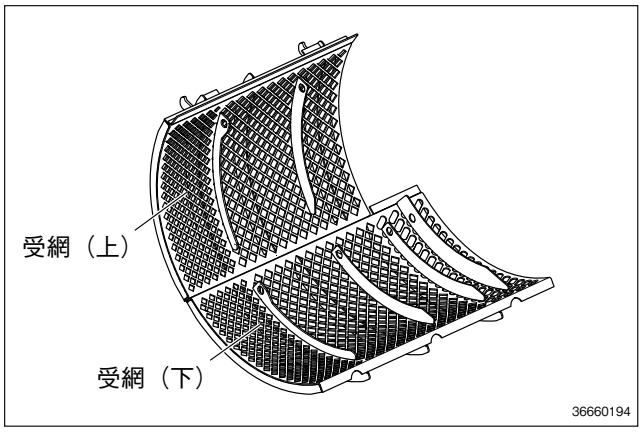
⑴ こぎ胴部をいっぱい持ち上げると受網を固定しているロック装置は自動的に解除されます。
⑵ 受網（上）を外します。
⑶ 受網（下）を外します。



⑷ 受網（上）・(下）を取付けるときは受網ガイドレール（４箇所）のクズを取除きます。



(5) 脱こく受網の取付けは逆の手順で取付けます。



(6) こぎ胴を閉めると受網は自動的にロックされますが，受網が完全に入っていないときはロックできませんので受網が完全に入っていることを確認します。

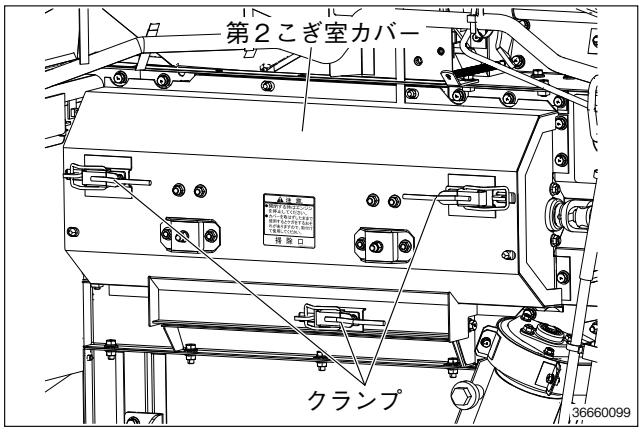
取扱いのポイント

- **長期格納前には，受網（上），（下）は取外して掃除をしてください。**
- **受網ガイドレール（4箇所），フレームにこく粒やクズがたまったまま受網をセットするとこぎ歯に当たる場合がありますので掃除してください。**

❷ 第2こぎ室の掃除

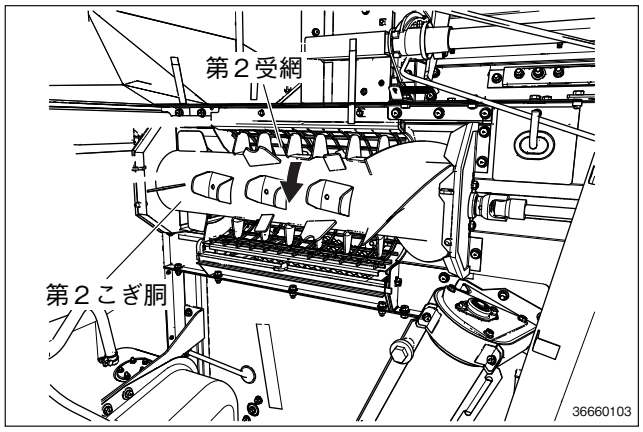
(1) グレンタンクを回動し，ストッパを掛けます。（116ページ参照）

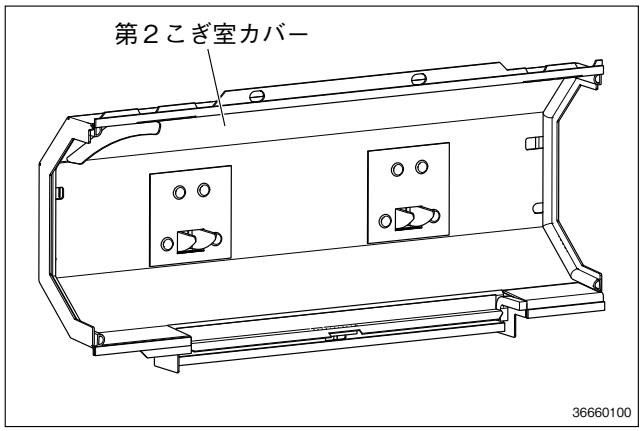
(2) 3個のクランプを外し，第2こぎ室カバーを取外し，内部に残ったクズを掃除します。

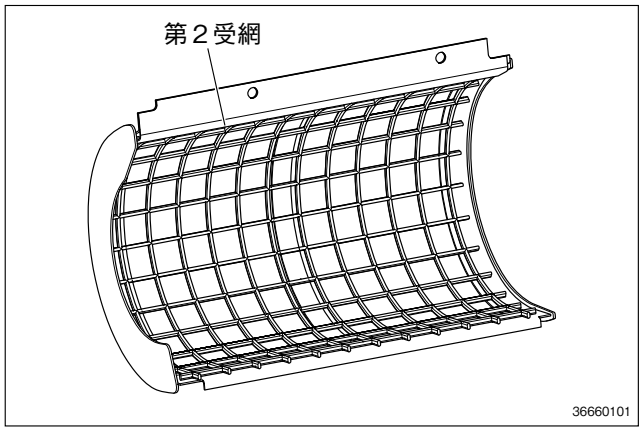


(3) 第2受網は，受網の上側から第2こぎ胴を回すようにして，取外します。

(4) 取付けは，逆の手順で取付けます。







(5) グレンタンクを閉じます。（116ページ参照）

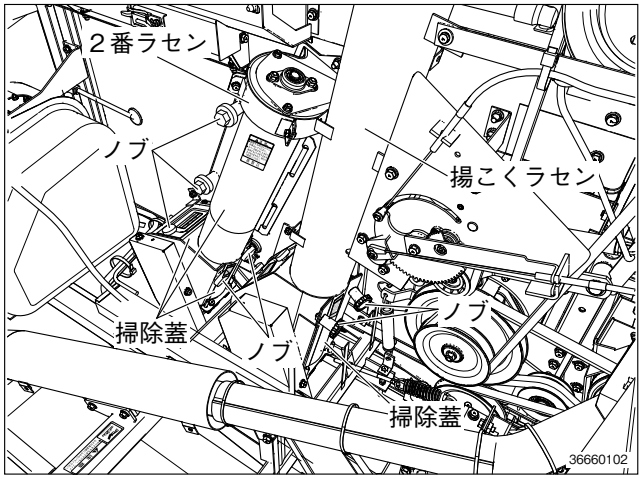
取扱いのポイント

- **長期格納前には，第2受網を取外して掃除をしてください。**

❸ 揚こくラセン部の掃除

⑴ グレンタンクを回動し，ストッパを掛けて行います。(116ページ参照)

⑵ ノブを外し，掃除蓋を取外し，内部にたまっているこく粒を掃除し，掃除蓋をノブで取付けます。



❹ ２番ラセン部の掃除

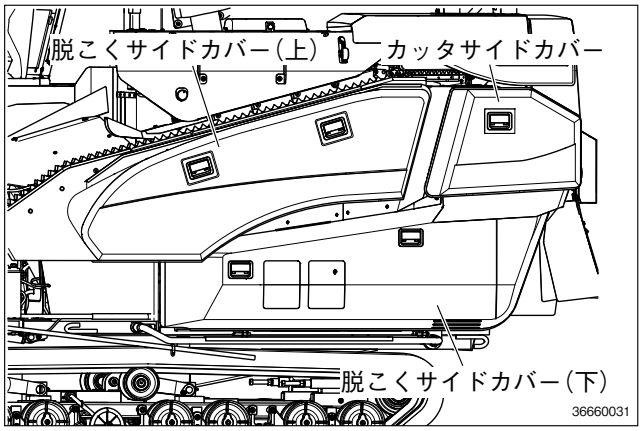
掃除は４箇所からできます。

掃除蓋を取外し，内部に溜まっているこく粒を掃除し，掃除蓋をノブで取付けます。

グレンタンクを閉じます。(116ページ参照)

❺ １番ラセン底板，２番ラセン底板の掃除

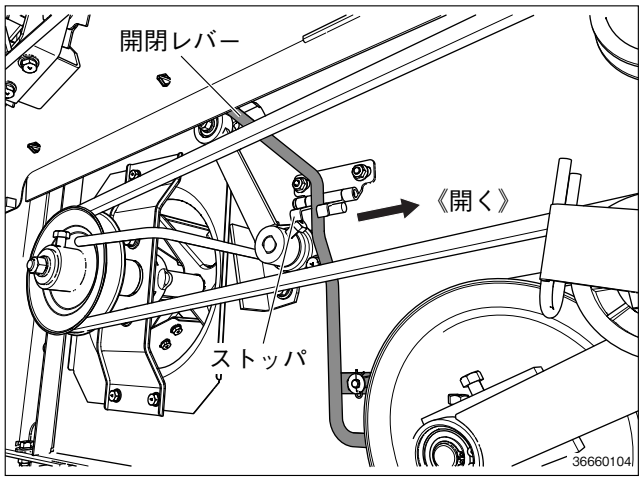
⑴ 脱こくサイドカバー（上)，(下)，カッタサイドカバーを取外します。



⑵ 開閉レバーのストッパを外し，レバーを《開く》方向に操作すると底板が開き，機械の後方下側から掃除ができます。

・ストッパは開閉レバーを右手で支えてから外します。

⑶ 脱こくサイドカバー(上)，(下)，カッタサイドカバーを取付けます。



取扱いのポイント

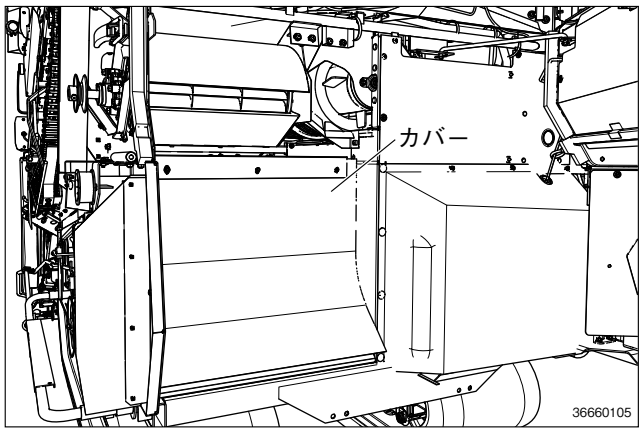
●掃除後は，底板の合せ面が確実に閉じていることを確認してください。開いていると，こく粒が漏れます。

❻ 排じん室の掃除

⑴ 脱こくサイドカバー(上)，(下)，カッタサイドカバーを取外します。

⑵ カッタを開きストッパをかけ，スナップピンで固定します。(118～119ページ参照)

⑶ カバーをめくり排じん室のワラクズなどを掃除します。



⑷ 作業後ファンカバー，カッタを閉じ脱こくサイドカバー（上)，(下)，カッタサイドカバーを取付けます。

❼ ワラ切カマの掃除

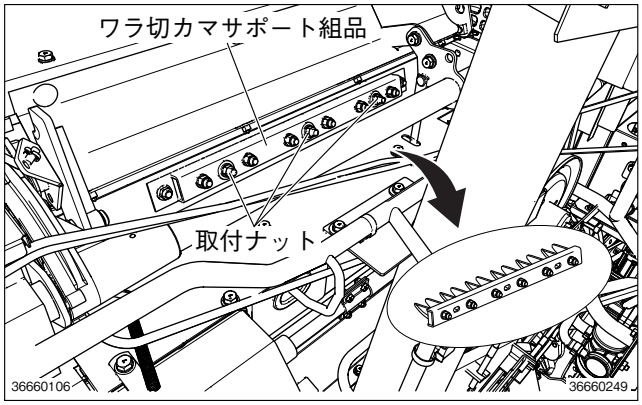
⚠注意 傷害事故防止のために

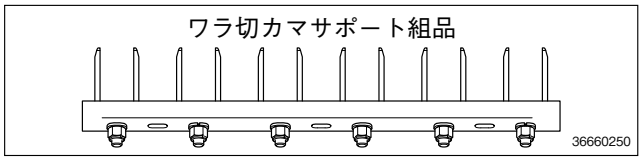
◆ワラ切カマの脱着作業は手袋をして行なってください。

◆刃部に手をかけないでください。

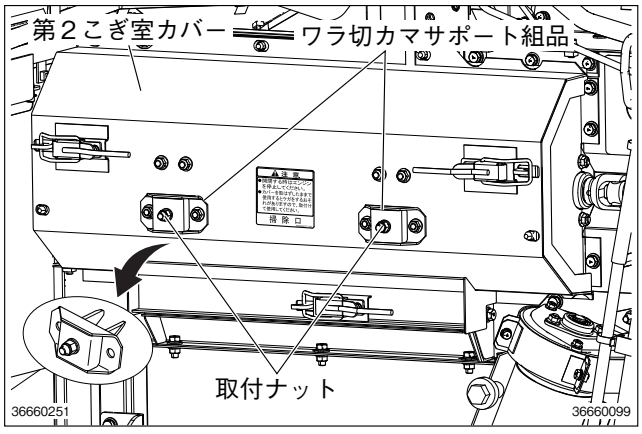
３箇所のワラ切カマサポート組品を取外し，ワラ切カマに付着しているワラクズなどを掃除します。(ワラ切カマの取外しは138～139ページを参照)

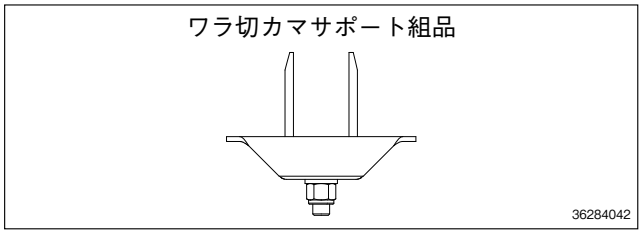
(1) １箇所は脱こく右側の天板とグレンタンク部の境界部にあります。(運転席から後を見ると，見付けることができます。)



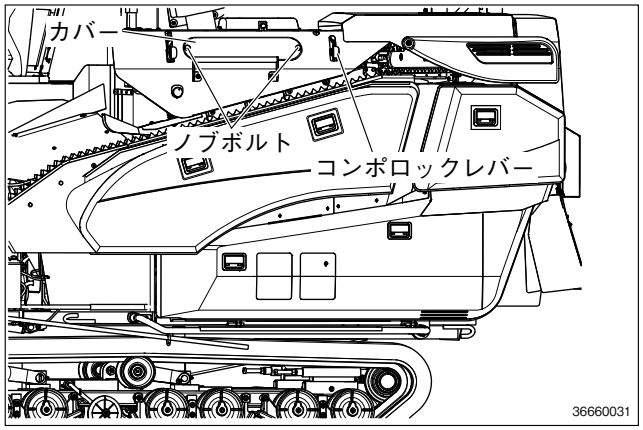


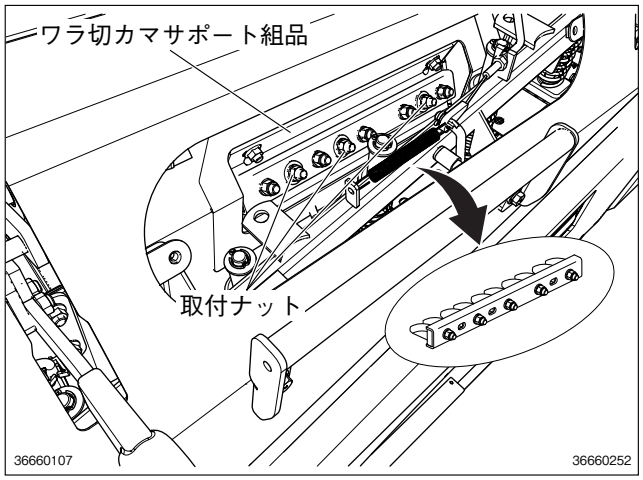
(2) ２箇所目は第２こぎ室カバーにあります。

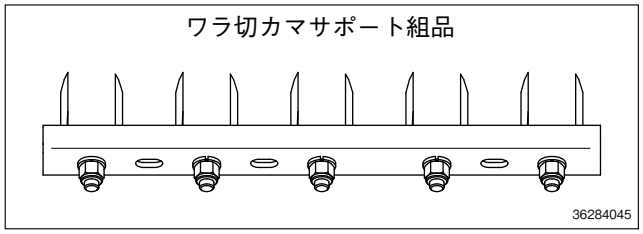




(3) ３箇所目は，脱こく左側のコンポロックレバー近くのノブボルト（２個）を外してカバーを外すと見ることができます。







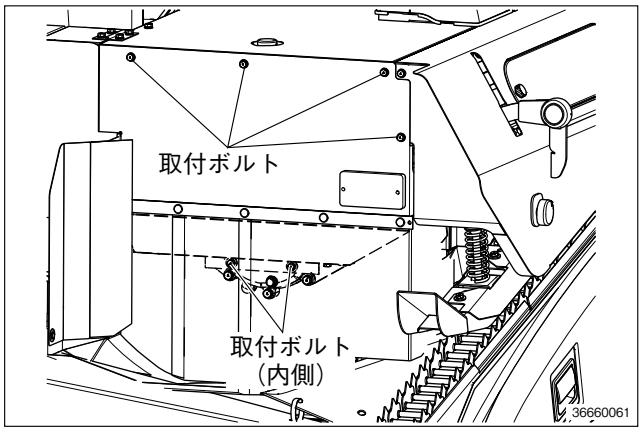
(4) グレンタンクを閉じ，カバー類を取付けます。

取扱いのポイント

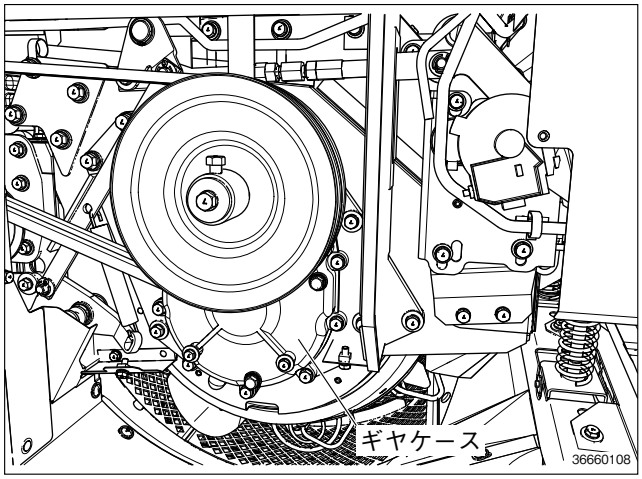
●組付け時はワラ切カマの組付け方向をまちがえないでください。

❽ こぎ胴ギヤケース部の掃除

⑴ 入口カバーを外します。



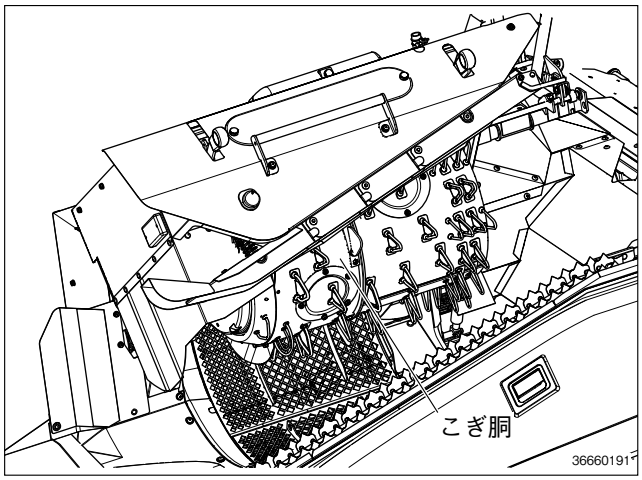
⑵ カバー内の掃除とギヤケース下部の掃除を行いカバー類を取付けます。



❾ 脱こくこぎ室の掃除

こぎ胴を開きます。

こぎ室を掃除し，こぎ胴を閉じます。



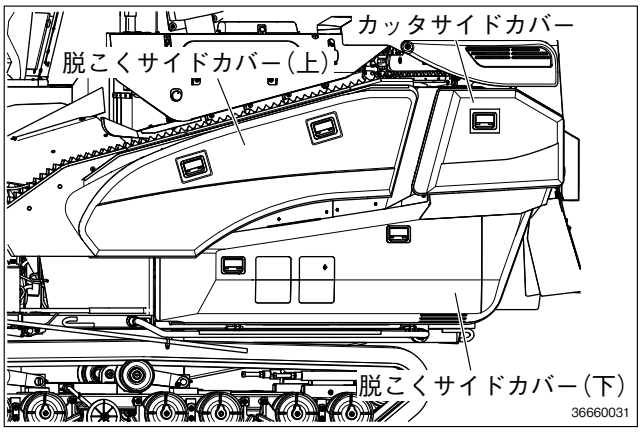
16. 揺動流板の掃除

⚠注意 傷害事故防止のために

◆揺動流板の脱着作業は，２人作業で合図を掛け合って行ってください。

❶ 揺動流板の取外しかた

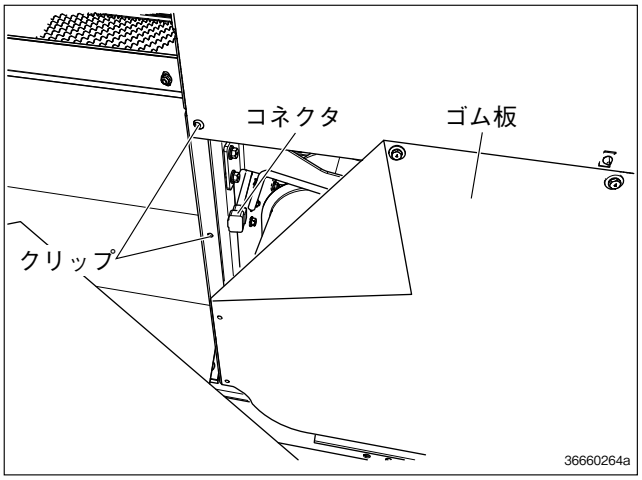
⑴ 脱こくサイドカバー（上，下）・カッタサイドカバーを外します。



⑵ カッタをいっぱい開きストッパをかけ，スナップピンで固定します。(118～119ページ参照)

⑶ 揺動流板を取外します。

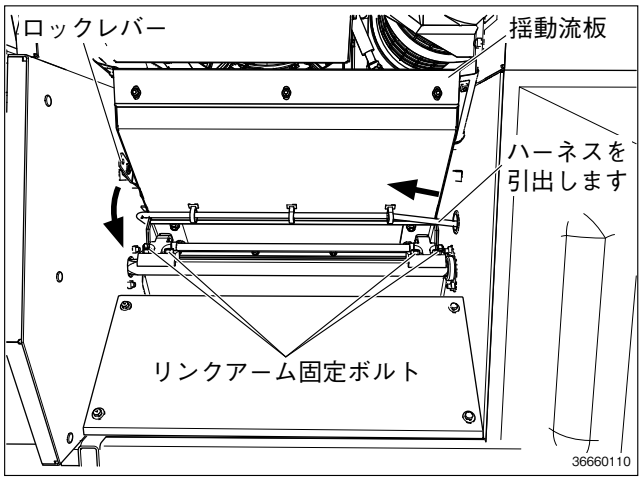
① ゴム板を取付けているクリップを外し，ゴム板をめくり配線のコネクタを外します。



② ハーネスを揺動流板側へ引出します。

③ ２番ラセンプーリを手で回して，揺動流板を後方いっぱいに引き出した後，揺動流板後部のリンクアーム固定ボルト左右各２本を外します。

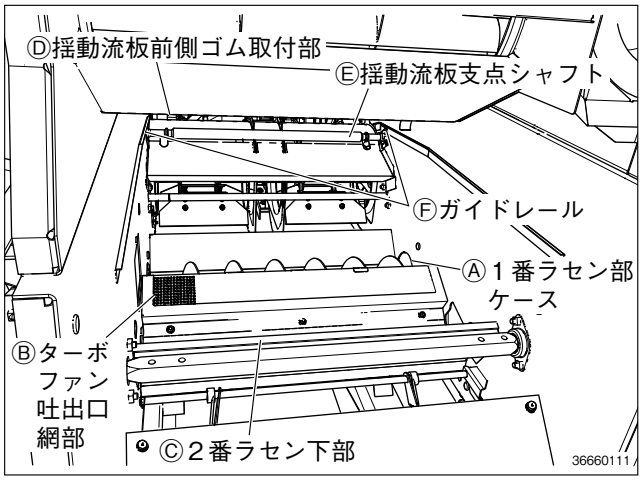
④　揺動流板後方左側のロックレバーを矢印の方向へ回動させます。

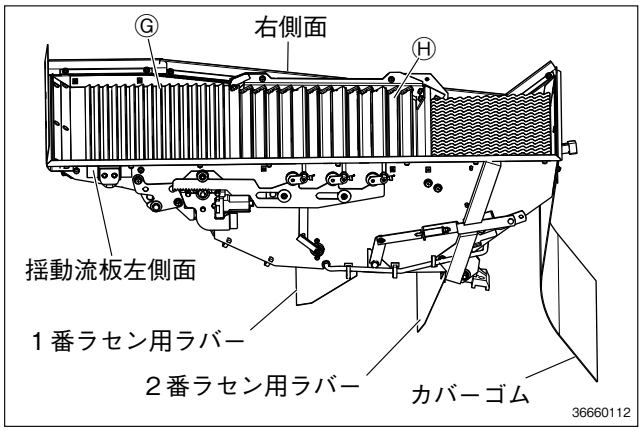


⑤　揺動流板の左右を支えながら少し浮かせた状態で後方へゆっくりと抜出します。**（２人作業）**

❷　揺動流板の掃除のしかた

揺動流板を外した後の脱こく内部Ⓐ～Ⓕと揺動流板上面および左右側面を掃除します。



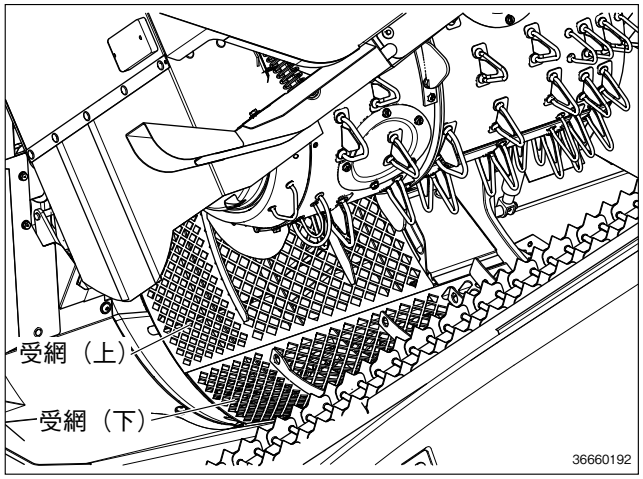


取扱いのポイント

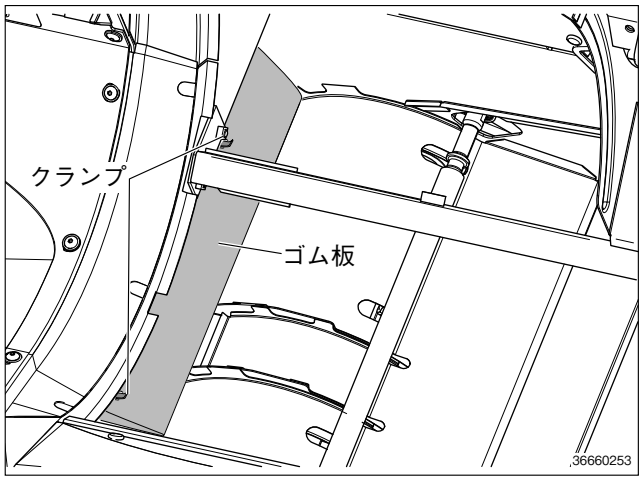
●揺動流板のⒼ～Ⓗ部は，撥水塗装が施されています。こまめに掃除することで撥水効果を持続することができます。鋭利なものなどで掃除すると撥水塗装が剥離します。毛先のやわらかいブラシなどで掃除します。
尚，撥水塗料が全体的にはがれた場合が交換の目安となります。

❸　揺動流板の取付けかた

⑴　こぎ胴部を開いた状態にし，受網（上）（下）を外します。

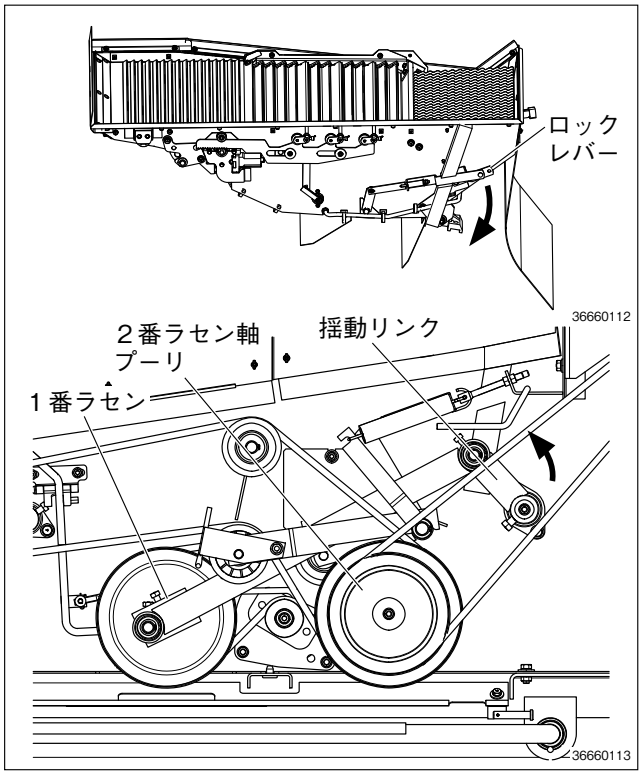


⑵　揺動流板先端のゴム板を持上げてゴム板の穴にクランプを通して固定します。（揺動流板のかみ込みを防ぐため）

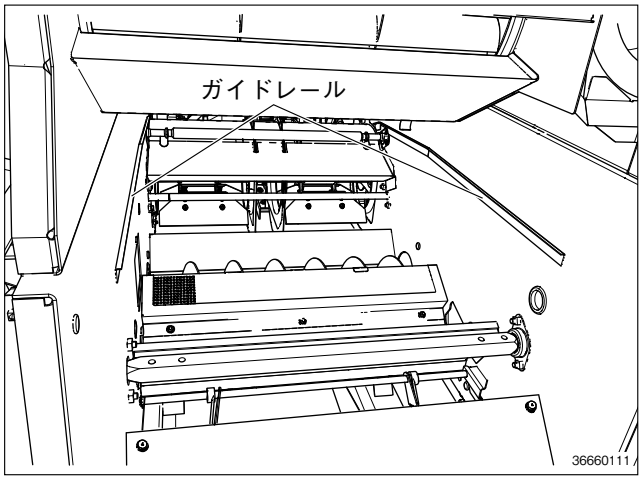


⑶ 揺動流板を組付けます。

① 揺動流板後方左側のロックレバーを「解除」位置にし，揺動リンクが矢印方向になるよう２番ラセン軸のプーリを回します。



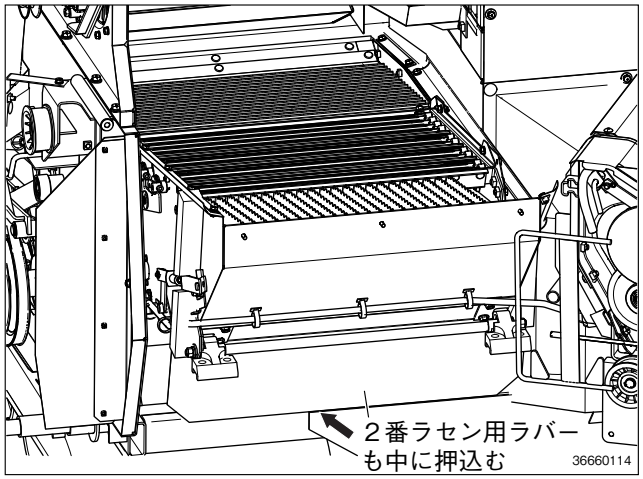
② 脱こく内部側面の左右のガイドレールに揺動流板先端のローラをのせ，少しずつ押込んでいきます。（２人作業）



取扱いのポイント

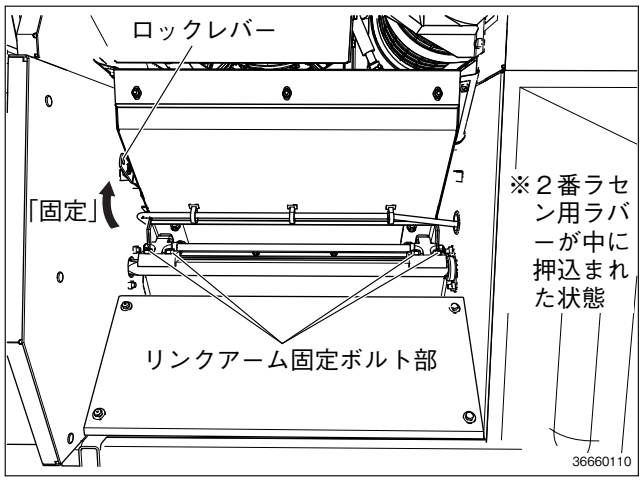
●揺動流板はロックレバーを「解除」方向に押さえながら押込んでください。(ロックレバーは揺動流板側面のストッパに当たるまで押付けてください)

●揺動流板を押込むときに２番ラセン用ラバーも確実に押込まれているか，確認してください。はさみ込むと，揺動流板をセットできません。



③ リンクアーム固定穴に合わせボルトを軽く締め込みます。

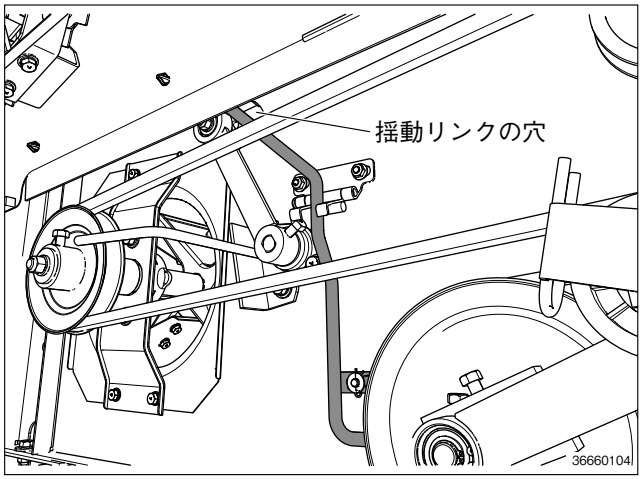
④ ロックレバーを「固定」位置にします。



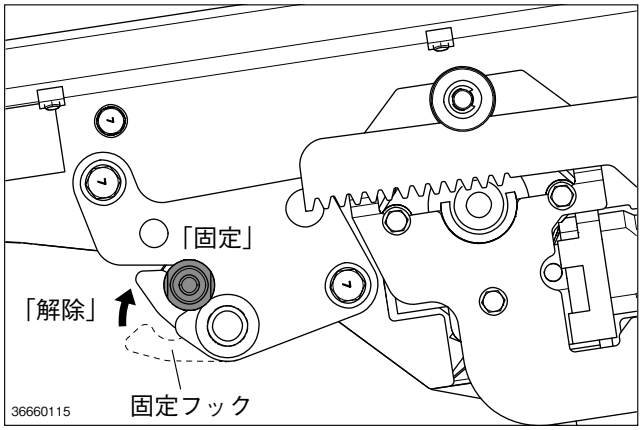
取扱いのポイント

●揺動流板が確実に入っていないときは，ロックレバーを「固定」位置にしても，レバーにあそびがあり，ロックできません。この状態のときは再度セットし直してください。(①から)

⑤　揺動リンクの穴から固定アームがシャフトにかかっていることを確認します。(揺動流板のロック部が見えます)



⑥　固定アームがピンにかかっていること（固定状態）を確認します。

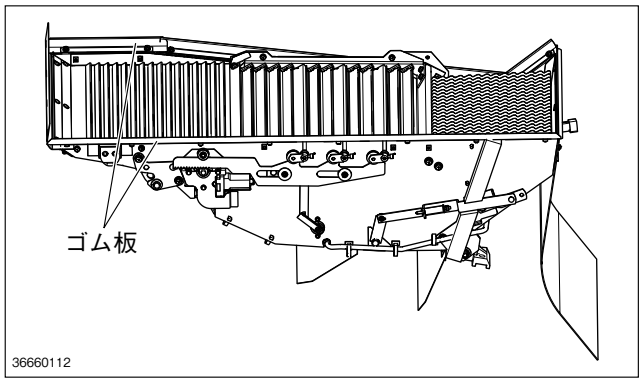


⑦　右側面についても同様に固定アームがピンにかかっていることを確認します。(グレンタンクを開き，確認します)

取扱いのポイント

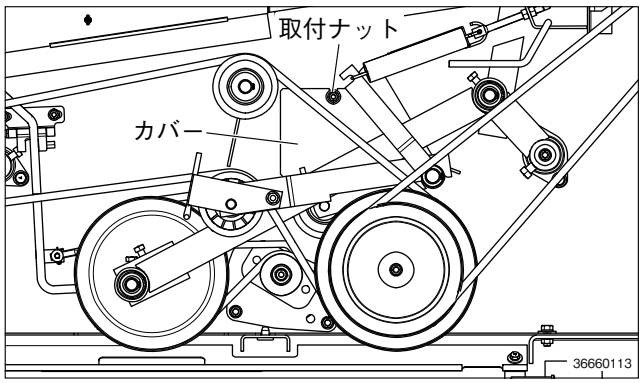
- **固定アームがピンから外れている場合または確実に固定されていない場合は再度セットし直してください。(①から)**
- **揺動流板が正常にセットされていないと機械の破損の原因となります。揺動流板は確実に奥まで押込んでロックレバーを確実に「固定」してください。**

⑧　揺動流板両面のゴム板がかみこんで折曲がっていないことを確認します。



⑨　揺動流板下部の１番ラセン用ラバーが折曲がっていないことを確認します。

１．取付ナットを取付し，カバーを外してください。

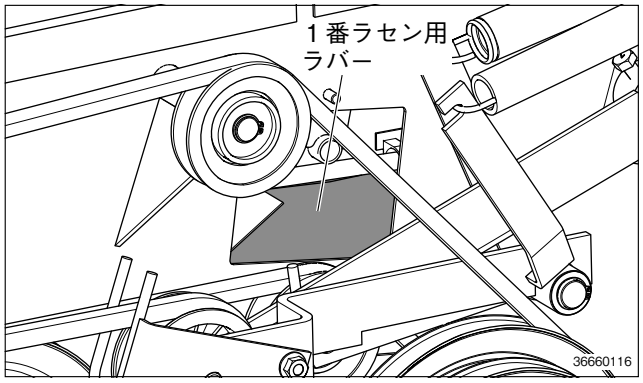


２．１番ラセン用ラバーが１番ラセンの斜面部分に収まっているか確認してください。

　正しくセットされていない場合はセットし直してください。

３．揺動流板後部から見て，２番ラセン用ラバーが，２番ラセンの斜面部分に収まっているか確認してください。

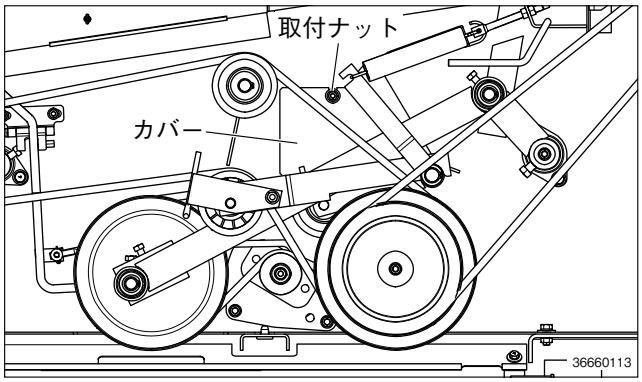
　正しくセットされていない場合はセットし直してください。



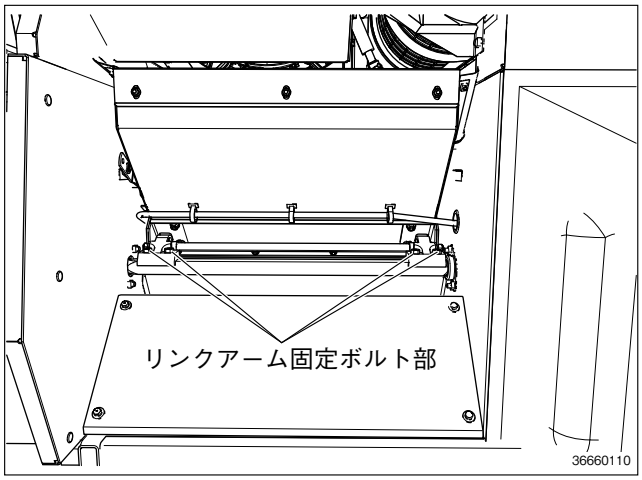
取扱いのポイント

●ラバーは正常にセットされていないとこく粒もれの原因となります。

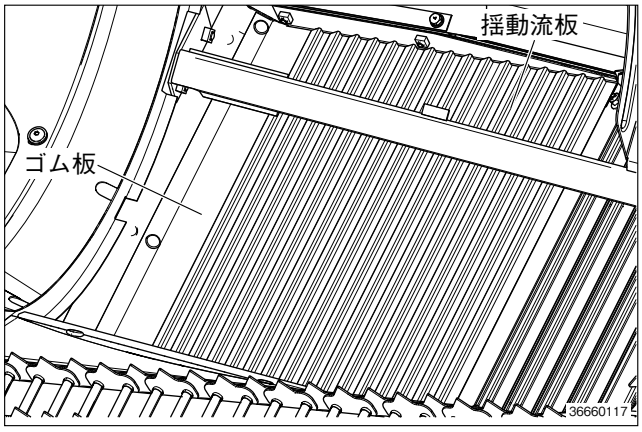
4．ラバーが正常にセットされていることが確認できたらカバーを取付ナット１本で取付けてください。



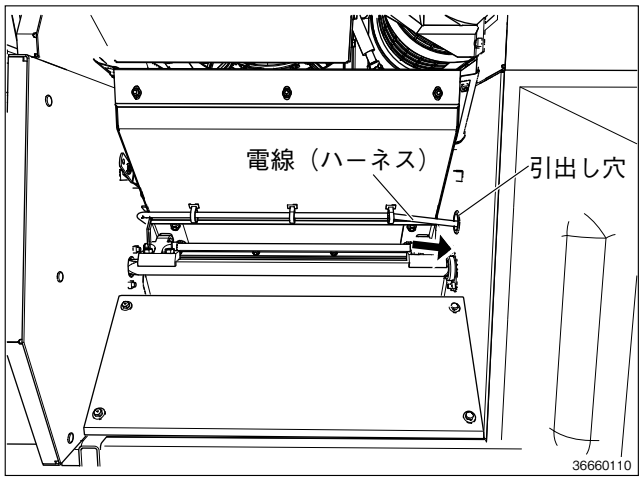
⑩　揺動流板後部のリンクアーム固定ボルト左右各２個を取付け確実に締付けてください。



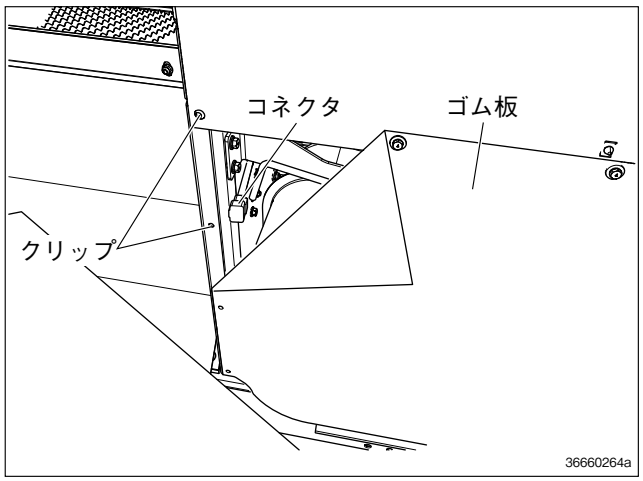
⑪　(2)で固定したゴム板をクランプから外し，揺動流板の上にたらしてください。



⑫　電線（ハーネス）をゴムの付いた穴に通してグレンタンク側に出します。



⑬　コネクタを接続し，ゴム板をクリップで取付けます。



⑭　カッタを閉じます。

⑮　受網（上・下）を取付けます。

⑯　外したカバーおよびベルトを取付け，脱こくサイドカバー（上，下），カッタサイドカバーを取付けます。

⑰　こぎ胴部を閉じます。（コンポアップ収納）

17．グレンタンク部の掃除

⚠警告　傷害事故防止のために

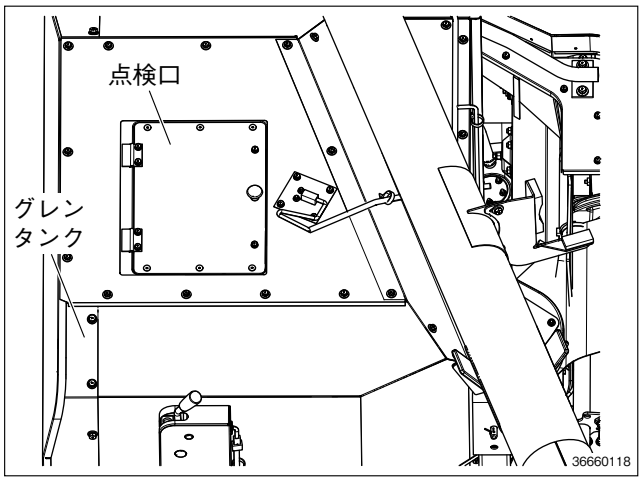
◆グレンタンクの掃除をするときは平坦な場所でエンジンを停止し，駐車ブレーキをかけ各部の動きが止まってから行なってください。

⚠注意　傷害事故防止のために

◆取外したカバー類は，作業後取付けてください。

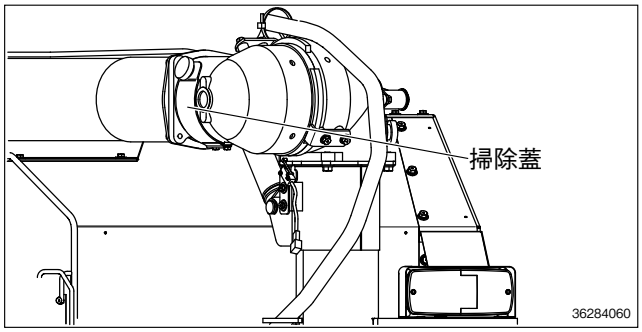
❶　グレンタンク内の掃除

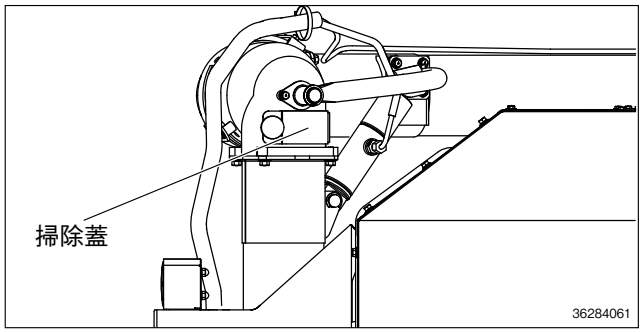
グレンタンク上部の点検口より確認し，必要によりホウキなどでホコリを払い，ゴミは，ラセンカバーを開いて外に出します。



❷　縦ラセン筒上部の掃除

排出オーガを上げ，上部ラセン掃除蓋を開いて掃除をします。





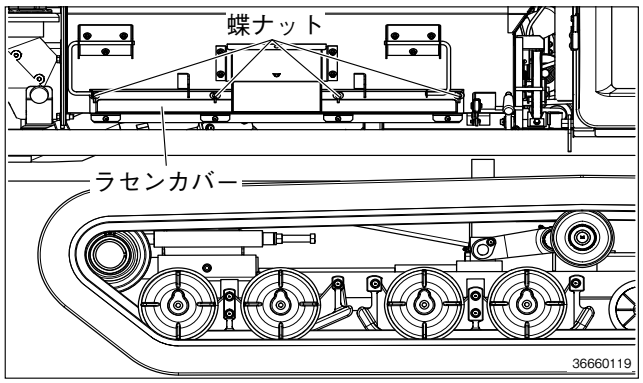
❸　横ラセン部の掃除

⑴　グレンタンクの下部カバーを取外します。

⑵　タンクを一杯に回動し，ストッパをフレームにかけます。（116ページ参照）

⑶　蝶ナットをゆるめて外し，ラセンカバーを開いて，掃除します。

⑷　ラセンカバーを蝶ナットで固定し，タンクを閉じてグレンタンク下部カバーを取付けます。

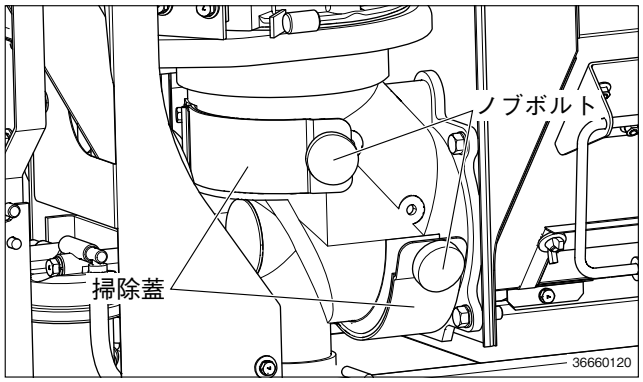


❹　縦ラセン筒下部の掃除

⑴　グレンタンクの下部カバーを取外します。

⑵　縦ラセン下部の掃除蓋を開いて，掃除します。

⑶　作業後，グレンタンク下部カバーを取付けます。



取扱いのポイント

●各掃除蓋（カバー）はモミ噛などによるすき間がないことを確認して，確実に締めてください。

4. 各部の点検と部品交換のしかた

1．カッタ刃組品の取外しと分解

⚠危険 傷害事故防止のために

◆カッタを開いてカッタ刃組品の取外し，分解をするときはエンジンを停止し，平坦な場所に機械を静置してください。
◆刃の交換作業は，厚手の手袋を着用し２人作業で合図をし合って行なってください。
◆ノコ刃軸取外し作業のときはカッタベルトを外さないでください。また止めボルトを上面に向けた状態で取外してください。

⚠注意 傷害事故防止のために

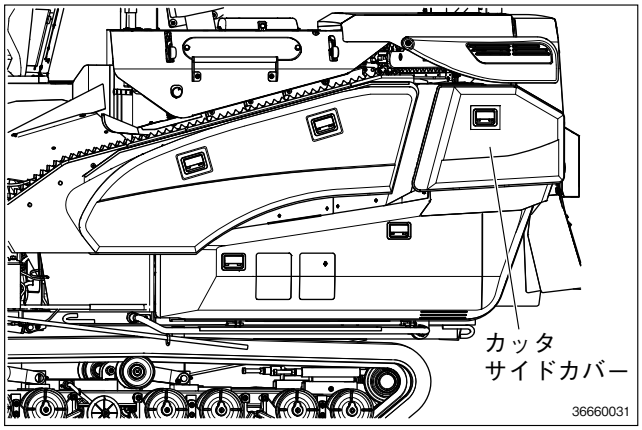
◆各部の点検と調整で外したカバー類は，全て元の位置に取付けてください。
◆ウエイトの取外し，取付けをするときは２人作業で行なってください。

カッタ刃組品（ノコ刃，スターホイル刃）の交換方法

- **ノコ刃軸はカッタを閉じたまま後側より取外します。**
- **スターホイル軸はカッタを開いて前側より取外します。**

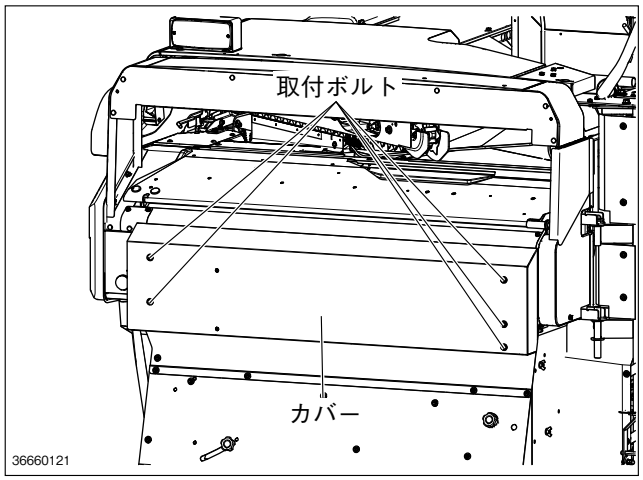
❶ ノコ刃軸の交換

⑴ カッタサイドカバーを取外します。

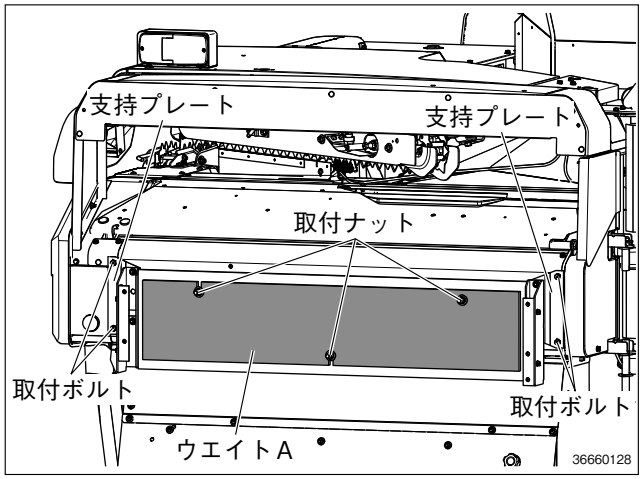


［Y仕様］はウエイトA・Bを取外します。

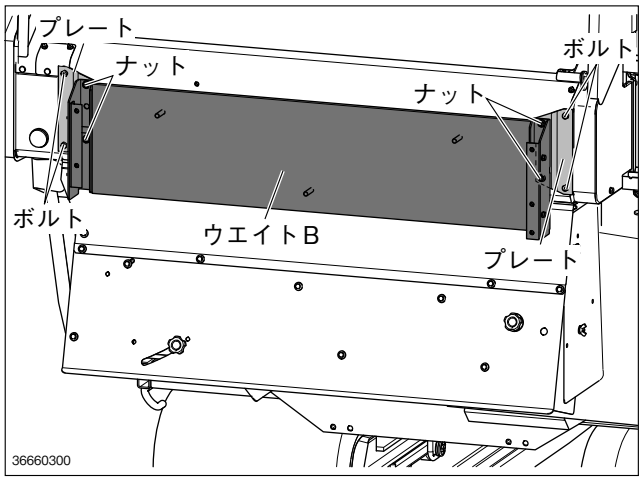
・取付ボルト５個を外し，カバーを取外します。



・取付ナット３個を外し，ウエイトAを取外します。
・ウエイトA・Bは重量物ですので２人作業で取外します。

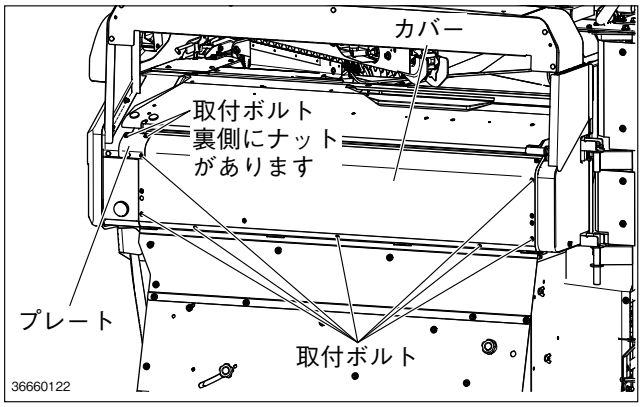


・取付ナット４個を外し，ウエイトBを取外します。
・ボルト４個を外し，プレート２個を取外します。

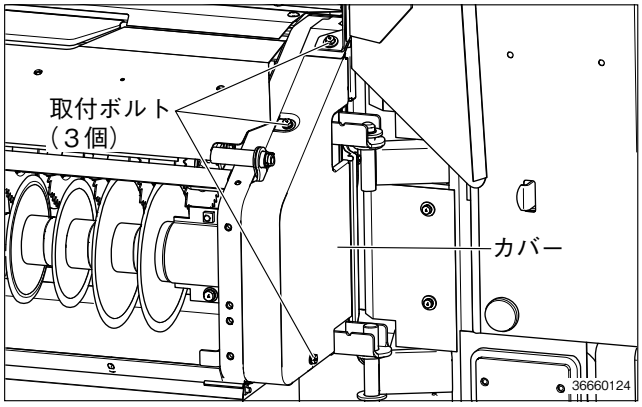


⑵ カッタ後面カバーを外します。

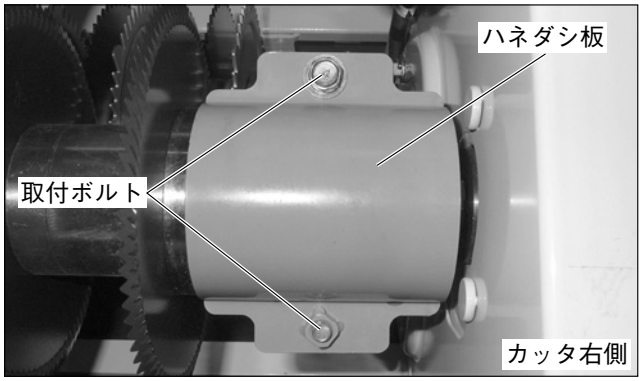
・カバーの取付ボルトの場所は下記の位置です。
このボルトを外してカバーを取外します。



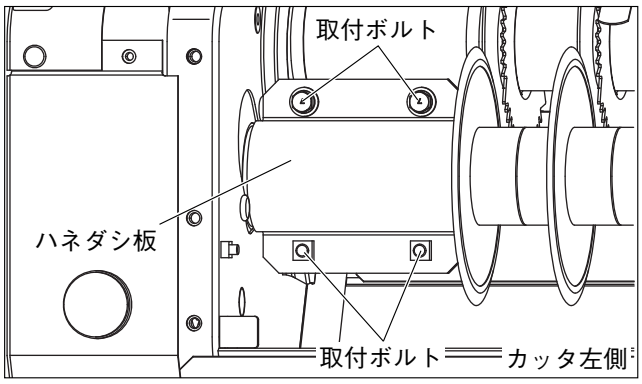
(3) 右側のカバーを外します。



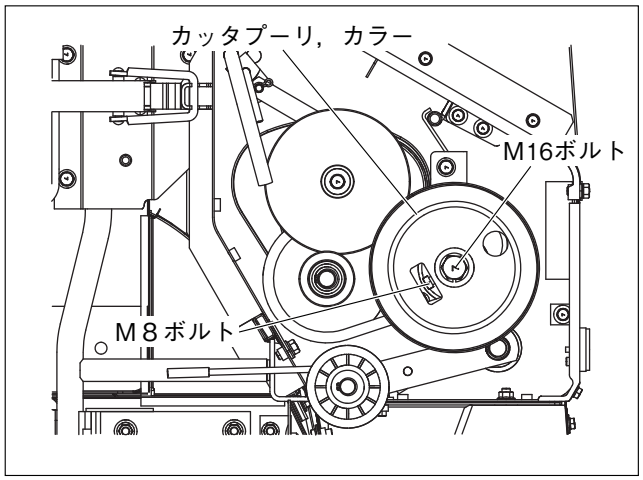
(4) ハネダシ板の取付ボルト（2個）を外して，ハネダシ板を取外します。



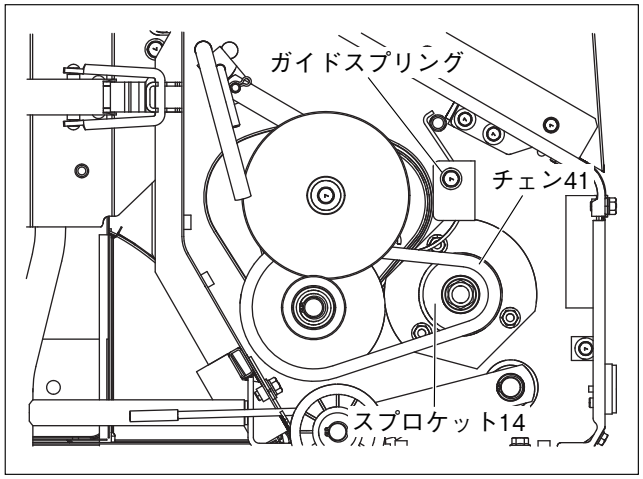
(5) ハネダシ板の取付ボルト（4個）を外して，ハネダシ板を取外します。



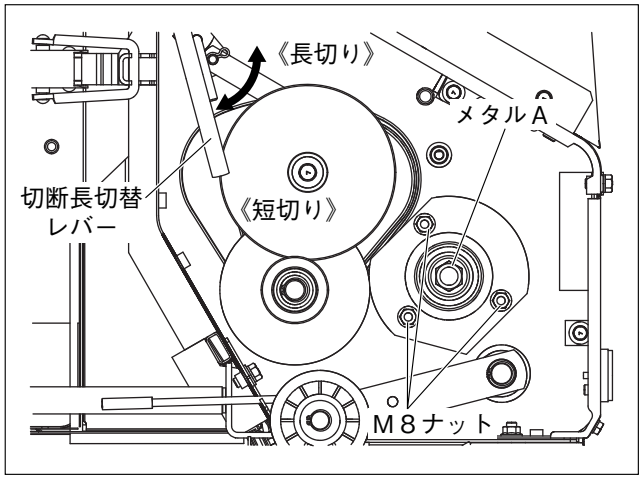
(6) M8ボルト，M16ボルトをゆるめカッタプーリ，カラーを取外します。



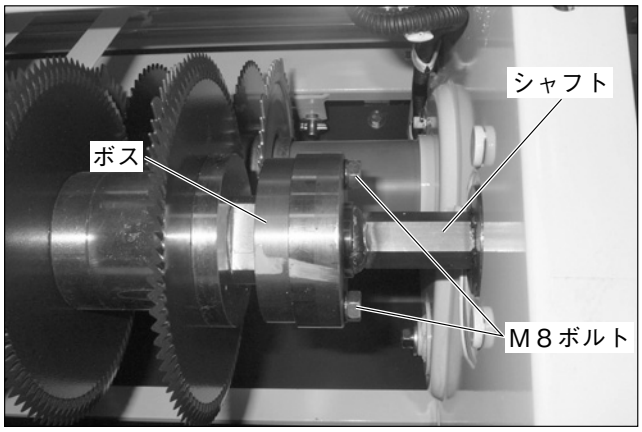
(7) ガイドスプリングを外し，チェン41を継ぎ部で取外します。スプロケット14を取外します。



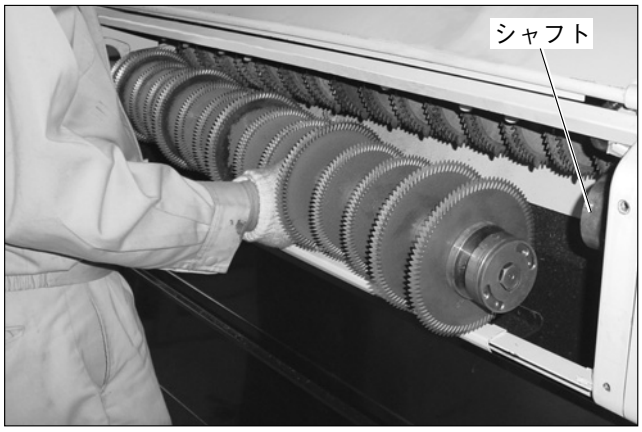
(8) メタルAを取付けているM8ナット（3個）を外してメタルAを取外し切断長切替レバーを**《長切り》**位置にします。



⑼　シャフトとボスを固定しているＭ８ボルト（２個）を外して，シャフトとボスを分離します。



⑽　ノコ刃軸組品を外します。

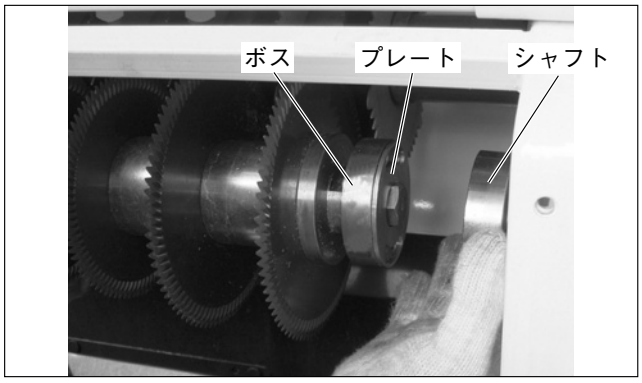


・ノコ刃軸組品が外れない場合は，シャフトをずらします。

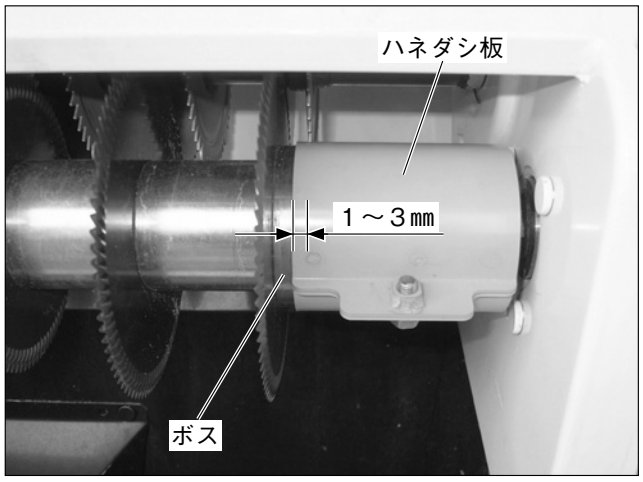
⑾　ノコ刃軸組品を組付けるときは取外しの逆の手順で行なってください。

取扱いのポイント

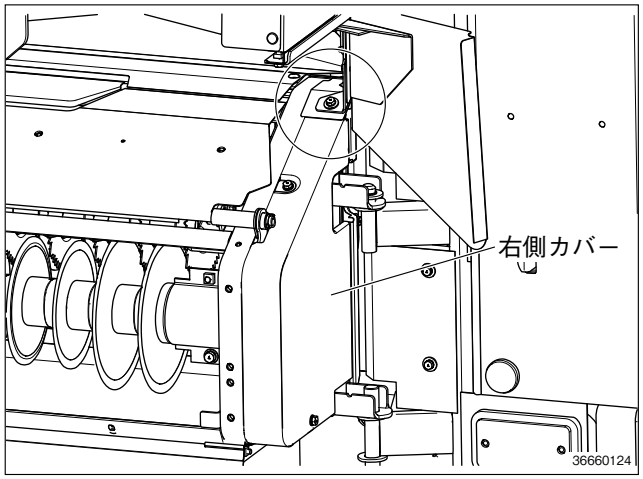
●ボスとシャフトの間にプレートが入っています。落とさないよう注意してください。また，組立時に忘れずに取付けてください。



●ハネダシ板を組付けるときはボスとハネダシ板が１～３㎜重なるように組付けます。



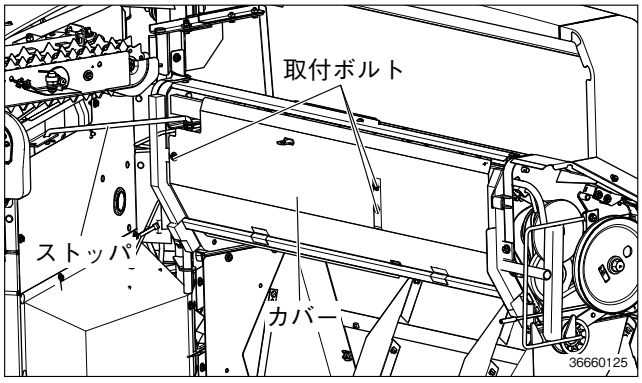
●右側のカバーを取付るときは○印部カバーが本体フレームの下側に入っていることを確認します。

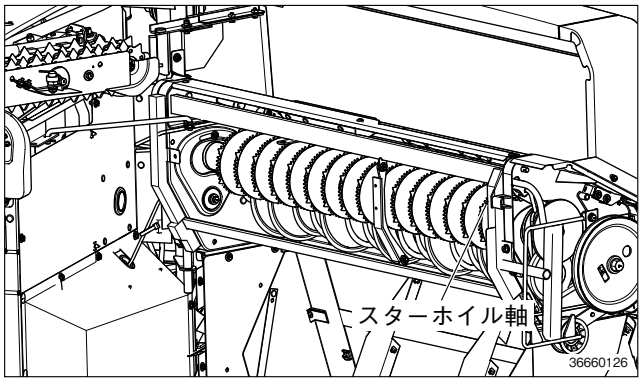


❷ スターホイル軸の取外し

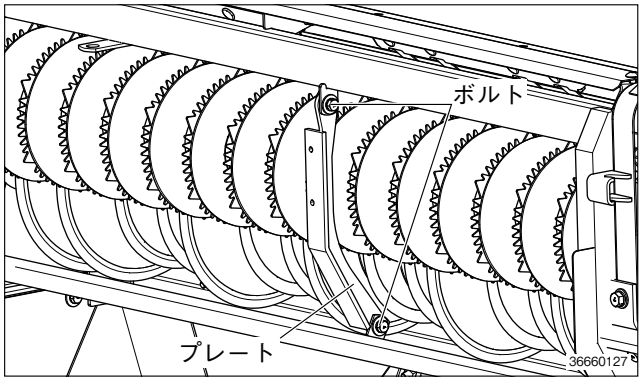
(1) カッタサイドカバーを取外し，カッタを開いてストッパを掛けます。

(2) カバーを取外します。

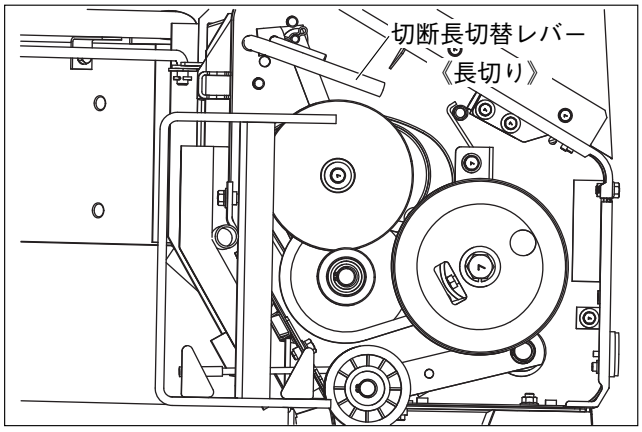




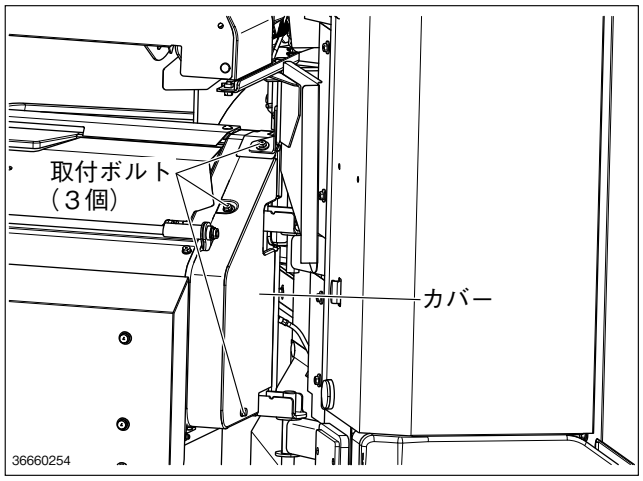
(3) プレートを取外します。



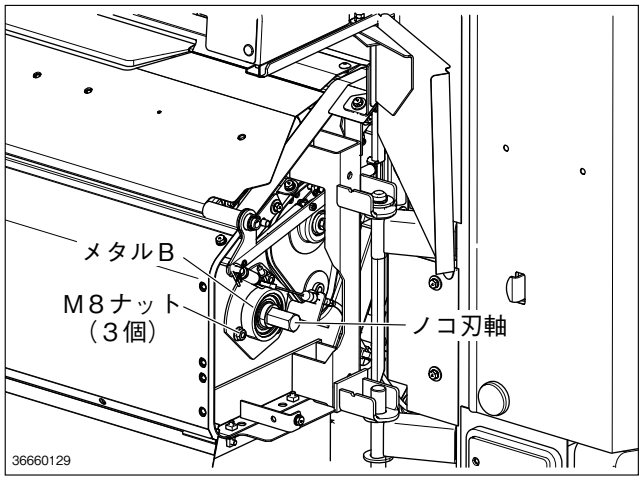
(4) 切断長切替レバーを《**長切り**》位置にします。



(5) 右側のカバーを取外します。

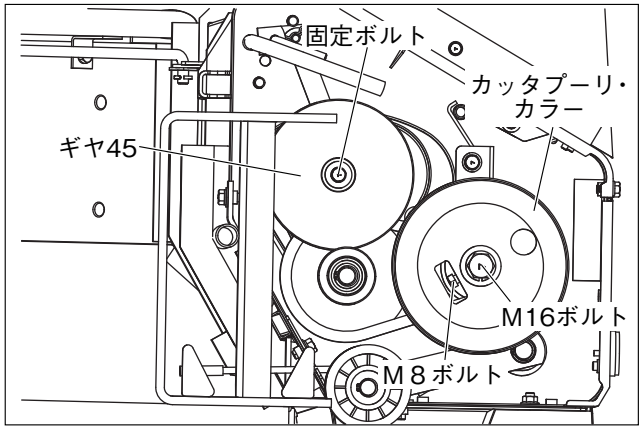


(6) ノコ刃軸のメタルＢを外します。



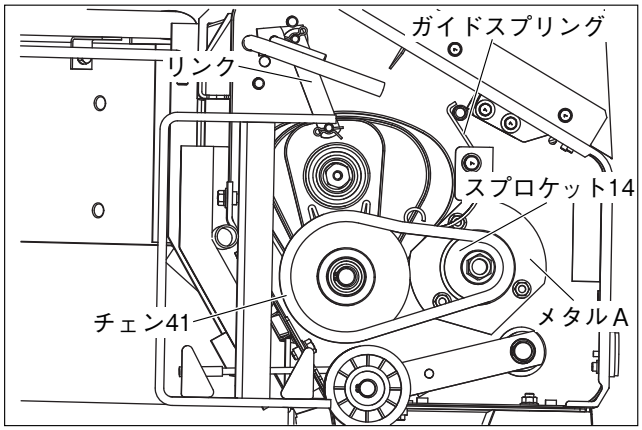
(7) Ｍ８ボルト，M16ボルトをゆるめカッタプーリ，内側のカラーを取外します。

(8) 固定ボルトを外し，ギヤ45を取外します。

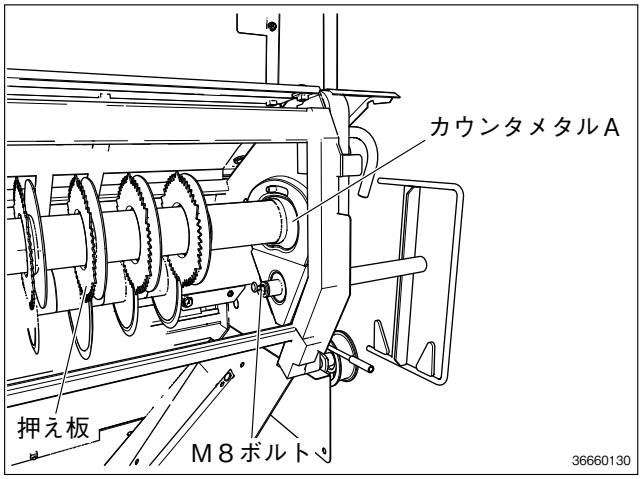


⑼　ガイドスプリングを外し，チェン41を継ぎ部で取外します。スプロケット14を取外します。

⑽　リンクとメタルＡを取外します。

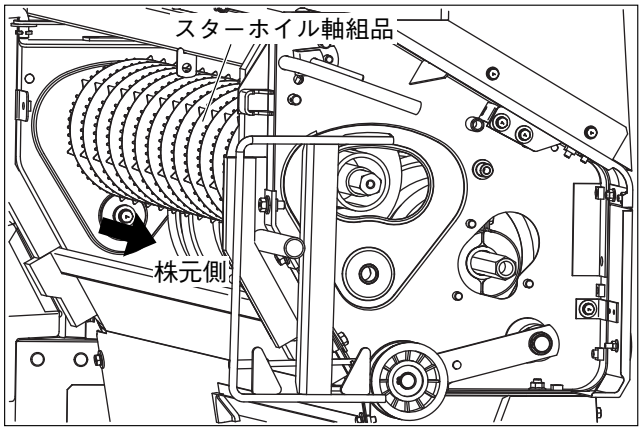


⑾　カウンタメタルＡを取付けているＭ８ボルトを外します。



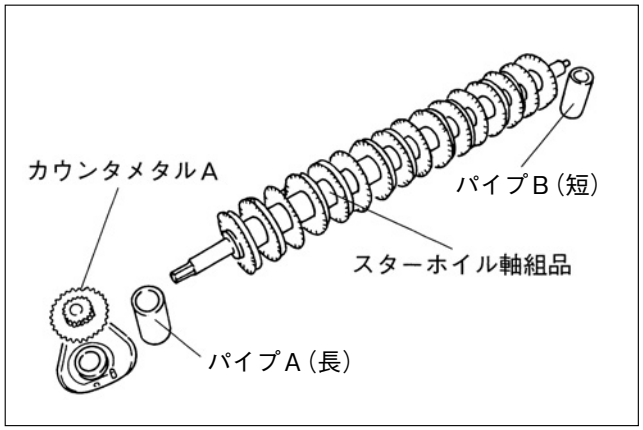
⑿　スターホイル軸の右側（穂先側）の前ページの⑸でゆるめたＭ８ボルトを外します。

⒀　２人で両側を持って左側方向（株元側）にずらし，カウンタメタルＡを外すと共に，スターホイル軸組品を取外します。



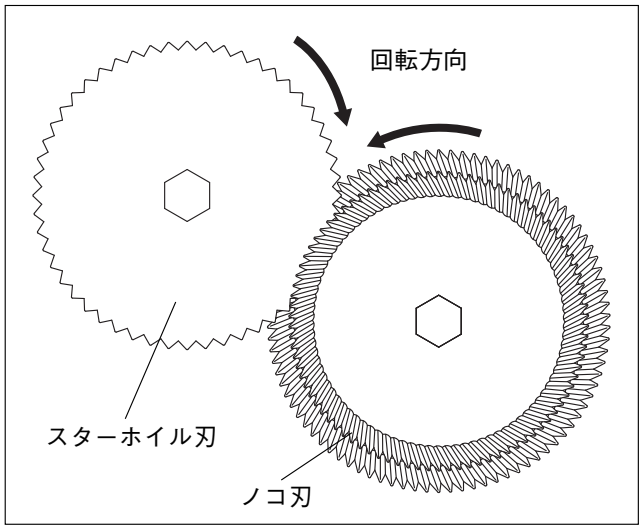
取扱いのポイント

●パイプＡ（長）とパイプＢ（短）は長さが違います。



●カッタはギヤ側が，組立て基準になっています。刃の交換後，スターホイル刃とノコ刃の接触がないことを，確かめてください。刃のすき間は２～４㎜が最適です。

●ノコ刃の取付けのときは刃の方向を間違えないように，元通りに組付けます。



⒁　スターホイル軸の取付けは，取外しの逆の手順で行なってください。

マルチカッタ60/180mm ノコ刃軸，スターホイル軸 組　み　立　て　要　領

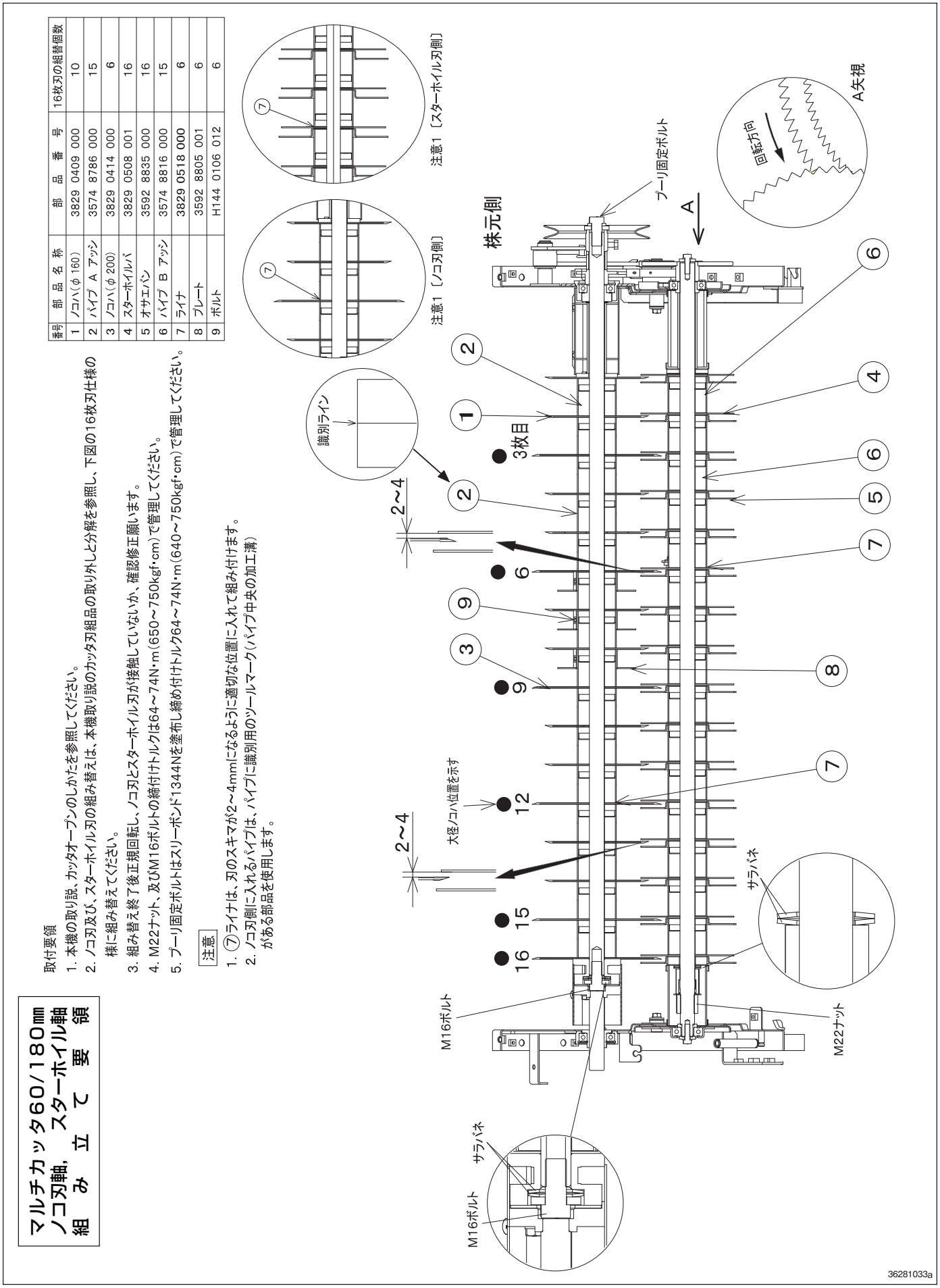
取付要領

1. 本機の取り説、カッタオーブンのしかたを参照してください。
2. ノコ刃及び、スターホイル刃の組み替えは、本機取り説のカッタ刃組品の取り外しと分解を参照し、下図の16枚刃仕様の様に組み替えてください。
3. 組み替え終了後正規回転し、ノコ刃とスターホイル刃が接触していないか、確認修正願います。
4. M22ナット、及びM16ボルトの締付けトルクは64～74N･m(650～750kgf･cm)で管理してください。
5. ブーリ固定ボルトはスリーボンド1344Nを塗布し締め付けトルク64～74N･m(640～750kgf･cm)で管理してください。

注意

1. ⑦ライナは、刃のスキマが2～4mmになるように適切な位置に入れて組み付けます。
2. ノコ刃側に入れるパイプは、パイプに識別用のツールマーク(パイプ中央の加工溝)がある部品を使用します。

番号	部品名称	部品番号	16枚刃の組替個数
1	ノコハ(φ160)	3829 0409 000	10
2	パイプ A アッシ	3574 8786 000	15
3	ノコハ(φ200)	3829 0414 000	6
4	スターホイルバ	3829 0508 001	16
5	オサエバン	3592 8835 000	16
6	パイプ B アッシ	3574 8816 000	15
7	ライナ	3829 0518 000	6
8	プレート	3592 8805 001	6
9	ボルト	H144 0106 012	6



マルチカッタ40/160㎜ ノコ刃軸，スターホイル軸 組み立て要領

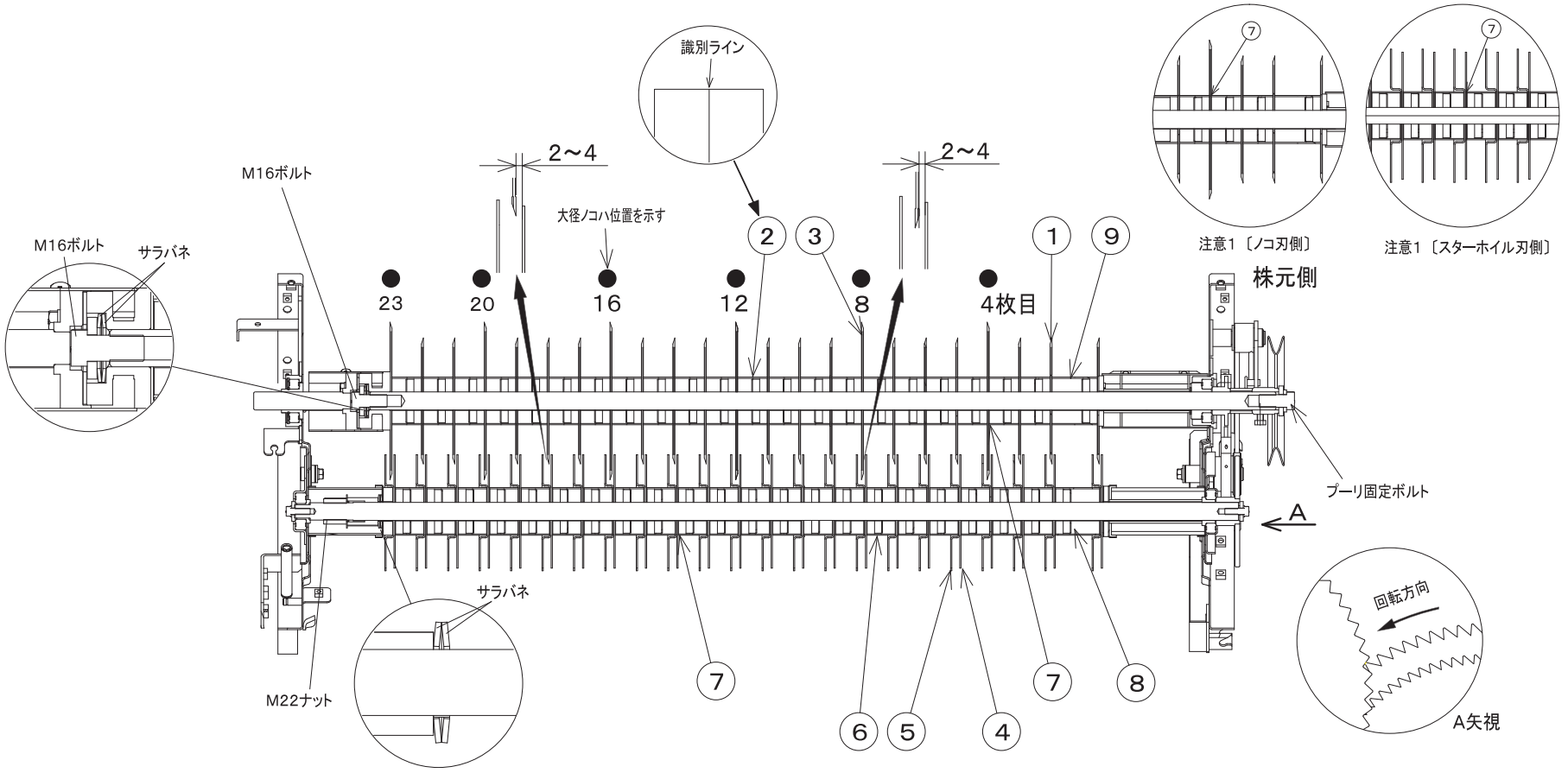
取付要領

1. 本機の取り説、カッタオープンのしかたを参照してください。
2. ノコ刃及び、スターホイル刃の組み替えは、本機取り説のカッタ刃組品の取り外しと分解を参照し、下図の23枚刃仕様の様に組み替えてください。
3. 組み替え終了後正規回転し、ノコ刃とスターホイル刃が接触していないか、確認修正願います。
4. M22ナット、及びM16ボルトの締付けトルクは64～74N・m（650～750kgf・cm）で管理してください。
5. プーリ固定ボルトはスリーボンド1344Nを塗布し締め付けトルク64～74N・m（640～750kgf・cm）で管理してください。

注意

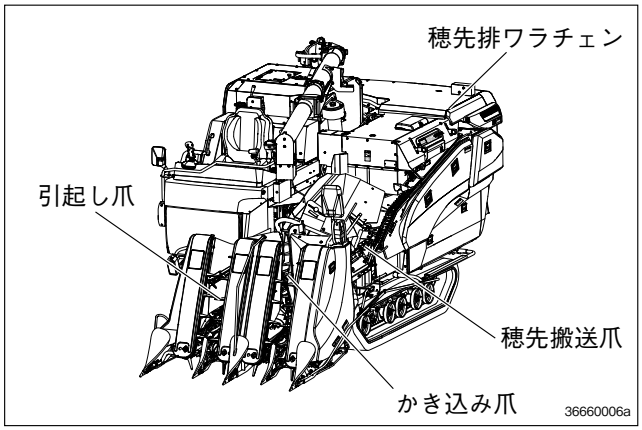
1. ⑦ライナは、刃のスキマが2～4mmになるように適切な位置に入れて組み付けます。
2. ノコ刃側に入れるパイプは、パイプに識別用のツールマーク（パイプ中央の加工溝）がある部品を使用します。

番号	部品名称	部品番号	23枚刃の組替個数
1	ノコハ（φ160）	3829 0409 000	17
2	パイプ C アッシ	3574 8784 000	21
3	ノコハ（φ200）	3829 0414 000	6
4	スターホイルバ	3829 0508 001	23
5	オサエバン	3592 8835 000	23
6	パイプ D アッシ	3574 8817 000	21
7	ライナ	3829 0518 000	6
8	パイプ B アッシ	3574 8816 000	1
9	パイプ A アッシ	3574 8786 000	1



2．爪の交換のしかた

引起し爪，穂先搬送爪，かき込み爪，穂先排ワラチェン

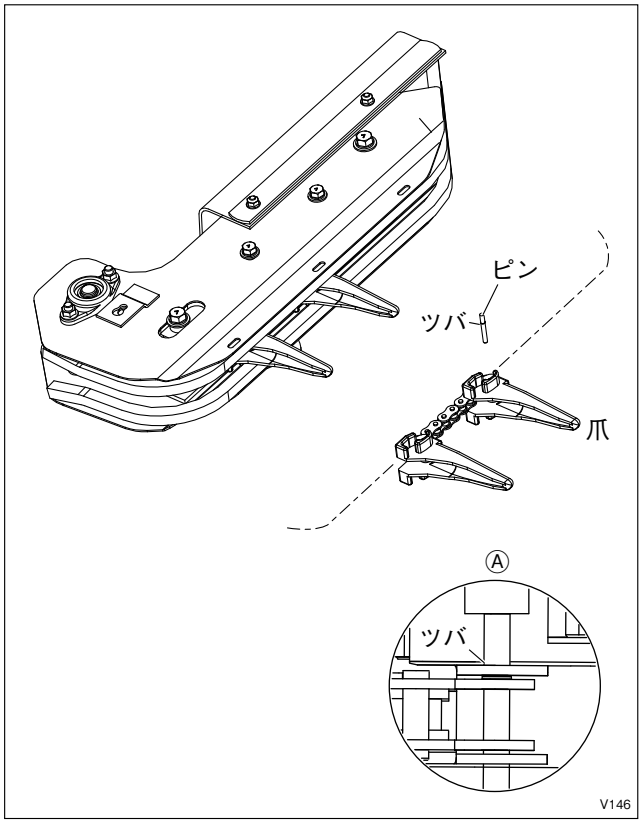


❶　爪の取外し

爪を取付けているピンを，突き出ている側から叩いて抜取り，爪を取外します。(ピンは，強く叩かなくても抜けます)

❷　爪の組込み

ピンは，ツバがある側を搬送上面側にし，ピンの端面と爪が同じ高さになるまで打込みます。(図示Ⓐ部参照)



3．ホース類の点検と交換

⚠警告　火傷や火災防止，傷害事故防止のために

◆燃料ホースの損傷（割れ，破れ，継ぎ部のゆるみ），外皮の剥れおよび継ぎ部より燃料が漏れてないか確認し，損傷したり漏れている場合は，火災の原因となりますので交換してください。

◆ラジエータホースの継ぎ部のゆるみを確認してください。運転中ラジエータホースが外れると，熱湯が吹き出し火傷をする場合があります。

◆油圧ホースの損傷（割れ，破れ，継ぎ部のゆるみ），保護材の外れおよび継ぎ部よりオイルが漏れていないか確認し，損傷したり漏れている場合は走行停止，刈取部の落下など事故の原因となりますので交換してください。

燃料ホース，ラジエータホース，油圧ホースなどの燃料漏れ，水漏れ，油漏れがないかを点検します。また，締付けているバンドやホースの継ぎ部が，ゆるんでいないか点検をします。

漏れ，ゆるみ，損傷のある場合は交換が必要ですので「**お買いあげ先**」に依頼してください。

取扱いのポイント

- **燃料ホースは，定期交換部品ですので，２年毎に交換してください。**
- **燃料ホースを交換したときは，燃料のエア抜きをしてください。(103～105ページ参照)**
- **油圧ホースは定期交換部品ですので２年毎または，300時間の早い方で交換してください。**

4．ワラ切カマの手入れ

⚠警告　傷害事故防止のために

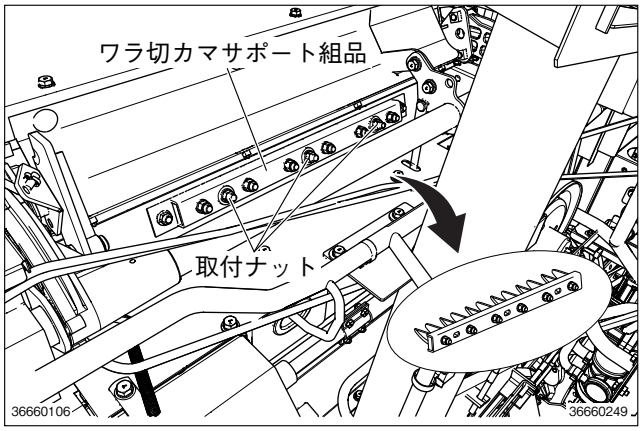
◆こぎ胴部を開くときは，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。
◆こぎ胴部を開くときは，グリップでこぎ胴を持ち上げ，ゆっくりと手を離しロックが掛かったことを確認してください。
◆《自動ロック解除レバー》を操作するときは，グリップまたはシリンダカバー端部を支えて行なってください。このときは，回動範囲内には手や体を入れないでください。
◆ワラ切カマの着脱作業は，手袋をして行なってください。
◆刃部に手をかけないでください。

❶ ワラ切カマの取外し

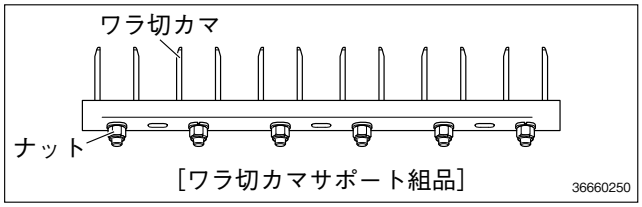
⑴ 脱こく右側天板とグレンタンク部の境界部にあるワラ切カマ

1．グレンタンクを開きストッパを掛けます。（116ページ参照）

2．ワラ切カマサポート組品で取外します。



3．ワラ切カマをサポートから取外します。



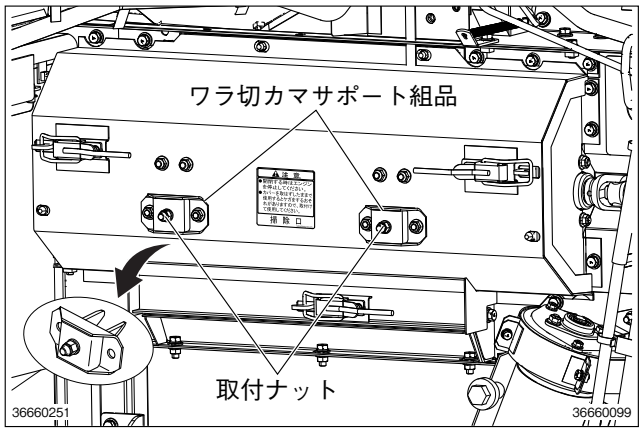
取扱いのポイント

●ワラ切カマサポート取付ナットは３個（Ｍ８）です。ナット（６個）は外さないでください。ワラ切カマが落下します。

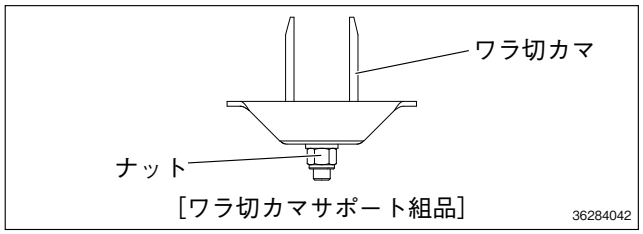
⑵ 第２こぎ室部にあるワラ切カマ

1．グレンタンクを開きストッパを掛けます。（116ページ参照）

2．ワラ切カマサポート組品で取外します。



3．ワラ切カマをサポートから取外します。

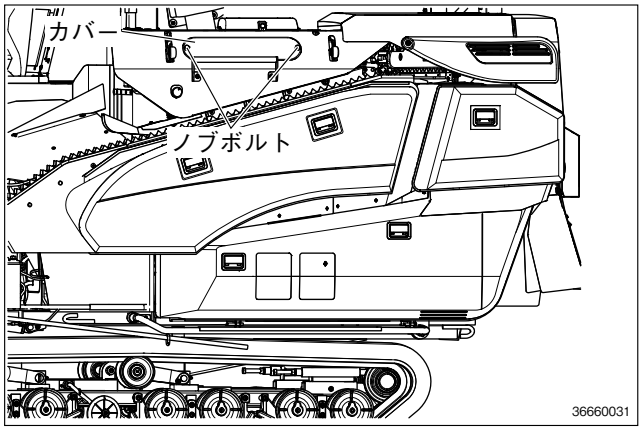


取扱いのポイント

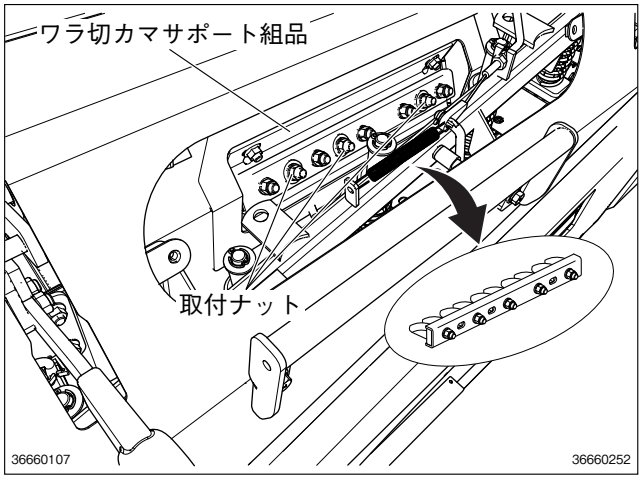
●ワラ切カマサポート取付ナットは２個（Ｍ８）です。ナット（１個）は外さないでください。ワラ切カマが落下します。

⑶ 脱こく左側コンポロックレバー付近のワラ切カマ

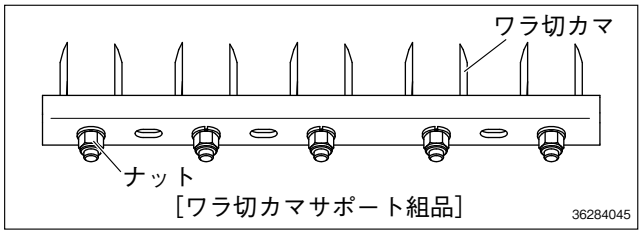
1．カバーを外します。



2．ワラ切カマサポート組品で取外します。



3．ワラ切カマをサポートから取外します。

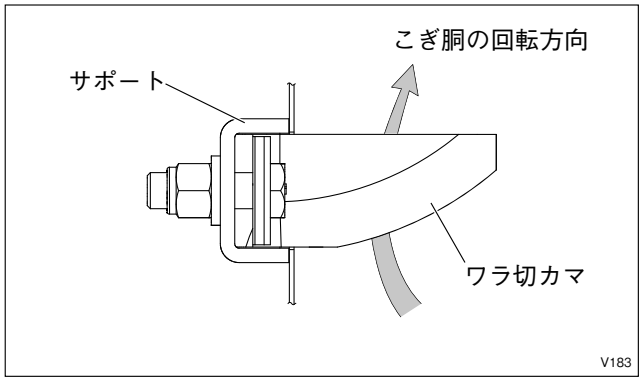


取扱いのポイント

●ワラ切カマサポート取付ナットは３個（Ｍ８）です。ナット（５個）は外さないでください。ワラ切カマが落下します。

❷ ワラ切カマの取付け

⑴ ワラ切カマの組付け方向を確認して真っ直ぐに締付けます。



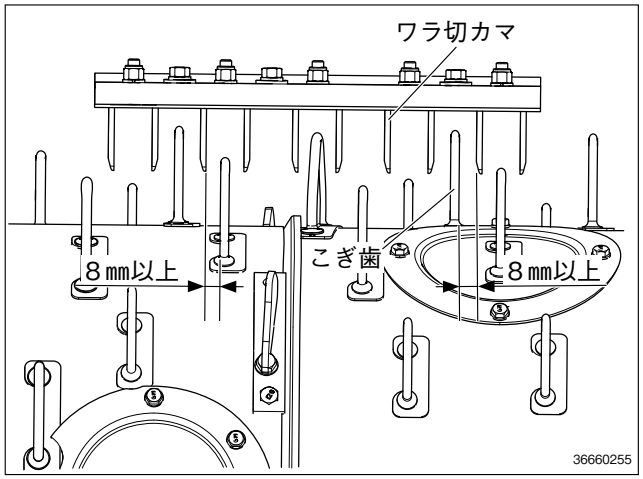
⑵ 作業後，グレンタンクを閉じ，カバー類を取付けます。

取扱いのポイント

●ワラ切カマが摩耗するとワラクズの切断性能が低下し脱こく能率が低下しまた，性能も悪くなります。ワラ切カマを交換してください。

●こぎ歯の中央にワラ切カマがくるように取付けてください。

●組付けるときは，こぎ歯とワラ切カマのすき間を８㎜以上空けてください。

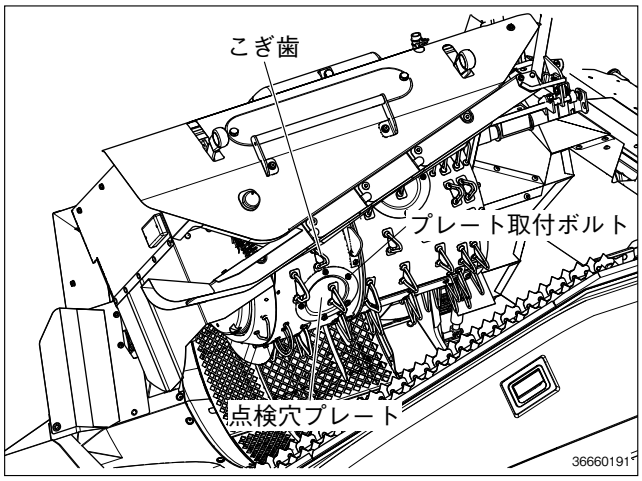


5．こぎ歯の点検と交換

⚠警告　傷害事故防止のために

◆こぎ胴部を開くときは，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。

❶　こぎ胴部を開きます。



❷　こぎ歯を点検します。

摩耗のはげしいものは交換します。こぎ歯の締付けが緩んでいるものは，取付ナットを締込みます。

こぎ歯の交換および取付ナットの締込みは，点検穴プレートを外して行います。

❸　作業後こぎ胴部を閉じます。

取扱いのポイント

●歯の太さ３㎜以下が交換の目安です。

●こぎ胴の点検穴プレートの取付ボルトの頭が摩耗すると外せなくなりますので取付ボルトが摩耗し始めたときも取付ボルトの交換が必要です。

5. 各部の点検と調整のしかた

各部は出荷のときに正しく調整されていますが，使用による摩耗や伸びが生じてくることがありますので再調整を行い，損耗の限度をこえた部品は交換し正しく使用できる状態にしておきます。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆掃除・点検・調整は機械を平坦な場所に置き，駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。
◆調整後は，異常なく作動することを試運転で確認してください。

⚠注意 傷害事故防止のために

◆各部の点検と調整で外したカバー類は全て，元の位置に取付けてください。

「レバー・ペダルの点検・調整」

1．走行クラッチペダル・駐車ブレーキ

⚠警告 傷害事故防止のために

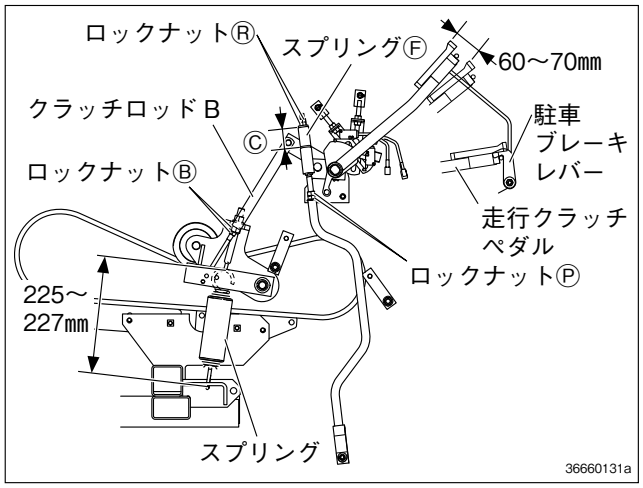
◆走行クラッチペダルやブレーキロッドの遊びが大きいと，クラッチの切れやブレーキの効きが悪くなり，事故を引起こす原因となることがあります。

❶ 点検

(1) 走行クラッチペダル先端の遊びが 60～70㎜ になっていますか。
(2) 走行クラッチペダルを踏まない状態で，スプリング長さが 225～227㎜ になっていますか。
(9) 坂道（12°）で，駐車ブレーキをかけたときに，機械が停止していますか。

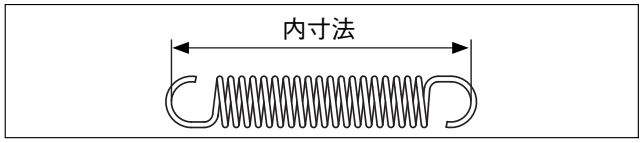
❷ 調整

・運転席左下足元のカバーをノブをゆるめて取外します。
(1) クラッチロッドBのロックナットⒷをゆるめて，ペダル先端の遊びを 60～70㎜ に調整します。調整後，ロックナットⒷを締付けます。
(2) 1）駐車ブレーキの調整は，走行クラッチペダルがフリーの状態でスプリングⒻ長さⒸを 36～38㎜ にロックナットⓇで調整します。
2）次に，走行クラッチペダルを踏んで，駐車ブレーキレバーでフックをかけた状態でスプリングⒻ長さⒸを 33～35㎜ にブレーキロッドのロックナットⓅをゆるめて調整します。
3）調整後，ロックナットⓇ，Ⓟを確実に締付けます。



取扱いのポイント

- **クラッチペダルの遊びがなくなると走行ベルトが伸びきってベルトのスベリが発生します。ペダルの遊びが10㎜以下になりましたら「お買い上げ先」で点検・調整を受けてください。**
- **スプリングの取付け長さは，フックの内寸法を測定してください。**



2. 脱こくクラッチ

❶ 点検

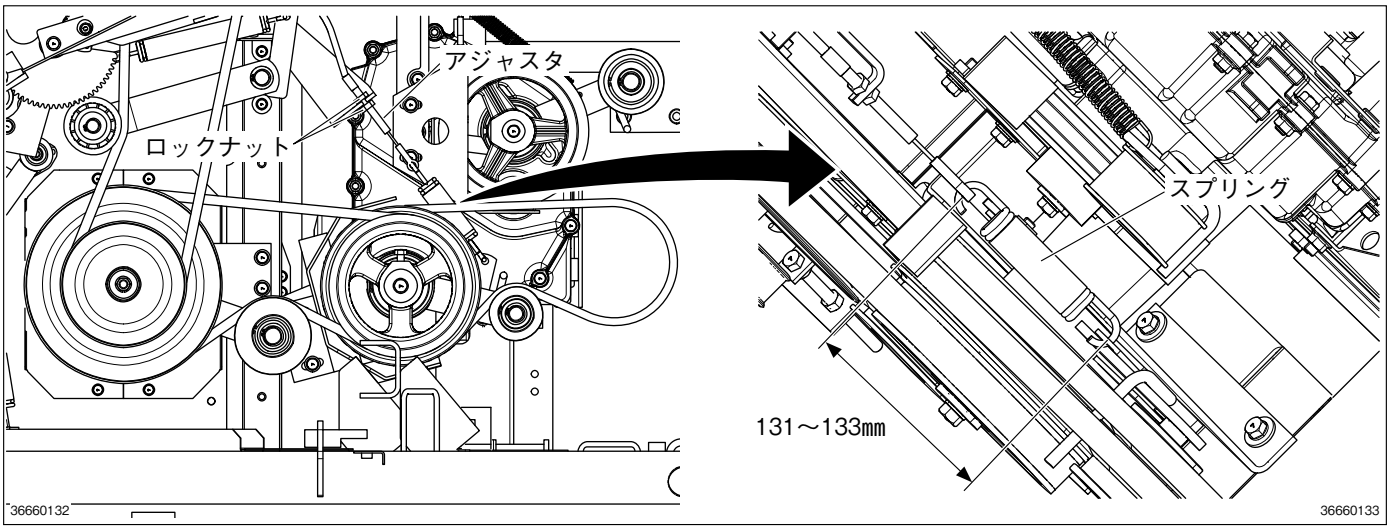
エンジンを始動させパワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《**脱こく**》にし，エンジンを停止させます。スプリング寸法が **131～133㎜** になっていますか。

❷ 調整

⑴ グレンタンクを開いてストッパを掛けます。（116ページ参照）

⑵ ロックナットをゆるめてアジャスタ部でスプリング長さを調整します。

⑶ グレンタンクを閉じます。（116ページ参照）



3. 刈取クラッチ

❶ 点検

エンジンを始動させパワークラッチ(脱こく・刈取) スイッチを《**刈取**》にし，エンジンを停止させます。このときスプリング寸法が **105～107㎜** になっていますか。

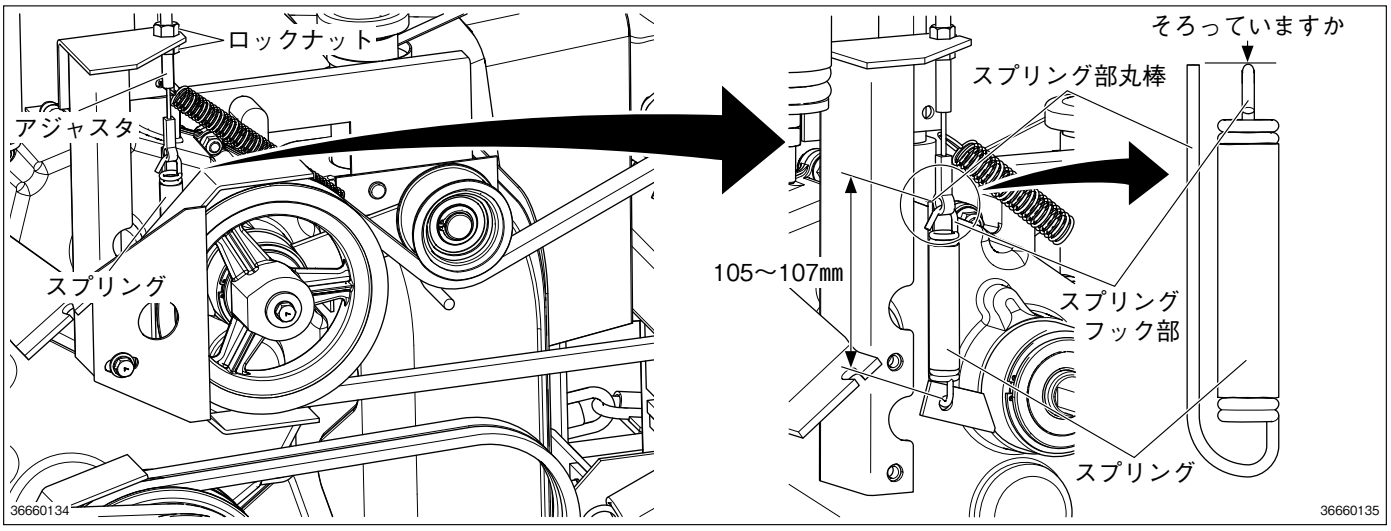
またはスプリング部丸棒のフックの高さがそろっていますか。

❷ 調整

⑴ グレンタンクを開いてストッパを掛けます。（116ページ参照）

⑵ ロックナットをゆるめてアジャスタ部で調整しスプリング長さを調整します。

⑶ グレンタンクを閉じます。（116ページ参照）



4. カッタ排ワラ切替レバー

❶ 点検

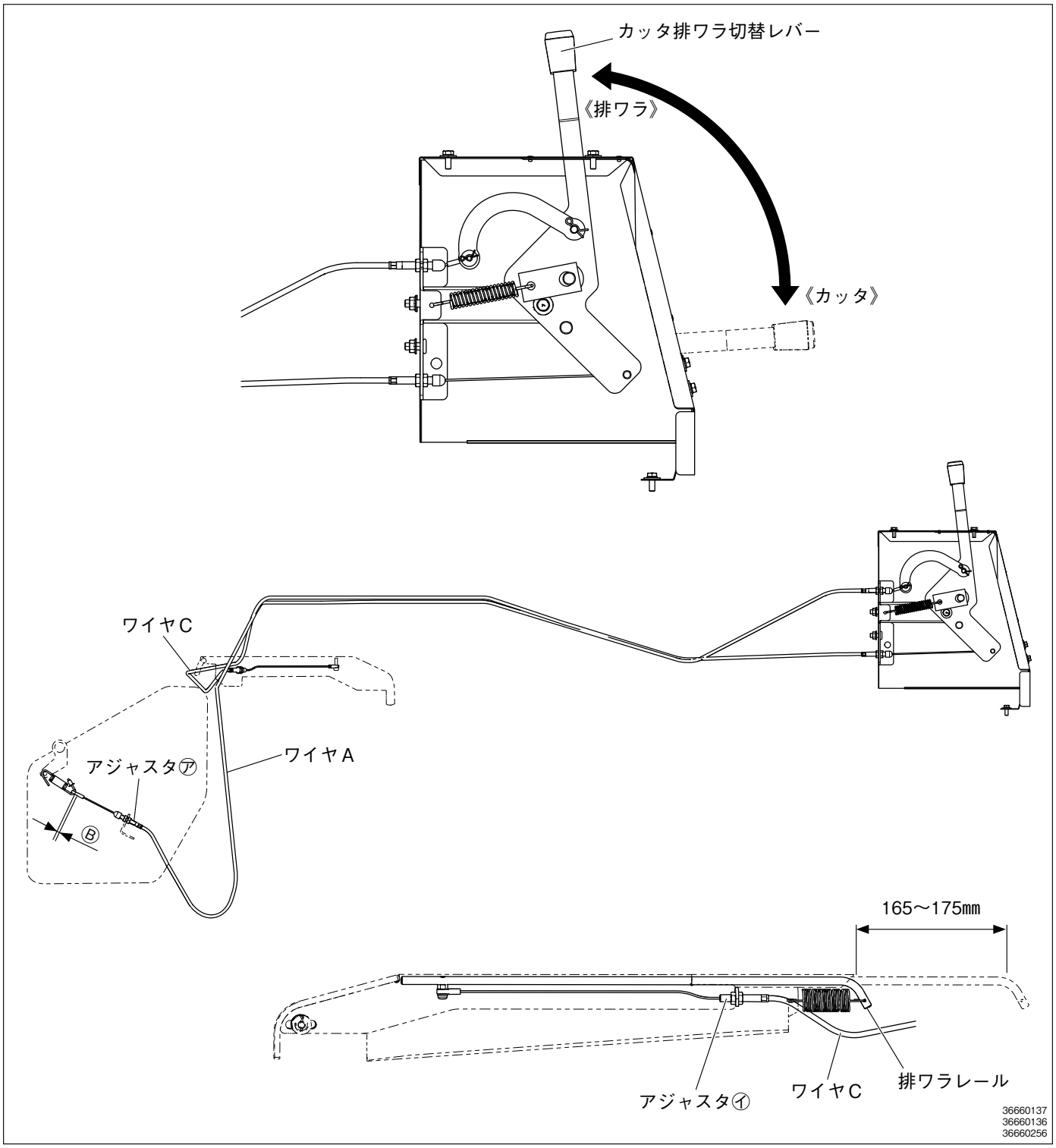
(1) 切替レバーが《**排ワラ**》のとき，ワイヤAがⒷ部で 2～3㎜ 遊んでいますか。(カッタ切替板が確実に閉状態になっていますか。)

(2) 切替レバーが《**排ワラ**》のとき，排ワラレールの出る長さが 165～175㎜ になっていますか。

❷ 調整

(1) Ⓑ寸法が 2㎜～3㎜ になるようにアジャスタ㋐で調整します。

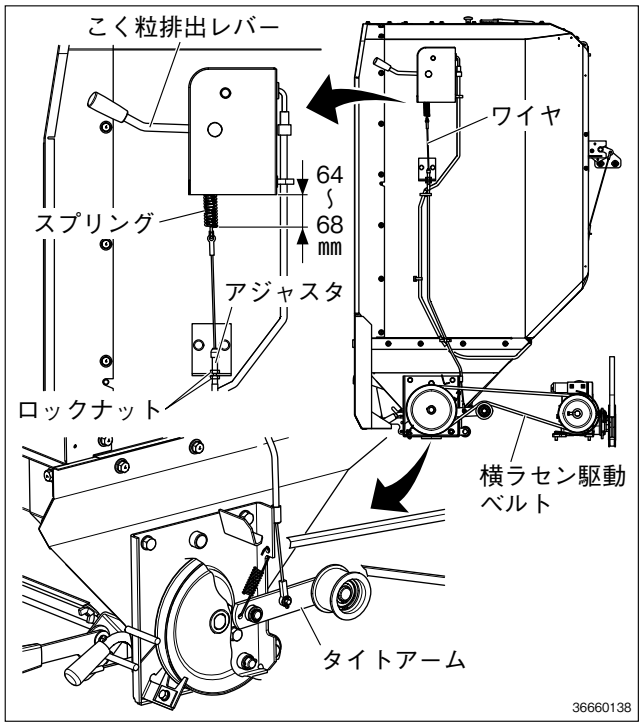
(2) 排ワラレールの出る長さが 165～175㎜ になるようワイヤCのアジャスタ㋑で調整します。



5. 横ラセン駆動レバー

❶ 点検

こく粒排出レバー《入》のときカバー下端面よりスプリングフックまでの長さが 64〜68㎜ となっていますか。



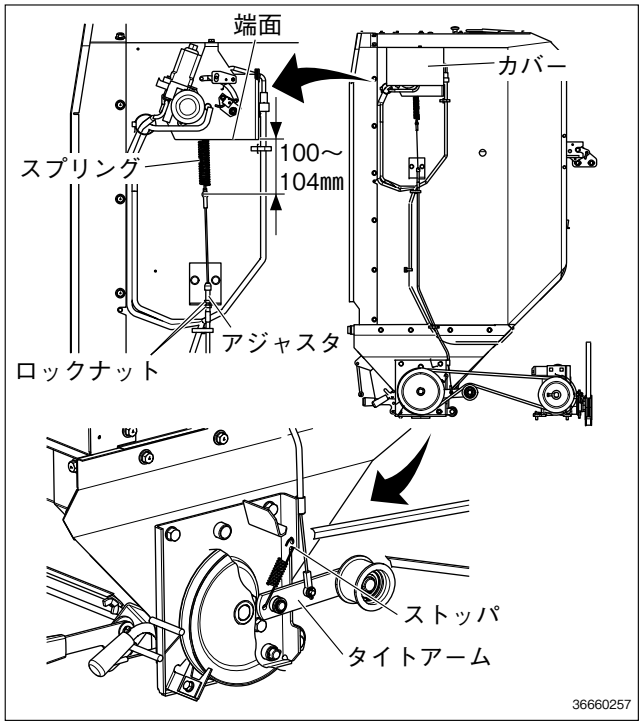
❷ 調整

(1) グレンタンクを開いてストッパを掛けます。（116ページ参照）
(2) ワイヤのロックナットをゆるめて，ワイヤのアジャスタ部で調整します。
(3) グレンタンクを閉じます。（116ページ参照）

6. 横ラセン駆動ベルト（オーガフラップ）[ディーラーオプション]

❶ 点検

(1) カバーを外します。
(2) エンジンを始動し周囲の障害物に注意して排出オーガをこく粒排出範囲に移動させます。(54〜57ページ参照)
(3) こく粒排出スイッチを《**入**》にします。このときグレンタンク内および排出オーガ内にこく粒が残っていると排出されるので注意してください。
(4) こく粒排出スイッチが《**入**》の状態でエンジンを停止します。
(5) スプリング長さが 100〜104㎜ となっていますか。



❷ 調整

(1) キースイッチを《**入**》にしスプリングの張りを元にもどします。(エンジンを始動する必要はありません。)
(2) グレンタンクを回動します。(116ページ参照)
(3) ワイヤのロックナットをゆるめアジャスタ部で調整します。
(4) グレンタンクを閉じます。(116ページ参照)
(5) エンジンを始動しこく粒排出スイッチを《**入**》にします。
(6) こく粒排出スイッチが《**入**》の状態でエンジンを停止し，スプリング長さを確認します。
(7) カバーを取付けます。

「ベルトの点検・調整」

取扱いのポイント

●調整ができなくなったら，新しいベルトと交換してください。ベルトを新しいものに交換したときは，各スプリングの寸法や，ベルトガイドなどを正規の寸法に調整してください。

7．エンジンファンベルト

⚠警告 火傷防止のために

◆ファンベルトの点検・調節は，エンジンが冷えてから行なってください。

❶ 点検

ファンベルトの長い方の中央部を指で押し，タワミ量が 10～13㎜ となっていますか。

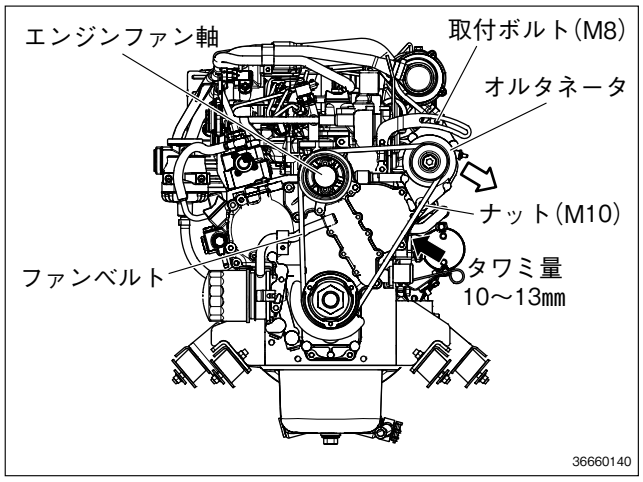
❷ 調整

・足元カバーのノブボルト（２個）を外して足元カバーを取外します。

オルタネータ取付ボルト，ナット（各１個）をゆるめ，オルタネータを矢印（⇨）側に倒し，ベルトが張ります。

調整後，取付ボルトナットを締付けます。

作業後に足元カバーを取付けます。



8．走行ベルト

❶ 点検

⑴ 走行クラッチペダル遊びが 60～70㎜ になっていますか。

⑵ 走行クラッチペダルを踏まない状態で，スプリング長さが 225～227㎜ になっていますか。

❷ 調整

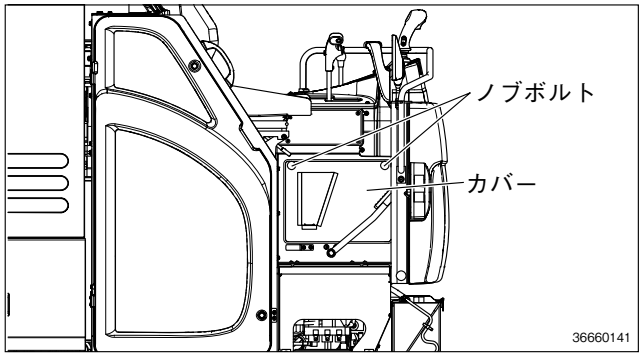
・運転席左側の足元カバーを，ノブをゆるめて取外します。

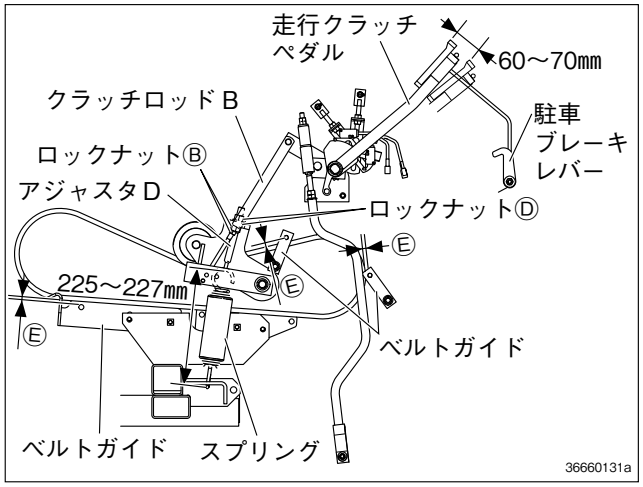
⑴ クラッチロッドＢのロックナットⒷをゆるめてペダルの遊びを 60～70㎜ に調整します。調整後ロックナットⒷを締付けます。

⑵ アジャスタＤのロックナットⒹをゆるめて，スプリング長さを調整します。

⑶ ４箇所のベルトガイドとベルトのすき間Ⓔを 3～5㎜ に調整します。

⑷ 作業後足元カバーを取付けます。





9．かき込みベルト（刈取部）

❶ 点検

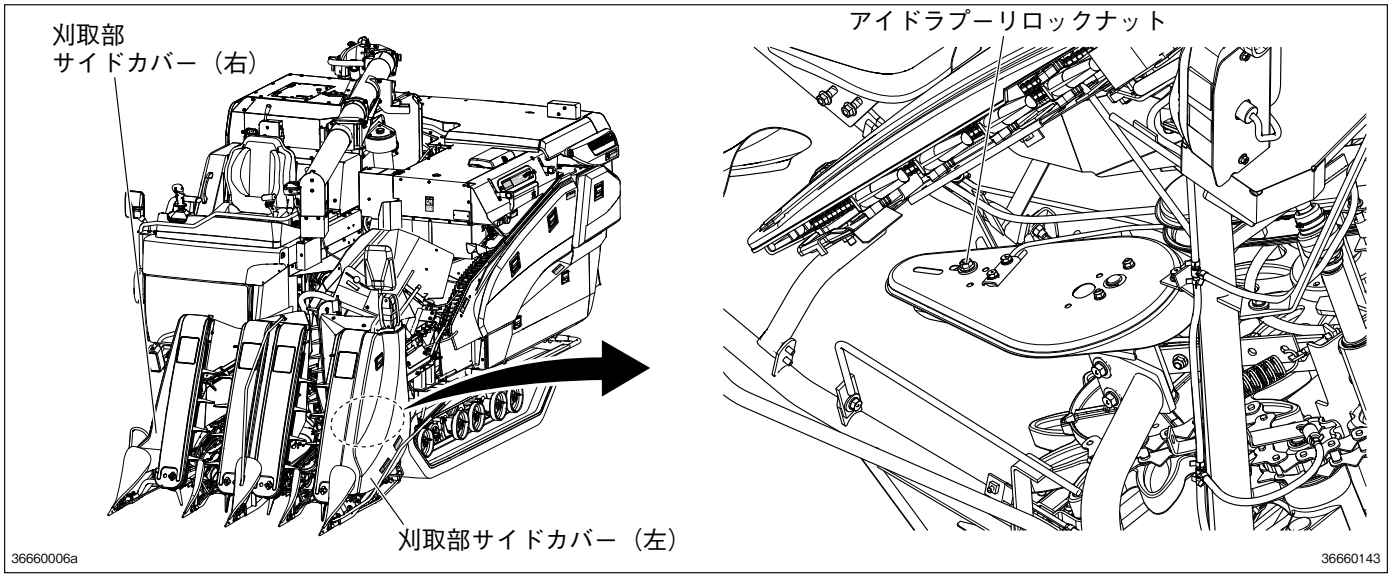
ベルトの搬送側中央部を押さえ，ベルトのタワミ量が 5～10㎜ となっていますか。（右，中，左）

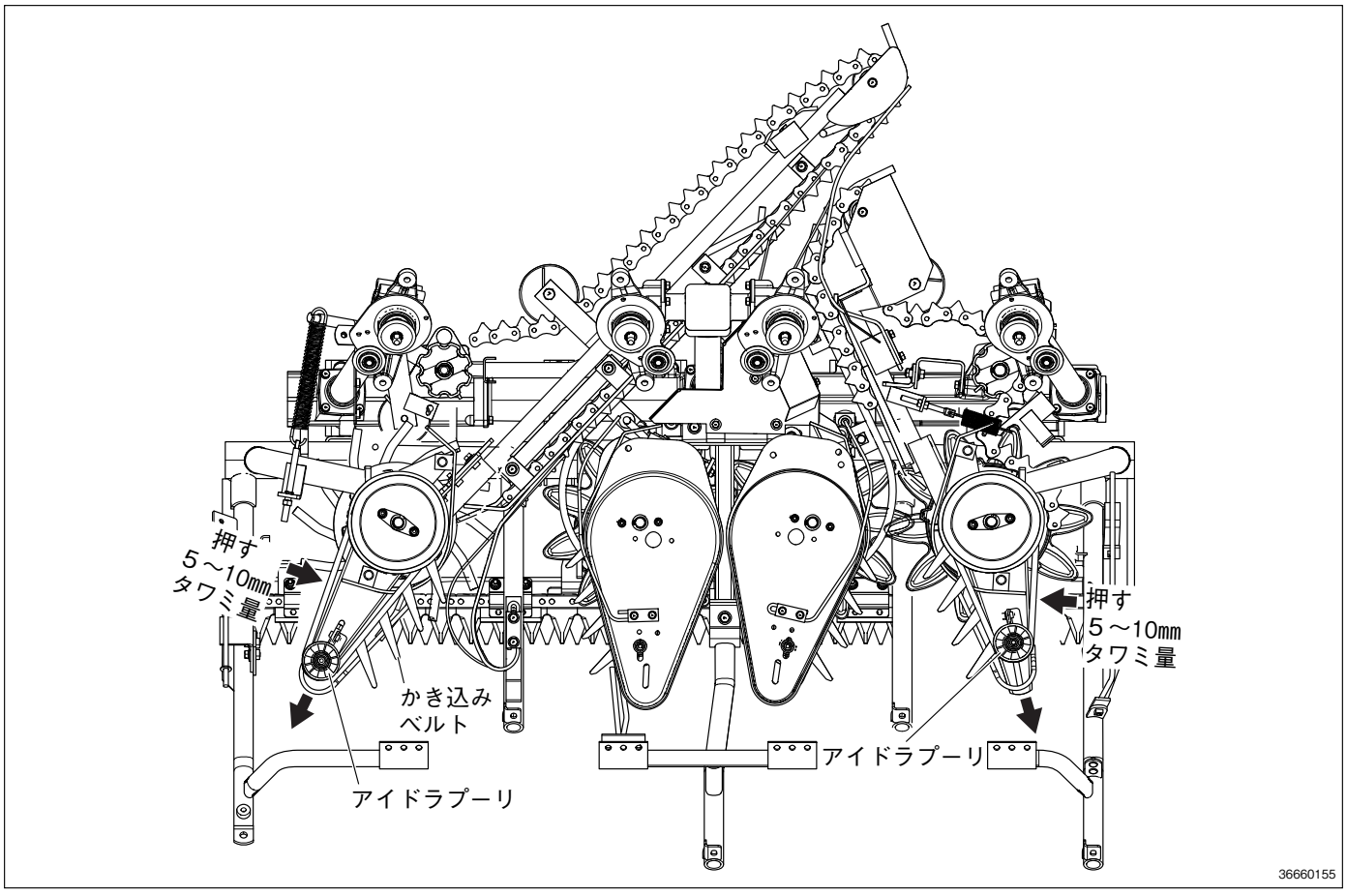
❷ 調整

⑴ 刈取部サイドカバー（右），（左）を外します。

⑵ アイドラプーリのロックナットをゆるめてアイドラプーリで調整します。

⑶ 調整後，刈取部サイドカバー（右），（左）を取付けます。





10. 脱こく入力ベルト

❶ 点検

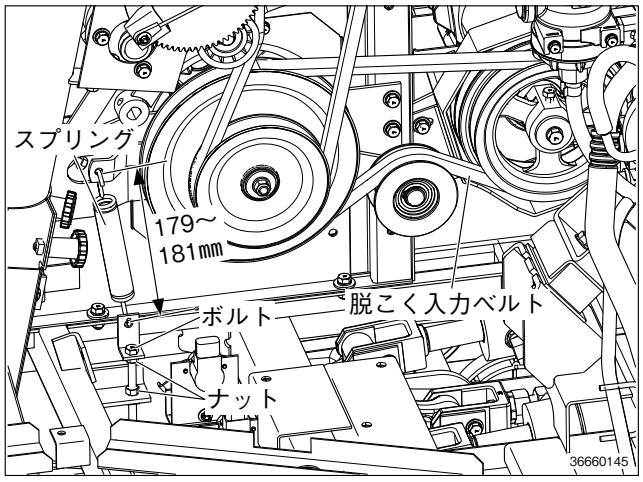
スプリング長さが 179～181㎜ になっていますか。

❷ 調整

⑴ グレンタンクを開いてストッパを掛けます。（116ページ参照）

⑵ ボルトのロックナットをゆるめて，スプリング長さを調整します。

⑶ グレンタンクを閉じます。（116ページ参照）



11. こぎ胴伝動ベルト

❶ 点検

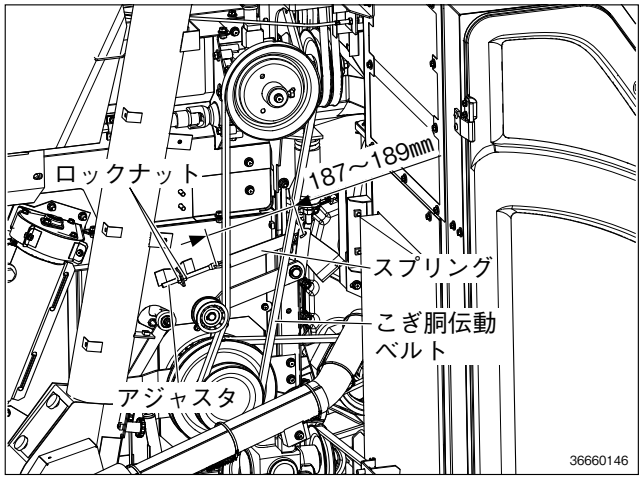
スプリング長さが 187～189㎜ になっていますか。

❷ 調整

⑴ グレンタンクを開いてストッパを掛けます。（116ページ参照）

⑵ アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリング長さを調整します。

⑶ グレンタンクを閉じます。（116ページ参照）



12. こぎ胴ベルト

❶ 点検

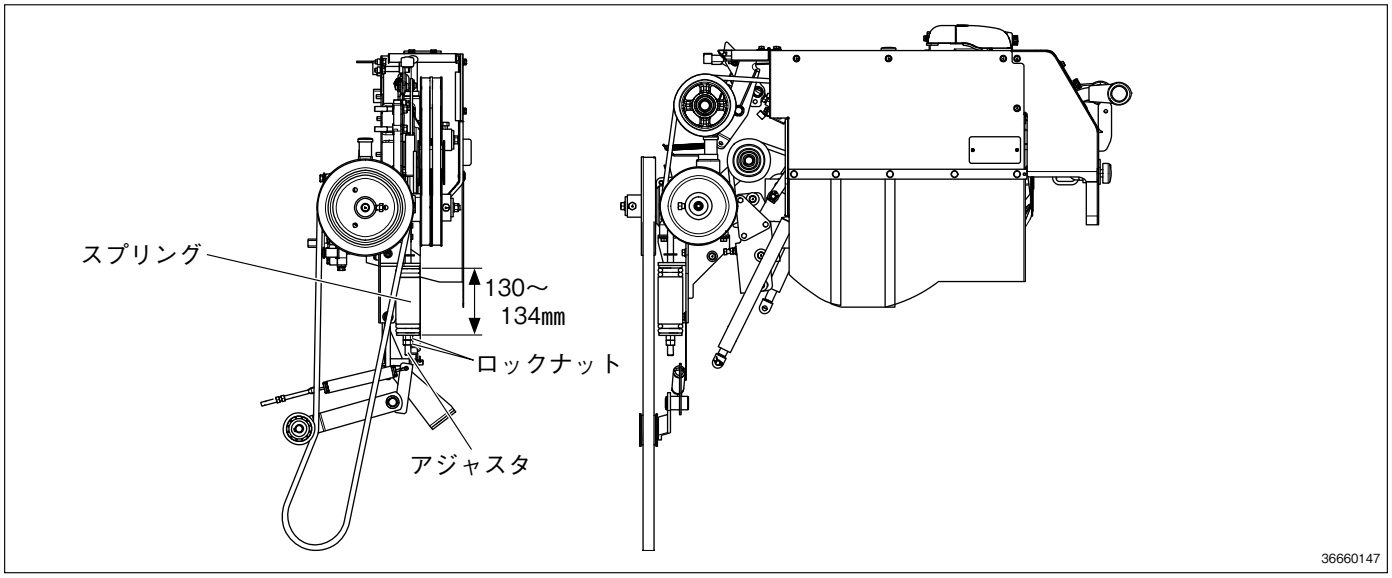
スプリングのセット寸法が 130～134㎜ になっていますか。

❷ 調整

⑴ グレンタンクを開いて，ストッパを掛けます。（116ページ参照）

⑵ アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリングのセット長さを調整します。

⑶ グレンタンクを閉じます。（116ページ参照）



13. 選別ベルト

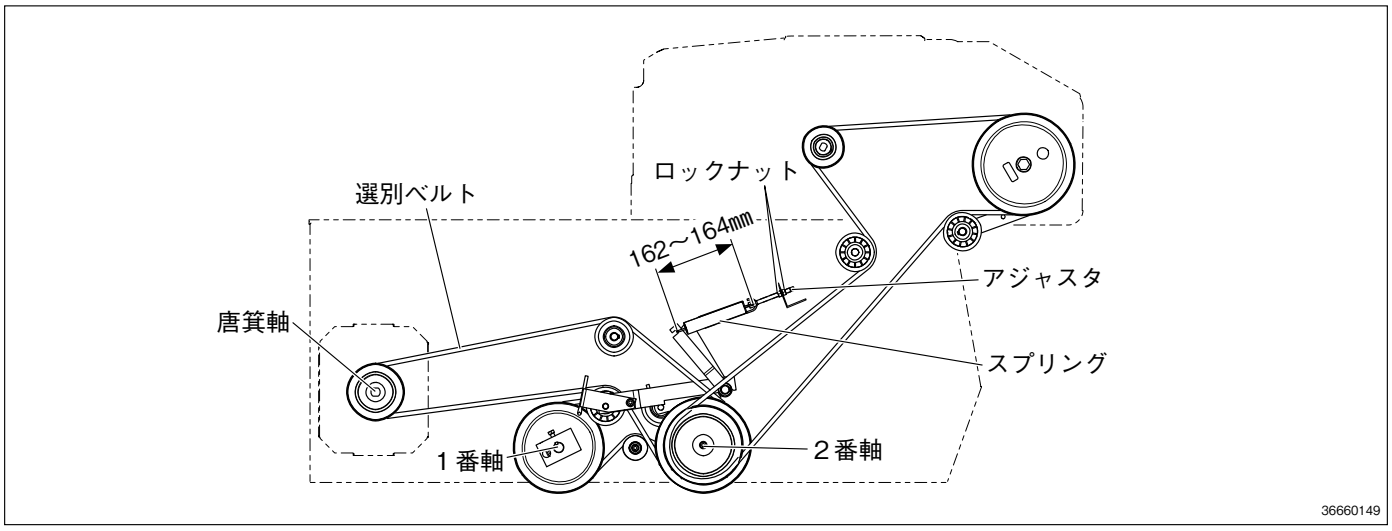
❶ 点検

スプリング長さが 162～164㎜ になっていますか。

❷ 調整

⑴ 脱こくサイドカバー（上），（下），（前）を外し，アジャスタのロックナットをゆるめてスプリング長さを調整します。

⑵ 脱こくサイドカバー（上），（下），（前）を取付けます。



14. 1番ラセン駆動ベルト

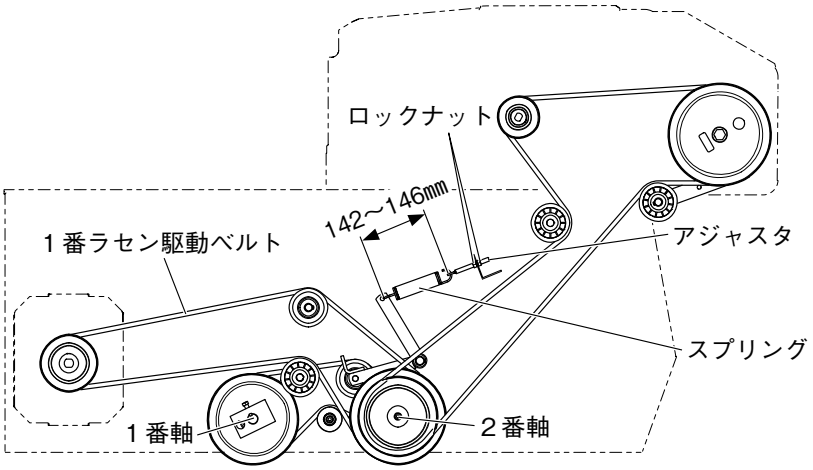
❶ 点検

スプリング長さが 142～146㎜ になっていますか。

❷ 調整

(1) 脱こくサイドカバー（上），（下），（前）を外し，アジャスタのロックナットをゆるめてスプリング長さを調整します。

(2) 脱こくサイドカバー（上），（下），（前）を取付けます。



36660150

15. 排ワラ駆動ベルト

❶ 点検

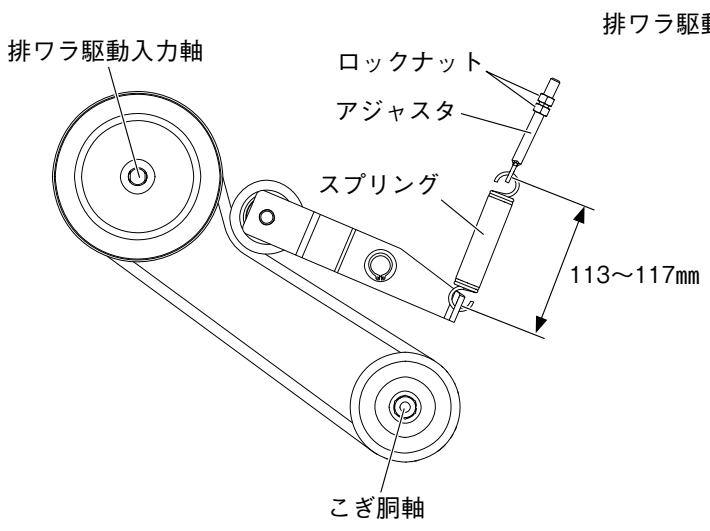
スプリング長さが 113～117㎜ になっていますか。

❷ 調整

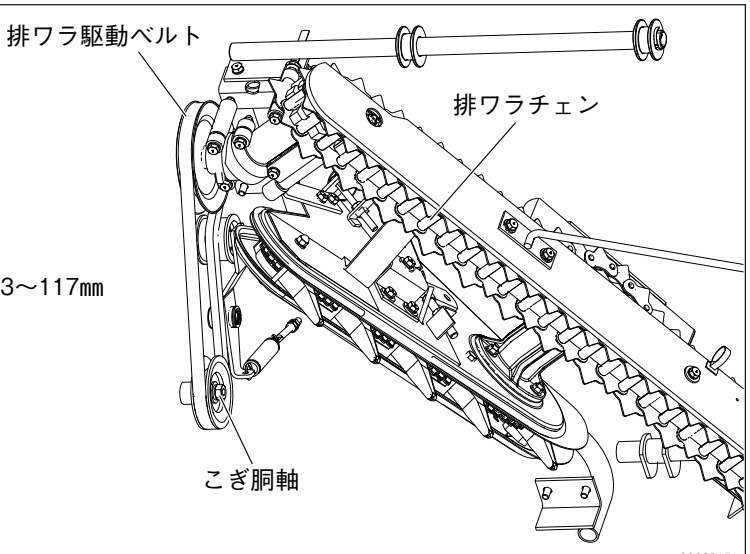
(1) こぎ胴部を開き，自動ロックをかけます。（117～118ページ参照）

(2) アジャスタのロックナットをゆるめてスプリング長さを調整します。

(3) 作業後，こぎ胴部を閉じます。



36660152



36660151

16. カッタベルト

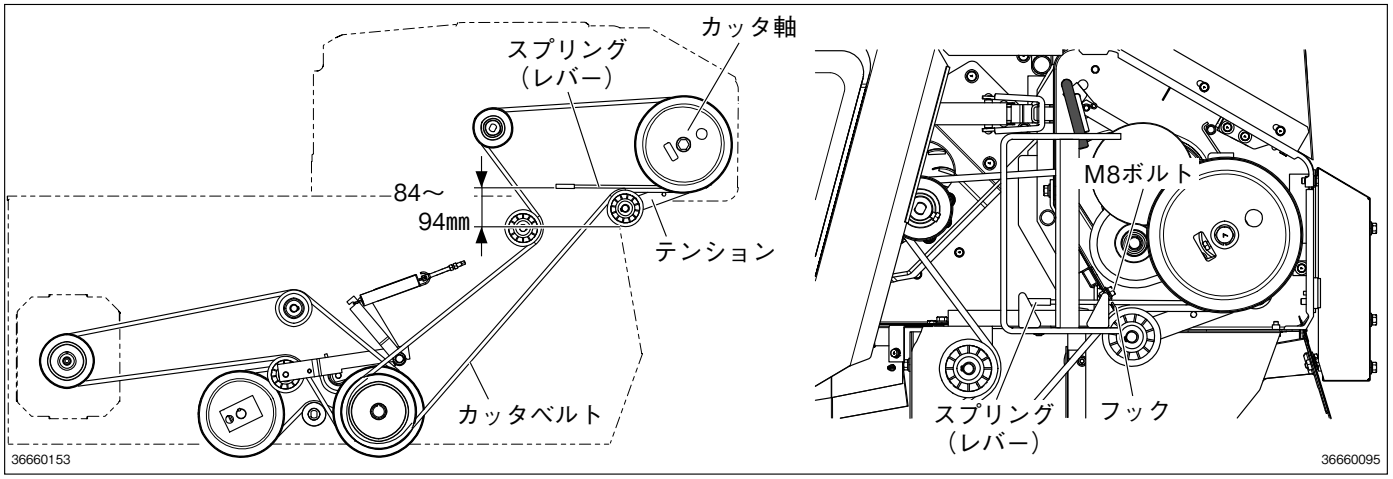
❶ 点検

図示位置のスプリングとテンションプレートの寸法が 84～94㎜ になっていますか。

❷ 調整

⑴ カッタサイドカバーを外しフック部の金具のＭ８ボルトをゆるめて調整します。

⑵ 作業後，カッタサイドカバーを取付けます。



17. グレン入力ベルト

❶ 点検

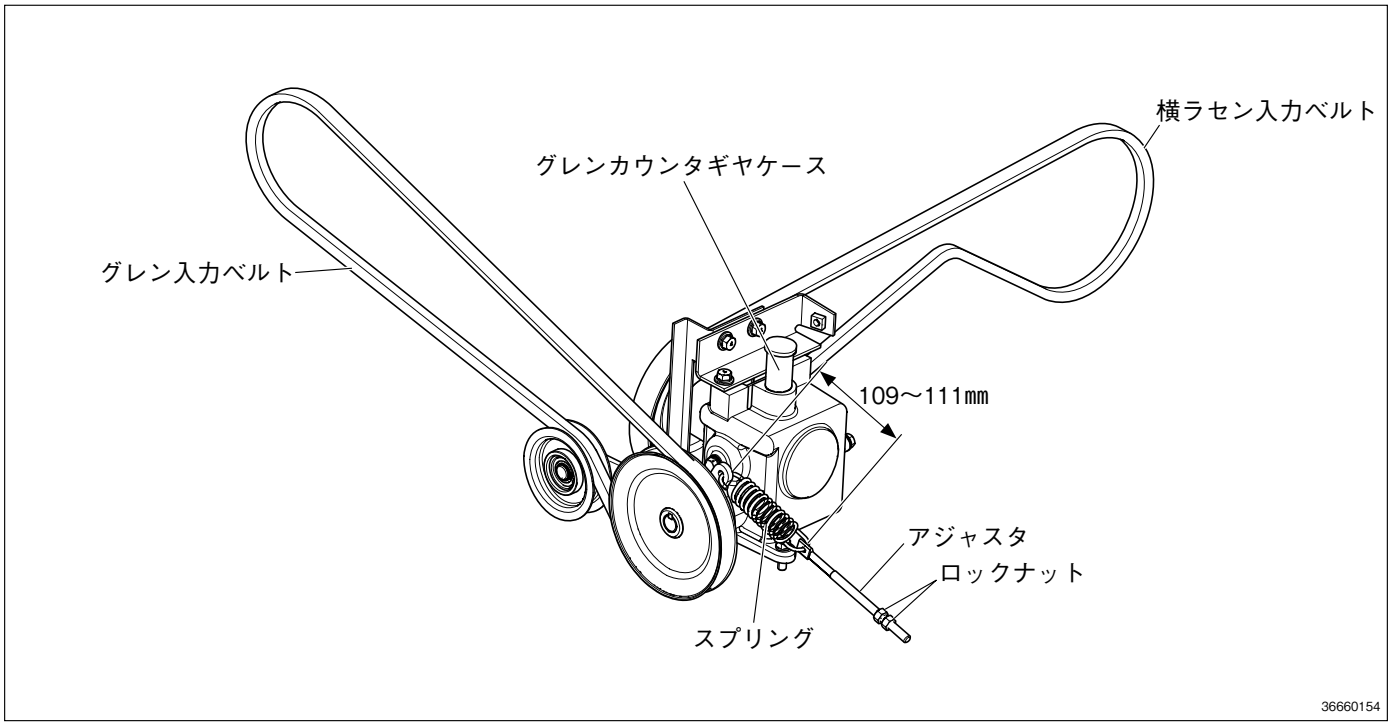
※グレン入力ベルトはグレンタンクを開くと見ることができます。(116ページ参照)

スプリングの長さが 109～111㎜ になっていますか。

❷ 調整

⑴ ナットをゆるめて，アジャスタを調整します。

⑵ グレンタンクを閉じます。(116ページ参照)



「チェンの点検・調整」

取扱いのポイント

●調整ができなくなったら，新しいチェンに交換してください。チェンを新しいものに交換した場合は，スプリングの寸法を，正規な寸法に調整してください

18. 株元搬送チェン（左）

❶ 点検

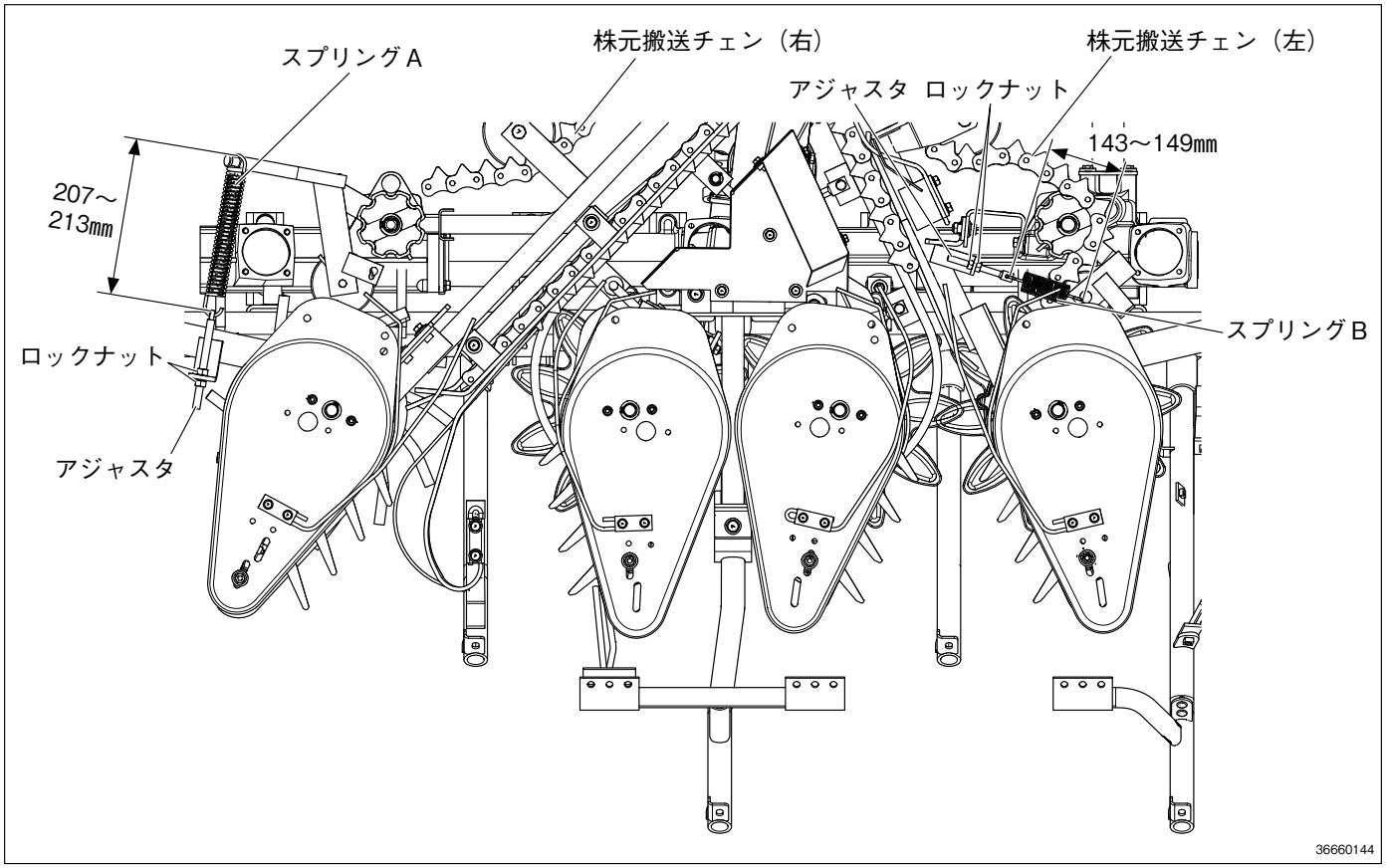
スプリング長さが 143～149㎜ になっていますか。

❷ 調整

⑴ 刈取部サイドカバー（左）を外します。

⑵ ロックナットをゆるめ，アジャスタ部で調整します。

⑶ 作業後刈取部サイドカバー（左）を取付けます。



19. 株元搬送チェン（右）

❶ 点検

スプリング長さが 207～213㎜ になっていますか。

❷ 調整

⑴ 刈取部サイドカバー（右）を外します。

⑵ ロックナットをゆるめ，アジャスタ部で調整します。

⑶ 作業後刈取部サイドカバー（右）を取付けます。

20. こぎ深さ搬送チェン

❶ 点検

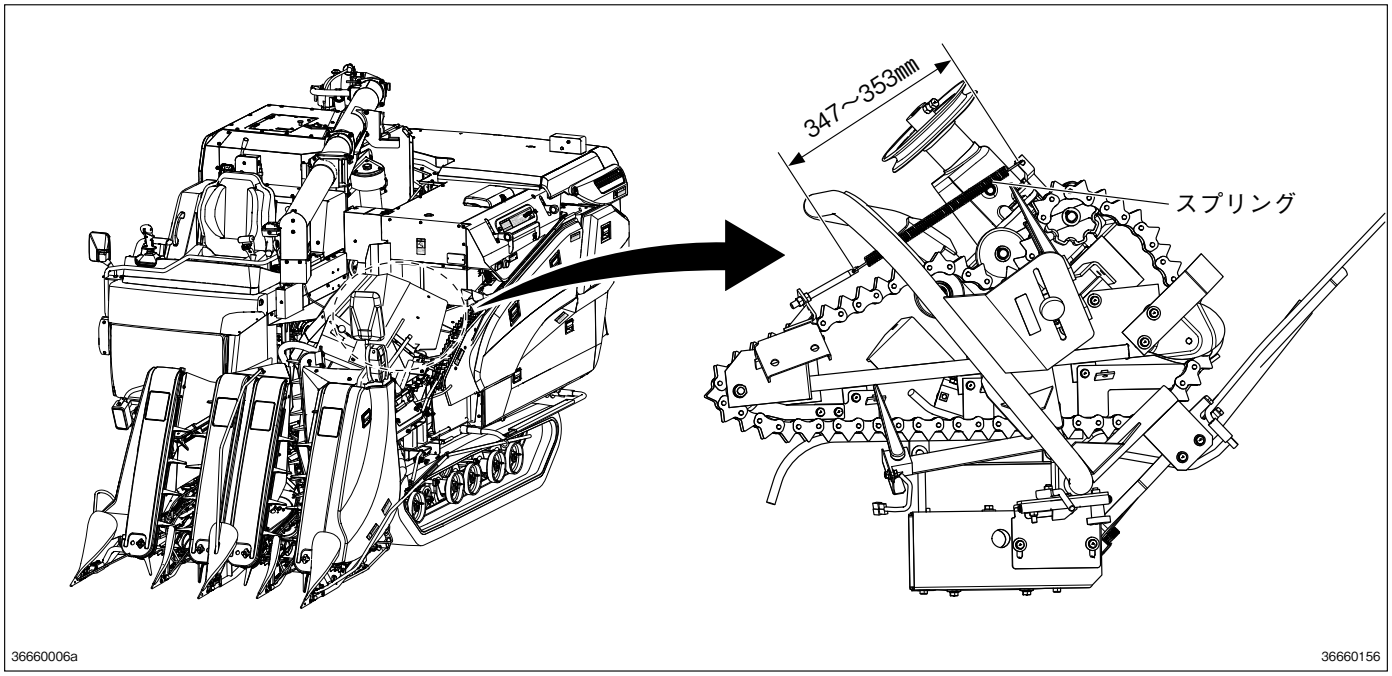
スプリング長さが 347～353㎜ になっていますか。

❷ 調整

⑴ 搬送カバーを外します。（ボルト５本）こぎ深さ自動スイッチで《**浅こぎ**》の状態にします。

⑵ 刈取部の前側からアジャスタのロックナットをゆるめて，スプリング長さを調整します。

⑶ 作業後，搬送カバーを取付けます。



21. 穂先搬送チェン

❶ 点検

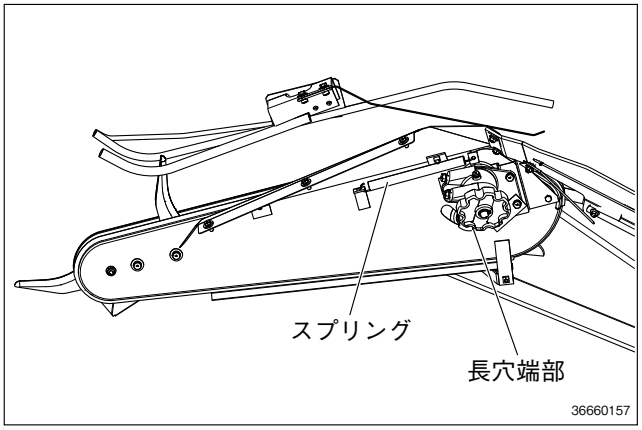
テンションが長穴端部に当たっていませんか。

❷ 調整

⑴ 搬送上カバーを外します。

⑵ 下側から点検し，テンション軸が長穴端部に当たっていればチェンを交換します。

⑶ 作業後搬送カバーを取付けます。



22. かき込み搬送チェン

❶ 点検

「右上，左上」

各々のⒶ部を手で軽く引いたとき，タワミ量が 3～5㎜ になっていますか。

「右下，左下」

テンション軸が長穴端部に当っていませんか。

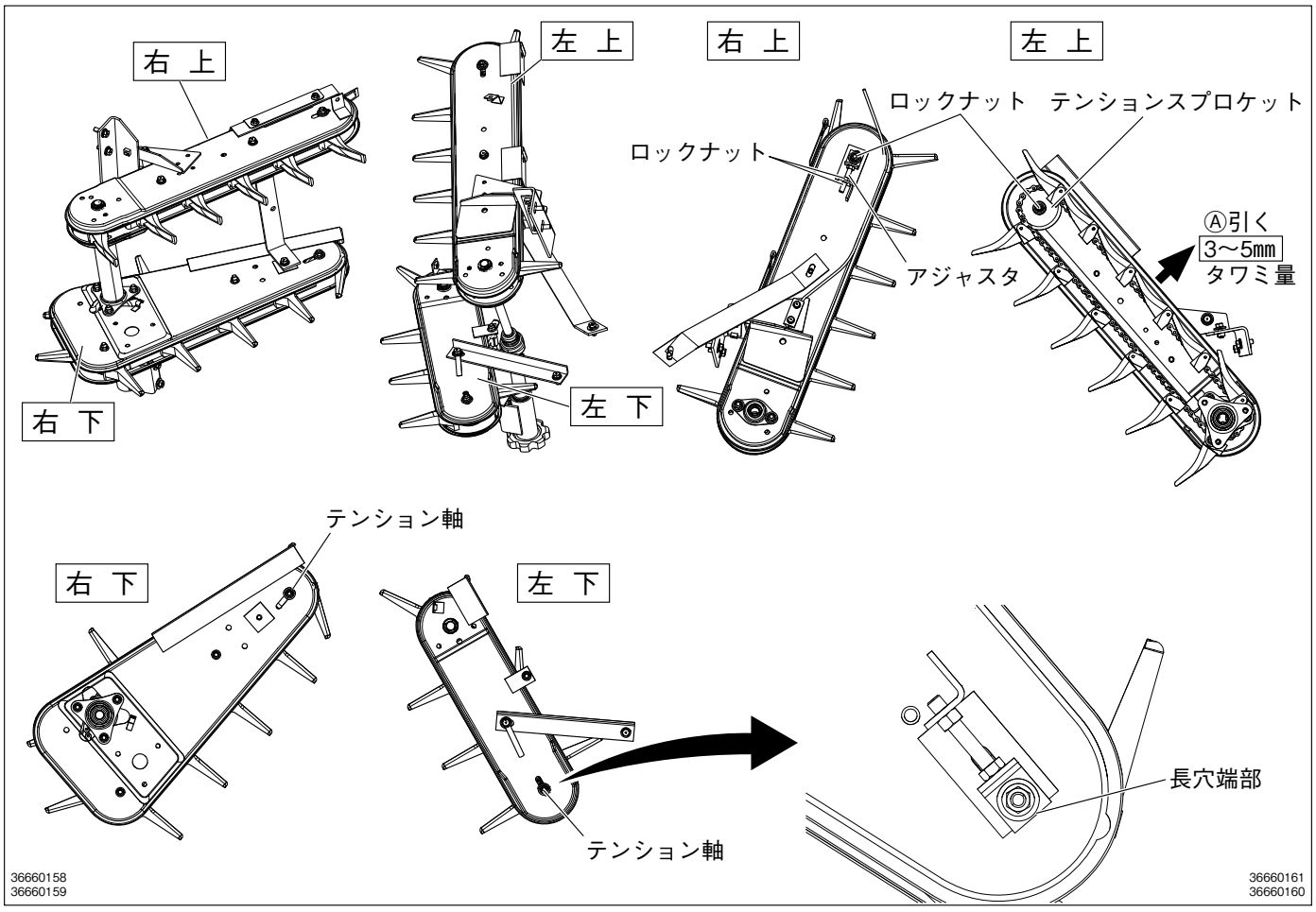
❷ 調整

「右上，左上」

テンションスプロケットのロックナット（表，裏）をゆるめて，アジャスタで調整し，ロックナット（表，裏）を締付けます。

「右下，左下」

テンションが長穴端部に当っていればチェンを交換します。



23. 脱こくフィードチェン

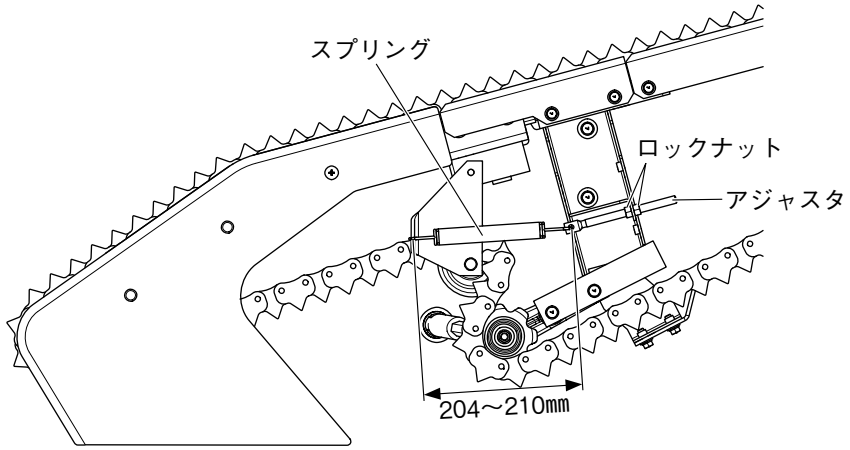
❶ 点検

スプリング長さが 204～210㎜ になっていますか。

❷ 調整

⑴ 脱こくサイドカバー（上),（下）を外し，アジャスタのロックナットをゆるめてスプリング長さを調整します。

⑵ 作業後脱こくサイドカバー（上),（下）を取付けます。



36660162

24. 穂先排ワラチェン

❶ 点検

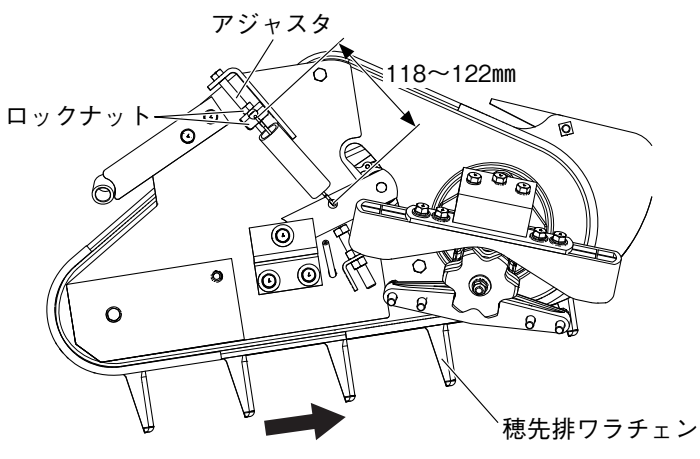
スプリング長さが 118～122㎜ になっていますか。

❷ 調整

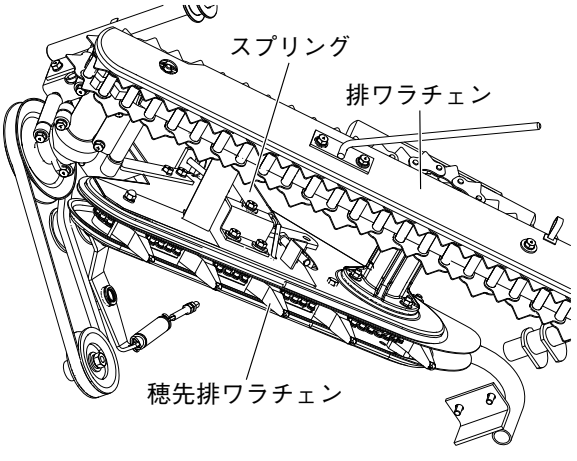
⑴ こぎ胴部を開き，自動ロックをかけます。（117～118ページ参照）

⑵ アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリング長さを調整します。

⑶ 作業後こぎ胴部を閉じます。



36660164



36660163

25. 排ワラチェン

❶ 点検

(1) こぎ胴部を開き，自動ロックをかけます。（117～118ページ参照）

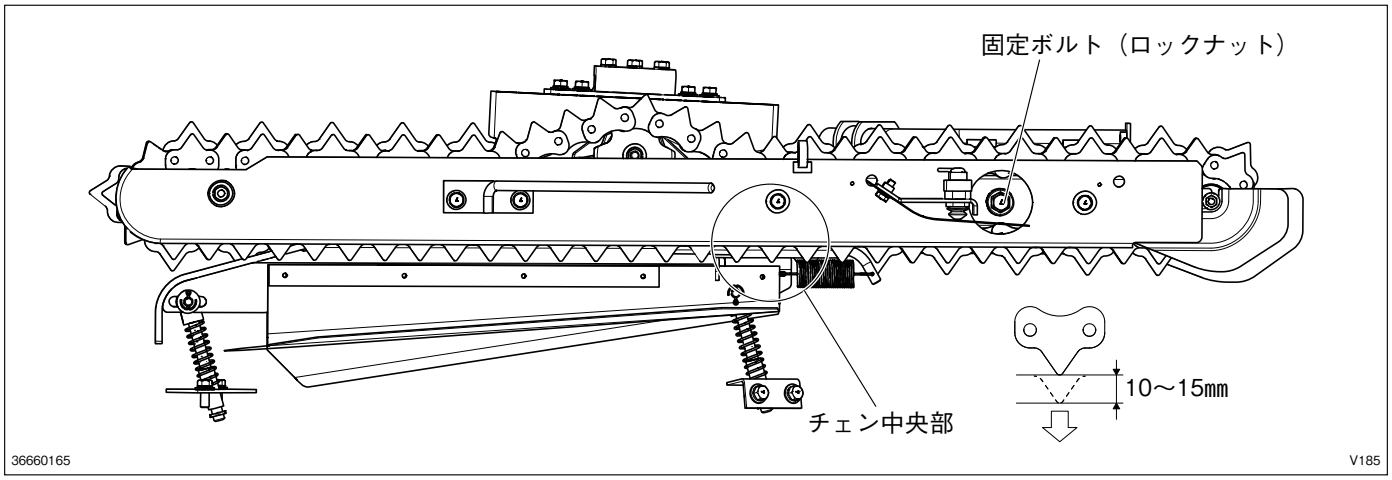
(2) チェンの中央部のタワミ量が 10～15㎜ になっていますか。

❷ 調整

(1) カッタサイドカバーを取外し，カッタを開いて，ストッパを掛けます。(118～119ページ参照)

(2) ロックナットをゆるめた後，固定ボルトをゆるめると自動的にチェンの張り調整ができます。調整後，固定ボルトを締付けロックナットで固定します。

(3) 作業後カッタを閉じ，カッタサイドカバーを取付けます。



26. カキコミ軸駆動チェン

❶ 点検

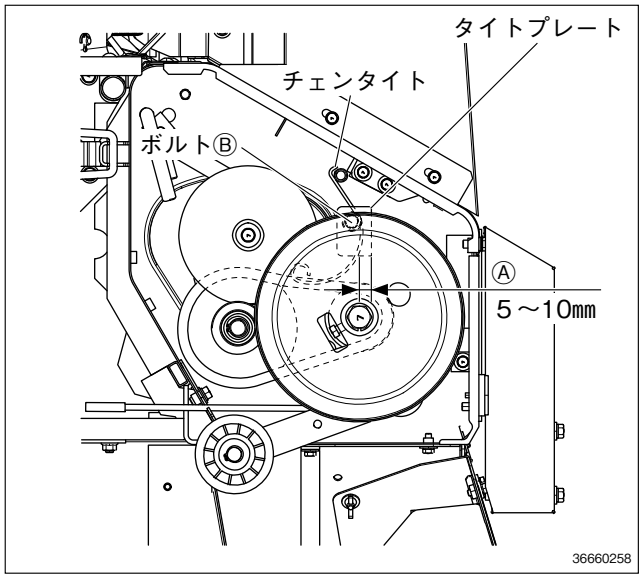
カッタサイドカバーを外します。

(1) タイトプレートとチェンタイトのすき間Ⓐは 5～10㎜ ですか。

❷ 調整

(1) ボルトⒷをゆるめてタイトプレートを動かしてⒶ寸法を調整します。

(2) カッタサイドカバーを取付けます。



「クローラの点検・調整」

27. クローラ

クローラの点検・調整は「**お買いあげ先**」に依頼してください。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆ガレージジャッキがめり込んだり，移動したりしない，平坦な場所で行なってください。
◆ガレージジャッキは，２ｔ以上の仕様のものを使用してください。
◆ジャッキアップ（上げ・下げ）は，機体のバランスを確認しながらゆっくり行い，必要以上の高さに上げないでください。
◆ジャッキアップしたら，固定脚または安全ブロックを噛ませて，落下・転倒防止をしてください。
◆ジャッキアップされた機械の下に，入らないでください。

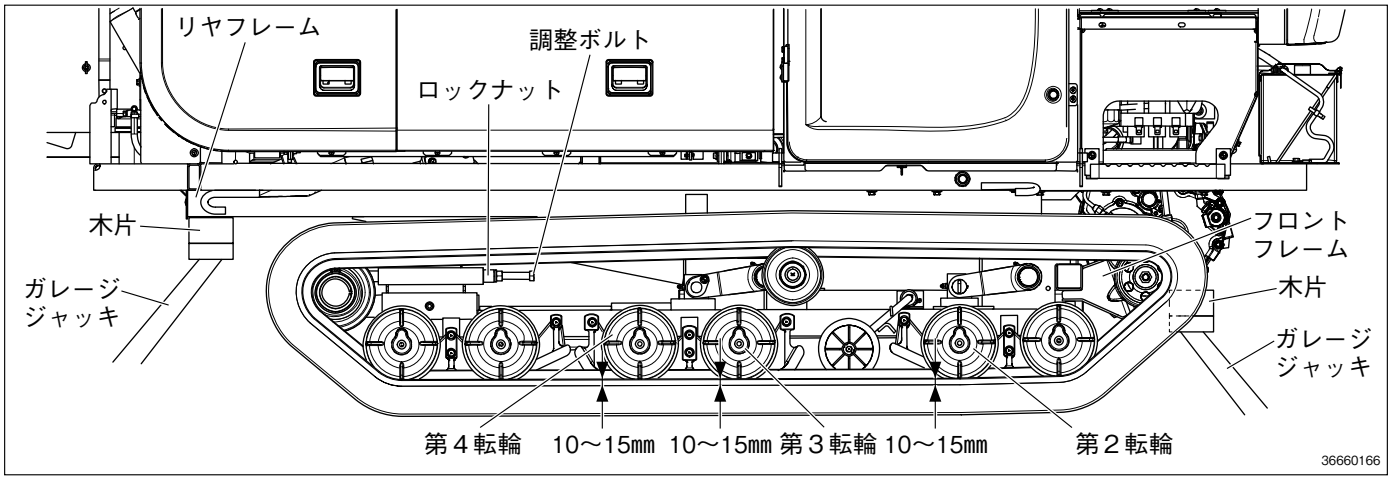
❶ 点検

⑴ 図示のように，トランスミッション部とリヤフレーム部の右または左側に木片を介し，ガレージジャッキでジャッキアップし，片方のクローラを浮かせます。

⑵ クローラ下面を地面から浮かせた状態で，第３転輪および第４転輪とクローラのタワミ量が 10～15㎜ になっていますか。

❷ 調整

⑴ 調整ボルトのロックナットをゆるめ，調整ボルトを締込んで，第３転輪および第４転輪とクローラのすき間が 10～15㎜ になるまで張ります。



取扱いのポイント

- **クローラの張り調整を行う前に，ガレージジャッキを掛ける部分や，クローラ回りに付着しているワラ泥などを取除いてください。**
- **トランスミッションケースに直接ガレージジャッキを掛けると，ケースが破損する恐れがありますので，行なわないでください。**

「刈刃の調整」

28. 刈　　刃

⚠警告 傷害事故防止のために

◆刈刃の着脱作業をするときは，厚手の手袋をして行なってください。刈刃は内側のボルトを外してから，外側のボルトを外してください。

◆刃部に手をかけないでください。刈刃が動いて怪我をすることがあります。

◆刈刃の点検調整するときは，刈取部を上げ，油圧固定スイッチを《油圧固定》位置にして，フックをかけ，刈取部の下に固定脚などを入れて作業してください。

⚠注意 傷害事故防止のために

◆刈刃の着脱作業をするときは，２人作業で合図を掛合って行ってください。

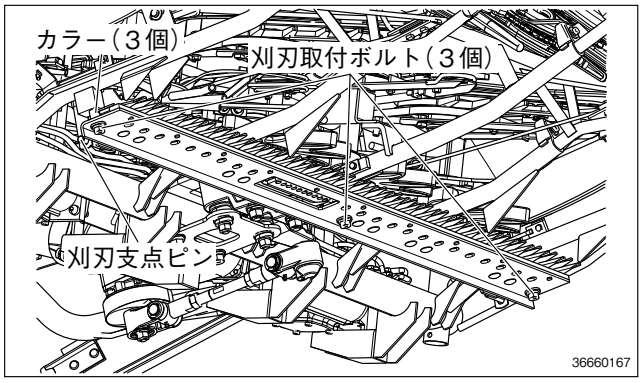
❶ 刈刃の回動

・刈刃は，手入れをしやすくするため，刈刃支点ピンを軸にして，回動します。

⑴ エンジンを始動し，マルチステアリングレバーを操作して刈取部を上げます。

⑵ エンジンを停止し，油圧固定スイッチを《**油圧固定**》位置にして，刈取部の下に固定脚などを入れます。

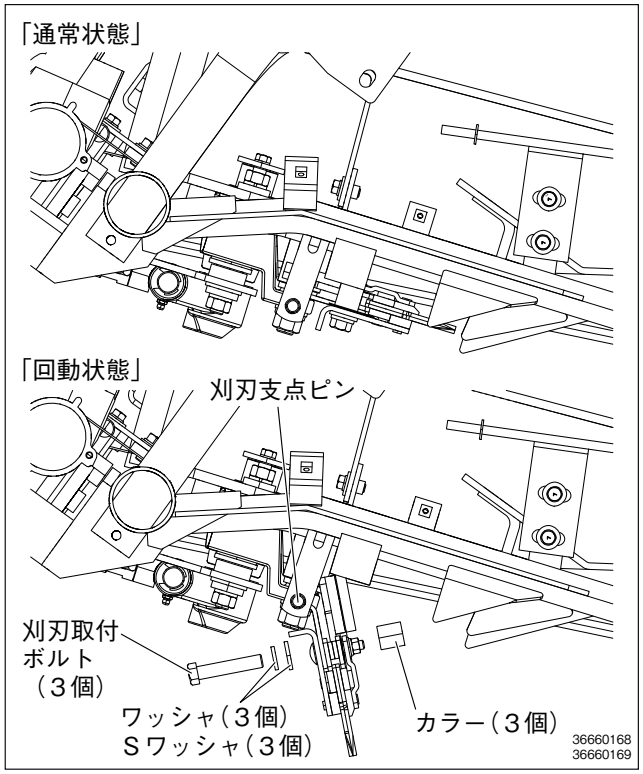
⑶ 刈取部の下方から刈刃部を見ると，下図のような取付け状態になっています。



⑷ 内側の刈刃取付ボルト３箇所のうち，内側のボルト１箇所を取外します。

⑸ 刈刃組品を手で支えながら，外側の刈刃取付ボルト（２個）を取外します。（２人作業）

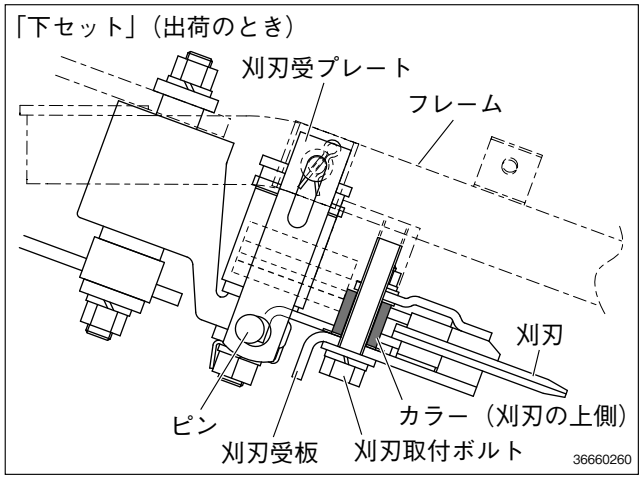
※刈刃取付ボルトには，それぞれワッシャとカラーがついています。そのワッシャとカラーも取外します。



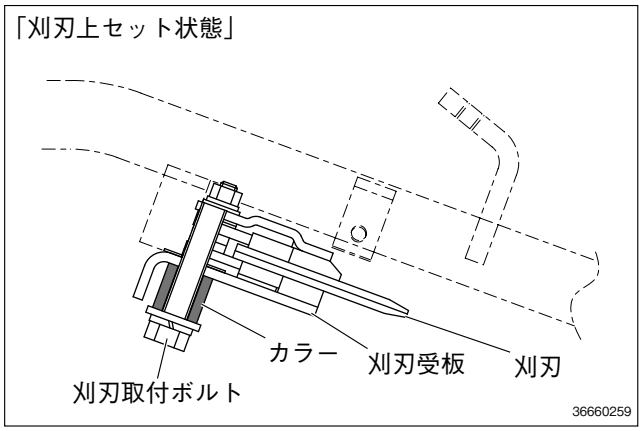
⑹ 刈刃組品を支えながら，ゆっくり降ろし刈刃を回動します。

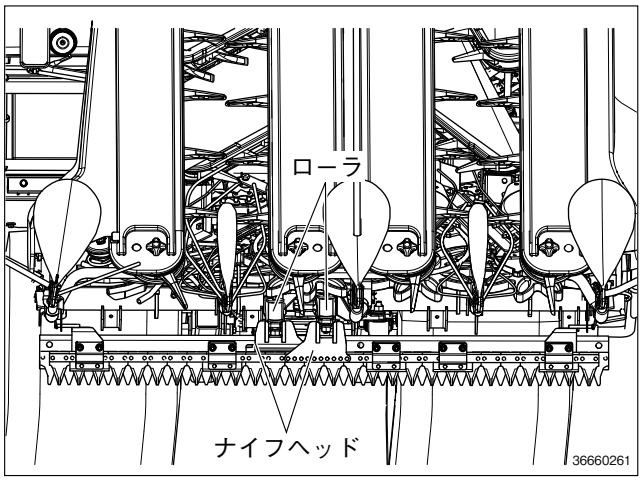
❷ 刈刃の上下調節

・出荷のときは「下セット」になっています。



うね栽培の麦刈りの場合および刈刃が土をかむことが多い刈取り時は，カラーを入替えて刈刃を「**上セット**」にします。





⑴ 組付けるときは，ナイフヘッドとローラを合わせながら左（または右側）のカラーを刈刃の下側にし，取付ボルトで仮締めします。

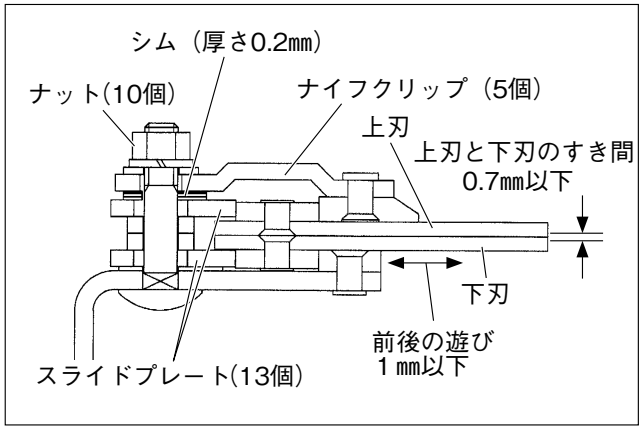
⑵ 右（または左側）のカラーを刈刃の下側にし，取付ボルトで仮締めします。

⑶ 内側のカラーも同じように取付け，３個の取付ボルトを増締めします。

❸ 刈刃の調整

⑴ 刈刃に付着している泥やワラクズを，取除きます。

⑵ ナット(10個)をゆるめ，ナイフクリップ（５個）の下側のシム（厚さ0.2㎜）で，上刃と下刃のすき間が0.7㎜以下になるように調整します。



⑶ 上刃，下刃の前後の遊びが１㎜以下になるように，ナイフクリップとスライドプレートの位置を調整し，ナットを締付けます。

⑷ 上刃，下刃共スムーズ（147N {15kgf} 程度）に作動することを確認します。

取扱いのポイント

- **１日の作業終了後には，刈刃に付着している泥やワラクズなどを取除き，注油をしてください。**
- **刈跡が揃わなくなったりした場合は，刈刃に注油をし，刈刃の調整または交換してください。**

長期格納のしかた

・シーズンが終わったら，次の作業をして格納します。

⚠警告 火災や傷害事故防止のために

◆回転部・刈取部（刈刃）などに付着した泥・ゴミ・ワラクズを取除くときは，エンジンを停止して，各部の動きが止まってから行なってください。

◆電気配線およびバッテリ⊕コードが損傷していると，ショートや漏電で火傷や損傷することがあります。点検し，傷んだ配線は交換，修理してください。

◆燃料ホースの，油圧ホースの劣化や，傷による漏れなどがあると火災の原因になります。作業前や作業後に点検し，傷や漏れがあれば交換してください。

◆エンジン，マフラ，燃料タンク，バッテリ周囲のワラクズを取除いてください。火災の原因となることがあります。

◆高圧洗車機の使用方法を誤ると人をケガさせたり，機械を破損・損傷・故障させることがありますので，高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って，正しく使用してください。

◆機械にシートカバーをかけるときは，エンジンが冷えてから行なってください。
エンジンが熱いときに，シートカバーをかけると火災の原因になることがあります。

1．機械の掃除と洗浄

❶ 泥・ワラクズ・雑草などを取除き，汚れをきれいに水洗いし，乾いた布で拭き取ります。

❷ 脱こく内部およびグレンタンクのゴミ・残留こく粒などを，掃除口よりきれいに取除きます。
（120～122ページ脱こく内部の掃除の項を参照）
（124～128ページ揺動流板の掃除の項を参照）
（129ページグレンタンク部の掃除の項を参照）

2．錆止めと注油

❶ 刈刃は掃除したのち，全面にグリースを塗布し錆止めをします。

❷ チェン・ワイヤ類にも注油をし，錆ないようにします。

❸ 塗装が剥げた箇所は，補修塗装を行います。

3．エンジンの手入れ

エンジンの手入れを行うときは，平坦な格納場所で駐車ブレーキをかけ，各クラッチを《**切**》にして，エンジンが冷えてから行います。

❶ エンジン回転ダイヤルを《🐢》(**低速**)，いっぱいに戻しておきます。

❷ 新しい燃料を入れ，タンクの燃料を満量にしておきます。

❸ 冬期気温が0℃以下になるときは，エンジンの凍結割れを防ぐため，冷却水を交換し，不凍液を入れます。（90～91ページ参照）

4．点検・整備

「**定期点検整備表**」の項を参考に，該当する項目について点検・整備します。
（83～84ページ参照）

⚠注意 傷害事故防止のために

◆機械を損傷させないように洗浄ノズルを拡散にし，2m以上離して洗車してください。もし，直射にしたり，不適切に近距離から洗車すると，

1．電気配線部被覆の損傷・断線により火災を引き起こすおそれがあります。

2．ホースの破損により，油・燃料が噴出して傷害を負うおそれがあります。

取扱いのポイント

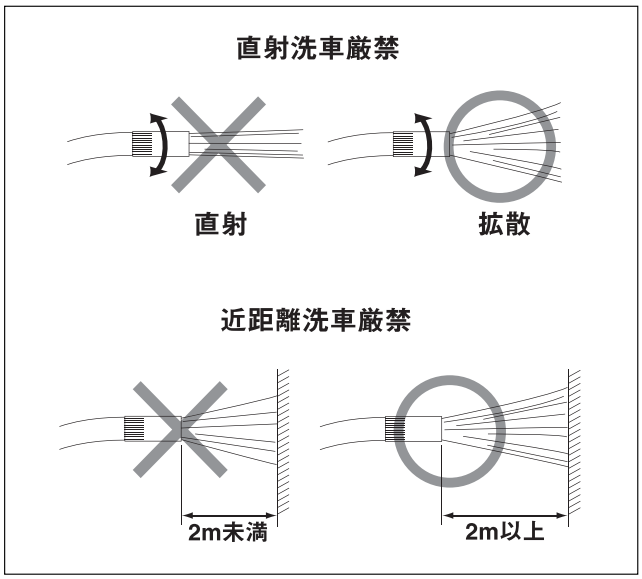
- **エンジン部・脱こく部・運転操作部・電装部には，水をかけないでください。誤って水がかかりぬれた場合は，ただちに水分を除去してください。**
- **機械の破損・損傷・故障の原因になります。**

例）⑴シール・ラベルの剥がれ

⑵電装部品，エンジン，ラジエータ，キャビン内などへの侵入による故障

⑶クローラ，オイルシールなどのゴム類，樹脂類，ガラスなどの破損

⑷塗装，メッキ面の皮膜剥がれ



5．格　納

機体の掃除・点検・整備を終えたら，風通しのよい乾燥した屋内を選び，シートをかけて保管します。

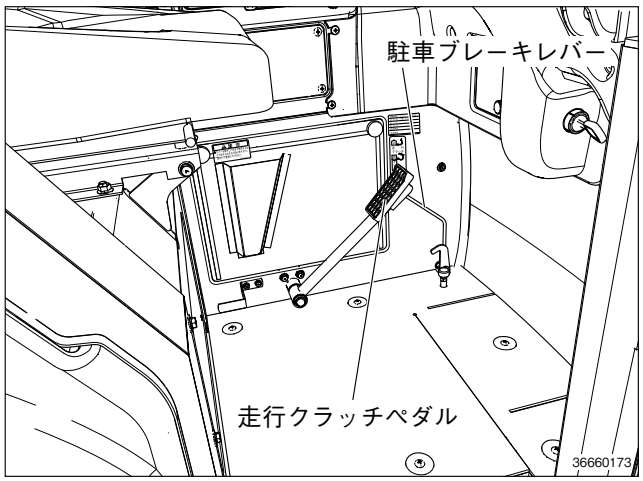
❶ 「**クローラ**」の下には板などを敷いておきます。

❷ 各レバーは《**切**》・《**中立**》の位置にします。

❸ 「**ナローガイド（左）**」を収納し，デバイダ先端に「**バンパ**」を取付けておきます。

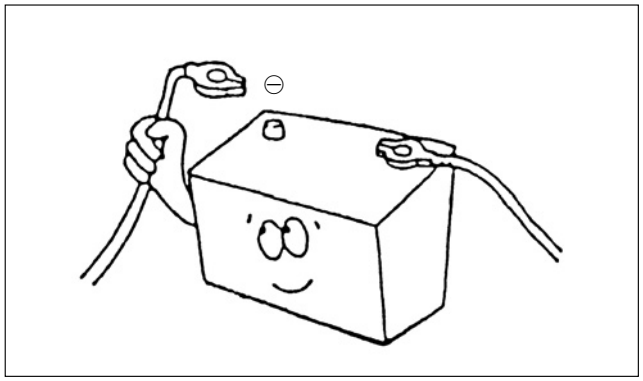
❹ 刈取部を下げて，スタータスイッチの「**始動キー**」を抜取ります。

❺ 走行クラッチペダルに駐車ブレーキレバーをかけます。



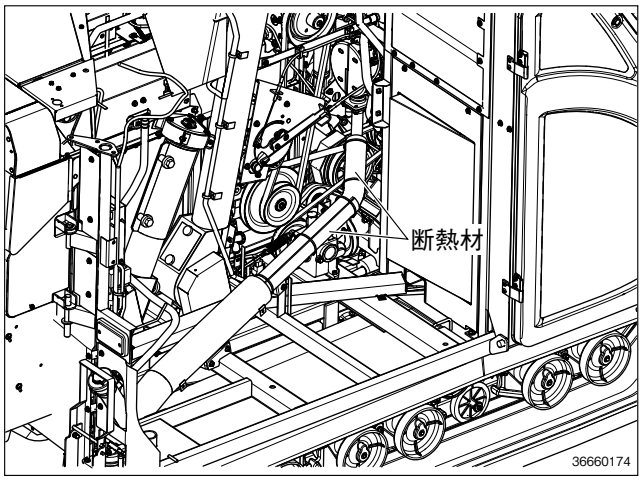
❻ クローラに「**車止め**」をします。

❼ 「**バッテリ**」は取外して，日陰の乾燥した場所に保管するか、⊖側のコードを外しておきます。1ケ月に1回，バッテリ補充電のため，エンジンを約10分間回します。



取扱いのポイント

- **錆の発生を防止するため，塩分の強い貯蔵物や肥料と，同じ場所に格納するのは避けてください。**
- **マフラ部断熱材の損傷（破れ, 剥れ）を確認し，損傷の場合は火災の原因となりますので「お買いあげ先」にて交換してください。**



6．再使用にあたって

格納後，初めて使用するときには，各部の点検を入念に行なった後に運転します。

❶ エンジンを回す前に，バッテリターミナルなど，保管するときに処置した項目を正しく復元します。

❷ 始業点検，注油を確実に行います。

不調時の処置

・不調が発生したら，直ぐにその原因を調べて処置をし，故障を大きくしないようにします。
・原因がわからないときや修理調整しても再発するときは，「**お買いあげ先**」に相談し点検を受けます。
・そのときは，「**型式名**」，「**機械番号（製造番号）**」，「**エンジン番号**」を合わせてお知らせください。

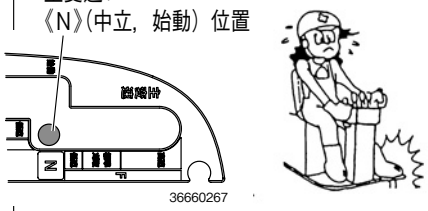
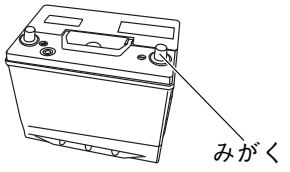
⚠警告 傷害事故防止のために

◆掃除・点検・調整は，機械を平坦な場所に置いて，駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止して，各部の動きが止まってから行なってください。点検処置は，参照ページの安全上の項目をよく読んでから行なってください。
◆ソレノイドバルブの操作をするときは,機械の周囲に人がいないことを確認してから行なってください。
◆調整を必要とするバルブ以外は，操作しないでください。他のバルブを操作すると，不意に他の装置が動いて事故になることがあります。

⚠注意 傷害事故防止のために

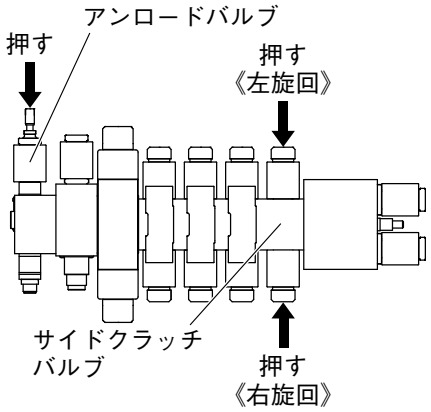
◆外したカバー類は全て元の位置に取付けてください。

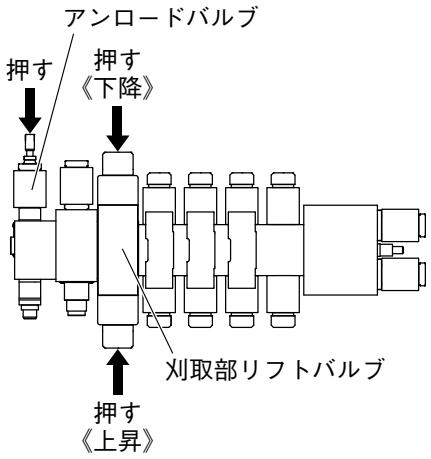
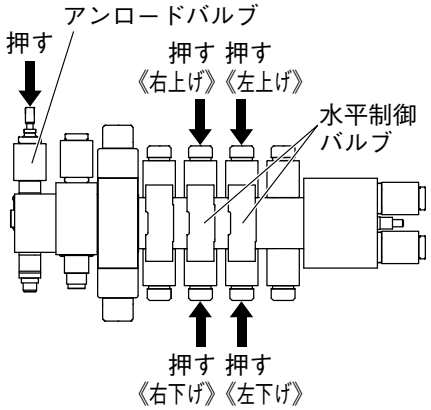
1．エンジン部

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
セルモータが回らない	❶ 主変速レバーを《**N**》(**中立，始動**）位置にしていない。 クラッチペダルをいっぱい踏込んでいない。 こく粒排出レバーを《**切**》にしていない。	●主変速レバーを《**N**》(**中立，始動**）位置にし，走行クラッチペダルをいっぱい踏込みます。 こく粒排出レバーを《**切**》にします。 	31
	❷ バッテリターミナルのゆるみ。（接触不良）	●ターミナル部をよくみがき締付けます。 	109
	❸ バッテリヒューズが切れている。	●配線の短絡箇所を点検し，修正後，バッテリヒューズ（100A）を交換します。	106～108
	❹ バッテリが放電している。	●バッテリを充電します。	109～115
	❺ 《**スタータ**》ヒューズ,《**キースイッチ**》ヒューズ,《**E/Gメイン**》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 スタータヒューズ……30A キースイッチヒューズ……40A E/Gメインヒューズ……20A	106～108

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
セルモータは回るが始動しない	❶　燃料タンクに燃料がない。	●燃料を補給し，エア抜きをします。（ディーゼル軽油……42Ｌ）	87 103～105
	❷・燃料系統にエアが入っている。 ・フィルタにエアが溜まっている。	●エア抜きをします。	103～105
	❸　《**E/Gマイコン**》ヒューズが切れているため，燃料ポンプが作動しない。	●E/Gマイコンヒューズ(10Ａ)を交換します。	106～108
	❹　燃料コックが「**閉**」のままになっている。	●燃料コックを開ける。	104
エンジンの馬力が出ない，または自然に止まる	❶　燃料系統に水・ゴミの混入	●燃料系統の点検・掃除をします。 ●燃料フィルタを交換します。	103～105
	❷　エアクリーナの目詰まり。	●掃除またはエアクリーナエレメントを交換します。	102
	❸　エンジンオイルの不良(汚れ)または不足	●指定のオイルを補給または交換します。	88～89
	❹　冷却水の不足	●冷却水を補給します。	89～91
	❺　エンジンファンベルトのゆるみ。	●ファンベルトを調整します。	145
	❻　DPFにPM（ススなど粒子状物質）が堆積している。	●手動再生処理をします。	32～33
刈取走行するとエンジンが停止すると同時に倒伏刈ランプ点滅し，ホーン吹鳴	《**搬送**》ヒューズが切れている。	●搬送ヒューズ（20Ａ）を交換します。	106～108
刈取りクラッチを入れるとエンジンが停止すると同時にホーン吹鳴	❶　カッタ切替板が開いている。	●切替板を閉じます。	119
	❷　手こぎ緊急停止スイッチが《**停止**》にセットされている。	●手こぎ緊急停止スイッチを《**運転**》にセットします。	64～65

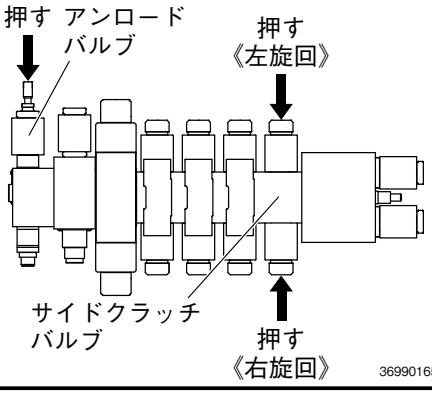
2. 走行・運転操作部

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
主変速レバーを操作しても走行しない	❶ 副変速レバーが《**N**》(**中立**)位置になっている。	●条件に合わせ《**標準**》または《**走行**》位置にセットします。	22
	❷ 油圧オイルタンクのオイル不足	●規定量まで油圧作動油を補給します。	91～92
マルチステアリングレバーを操作しても旋回しない	❶ 《**操向**》ヒューズまたは《**マイコン**》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 操向ヒューズ……10A マイコンヒューズ……10A	106～108
	❷ 油圧バルブへのゴミ噛み。  	●各操作レバーを《**中立**》にしてエンジンを始動します。アンロードバルブを押しながら，サイドクラッチバルブの《**右旋回**》および《**左旋回**》の手動プッシュを数回押すと，ゴミ噛みが解消する場合があります。(バルブユニットは運転席ステップの下にあります。)	―
	❸ 副変速レバーのスピンドライブターンが確実に切替っていない。	●確実に切替えます。	22

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
マルチステアリングレバーを操作しても刈取部が上昇または下降しない	❶ **《操向》**ヒューズまたは**《マイコン》**ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 操向ヒューズ……10A マイコンヒューズ……10A	106〜108
	❷ 油圧バルブへのゴミ噛み。  	●各操作レバーを**《中立》**にしてエンジンを始動します。アンロードバルブを押しながら，刈取部リフトバルブの**《上昇》**および**《下降》**の手動プッシュを数回押すと，ゴミ噛みが解消する場合があります。（バルブユニットは運転席ステップの下にあります。）	ー
	❸ 油圧固定スイッチが**《油圧固定》**位置になっている。	●油圧固定スイッチを**《作業時》**位置にします。	15
水平操作レバーを操作しても作動しない 水平自動制御が作動しない	❶ **《水平》**ヒューズまたは**《マイコン》**ヒューズまたは**《操向》**ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 水平ヒューズ……10A マイコンヒューズ……10A 操向ヒューズ……10A	106〜108
	❷ 油圧バルブへのゴミ噛み。  	●各操作レバーを**《中立》**にしてエンジンを始動します。メインバルブユニットのアンロードバルブを押しながら，水平制御用バルブユニットの手動押しボタンを数回押すと，ゴミ噛みが解消する場合があります。(バルブユニットは運転席ステップの下側にあります。)	ー

3. 電気・自動制御部

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
モニタランプ・前照灯・作業灯・バックブザー・ホーンが点灯または作動しない	❶ 《ランプ・計器》ヒューズ,《作業灯・本機刈取部》ヒューズ,《作業灯・オーガキャブ》ヒューズ,《E/Gマイコン》ヒューズ,《ホーン》ヒューズ,《バックホーン》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 ランプ・計器ヒューズ……10A 作業灯・本機刈取部ヒューズ…20A 作業灯・オーガキャブヒューズ…30A E/Gマイコンヒューズ……10A ホーンヒューズ……10A バックホーンヒューズ……10A	106〜108
	❷ バッテリの放電。	●バッテリを充電・交換します。	109〜115
方向指示器が点灯しない	《フラッシャ》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 フラッシャヒューズ……15A	106〜108
こぎ深さ自動制御が作動しない	❶ 《こぎ深さ・注油》ヒューズまたは《マイコン電源》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 こぎ深さ・注油ヒューズ…30A マイコン電源……10A	106〜108
	❷ 刈取部のこぎ深センサにワラクズが溜まっている。	●ワラクズを取除きます。	—
刈高さポジションコントロールが作動しない	《リフト》ヒューズまたは《マイコン電源》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 リフトヒューズ……10A マイコン電源……10A	106〜108
選別自動制御が作動しない	❶ 《選別》ヒューズまたは《マイコン電源》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 選別ヒューズ……20A マイコン電源ヒューズ……10A	106〜108
	❷ スイングシーブ部にワラクズが溜まっている。	●ワラクズなどがきれいに排出されるまで，脱こく部の空運転をします。	120〜124
方向自動制御が作動しない [ディーラーオプション]	❶ 《操向》ヒューズまたは《マイコン電源》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 操向ヒューズ……10A マイコン電源ヒューズ……10A	106〜108
	❷ 刈取部の方向センサに草・泥・ワラクズなどが溜まっている。	●草・泥・ワラクズなどを取除きます。	—

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
方向自動制御が作動しない [ディーラーオプション]	❸ 油圧バルブへのゴミ噛み。  	●各操作レバーを《**中立**》にしてエンジンを始動します。アンロードバルブを押しながら，サイドクラッチバルブの《**右旋回**》および《**左旋回**》の手動プッシュを数回押すとゴミ噛みが解消する場合があります。（バルブユニットは運転席ステップの下にあります。）	ー

4. 刈　取　部

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
刈取部で「カタカタ音」がしてチェンが動かない	❶ 搬送経路に詰まりがある。	●つぎの操作手順で処置します。 ①パワークラッチ(脱こく・刈取)スイッチを《**切**》にします。 ②エンジンを停止します。 ③刈取搬送部の詰まり箇所を取除きます。 ④エンジンを始動します。 ⑤パワークラッチ(脱こく・刈取)スイッチを《**刈取**》にして確認します。 ※副変速《**N**》(**中立**）で主変速を《**F**》(**前進・低速**）にします。 **取扱いのポイント** **●デバイダが土中に突っ込んで，株抜けしないようにしてください。搬送詰まりの原因になります。**	15～16 22
	❷ 刈取クラッチスプリングの調整不良(ベルトがスリップしている)	●刈取クラッチスプリングの調整をします。	142
刈株の長さにムラがある	❶ 刈刃の注油不足	●刈刃に十分注油します。	100
	❷ 刈刃の調整不良（刈刃の隙間が広い）	●調整ライナですき間を調整します。	157～158
	❸ 刈刃の摩耗	●刈刃を交換します。	157～158
	❹ マルチステアリングレバーの操作不良。	●刈取り条に沿って運転するときは，急激な操作は避ける。	20，24

5. 脱こく部

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
脱こく搬送詰まりでエンジンが停止した	⑴脱こくフィードチェン部に詰まりがある。 （脱こくフィードチェンエンジン停止スイッチ作動） ⑵排ワラチェン部に詰まりがある。 （排ワラチェンエンジン停止スイッチ作動）	●つぎの手順により処置します。 ①パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《**切**》にする。 ②脱こく排ワラ関係の詰まり箇所を取除く。 ③排ワラフィードチェンの張りを点検・調整する。 ④エンジンを始動する。 ⑤パワークラッチ(脱こく・刈取)スイッチを《**脱こく**》にして確認する。 **取扱いのポイント** ●**処置後，脱こく部の空運転をし，脱こく内部に溜まったワラクズをきれいに排出してから，刈取りを開始してください。**	15〜16 117〜118 154 155
グレンタンク内にこく粒が出ない（脱こく部の詰まり）	❶　こぎ胴回転が規定より低い。	●刈取り作物に合ったこぎ胴回転になっているか確認し回転計を見て，《**稲・麦，種子**》の各マークの範囲内になるようにして使用します。	11
	❷　ベルトがスリップしている。	●脱こく入力ベルトを張ります。 ●１番ラセン駆動ベルトを張ります。 ●選別ベルトを張ります。	— 149 148
	❸　こぎ深さが「**深こぎ**」のため，こぎ室内のワラクズの発生が多い。	●こぎ深さを「**穂先マーク**」に合わせます。	49 71〜72
	❹　作物が雨・露のために濡れている。（受網の目詰まり）	●作物がよく乾燥してから刈取ります。 ●受網の掃除	120〜121
	❺　刈取り時期が早く，青い作物を刈取っている。	●刈取り適期まで待って刈取ります。 ●作業速度を下げ，できるだけ低能率で作業をします。	21〜22

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
グレンタンク内にこく粒が出ない（脱こく部の詰まり）	❻　選別ダイヤルのセットを誤って使用している。	●稲・麦の種類，作業条件に合わせてダイヤルをセットします。	77～78
	❼　１番ラセン底板，２番ラセン底板の掃除口が開いている。	●開閉レバーを《**閉じる**》位置にし，ストッパをかけます。	122
能率が上がらない（こぎ室内で「ゴトゴト音」がする）	❶　作物が雨・露のために濡れている。（受網の目詰まり）	●作物がよく乾燥してから刈取ります。 ●受網の掃除をします。	120～121
	❷　こぎ深さが「**深こぎ**」のため，こぎ室内のワラクズの発生が多い。	●こぎ深さを「**穂先マーク**」位置に合わせます。	71～72
	❸　こぎ胴回転が規定より低い。	●刈取り作物に合ったこぎ胴回転になっているか確認し回転計を見て，《**イネ・ムギ，種子**》の各マークの範囲内になるようにして使用します。	11
	❹　刈取り速度が速すぎる。	●主変速レバーで速度を下げます。	21
	❺　送じんがスムースでない。	●送じん量調節位置を《**多い**》方向へ調節します。（必要に応じてガイドを固定します。）	80～81
	❻　ワラ切カマが切れない。	●ワラ切カマの交換をします。 **取扱いのポイント** **●ワラ切カマは，こぎ歯に当たらないように取付けてください。** **●ワラ切カマの取付け方向を確認して，取付けてください**	138～139
	❼　選別ダイヤルのセットを誤って使用している。	●稲・麦の種類，作業条件に合わせてダイヤルをセットします。	77～78

不調時の処置

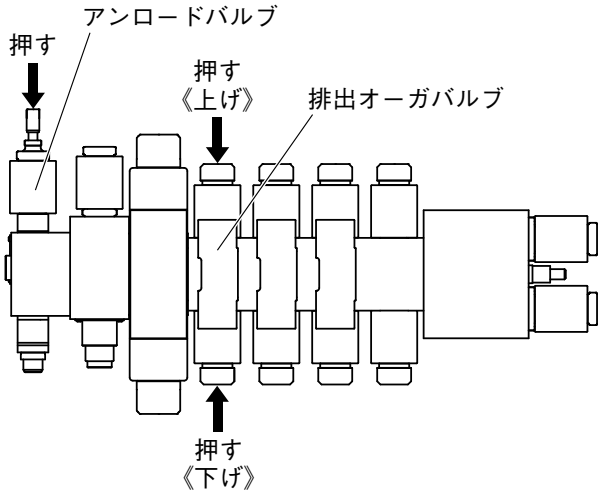
不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
スレッシングロスが多い	❶　こぎ深さが「**深こぎ**」のため，こぎ室内のワラクズ発生が多い。	●こぎ深さを「**穂先マーク**」位置に合わせます。	49 71～72
	❷　能率の上げ過ぎにより，揺動流板にワラクズなどが停滞気味。	●脱こく能力以上の高能率作業であり，作業速度を下げて作業をします。	21～22
	❸　作物が雨・露のために濡れている。（受網の目詰まり）	●作物がよく乾燥してから刈取ります。 ●受網の掃除をします。	120～121
	❹　刈取り時期が早く青い作物を刈取っている。	●刈取り適期まで待って刈取ります。 ●作業速度を下げ，できるだけ低能率で作業をします。	21～22
	❺　選別ダイヤルのセットを誤って使用している。	●稲・麦の種類，作業条件に合わせてダイヤルをセットします。	77～78
こぎ残しが多い	❶　こぎ深さが浅すぎる。	●こぎ深さを「**穂先マーク**」位置にあわせます。	71～2
	❷　こぎ胴の回転が低い。	●こぎ胴回転を規定回転に合わせて，マークの範囲内になるようにして作業をします。	11
	❸　デバイダで作物を押し刈りしている。	●押し刈りしないように，条間に沿ってデバイダを合わせます。 ●条合わせは，マルチステアリングレバーを小刻みに操作する。（強く操作すると，「**ブレーキ**」が効き，条を外れたり株元を押し倒したりし，高刈りとなります） ●雑草・ワラクズの詰まりを除去します。 ●横刈りをするとき，刈幅いっぱいの刈取りは行わない。	48～53

6. ワラ処理部

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
巻きつきが発生し馬力をとる	❶ 刃の摩耗によりカッタの切れ味が悪い。	●刃を交換します。	130～136 176
	❷ 排ワラの搬送姿勢が悪い。	●こぎ深さ位置を適正にします。	71～72
	❸ 排ワラ量の増加	●作業速度を適正にします。	50
排ワラ姿勢が悪い（カッタ部での搬送姿勢が悪い）	❶ 排ワラチェンの張り不良	●チェンを張ります。	155
	❷ こぎ深さが適正でない。	●こぎ深さ位置を適正にします。	71～72

7. グレンタンク部

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
排出オーガ操作スイッチを操作しても，動かない	❶ 《オーガモータ》・《オーガ排出》ヒューズ，《マイコン》ヒューズ，《操向》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 オーガモータヒューズ……30A オーガ排出ヒューズ……20A マイコンヒューズ……10A 操向ヒューズ……10A	106〜108
	❷ 油圧バルブへのゴミ噛み。	●エンジンを始動し，アンロードバルブを押しながら，オーガバルブの《上げ》および《下げ》の手動プッシュを数回押すと，ゴミ噛みが解消する場合があります。 （下図のバルブユニットは，運転席ステップの下にあります。）	—
こく粒排出レバーを操作してもこく粒が出ない	❶ ベルトのスリップ。	●ベルトの張りを調整します。	—
	❷ タンク内のこく粒が流れない。（シャッタ部で滞留している）	●こく粒排出レバーを繰返し操作します。	—



取扱いのポイント

●各不調時の点検は，配線接続部の外れ，接触不良およびアース不良の点検も併せて行なってください。

●ヒューズの溶断が再発するときは，点検を受けてください。

付　表

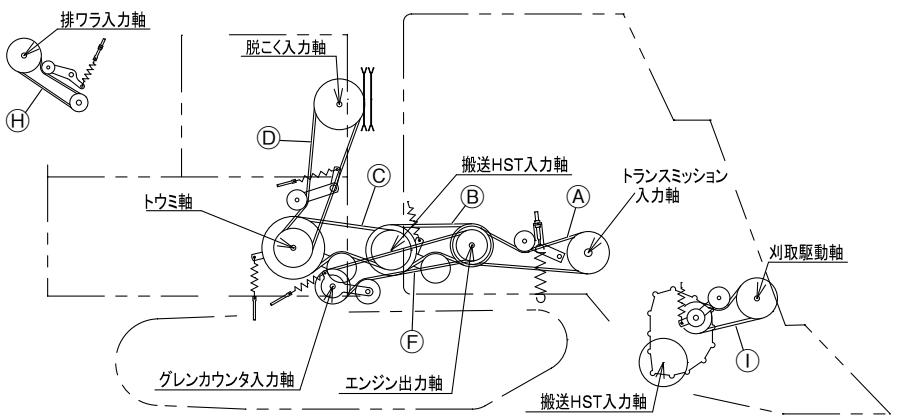
1．主要諸元

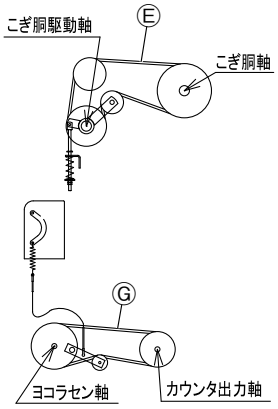
型式名			三菱C2004		
名称			三菱V450A		
区分			ET	LYM	LYWM
車両型式名			三菱YDM－VC50A		
機体寸法（格納時）	全長	(mm)	4,050	4,100	
	全幅	(mm)	1,950		
	全高	(mm)	2,160		
機体質量（重量）		(kg)	2,480	2,640	2,670
エンジン	型式		D1803－CR－TE4B		
	種類		水冷４サイクル３気筒ターボディーゼル		
	総排気量	(L{cc})	1.826{1,826}		
	出力／回転速度	(kW{PS}/rpm)	37.0{50.3}／2700		
	使用燃料		ディーゼル軽油		
	燃料タンク容量	(L)	42		
	始動方式		セルモータ式		
	バッテリ	(V･Ah)	12・64		
走行部	クローラ 幅×接地長	(mm)	400×1,490	450×1,490	480×1,540
	クローラ 中心距離	(mm)	920	1,000	1,030
	クローラ 平均接地圧	(kPa{kgf/cm²})	20.4{0.208}	19.3{0.197}	17.7{0.181}
	変速方式		油圧モータ式（HST）		
	変速段数	(段)	前進無段，後進無段（副変速２段）		
	走行速度（ ）はエンジン最高回転速度時 前進	(m/s)	標０～1.30　高０～2.27		
	走行速度（ ）はエンジン最高回転速度時 後進	(m/s)	標０～1.30　高０～2.27		
刈取部	刈取り条数	(条)	4		
	デバイダ先端間隔	(mm)	1,400～1,450		
	刈取装置形式		往復動刃式（ツイン）		
	刃幅	(mm)	1,400		
	変速段数	(段)	無段変速（車速同調式）		
	刈高さ範囲	(mm)	40～150		
	こぎ深さ調節方式		電動式（自動，手動併用）		
脱こく部	脱こく方式		複胴下こぎ軸流式（増速ツインこぎ胴）		
	こぎ胴 径×幅	(mm)	410×620		
	こぎ胴 回転速度	(rpm)	前455・後560		
	処理胴 径×幅	(mm)	140×670		
	処理胴 回転速度	(rpm)	1,550		
	揺動流板 幅×長さ	(mm)	600×1,130		
こく粒処理部	こく粒処理方式		グレンタンク式（オーガ排出）		
	タンク容量	(L)	1,050		
	排出高さ	(mm)	1,700～3,900	1,700～4,400	
排ワラ処理装置			ディスク形カッタ		
適応作物全長		(mm)	550～1,300		
倒伏適応性		(度)	追刈：85°以下・向刈：70°以下		
作業能率		(分/10a)	13～55（計算値）		

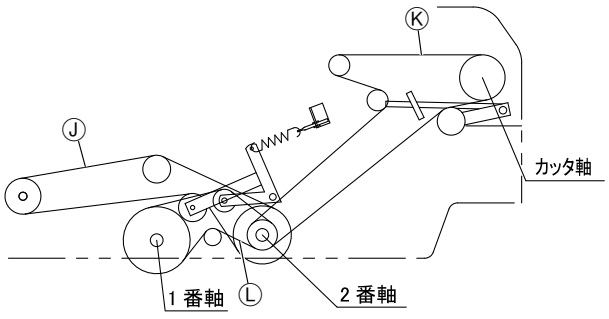
・この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。

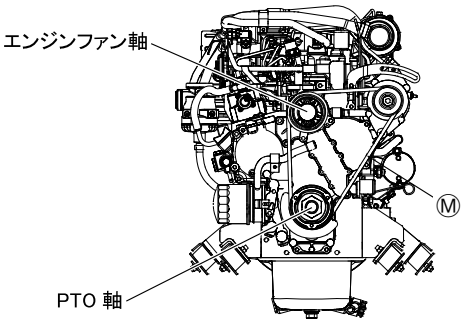
2. ベルト一覧表

記号	伝動系統	本数	部品番号	仕様	
A	エンジン出力軸～トランスミッション入力軸	2	3559 1961 000	LB62	走行ベルト
B	エンジン出力軸～搬送ＨＳＴ入力軸	2	3666 6218 500	LB40	搬送ＨＳＴ駆動ベルト
C	搬送ＨＳＴ入力軸～トウミ軸	1	3666 6537 000	LC49	脱こく入力ベルト
D	トウミ軸～脱こく入力軸	1	3553 6107 000	SC71	こぎ胴伝動ベルト
E	こぎ胴駆動軸～こぎ胴軸	2	3553 6161 000	SB66	こぎ胴ベルト
F	エンジン出力軸～グレンカウンタ入力軸	1	0852 1200 059	LB59	グレン入力ベルト
G	カウンタ出力軸～横ラセン軸	1	3592 9027 000	SB61	横ラセン駆動ベルト
H	こぎ胴軸～排ワラ入力軸	1	0852 1500 036	SB36	排ワラ駆動ベルト
I	搬送ＨＳＴ入力軸～刈取駆動軸	1	3583 6537 001	SC56	刈取ベルト
J	トウミ軸～２番軸	1	3666 6544 000	LB79	選別ベルト
K	２番軸～カッタ軸	1	0852 1200 106	LB106	カッタベルト
L	１番軸～２番軸	1	3592 6218 500	LB43	１番ラセン駆動ベルト
M	エンジンＰＴＯ軸～エンジンファン軸	1	9995 0000 550	A39	ファンベルト（コグA39）





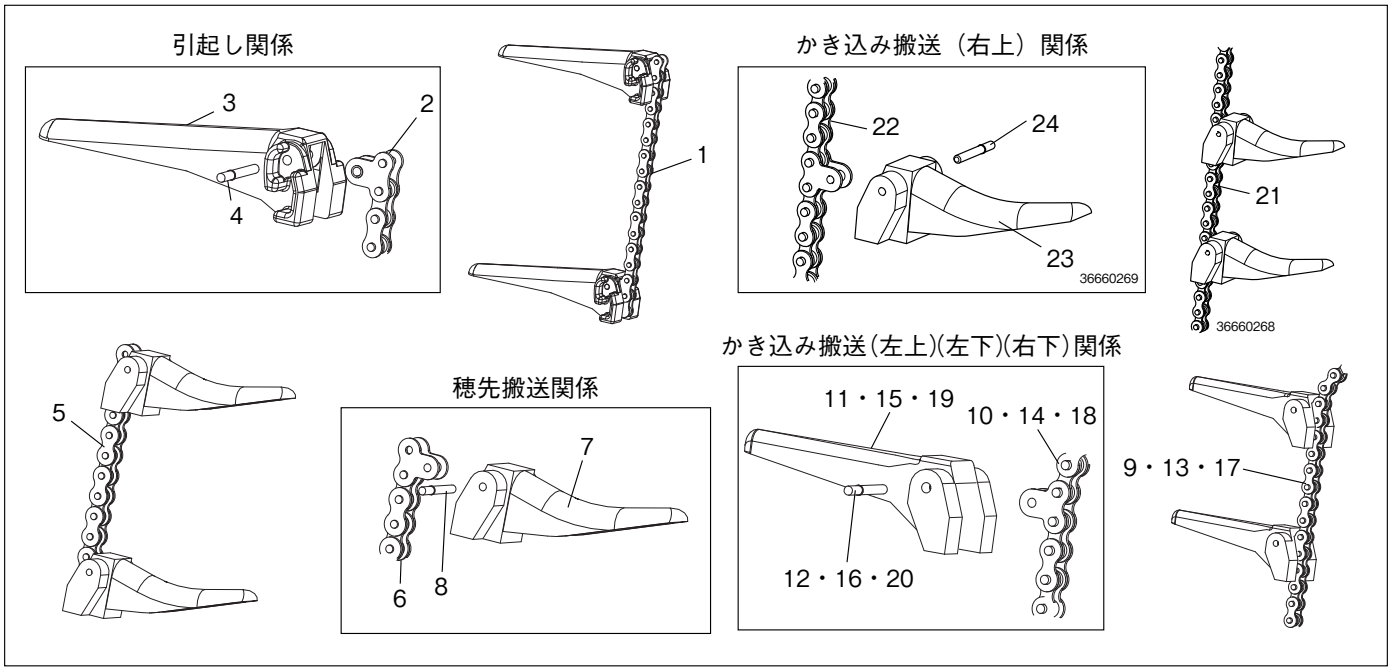




36660262　　36660140

3. 主な消耗部品

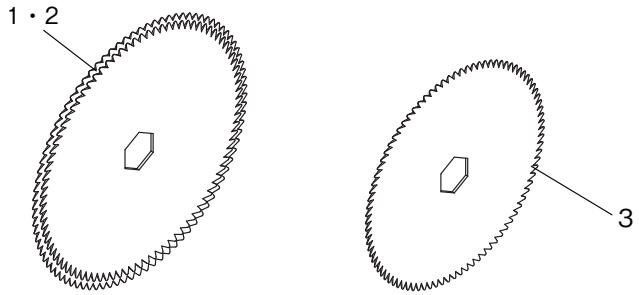
1. 爪関係



No.	部　品　名　称	部　品　番　号	備　　考
1	チェンアセンブリ　（2組）	3556 4437 006	引起し搬送（左・中右）
	チェンアセンブリ　（2組）	3556 4445 000	引起し搬送（右・中左）
2	チェン　（4本）	3556 4438 000	
3	ツメ　(40本)	3555 4428 002	
4	ピン　(40本)	3523 4428 000	
5	チェンアセンブリ　（1組）	3523 5251 000	穂先搬送
6	チェン　（1本）	3523 5252 000	
7	ツメ　(15本)	3704 5239 001	
8	ピン　(15本)	3523 4428 000	
9	チェンアセンブリ　（1組）	3551 4711 002	かき込み搬送（左下）
10	チェン68　（1本）	3551 4712 001	
11	ツメ　（7本）	3523 4742 001	
12	ピン　（7本）	3523 4428 000	
13	チェンアセンブリ　（1組）	3551 4733 002	かき込み搬送（左上）
14	チェン95　（1本）	3551 4734 001	
15	ツメ　(12本)	3523 4742 001	
16	ピン　(12本)	3523 4428 000	
17	チェンアセンブリ　（1組）	3551 4755 002	かき込み搬送（右下）
18	チェン94　（1本）	3551 4756 001	
19	ツメ　(10本)	3523 4742 001	
20	ピン　(10本)	3523 4428 000	
21	チェンアセンブリ　（1組）	3551 4781 002	かき込み搬送（右上）
22	チェン95　（1本）	3551 4734 001	
23	ツメ　(12本)	3501 5247 000	
24	ピン　(12本)	3523 4428 000	

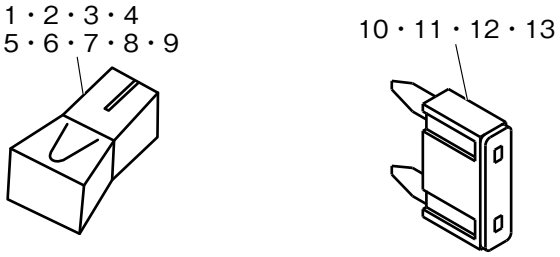
・ご用命のときは，「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

2. カッタ関係



No.	部品名称	部品番号	個数（1セット分）	
			マルチカッタ60/180㎜	マルチカッタ40/160㎜
1	ノコ刃（φ160）	3829 0409 000	10	17
2	ノコ刃（φ200）	3829 0414 000	6	6
3	スターホイル刃	3829 0508 001	16	23

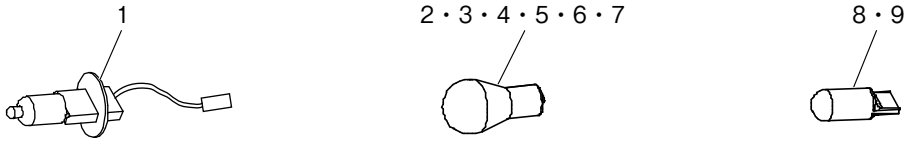
3. ヒューズ



No.	部品名称	部品番号	備考
1	ヒューズ	1785 6104 400	30A，A1　オーガモータ
2	ヒューズ	3659 0812 700	20A，A1　排出・フラップ
3	ヒューズ	3659 0812 800	30A，B1　アタッチ
4	ヒューズ	1968 2927 200	100A，B1　バッテリ
5	ヒューズ	1037 5502 200	60A，A2　予熱
6	ヒューズ	2676 9852 200	30A，A2　スタータ
7	ヒューズ	3559 0861 200	40A，A2　キーSW
8	ヒューズ	1038 2815 200	20A，A2　E/Gメイン
9	ヒューズ	1948 0721 200	60A，B1　メイン1電源　メイン3電源
10	ヒューズ	0980 1003 006	30A　ミニヒューズ
11	ヒューズ	0980 1002 006	20A　ミニヒューズ
12	ヒューズ	0980 1001 506	15A　ミニヒューズ
13	ヒューズ	0980 1001 006	10A　ミニヒューズ

・ご用命のときは，「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

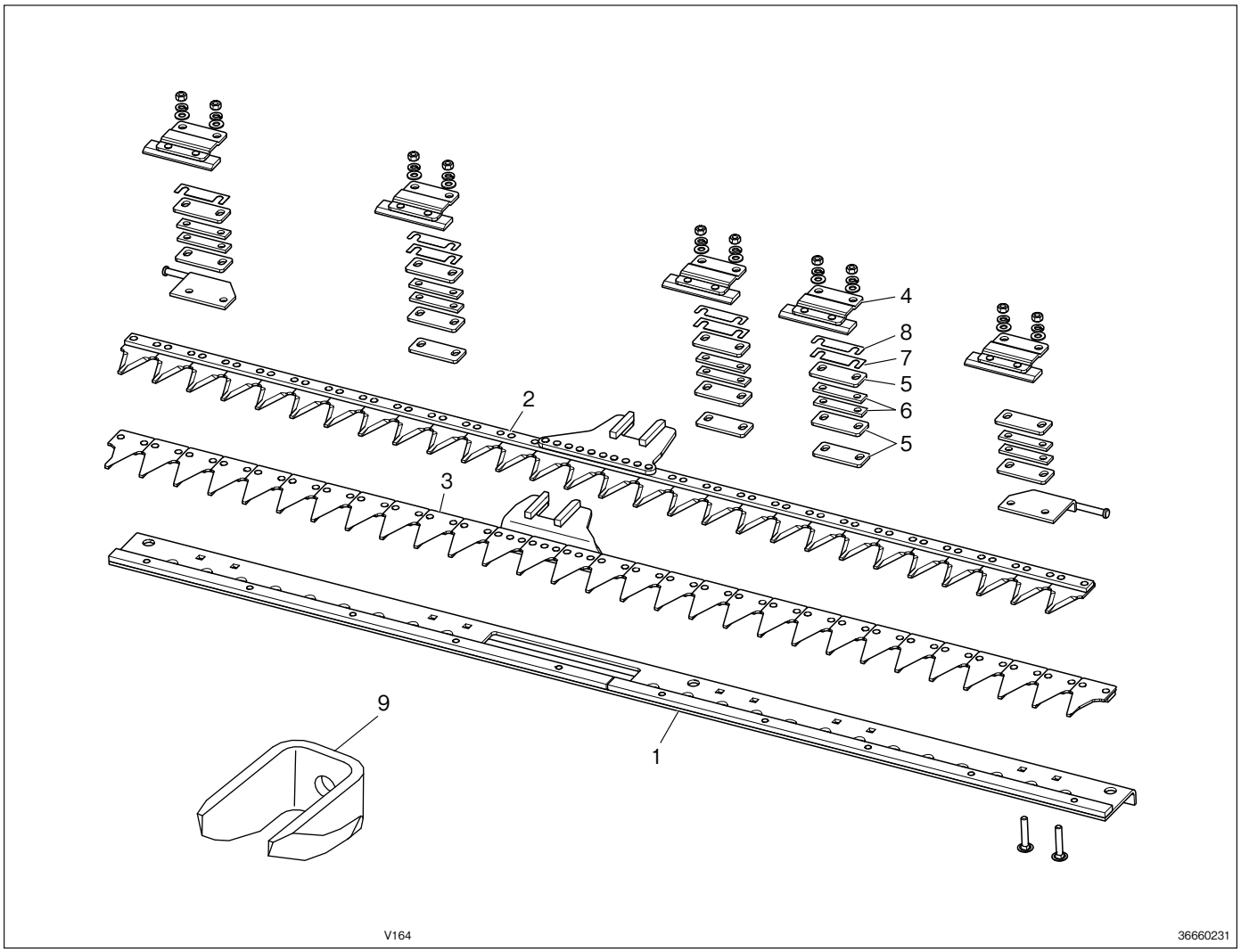
4. ランプバルブ



No.	部品名称	部品番号	備考
1	ランプバルブ	3565 0904 100	12V35W（H3ハロゲン）前照灯
2	ランプバルブ	1035 6281 200	12V27W（S25）　作業灯（オーガ先端）
3	ランプバルブ	3515 0864 500	12V20W（S25）　作業灯（脱こく前）
4	ランプバルブ	0980 8122 104	12V21W（S25）　方向指示器　左前・右前・左後・右後
5	ランプバルブ	3688 3036 500	12V 5W（G18）　車幅灯　左前・右前
6	ランプバルブ	1956 6731 200	12V21W/5W（S25）制動灯/尾灯　左後・右後
7	ランプバルブ	3592 9159 200	12V27W（S25）　後退灯
8	ランプバルブ	3545 0826 300	12V3.4W（T10）　回転計（照明）
9	ランプバルブ	1040 2857 000	12V1.4W（T 5）　回転計（機能）

・ご用命のときは，「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

5. 刈刃・カマ関係



No.	部品名称	部品番号	備考
1～8	カリハアッセンブリ	3551 4352 001	
1	ウケハダイ	3551 4353 001	
2	ウエバアッシ	3551 4356 000	
3	シタバアッシ	3551 4361 000	
4	ナイフクリップ（5個）	3532 4364 001	
5	スライドプレート（13個）	3532 4365 200	
6	ライナ（10個）	3532 4365 300	
7	シム（5個）	3532 4365 400	t＝0.8㎜
8	シム	3532 4365 500	t＝0.2㎜
9	ワラキリカマ（13個）	3735 7321 001	

・ご用命のときは，「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

4. 付属品一覧表

No	品　　名	個　数	備　　考
1	取扱説明書	1	
2	バンパ（スナップピン付き）	1	
3	コンバインシート	1	
4	保証書	1	
5	メンテナンスノート	1	
6	チョウナット	2	送じん量調節固定用
7	ワッシャ	2	送じん量調節固定用

5. アタッチメント（別売り）

No	型　　式	品　　名	備　　考
基本作業機・部品	KN－Y43	スライドノッタ	株元・穂先結束両用，大玉バスケット付
	R－KSY60A	スタンド装置	
	S－V450D	カッタ用ドロッパ	
	D－KNVY1	ノッタ用ドロッパ	
	SP－V450W	スーパーデバイダ	２連
	SP－V450TQ	スーパーデバイダ	３連用追加キット
	CH450	スーパーフード	
	K－V450S	拡散ラセンキット	
	DMY446S－KIT	スーパーマルチカッタ交換キット	
	K－V450DF	電動クラッチ＋オーガフラップキット	
	K－RCVSVCH	オーガ無線リモコン	
	DC－V450	防じんカバーキット	
	450－H－KIT	方向自動キット	
	K－TCV450	集中注油コックキット	

6. 潤滑油について

オイルは，三菱農業機械純正油をお奨めします。

1. エンジンオイル

メーカ	商品名
三菱農業機械純正油	スーパークリーンディーゼルDH2（SAE・10W－30，DH－2）
全農	ディーゼルDH－2/CF－4（SAE・10W－30）
ENEOS	

2. 油圧作動油

メーカ	商品名
三菱農業機械純正油	スーパーマルチSTOU2オイル（SAE・10W－30, CF・CF－4／SF／GL－4）
ENEOS	スーパーハイランド46

3. ギヤオイル

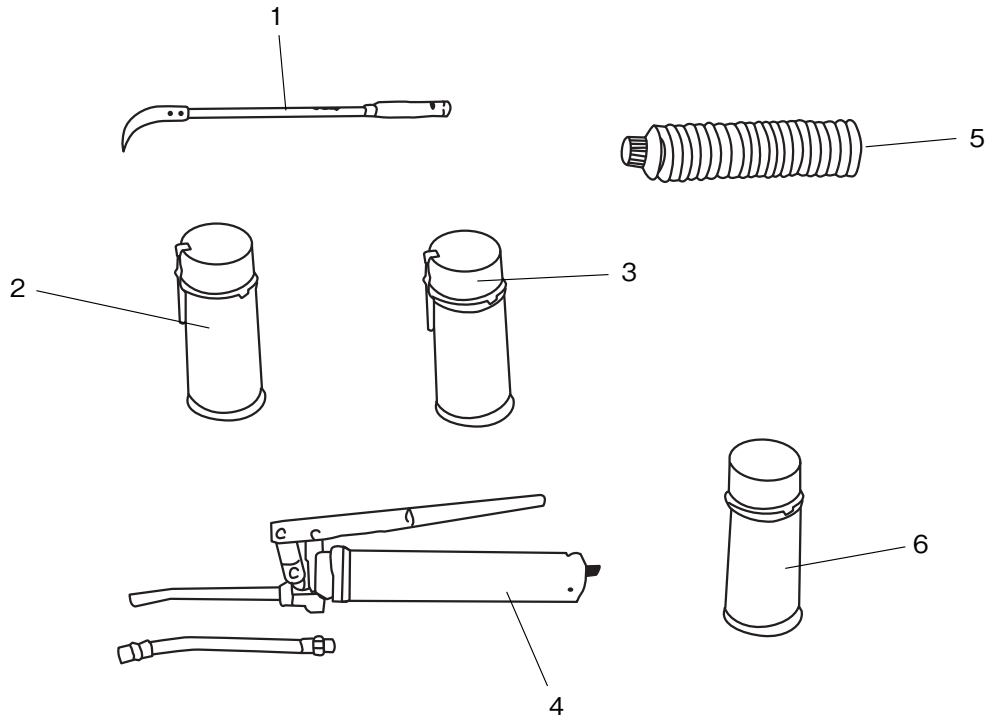
メーカ	商品名
三菱農業機械純正油	スーパーマルチSTOU2オイル（SAE・10W－30, CF・CF－4／SF／GL－4）※
	マルチSHPギヤオイル（SAE90，GL－5）
ENEOS	ギヤオイルGL－5（SAE90，GL－5　SAE140，GL－5）

※スーパーマルチSTOU2オイルのギヤオイルSAE粘度は80W－85です。

7. コンバイン関連商品

・代表的なものを選んでご紹介します。

No.	商　品　名	商 品 番 号	
1	万能鎌（ノコ刃）	S309DX	土，ワラの除去に最適
2	ダイヤスプレー（防錆・潤滑）	K1－420DX	金属部品の防錆，潤滑
3	スプレーグリス	SP300	金属部品の防錆，潤滑
4	グリースポンプ	N850－666	フレキシブルパイプ付
5	グリース	NMP400	グリースポンプ詰替え用
6	カラースプレー（グレー）	0975　0000　691	補修用塗料
	カラースプレー（赤）	0975　0000　741	
	カラースプレー（白）	0975　0000　651	
	カラースプレー（黒）	0975　0000　471	



・ご用命のときは，「商品番号」・「商品名」をお知らせください。

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは，下記の点を明確にして，お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の型式，機械番号(製造番号)，キーナンバーは…？

型　　式

機械番号(製造番号)

キーナンバー

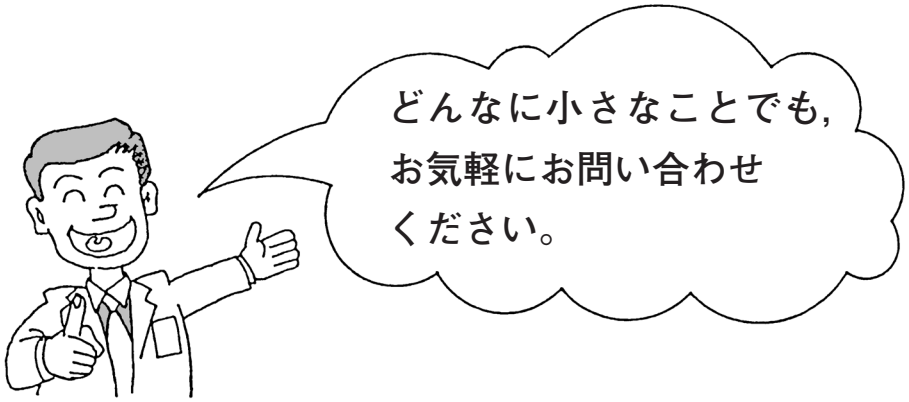
●ご使用状況は…？

(どんな作業のとき)

●どのくらい使用されましたか？

(約 _____ アール使用後)

●トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。



(ご相談窓口) お買いあげ先

TEL　　(　　)